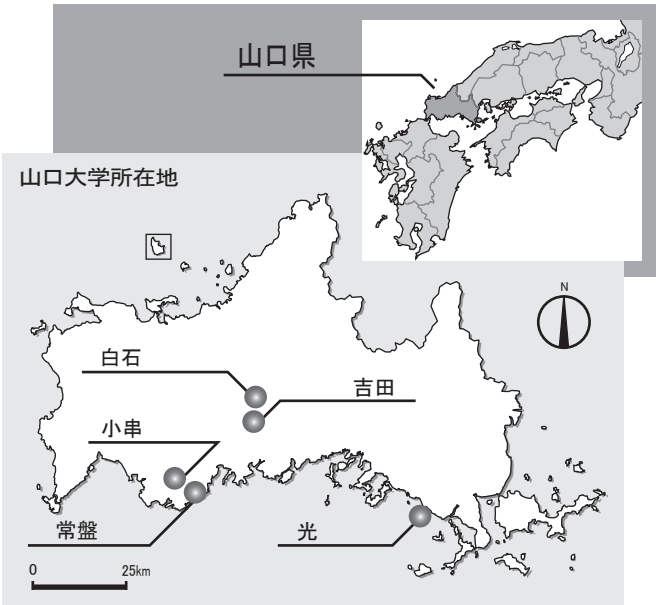
山口大学埋蔵文化財資料館年報
－平成26年度－

2019

山口大学埋蔵文化財資料館

山口大学埋蔵文化財資料館年報

平成26年度　山口大学埋蔵文化財資料館活動報告
平成26年度　山口大学構内遺跡発掘調査概報



2019

山口大学埋蔵文化財資料館

序

山口大学埋蔵文化財資料館は、吉田構内をはじめ小串・常盤・白石・光構内に所在する山口大学構内遺跡における埋蔵文化財の発掘・保護を基幹業務としています。同時に、学術資料の管理と発信を主要業務とする大学情報機構所属の一組織として、これら埋蔵文化財の調査成果や学術的価値を広く社会に告知するため、資料展示や年報および広報誌発行、社会教育活動など、情報発信活動にも積極的に取り組んでおります。

さて、平成26(2014)年度は、埋蔵文化財保護業務に関しては、本発掘調査1件、予備発掘調査1件、立会調査12件を吉田構内、小串構内、常盤構内、光構内にて実施しました。特に吉田構内で実施した動物医療センター（リニアック室等）新営その他工事に伴う本発掘調査は、古代官衙の存在が想定される地点にて実施され、南東から北西に走る埋没谷を確認しました。この谷筋は、官衙の南西域を区画するものと推定されており、既往の調査にてその埋土から墨書土器や硯、鋳造関連資料など官衙に関連する資料が数多く出土しています。この度の調査においても、「少領」をはじめとする複数の墨書土器や、投棄された大量の木製品など、貴重な資料を得ることになりました。

当館収蔵品の調査としては、平成22年度より開始した萩市見島ジーコンボ古墳群出土資料の再調査も5年目を迎え、第128・137号墳出土品の調査報告書を刊行することができました。ご協力いただいた萩博物館の皆様に厚くお礼申し上げます。

その他の取り組みでは、展示活動として企画展を2回、平成23年度からの継続事業として山口県大学ML(ミュージアム・ライブラリー）連携特別展、平成24年度からの継続事業として山口大学所蔵学術資産継承検討委員会の事業成果展「宝山の一角」を当館の共催で開催しました。これらの継続的な学術資料の公開活動が本学内、学外に及ぼす影響は大きく、年間の入館者は1,700名を越えることとなりました。

本書には、当館が同年に実施した構内遺跡の調査成果をはじめ、収蔵資料の展示活動や社会連携活動、館員の研究活動を収録しております。本書が山口大学および学外研究機関、地域社会において幅広く活用されることを願います。

当館は、人的な埋蔵文化財保護体制をはじめ、出土品や調査記録の整理・保管場所の不足が年々深刻化するなど多くの課題を抱えていますが、学内ばかりでなく地域に開かれた学術研究・教育の場として、活用していただくよう、全力を尽くして取り組む所存です。これまで当館の調査・研究活動にご支援、ご協力を頂いた関係機関、関係各位に心から厚く御礼申し上げますとともに、今後とも変わらぬご理解、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成31年3月

山口大学埋蔵文化財資料館長

根ヶ山　徹

例言

１．本書は、山口大学埋蔵文化財資料館（以下「資料館」と呼称）が平成26年度に実施した、山口大学構内の遺跡発掘調査成果報告と、同年度に資料館が実施した社会教育等の活動報告を記したものである。

２．構内遺跡発掘調査に関しては、現地での調査は資料館員である田畑直彦（大学情報機構埋蔵文化財資料館助教）・横山成己（大学情報機構埋蔵文化財資料館助教）・川島尚宗（大学情報機構埋蔵文化財資料館助教※平成25年11月１日～平成30年３月31日）・乃美友香（事務局情報環境部学術情報課技術補佐員）が担当した。また、現地での本発掘調査および予備発掘調査に際しては、有限会社久富工務店に協力を依頼した。

３．発掘調査における現地での実測と写真撮影は田畑・横山・川島が行った。出土遺物に関しては、整理を乃美が行い、実測・写真撮影を田畑・横山・川島・山田圭子（事務局情報環境部学術情報課教務補佐員※平成27年４月１日～平成30年３月31日）・水久保祥子（大学情報機構埋蔵文化財資料館技術職員※平成30年４月１日～）が行った。製図・整図は田畑・横山・川島・山田・乃美・水久保が行った。

４．発掘調査に伴う事務は、事務局情報環境部学術情報課総務係が統括した。

５．発掘調査の諸記録類と出土資料は資料館で適正に保管している。

６．平成26年度に吉田遺跡で出土した金属器の成分分析は（株）吉田生物研究所に委託した。

７．平成26年度に出土した石器の石材は、加納隆氏（本学名誉教授）に鑑定いただいた。

８．平成７年度に実施した吉田構内公共下水道布設に伴う発掘調査で出土した動物遺存体について、広島大学総合博物館研究員　石丸恵利子氏に分析を依頼し、玉稿をいただいた（付篇２）。当初、付篇２は『山口大学構内遺跡調査研究年報ＸＶ』に掲載予定であったが、依頼後の発行順序の変更に伴い本書に掲載した。

９．付篇２の実体顕微鏡による撮影は人文学部准教授　村田裕一氏のご協力を得て石丸恵利子氏と田畑が行った。

10．本文の執筆分担は目次に記した。

11．本書の編集は館員の補助を得て横山が行った。

凡例

１．山口大学の吉田・白石・小串・常盤・光構内は、いずれもが文化財保護法（法律第214号）で示される「周知の埋蔵文化財包蔵地」内に位置する。各構内の位置する遺跡名は以下の通りである。

吉田構内～吉田遺跡　　白石構内～白石遺跡　　小串構内～山口大学医学部構内遺跡

常盤構内～山口大学工学部構内遺跡　　光構内～御手洗遺跡・月待山遺跡

２．吉田構内における調査区および層位・遺構の位置は、 日本測地系に基づいた国土座標を基準として北から南へ1～24、西から東へA～Zの番号を付して50m方眼に区画した、構内地区割のA－24区南西隅を起点（構内座標x＝0，y＝0）とする構内座標値で表示している。なお、平面直角座標系第Ⅲ系における座標値（X，Y）と構内座標値（x，y）とは下記の計算式で変換される。

x＝X＋206，000

y＝Y＋64，750

３．平成26年度に実施した本発掘および立会調査に関しては、以下の略号により資料整理を行っている。

吉田動物医療センター（リニアック室等）新営その他工事に伴う本発掘調査……YD2014-1

吉田南門アプローチ整備工事に伴う立会調査……YD2014MM

小串基幹・環境整備及び診療棟・病棟新営工事に伴う予備発掘調査……KG2014-1

教育学部附属光小学校グラウンド鉄棒新設工事に伴う立会調査……MTR2014TB

４．各遺構は下記の記号で表記することがある。

竪穴住居……SB	掘立柱建物……SH	土壙……SK
溝……SD	柱穴・ピット……Pit・SP	落ち込み……SX

５．本書で使用した方位は、吉田構内では国土座標を基準とした真北、他の構内では磁北を示す。

６．標高数値は海抜標高を示す。

７．土層および土器の色調記号は、農林省農林水産技術会事務局監修『新版標準土色帖』（1976）に準拠した。

８．遺物の実測図は、下記のように分類した。

断面黒塗り……須恵器、陶器、磁器

断面白抜き……縄文土器、弥生土器、土師器、土師質土器、瓦質土器、石器、木器、金属器

本文目次

第1章　平成26年度山口大学埋蔵文化財資料館の活動報告……（横山）…… 1
第1節　資料館における展示・情報公開活動
1　第36回企画展『情報求む！～収蔵庫に眠る由来不明の考古資料たち～』を開催
……（横山）…… 2
2　山口県大学ML連携展　共通テーマ「発見」 ……（横山）…… 3
3　第3回山口大学学術資産継承事業成果展『宝山の一角』を共催にて開催…（横山）…… 4
4　歴食JAPANサミットプレ大会に参加……（横山）…… 5
5　平成26年度刊行物……（横山）…… 6
第2節　資料館における社会教育活動
1　第14回公開授業「古代人の知恵に挑戦！－古代のお米をつくってみよう9－」を開催……（田畑）…… 7

第2章　平成26年度山口大学構内遺跡の調査
第1節　平成26年度に実施した遺跡調査の概要……（横山）……10
第2節　吉田構内（吉田遺跡）の調査
1　動物医療センター（リニアック室等）新営その他工事に伴う本発掘調査……（横山）……14
2　椹野寮1号棟改修工事に伴う立会調査……（横山）…… 134
3　動物医療センター改修電気設備工事に伴う立会調査……（横山）…… 137
4　農学部附属農場水田排水路工事に伴う立会調査……（横山）…… 138
5　経済学部D棟改修電気設備工事に伴う立会調査……（横山）…… 139
6　第1学生食堂増築工事に伴う立会調査……（田畑・川島）…… 140
7　第1学生食堂増築電気設備工事に伴う立会調査……（田畑）…… 143
8　南門アプローチ整備工事に伴う立会調査……（川島・横山）…… 144
第3節　小串構内（山口大学医学部構内遺跡）の調査
1　基幹・環境整備及び診療棟・病棟新営工事に伴う予備発掘調査 ……（横山）…… 150
2　基幹・環境整備及び診療棟・病棟新営工事に伴う立会調査 ……（横山）…… 156
3　廃棄物管理棟新営工事に伴う立会調査 ……（横山）…… 158
第4節　常盤構内（山口大学工学部構内遺跡）の調査
1　常盤寮C棟新営工事に伴う立会調査 ……（横山）…… 159
第5節　光構内（御手洗遺跡・月待山遺跡）の調査
1　教育学部附属光小学校グラウンド鉄棒新設工事に伴う立会調査……（川島・横山）…… 160
2　教育学部附属光中学校校舎排水管改修工事に伴う緊急立会調査 ……（横山）…… 164
付節1　平成26年度　山口大学構内遺跡調査要項…… 165
付節2　山口大学構内の主な調査…… 168

付篇1　吉田遺跡（動物医療センターリニアック室）出土金属製品成分分析調査
……（横山・吉田生物研究所）…… 192
付篇2　吉田遺跡（公共下水道布設に伴う発掘調査）出土の動物遺存体……（石丸恵利子）…… 194

挿図目次

第2章第1節　平成26年度に実施した遺跡調査の概要

図1 山口大学吉田・白石構内位置図 ……11

図2 小串・常盤構内位置図 ……13

図3 光構内位置図 ……13

第2章第2節　吉田構内（吉田遺跡）の調査

図4 調査区位置図 ……14

図5 調査区平面図 ……17・18

図6 北調査区土層断面図① ……19

図7 北調査区土層断面図② ……20

図8 南調査区土層断面図 ……21

図9 北調査区アゼ土層断面図 ……22

図10 ＳＸ１・Ｐit10平面図・断面図 ……28

図11 谷埋土４・３下層・３層上層出土土器実測図①……31

図12 谷埋土３上層出土土器実測図②……32

図13 谷埋土３上層出土土器実測図③……33

図14 谷埋土３上層出土土器実測図④……34

図15 谷埋土３上層出土土器実測図⑤……35

図16 谷埋土３上層出土土器実測図⑥……36

図17 谷埋土２下層出土土器実測図①……38

図18 谷埋土２下層出土土器実測図②……39

図19 谷埋土２下層出土土器実測図③……40

図20 谷埋土２下層出土土器実測図④……41

図21 谷埋土２下層出土土器実測図⑤……43

図22 谷埋土２上層出土土器実測図①……43

図23 谷埋土２上層出土土器実測図②……44

図24 谷埋土２上層出土土器実測図③……45

図25 谷埋土２上層出土土器実測図④……46

図26 谷埋土２上層出土土器実測図⑤……47

図27 谷埋土２上層出土土器実測図⑥……48

図28 谷埋土１出土土器実測図①……50

図29 谷埋土１出土土器実測図②……51

図30 北調査区東区谷埋土１－２出土土器実測図……52

図31 谷埋土層位不明出土土器実測図……52

図32 遺構出土土器実測図……52

図33 包含層２出土土器実測図①……54

図34 包含層２出土土器実測図②……55

図35 包含層１出土土器実測図……55

図36 北調査区東端部包含層出土土器実測図……56

図37 旧耕土・旧床土出土土器実測図……56

図38 その他出土土器実測図……56

図39 出土土製品・石器・金属器実測図……57

図40 谷埋土４・３下層・３上層出土木製品実測図① ……108

図41 谷埋土３上層出土木製品実測図② ……109

図42 谷埋土３上層出土木製品実測図③ ……110

図43 谷埋土３上層出土木製品実測図④ ……111

図44 谷埋土３上層出土木製品実測図⑤ ……112

図45 谷埋土３上層出土木製品実測図⑥ ……113

図46 谷埋土３上層出土木製品実測図⑦ ……114

図47 谷埋土３上層出土木製品実測図⑧ ……115

図48 谷埋土３上層出土木製品実測図⑨ ……116

図49 谷埋土３上層出土木製品実測図⑩ ……117

図50 谷埋土３上層出土木製品実測図⑪ ……118

図51 谷埋土３上層出土木製品実測図⑫ ……119

図52 谷埋土３上層出土木製品実測図⑬ ……120

図53 谷埋土２下層出土木製品実測図① ……121

図54 谷埋土２下層出土木製品実測図② ……122

図55 谷埋土２下層出土木製品実測図③ ……123

図56 谷埋土２下層出土木製品実測図④ ……124

図57 谷埋土２上層出土木製品実測図① ……125

図58 谷埋土２上層出土木製品実測図② ……126

図59 ＳＤ１（谷埋土２下層）出土木製品実測図……126

図60 調査区西壁出土木製品実測図 ……127

図61 調査区位置図 ……134

図62 Ａ地点土層断面柱状図 ……134

図63 Ｂ地点土層断面柱状図 ……135

図64 Ｃ地点土層断面柱状図 ……135

図65 Ｄ地点土層断面柱状図 ……136

図66 Ｅ地点土層断面柱状図 ……136
図67 Ｆ地点土層断面柱状図 ……136
図68 調査区位置図 ……137
図69 土層断面柱状図 ……137
図70 調査区位置図 ……138
図71 土層断面柱状図 ……138
図72 調査区位置図 ……139
図73 土層断面柱状図 ……139
図74 調査区位置図 ……140
図75 調査区詳細図 ……141
図76 出土遺物 ……142
図77 調査区位置図 ……143
図78 調査区位置図 ……144
図79 防球ネット地点土層断面模式図 ……146
図80 外灯地点土層断面模式図 ……147
図81 出土土器実測図 ……148
第2章第3節　小串構内（山口大学医学部構内遺跡）の調査
図82 調査区位置図 ……150
図83 調査区平面図・断面図 ……152
図84 遺物実測図 ……154
図85 調査区位置図 ……156
図86 Ａ地点土層断面柱状図 ……157
図87 Ｂ地点土層断面柱状図 ……157
図88 調査区位置図 ……158
図89 土層断面柱状図 ……158
第2章第4節　常盤構内（山口大学工学部構内遺跡）の調査
図90 調査区位置図 ……159
図91 Ａ地点土層断面柱状図 ……159
図92 Ｂ地点土層断面柱状図 ……159
第2章第5節　光構内（御手洗遺跡・月待山遺跡）の調査
図93 調査区位置図 ……160
図94 調査区平面略図 ……161
図95 土層断面柱状図① ……161
図96 土層断面柱状図② ……162
図97 出土遺物実測図 ……163
図98 調査区位置図 ……164
図99 土層断面柱状図 ……164
山口大学の主な調査
図100 山口大学吉田構内地区割
および主な調査区位置図 ……185・186
図101 山口大学白石構内（幼稚園・小学校）
調査区位置図……187
図102 山口大学白石構内（中学校）
調査区位置図……188
図103 山口大学小串構内調査区位置図……189
図104 山口大学常盤構内調査区位置図……190
図105 山口大学光構内調査区位置図……191

写真目次

第1章第1節 資料館における展示・情報公開活動
写真1 第36回企画展ポスター ……2
写真2 展示の模様 ……2
写真3 展示の模様 ……3
写真4 ワークショップの模様 ……3
写真5 前期展ミュージアムトークの模様 ……4
写真6 後期展ミュージアムトークの模様 ……4
写真7 会場の模様 ……5
写真8 当館のブース……5
写真9 平成26年度埋蔵文化財資料館刊行物……6
第1章第2節 資料館における社会教育活動
写真10 館長挨拶 ……8
写真11 縄ない ……8
写真12 苗の説明 ……8
写真13 田植え ……8
写真14 参加者の皆さん ……8
写真15 雑草の説明 ……8
写真16 土器づくり ……8
写真17 稲の状況 ……8
写真18 収穫 ……9
写真19 土器焼成 ……9
写真20 焼成した土器 ……9
写真21 脱穀・籾すり ……9
写真22 選別 ……9
写真23 火起こし ……9
写真24 土器による調理 ……9

写真25 食事風景 ……9
第2章第1節 平成26年度に実施した遺跡調査の概要
写真26 吉田構内航空写真……11
写真27 白石構内（教育学部附属山口幼稚園・小学校）航空写真……11
写真28 白石構内（教育学部附属山口中学校）航空写真……11
写真29 小串構内航空写真……13
写真30 常盤構内航空写真……13
写真31 光構内航空写真……13
第2章第2節 吉田構内（吉田遺跡）の調査
写真32 調査地遠景……14
写真33 調査地近景……14
写真34 重機掘削……23
写真35 遺物包含層検出状況……23
写真36 遺物包含層掘削……23
写真37 遺構検出作業……23
写真38 遺構面検出状況……23
写真39 南調査区木製品出土状況……24
写真40 作業風景……24
写真41 ＳＸ１遺物出土状況……24
写真42 ＳＸ１遺物出土状況……24
写真43 ＳＤ１完掘状況……24
写真44 南調査区完掘状況……24
写真45 南調査区南壁土層断面……24
写真46 南調査区東壁土層断面……24
写真47 北調査区西壁土層断面……25
写真48 北調査区南壁土層断面……25
写真49 北調査区東壁土層断面……25
写真50 北調査区北壁土層断面……25
写真51 北調査区アゼ土層断面……25
写真52 完掘状況……26
写真53 完掘状況……26
写真54 出土遺物（土器）①……58
写真55 出土遺物（土器）②……59
写真56 出土遺物（土器）③……60
写真57 出土遺物（土器）④……61
写真58 出土遺物（土器）⑤……62
写真59 出土遺物（土器）⑥……63
写真60 出土遺物（土器）⑦……64
写真61 出土遺物（土器）⑧……65
写真62 出土遺物（土器）⑨……66
写真63 出土遺物（土器）⑩……67
写真64 出土遺物（土器）⑪……68
写真65 出土遺物（土器）⑫……69
写真66 出土遺物（土器）⑬……70
写真67 出土遺物（土器）⑭……71
写真68 出土遺物（土器）⑮……72
写真69 出土遺物（土器）⑯……73
写真70 出土遺物（土器）⑰……74
写真71 出土遺物（土器）⑱……75
写真72 出土遺物（土器）⑲……76
写真73 出土遺物（土器）⑳……77
写真74 出土遺物（土器）㉑……78
写真75 出土遺物（土製品・石器・金属器）…79
写真76 Ａ地点土層断面 ……134
写真77 Ｂ地点土層断面 ……135
写真78 Ｃ地点土層断面 ……135
写真79 Ｄ地点土層断面 ……136
写真80 Ｅ地点土層断面 ……136
写真81 Ｆ地点土層断面 ……136
写真82 土層断面 ……137
写真83 掘削状況 ……138
写真84 土層断面 ……139
写真85 建物基礎掘削部全景 ……140
写真86 Ａ地点土層断面 ……140
写真87 Ｂ地点ピット検出状況 ……142
写真88 Ｃ地点土層断面 ……142
写真89 Ｄ地点土層断面 ……142
写真90 Ｅ地点土層断面 ……142
写真91 出土遺物 ……142
写真92 Ａ地点土層断面 ……143
写真93 Ｂ地点土層断面 ……143
写真94 調査区全景 ……144
写真95 調査区全景 ……144
写真96 防球ネットＡ地点北壁 ……146
写真97 Ａ地点遺物出土状況 ……146
写真98 防球ネットＤ地点北西壁 ……146

写真99 防球ネットＨ地点北西壁 ……146
写真100 外灯１地点東壁……147
写真101 外灯３地点北壁……147
写真102 管路北側……147
写真103 管路南側……147
写真104 出土遺物……149
第2章第3節　小串構内（山口大学医学部構内遺跡）の調査
写真105 調査地遠景……150
写真106 重機掘削……153
写真107 ２層上面検出状況……153
写真108 ３層上面検出状況……153
写真109 作業風景……153
写真110 ６層（生物遺存体）検出状況……153
写真111 ６層遺物出土状況……153
写真112 東壁土層断面……153
写真113 南壁土層断面……153
写真114 出土遺物……154
写真115 Ａ地点土層断面……157
写真116 Ｂ地点土層断面……157
写真117 工事風景……158
写真118 土層断面……158
第2章第4節　常盤構内（山口大学工学部構内遺跡）の調査
写真119 Ａ地点土層断面……159
第2章第5節　光構内（御手洗遺跡・月待山遺跡）の調査
写真120 調査地全景……160
写真121 Ｂ－11土層断面……160
写真122 Ｃ－１土層断面……160
写真123 出土遺物……163
写真124 掘削地全景……164
写真125 土層断面……164
付篇1　吉田遺跡（動物医療センターリニアック室）出土金属製品成分分析調査
写真126 資料Ｎｏ．１……192
写真127 資料Ｎｏ．２……192
付篇2　吉田遺跡（公共下水道布設に伴う発掘調査）出土の動物遺存体
写真128 吉田遺跡（公共下水道布設に伴う発掘調査）出土動物遺存体１……199
写真129 吉田遺跡（公共下水道布設に伴う発掘調査）出土動物遺存体２……200

表目次

第1章第1節 資料館における展示・情報公開活動
表１ 埋蔵文化財資料館利用者の推移 ……1
表２ 平成26年度月別入館者数 ……1
第2章第1節 平成26年度に実施した遺跡調査の概要
表３ 平成26年度山口大学構内遺跡調査一覧表 ……10
第2章第2節 吉田構内（吉田遺跡）の調査
表４ 遺構観察表……28
表５ 出土遺物（土器）観察表……80
表６ 出土遺物（土製品）観察表 ……105
表７ 出土遺物（石器）観察表 ……105
表８ 出土遺物（金属器）観察表 ……105
表９ 出土遺物（木製品）観察表 ……128
表10 出土遺物（土器）観察表 ……142
表11 出土遺物（土器）観察表 ……148
第2章第3節　小串構内（山口大学医学部構内遺跡）の調査
表12 出土遺物（土器）観察表 ……155
表13 出土遺物（石器）観察表 ……155
第2章第5節　光構内（御手洗遺跡・月待山遺跡）の調査
表14 出土遺物（土器）観察表 ……163
表15 出土遺物（鉄器）観察表 ……163
付節２　山口大学構内の主な調査
表16 山口大学構内の主な調査一覧表 ……168
付篇1　吉田遺跡（動物医療センターリニアック室）出土金属製品成分分析調査
表17 資料表 ……192
表18 成分分析結果 ……193
付篇2　吉田遺跡（公共下水道布設に伴う発掘調査）出土の動物遺存体
表19 出土動物遺存体種名表 ……198
表20 吉田遺跡（公共下水道布設に伴う発掘調査）出土動物遺存体観察一覧表 ……198

第1章　平成26年度山口大学埋蔵文化財資料館の活動報告

当館は、昭和53年(1978)設置以降、山口大学構内が所在する遺跡の調査・研究を行うとともに、収蔵資料の展示・公開、また埋蔵文化財・考古学にかかわる教育活動を行っている。具体的には、展示・情報公開活動として、当館展示室において年度内に3回前後の資料展示を行うこと、各種メディアを用いて遺跡及び収蔵資料の情報を公開すること、教育活動としては年度内に1回の市民対象公開授業を開催すること、そして出張展示やワークショップの開催、講演会等への講師派遣など、学内外の要望に応じた地域連携・生涯学習支援活動を実施することである。

平成26年度は、展示・情報公開活動として、第36回企画展『情報求む！～収蔵庫に眠る由来不明の考古資料たち～』を開催した。また、県内の大学博物館・図書館が各大学の学術資料や研究成果を展示にて公開する「山口県大学ML(ミュージアム・ライブラリー)連携事業」に継続参加した。その他、本学委員会である山口大学所蔵学術資産継承検討委員会の事業成果展『宝山の一角』共催館として、展示室の提供と展示構築・広報支援などを行った。情報公開としては、平成23年度の年報と『見島ジーコンボ古墳群　第128・137号墳出土資料調査研究報告』、広報誌『てらこや埋文』、その他『山口県大学ML連携事業報告　平成26年度展示テーマ「発見」』を刊行した。社会教育活動に関しては、例年通り農学部附属農場との共催により、第14回公開授業『古代人の知恵に挑戦！－古代のお米をつくってみよう9－』を開催した。

当年度は、総入館者数は1,787名で前年度比12%の減であったが、これは毎年8月初旬に開催される本学吉田地区オープンキャンパスが台風接近により中止になったことが原因である。次頁より平成26年度の展示・情報公開活動、社会教育活動の概要を報告する。

表1　埋蔵文化財資料館利用者の推移

年度	平成7	平成8	平成9	平成10	平成11	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16	平成17	平成18	平成19	平成20	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26
利用者総数	355	267	191	200	516	142	555	573	913	669	808	1,157	1,228	776	1,333	1,718	1,473	1,072	2,037	1,787

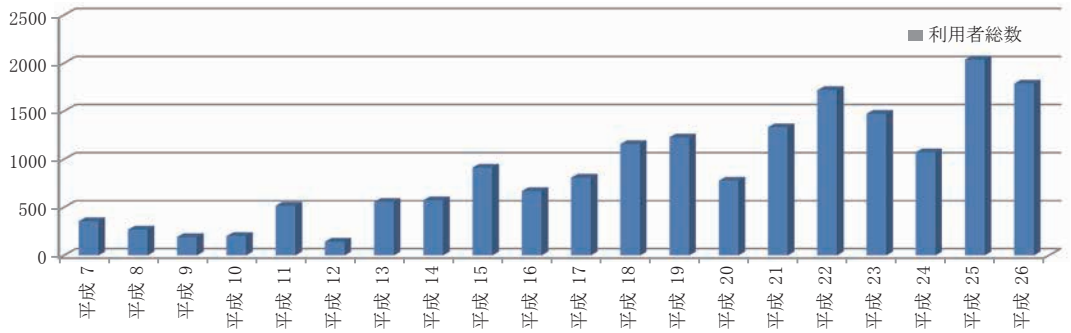
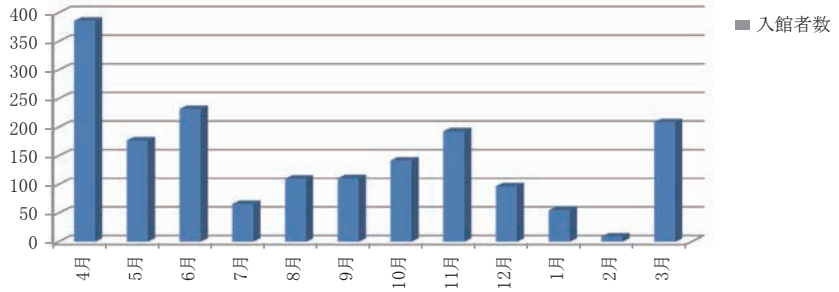


表2　平成26年度月別入館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入館者数	386	177	232	66	110	111	142	193	97	55	9	209



第1節　資料館における展示・情報公開活動

1．第36回企画展『情報求む！～収蔵庫に眠る由来不明の考古資料たち～』を開催

当館には、本学構内遺跡出土資料の他に、主として小野忠熙氏が本学在職中に山口県内の遺跡調査を担当した際に出土した資料の一部や、本学学生が各地にて採取したと見られる資料を多量に収蔵している。これらの大部分は、本学が新制大学として設立された翌年の昭和25年から昭和30年代にかけて採取されたもので、当館設立後に収蔵庫に集約された経緯を持つ。

このうち、正式な発掘調査を経て出土した資料は、一定の情報が付加されているものがあることから、見島ジーコンボ古墳群出土資料をはじめ漸進的に整理とともに調査研究を行っているが、発掘調査を経ず採取された資料の多くは情報が欠落しており、死蔵状態となっている。

当時小野氏とともに採取に係わった学生は、60代後半から80代となっているはずであり、存命の方も多いと予想されるため、当企画展では、死蔵状態の資料を対象に、遺存状態が良好であるもの、断片的な情報が付加されているものをピックアップし、一般公開することによって、資料に関する情報収集を行うことを目的とし、平成26年7月22日（火）から、本学ホームカミングデー（卒業生や退職者を本学に招くイベント）が開催される10月19日（日）までの期間で開催した。

情報収集の方法としては、展示室内に情報提供ノートを設置し、メールによる情報提供も呼びかけた。また、初の試みとして展示解説パネルをweb上に公開し、展示見学に来られない方へも情報提供を求めた。公開した資料の詳細や情報収集の結果に関しては次年度の付篇で報告する予定だが、寄せられた情報は少なかったものの、少数ではあるが一定の情報を得た資料が存在したことは大きな成果であった。観覧者からは、「今回のようにまだ眠っている資料があれば見たいです」などの声が寄せられた。

最後に、展示期間中にマスメディアによる取材を受け、本学の学術資料管理の不備が報道されたことに対する当館のスタンスを述べておく。当館としては、収蔵資料に対する責任を果たす爲の開催であったが、図らずもかつて本学が犯した無責任な行為を世に晒すこととなった。報道によると他大学考古学教員より「地方の考古学研究の拠点としてあり得ない」とのコメントが寄せられたようだが、大学・自治体問わず全国的に由来不明の資料を死蔵している状況は十分に「あり得る」し「ある」。教育研究を司る大学は現状を隠蔽することなく、自省を込めつつその責務を果たすべきと考えるが、いかがであろうか。

写真1　第36回企画展ポスター

写真2　展示の模様

2. 山口県大学ML連携特別展　共通テーマ「発見」

当事業は、平成25年度に山口県内大学博物館・図書館連携へと転換を図ったが、その2年目となる平成26年度事業は、平成25年度から新たに2大学3館（岩国短期大学付属図書館・東亜大学附属図書館・山口大学医学部図書館）の参加があり、11大学15館での開催となった。

当年度は、10月から1月までの間に各館が最低2ヶ月の期間を設定し、「発見」を共通テーマに展示を開催することとなった。当館は『新発見資料から歴史を知る～山口大学発掘調査速報展2012-2013～』と題し、平成26年11月3日から平成27年1月30日までを会期として、数年に一度開催している発掘調査速報展を実施した。展示対象とした調査は、平成24年度から翌25年度に吉田構内にて実施した発掘調査3件（①図書館改修工事及び環境整備工事に伴う本発掘調査、②獣医学国際教育研究センター新営工事に伴う本発掘調査、③第1武道場耐震改修その他工事に伴う本発掘調査である。

展示では、「未だ調査中であること」「今後遺跡や出土品の評価が変更される可能性があること」を解説パネルに明記した上で、③調査で出土し、保存処理を終えたばかりである弥生時代の竹製網代編み製品や、①③調査で出土したものの、未だ接合作業中である弥生時代から古墳時代にかけての土器や石器を中心に、展示を構成した。

会期中、345名の方々に観覧いただいたが、観覧者からは、「調査中の臨場感があって面白い」「何も出土しないことも調査成果の一つであることが分かった」などの声が聞かれ、展示品ではなく、埋蔵文化財調査自体に興味を示す方が多かったことも本展の特徴であった。

この展示に関連し、本学姫山祭（大学祭）開催日をオープン日としたことから、図書館1階カフェコーナーにてオープン記念ワークショップ「網代編み体験」を開催した。こちらは事前広報が不足したためか、約10名の参加にとどまったが、それぞれ熱心に取り組んでいた。

当事業の実施に際し、筆者は事務局企画担当者として未参加館への参加要請、参加館の展示視察やポスターチラシ作成、報告書編集などを担当することから、昨年度同様自館の展示が疎かになったところがある。早期の展示準備の必要性を痛感しているが、次年度共通テーマが年度末に決定されること、年度中の発掘調査の多寡は調整不能であることなども原因となり、対応に苦慮している。当事業の継続性が確立した段階で、事務局から離脱する方針である。

写真3　展示の模様

写真4　ワークショップの模様

３．第３回山口大学所蔵学術資産継承事業成果展「宝山の一角」を共催にて開催

平成24年度より、山口大学所蔵学術資産継承検討委員会が主催する事業成果展『宝山の一角』共催館として、展示空間の提供と展示設営協力、会期中の管理運営を行っている。

第3回となる平成26年度も、例年通り前期・後期の2部構成となり、前期展は山口商工会議所主催の「山口お宝展」への参加企画も兼ね、平成26年2月28日（土）から4月24日（金）まで、後期展は5月7日（木）から6月30日（火）までの会期で開催した。

前期展では、当館所蔵見島ジーコンボ古墳群出土資料とともに、山口県の鉱物・岩石標本（理学部所蔵）、植木茂作銅版レリーフ『トリ』（教育学部所蔵）、河井寛次郎作品（経済学部所蔵）、文書「山田顕義宛楫取素彦書簡」と『長防臣民合議書』（図書館所蔵）を、後期展では世界遺産ポトシ鉱山産鉱石（工学部所蔵）、ツキノワグマ交連骨格標本（共同獣医学部所蔵）、山口県出土古墳時代鉄刀（人文学部所蔵）、典籍『塩梅記』と『平家物語　長門本』（図書館所蔵）を公開した。

前期展では554名、後期展では412名もの方々に観覧いただき、本学学生や地域の方々の関心の高さがうかがわれたが、新入生フレッシュマンセミナーや一般教養科目での活用が目立った。専門外の史資料が多く、観覧者からの質問に適切に回答できないことも多かったことをお詫びしたい。一方で、当館所蔵品だけでなく、他部局所蔵の貴重学術資料を展示することから、団体見学受け入れ時には入館者数に制限を設けるなど、資料の安全には最大限の配慮を行った。

観覧者からは、「山大にしかないものをどんどんアピールして、誰でも見られるような企画展をしていただきたい」「大学にある学術資料を、分野ごとにたびたび展示してほしい」「幕末や鎌倉時代の歴史を感じられるものを展示して欲しい」などの声がアンケートを介して寄せられた。

3回目となる『宝山の一角』展は毎年約1,000名の入館者を数えており、学内外に定着しつつあるように思われるが、当展示はあくまで「本学より予算配分を受けて実施している学術資料の保存・修復・管理事業に関する説明責任と可視化の一環」である。学術資料の保存・修復・管理・継承の必要性を学内に定着させることが本来の目的であり、そのための手段が成果展示であることを忘れないでおきたい。

周知のとおり、資料の保存と展示行為は矛盾関係にある。展示会場を管理する当館としては、多くの方々に観覧いただけることに喜びつつも、資料が危険状態にあることを忘れぬよう自戒していきたい。

写真5　前期展ミュージアムトークの模様

写真6　後期展ミュージアムトークの模様

4．歴食JAPANサミットプレ大会に参加

平成22年（2010）、山口商工会議所山口名物料理創出推進会議、財団法人山口観光コンベンション協会が中心となり、食文化研究家の江後迪子氏が監修を務め、明応9年（1500）に大内義興が室町幕府10代将軍足利義稙を招きもてなした記録『明応九年三月五日将軍御成雑掌注文』の献立、32膳（25献＋2供御＋4御台＋御菓子）が再現された。翌平成23年（2011）より、山口市の旅館やホテルにて再現料理が「平成大内御膳」との名称で提供されることとなったが、再現料理に深く係わったやまぐち歴食研究会幹事の北島大輔氏から、『歴食JAPAN サミットプレ大会』なるイベントが山口市にて開催されるので、当館が実施している公開授業『古代人の知恵に挑戦！－古代のお米をつくってみよう－』の成果を展示してもらいたいとの依頼があった。当館の公開授業はこれまでにも成果展示を実施していることから準備が容易であること、イベントが半日で負担も少ないことなどから、出展協力することとなった。

イベント運営主体である歴食JAPAN事務局（山口商工会議所内）によると、『歴食』の定義は「日本全国の歴史的なストーリーを有した、価値ある食」であり、「地域の「食」のルーツを知り、地域の歴史を知る。そして、各地域が連携し、日本の食の新ジャンルとして、「歴食」を日本全国、世界へ発信する」ことを目的とするそうである（歴食JAPANweb http://reki-shoku.jp/ による）。

イベントは、平成27年2月28日（土）の12時30分から17時10分までの間、ニューメディアプラザ山口（山口市熊野町1-10）にて開催された。当館はロビー〈歴食交流広場〉のブースにて「弥生の米づくり」と題して、公開授業に用いている復元弥生土器、臼と杵、穂摘み具、解説パネル等を展示した。隣には横浜市歴史博物館による古墳時代の米の調理方法を紹介する「大おにぎり展」が設置されており、さらに奈良パークホテルの「天平の宴」、山口市教育委員会の「大内氏の宴」と続いており、一定の学術性が持たされていたが、来場者の多くは古代グッズ販売ブースに注意を向けており、学術的な展示に足を止める人は少数であった。また、ホールで集団によるダンスが始まるなど、落ち着いて展示を観覧する雰囲気ではなかったこともあり、予定より早く撤収に取りかかった。

イベントの主旨は当館としても何ら意に反するものではなかったが、当事業はあくまで商工会議所のイベントであり、集客や商業に力点が置かれることは事前に想像すべきであった。今後同様のイベントが開催され、参加依頼があった場合は、具体的な内容を吟味して参加の可否を決めていきたい。

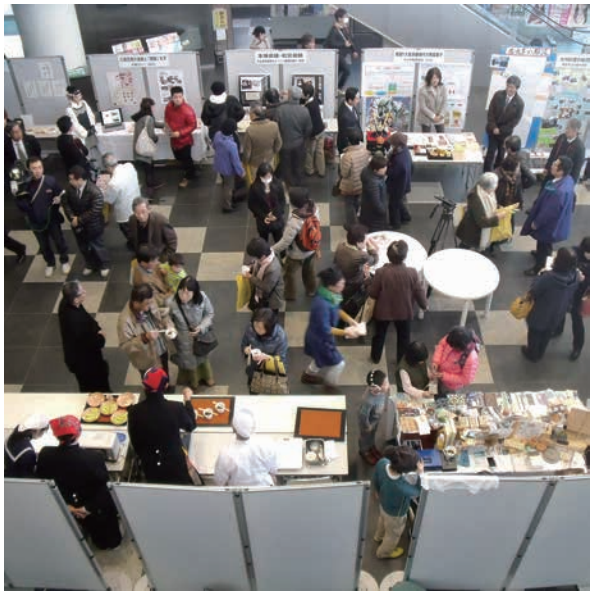


写真7　会場の模様

写真8　当館のブース

５．平成26年度刊行物

1.『山口大学埋蔵分解資料館年報－平成23年度－』を刊行

平成26年度は、平成23年度に実施した構内遺跡発掘調査概報と資料館活動報告を所収した年報を刊行した。発掘調査関係としては、本発掘調査1件（吉田）、予備発掘調査1件（光）、工事立会11件（吉田7・白石2・小串1・光1）の成果が掲載されている。

館の活動報告としては、展示・公開活動として3件の企画展示等事業と、1件の社会教育活動、当該年度刊行物3冊を報告している。その他、横山成己による「山口市筈倉古墳の出土遺物」、吉田生物研究所による「山口県筈倉古墳出土金属製品成分分析調査」と題する付篇を所収している。

2. 館蔵資料調査研究報告書3『見島ジーコンボ古墳群　第128・137号墳出土資料調査報告』を刊行

平成22年度から開始した事業で、引き続き見島ジーコンボ古墳群の出土資料調査及び報告書の刊行を実施した。

平成25年から平成26度にかけて、第128・137号墳を対象に、当館と萩博物館の収蔵資料の悉皆調査を実施し、その成果を収録した。また『見島総合学術調査報告』（山口県教育委員会　1964）には第137号墳の遺構図が未掲載であったことから、平成25年7月25・26日に現地で測量を行い、これを掲載した。

3. 山口大学埋蔵文化財資料館通信　第25号『てらこや埋文』を刊行

平成18年(2005)より刊行を開始した広報誌であり、当初季刊で刊行していたが、平成23年度以降は年度末に1度の刊行となっている。巻頭からには2頁にかけて平成26年度に実施した吉田遺跡の本発掘調査略報を、3頁から4頁には展示活動、5頁には公開授業の模様、6頁には「資料館この一品」として長崎県対馬市採集の縄文時代の石斧を、7頁には当館技術職員の連載である内業業務紹介を掲載した。

当館は現状で実施年度の4年後に年報を発行していることから、本冊子は速報性のある刊行物として重要な役割を果たしている。今後も年度末の刊行を継続したい。

4. 山口県大学ML（Museum・Library)連携事業報告　平成26年度展示テーマ『発見』を刊行

平成22年度より実施している山口県大学ML連携の事業報告書は、事務局企画担当である筆者が編集し、当館が発行している。平成26年度は、前記したとおり11大学15館が参加し、一定期間テーマを共通とした学術資料展示を各館にて開催した。一般の方は入手困難と思われるが、山口県大学ML連携事業公式web（http://www.oai.yamaguchi-u.ac.jp/ml/）にてデジタル公開を行っている。

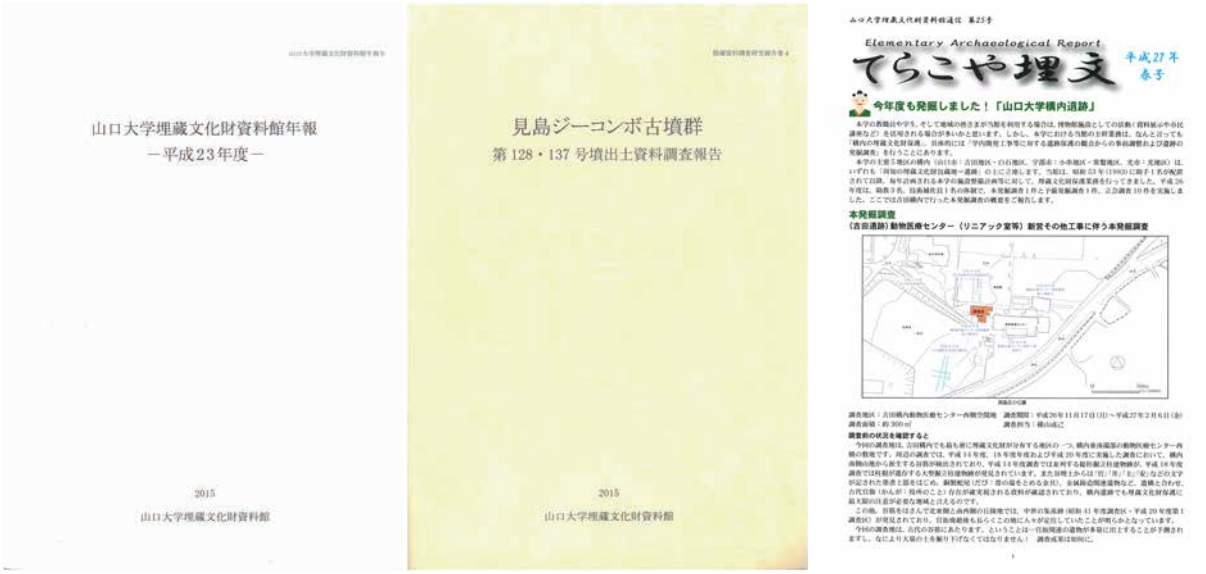


写真9　平成 26 年度埋蔵文化財資料館刊行物

第2節　資料館における社会教育活動

1．第14回公開授業『古代人の知恵に挑戦！－古代のお米をつくってみよう－９』を開催

はじめに

当館では、平成13年度より、考古学や埋蔵文化財、山口大学構内遺跡の調査研究成果を地域の皆様に身近に感じていただくことを目的として、公開授業を開催している。

第14回となる平成26年度の公開授業は、昨年度に引き続き、日本のお米のルーツとされる赤米をつくり、土器で炊いて食べてみるという内容である。今回も埋蔵文化財資料館と山口大学農学部との共催で、吉田構内の山口大学農学部附属農場で延べ3回行い、小学生6名、教育学部学生7名、一般10名、合計23名の皆様に参加していただいた。今回栽培したのは昨年と同じ「紅吉兆」（糯米）である。

6月14日－田植え

事前に農学部附属農場・技術専門職員の長砂さんに水田の代かきをしていただいた。参加者は田植え綱を目印に田植えを行った。田植えがはじめての参加者も多く、水田がぬかるみ、転びそうになるなど移動が大変そうであったが、協力して無事に終了することができた。

7月13日（日）－稲の観察と土器づくり－

参加者は実習室で技術専門職員の長砂さんから水田に生える雑草についての説明を受けて、稲とヒエの違いなどを学習した[註1]。その後、土器づくりに挑戦した。短時間であったが、参加者それぞれが古代をイメージした個性的な土器ができた。

収穫と土器焼成

台風18号の接近により第3回の公開授業はやむなく中止となった。このため収穫は10月6日に農学部附属農場が行い、土器焼成は10月11～12日にかけて埋蔵文化財資料館が行った。

11月15日（土）－脱穀・籾すり、赤米を食べる－

当日は朝から快晴に恵まれた。午前中は箸こぎ、臼と杵による脱穀・籾すり、てみとザルによる選別と千歯こきによる作業を体験した。午後からはいよいよ赤米の試食である。今回も土器による炊飯と蒸米、あさりのすまし汁づくりに挑戦した。炊飯は成功したが、一昨年・昨年同様火力不足のためか時間内にお米を蒸すことはできなかった。あさりのすまし汁の味付けは女性参加者が行い、藻塩ベースのあっさりした味に仕上げることができた。炊飯した赤米はほんのりとした甘みがあった。他にもおかずには朴葉焼き、豚汁をつくったが、これらも美味しく好評であった。このほか、小学生の参加者を中心に様々な道具による火おこしにも挑戦し、多くの方が点火に成功した。

公開授業を終えて

今回の公開授業は、古代米づくりをはじめて9年目である。今回、はじめて参加者に収穫と土器焼成をしていただくことができなかったが、無事に終了することができた。参加者からは「楽しかった。古代人は大変（小学生）」、「赤米は思ったよりも硬くなくておいしかった（学生）」、「古代人の知恵はすばらしい（一般）」などの声が寄せられ、好評であった。

平成26年度も、参加者には米作りの歴史や大変さを実際の体験を通して学んでいただくことができ、公開授業の目的を達成することができたと感じている。館員一同心より御礼申し上げたい。

【註】

1)　山口大学埋蔵文化財資料館通信　第25号　『てらこや埋文』　平成27年春号の記載内容を訂正する。

写真10　館長挨拶（6月14日）

写真11　縄ない（6月14日）

写真12　苗の説明（6月14日）

写真13　田植え（6月14日）

写真14 参加者の皆さん（6月14日）

写真15 雑草の説明（7月13日）

写真16　土器づくり（7月13日）

写真17　稲の状況（9月24日）

写真18　収穫（10月６日）

写真19　土器焼成（10月11日）

写真20　焼成した土器（10月14日）

写真21　脱穀・籾すり（11月15日）

写真22　選別（11月15日）

写真23　火起こし（11月15日）

写真24　土器による調理（11月15日）

写真25　食事風景（11月15日）

第2章　平成26年度山口大学構内遺跡の調査

第1節　平成26年度に実施した遺跡調査の概要

山口大学の関連諸施設は、山口市（吉田・白石構内）、宇部市（小串・常盤構内）、光市（光構内）の県内各市に分散しているが、各構内は「周知の埋蔵文化財包蔵地」内、つまり遺跡の上に立地している。各構内の様相を概観すると、吉田構内は縄文時代後・晩期から江戸時代にかけての全時代を網羅する複合集落遺跡であり、官衙遺跡としても著名である吉田遺跡内に、白石構内は弥生時代から古墳時代を中心とした集落遺跡である白石遺跡内に、小串・常盤構内は旧石器時代から江戸時代にかけての遺物を包含する山口大学医学部構内遺跡内・山口大学工学部構内遺跡内に、光構内は縄文時代から江戸時代にかけての集落遺跡・遺物散布地である御手洗遺跡と月待山遺跡にまたがって立地している。

このような環境の下、山口大学埋蔵文化財資料館は山口大学構内に埋存する貴重な埋蔵文化財の保護・調査・研究・活用する施設として、昭和54年(1979)に職員が配置されて以来、その重責を担い続けている。当館の平成26年度時の調査体制は以下の通りである。

まず、各構内において地下掘削を伴う工事が立案・計画された場合には、埋蔵文化財資料館専門委員会において事業計画を確認した後、文化財保護法の諸手続の下、山口大学各構内が位置する地方公共団体（山口県および各市）の指導により、埋蔵文化財保護の観点から本発掘・予備発掘・立会の3種の方法で厳密に調査を行っている。「周知の埋蔵文化財包蔵地」外に位置する大学関連施設（職員宿舎等）敷地内で地下掘削を伴う工事が実施される場合においても、埋蔵文化財の新規発見の可能性を考慮して、できうる限り工事掘削時に資料館員が確認調査を行っている。これらの調査に対する当館の平成26年度の職員配置は、専任教員3名、技術補佐員1名であり、教務補佐員は欠員であった。

上記の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合には、埋蔵文化財資料館専門委員会において、遺跡のさらなる現状変更を避けるべく、工事計画、工事設計の変更等で現状保存が可能であるかどうか厳密な協議を行い、保存方法を選定している。また、調査成果については、地方公共団体への報告後、内業整理等を経て可能な限り迅速に発掘調査概報（年報）を刊行している。

表3　平成26年度山口大学構内遺跡調査一覧表

調査区分	調査名	構内地区	構内地区割	面積（㎡）	調査期間	本書掲載頁
本発掘	動物医療センター（リニアック室等）新営その他工事	吉田	R-19　S－19・20	247	11月17日～2月6日	15-133
予備発掘	基幹・環境整備及び診療棟・病棟新営工事	小串		90	9月5日～10月7日	150-155
立会	椹野寮1号棟改修工事	吉田	O－20・21　P－20・21	801	10月9日、12月17日 3月17・23～26日	134-136
	動物医療センター改修電気設備工事	吉田	S－19	9	3月2日	137
	農学部附属農場水田排水路工事	吉田	U・V－17	50	1月27日	138
	経済学部D棟改修電気設備工事	吉田	K－19	4	1月20日	139
	第1学生食堂増築工事	吉田	I－19・20　J－20	360	4月11・21・22・30日 5月14～17・19・20日	140-142
	第1学生食堂増築電気設備工事	吉田	I－19	16	6月17・18日	143
	南門アプローチ整備工事	吉田	H・I－21・22	66.5	11月20・24 12月3・5日	144-149
	基幹・環境整備及び診療棟・病棟新営工事	小串		30	12月11日、3月17日	156-157
	廃棄物管理棟新営工事	小串		149	9月16日	158
	常盤寮C棟新営工事	常盤		103	1月22日、2月12日	159
	教育学部附属光小学校グラウンド鉄棒新設工事	光		23	12月26日	160-163
緊急	教育学部附属光中学校校舎排水管改修工事	光		3	8月27日	164

上記の調査体制の下、平成26年度に当館が実施した大学構内における埋蔵文化財の調査は、表3の通り、本発掘調査1件、予備発掘調査1件、立会調査10件、ライフライン改修のための緊急立会1件のの計14件であった。

吉田構内（本部、人文・教育・経済・理・農の各学部：山口市吉田1677-1、教育学部附属養護学校：同吉田3003所在）

例年通り、平成26年度の埋蔵文化財調査も吉田構内に集中し、その件数は本発掘調査1件、立会調査7件を数える。

動物医療センター（リニアック室等）新営その他工事に伴う本発掘調査は、動物医療センター西側空閑地にて実施された。その結果、平成20年度実施の動物医療センター改修Ⅲ期工事に伴う本発掘調査第2調査区にて検出した古代の埋没谷対岸（右岸）を確認し、谷幅が約14mであることが判明した。そのほか、土壙、ピット、溝を検出したが、その分布は希薄であった。遺物としては、谷埋土から8世紀を中心

写真26 吉田構内航空写真（南東から）

写真27 白石構内（教育学部附属山口幼稚園・小学校）
航空写真（東から）

写真28 白石構内（教育学部附属山口中学校）
航空写真（南から）

図1 山口大学吉田・白石構内位置図

とする墨書土器などの土器類のほか、平成20年度調査同様多量の木製品の出土を見た。当地点より下位に位置する農学部解剖実習棟調査区（平成14年度実施）や総合研究棟調査区（平成12年度実施）では、谷埋土から木製品の顕著な出土を見ないことから、奈良時代から平安時代にかけて当地点周辺に木工に関連する施設が存在した可能性が高いと推定される。

立会調査では、南門アプローチ整備工事に伴う調査にて弥生時代終末期から古墳時代前期の土器を含む河川埋土を検出した。そのほか、第1学生食堂増築工事に伴う調査にて河川埋土と弥生土器を、椹野寮1号棟改修工事に伴う調査にて遺物包含層を確認した。

白石構内（教育学部附属山口幼稚園：山口市白石三丁目1-2、同山口小学校：白石三丁目1-1、同山口中学校：白石一丁目9-1所在）

平成26年度中に土地の掘削を伴う工事計画は立案されなかった。

小串構内（医学部、同付属病院：宇部市南小串1丁目1-1）

予備発掘調査1件、立会調査2件を実施した。保健学科福利棟北側駐車場敷地にて実施した基幹・環境整備及び診療棟・病棟新営工事に伴う予備発掘調査では、現地表下約3mの旧海底堆積層（灰色砂礫に多量の貝が堆積する）から縄文土器片と石錘、古墳時代のものと見られる土師器片の出土を見たが、その分布は希薄であったため、埋蔵文化財保護対応は予備発掘調査にとどまった。そのほかに実施した2件の立会調査においては、顕著な埋蔵文化財は確認されなかった。

常盤構内（工学部：宇部市常盤台2丁目16-1、尾山宿舎：同上野中町2658-3所在）

常盤寮C棟新営工事が計画された。棟自体は谷の埋め立て地に建設されることとなったため、付属する工事を対象に立会調査を実施した。常盤寮A棟北西の新規配管地点にて行った調査では、造成土下に旧耕土および床土を確認したものの、下位の地山は大きく削平をうけており、遺構が遺存する状況になかった。常盤寮C棟南西に計画された自転車置き場新営工事では、基礎掘削時に調査を行ったが、掘削は造成土内にとどまった。

光構内（教育学部附属光小学校、同光中学校：光市室積8丁目4番1号）

立会調査2件を実施した。教育学部附属光小学校グラウンド鉄棒新設工事に伴う立会調査では、ピット状の落ち込みや暗渠を検出した。遺物としては、縄文土器、土師器、須恵器、鉄器を確認したが、その分布は希薄であった。教育学部附属光中学校排水管改修工事は、ライフライン破損に伴う緊急対応として立会調査を実施したが、埋蔵文化財は確認されなかった。

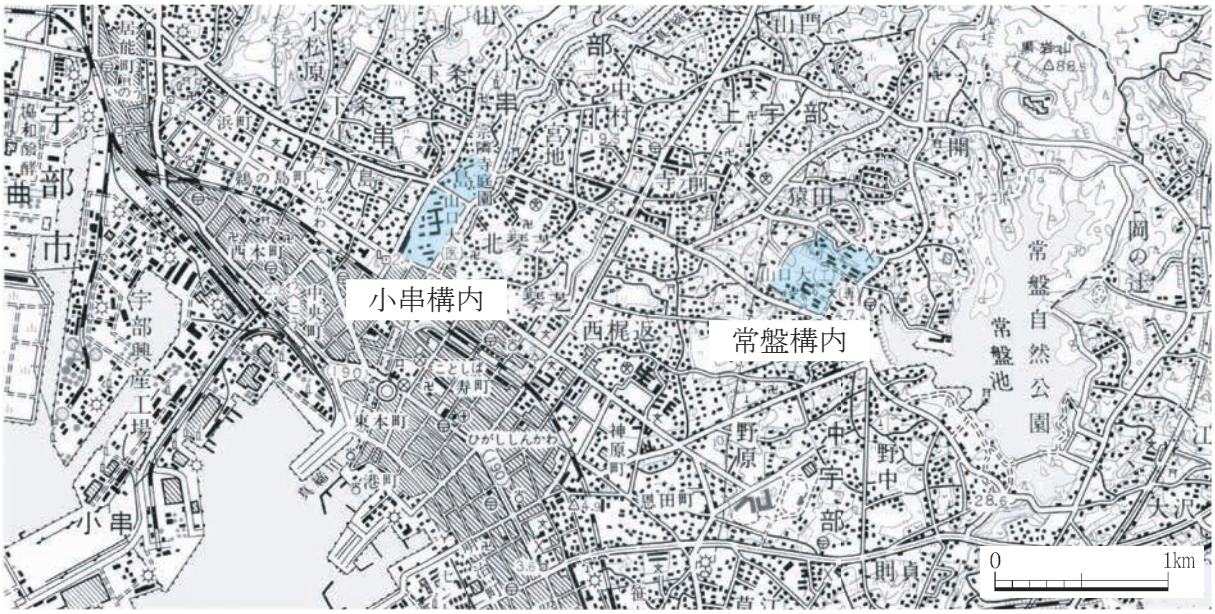


図2 小串・常盤構内位置図

写真29 小串構内航空写真（南東から）

写真30 常盤構内航空写真（南から）

写真31 光構内航空写真（北東から）

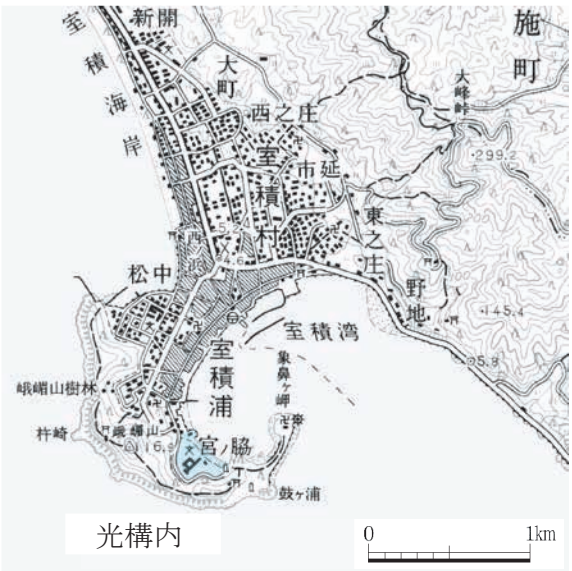


図3 光構内位置図

第2節　吉田構内（吉田遺跡）の調査

1．動物医療センター（リニアック室等）新営その他工事に伴う本発掘調査

調査地区　吉田構内R-19区、S－19・20区　　**調査面積**　247㎡

調査期間　平成26年11月17日～平成27年2月6日　**調査担当**　横山成己　川島尚宗　乃美友香

調査結果

（1）調査の経緯（図4、写真32・33）

吉田構内南東部に位置する動物医療センターの西側空閑地において、リニアック（放射線治療装置）室等の増築計画が立案された。予定地は、南東から北西に延びる尾根の南西斜面にあたり、周辺域では平成12年度実施の総合研究棟新営に伴う試掘・事前発掘調査[註1]、平成14年度実施の農学部解剖実習棟新営に伴う事前調査[註2]、平成18年度実施の動物医療センター改修Ⅰ期工事に伴う予備・本発掘調査[註3]、平成20年度実施の動物医療センター改修Ⅲ期工事に伴う本発掘調査第2調査区[註4]、平成21年度実施の動物医療センター改修Ⅲ期に伴う立会調査[註5]において、「官」「主」「井」「安」などの墨書須恵器をはじめ銅製蛇尾未製品や鋳造関連資料、大量の木製品などを包含する谷筋と、官衙施設と目される総柱建物

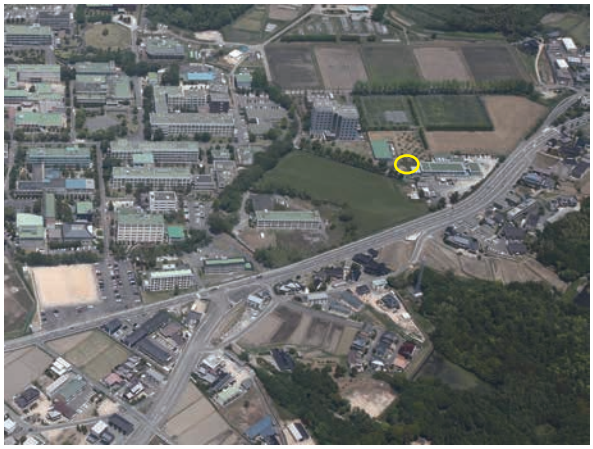


写真 32　調査地遠景（南上空から）

写真 33　調査地近景（北西空から）

図4　調査区位置図

跡などが確認されていることから、地下に埋蔵文化財が密に遺存することが明白であった。計画に対する埋蔵文化財保護対応については、平成25年度第10回埋蔵文化財資料館専門委員会（平成26年3月24日開催）にて審議されたが、既設の動物医療センターとの接続が不可欠な施設であること、既設建物北側空閑地に増築したとしても官衙関連遺構を破壊する可能性が高いことなどから、計画地全域を対象に本発掘調査を実施し、遺構の分布と内容を確認することとなった。また、別途近隣地に計画されていた大動物手術用プレハブについては、増築建物に合築されることとなった。

計画された開発面積は約400㎡であったが（図4中央緑色範囲）、その範囲には動物医療センター西側に付設しているプレハブ（写真33中央）をはじめ、多数の既設管が存在した。開発原因部局である共同獣医学部および施設環境部との調整の結果、動物医療センターの運営や学部授業のため事前にプレハブ・既設管を撤去することは不可能と判断されたため、安全に掘削しうる範囲で調査を実施することとなった。調査区の面積は、最終的に約250㎡となった（図4中央赤色範囲）。また開発域の南側西端部は、平成20年度第2調査区と重複するため、調査の対象外とした。

【註】

1）田畑直彦（2017）「吉田構内総合研究棟新営に伴う発掘調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報ＸＸ』，山口

2）田畑直彦（2004）「平成7・10～14年度山口大学構内遺跡調査の概要」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報ＸⅥ・ＸⅦ』，山口

3）横山成己（2010）「農学部附属家畜病院改修Ⅰ期工事に伴う予備発掘調査・本発掘調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成18年度－』，山口

4）横山成己（2012）「農学部附属動物医療センター改修Ⅲ期工事に伴う本発掘調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成20年度－』，山口

5）横山成己（2013）「農学部附属動物医療センター改修Ⅲ期工事に伴う立会調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成21年度－』，山口

（2）調査の経過（写真34～37・40）

工事の入札不調などで設計が遅れ、調査は平成26年（2014）11月17日に着手した。表土・造成土の重機掘削を同月20日に終え、11月28日までに攪乱層等を除去し、包含層上面を検出した。この時点で、調査区内が東西に走るガス管で南北に分断されたため（写真35）、北側を北調査区、南側を南調査区と命名して調査を実施することとなった。12月15日に包含層の掘削を終え、谷埋土等遺構上面を検出、その後層位ごとに谷埋土を掘削した。12月27日～平成27年（2015）1月4日までの年末年始休業を挟み、1月23日に谷埋土の掘削をあらかた終え、1月27日より遺構面精査・遺構掘削を開始した。遺構掘削と諸記録作業を1月30日に終え、2月2日から6日にかけて埋め戻しを行った。

（3）基本層序（図6～8・10、写真38～44・51～53）

基本層序は、①表土および造成土（層厚20㎝～150㎝）、②遺物包含層1（黄褐色（2.5Y5/3）粘質土：層厚15～40㎝）、②包含層2（褐灰色（10YR4/1）に褐色（10YR4/4）が混ざる粘質土：層厚5～30㎝）、③地山（調査区西部：明黄褐色（2.5Y6/6）粘質土に灰色（N5/）粘質土が部分的に混ざる、調査区東部：にぶい赤褐色（2.5YR4/4））であるが、北調査区東端部には別種の遺物包含層包含層（にぶい黄褐色（7.5YR4/4）粘質土に灰色（10Y5/1）が混ざる）が堆積している。北調査区の北西部は、北東－南西ラインで

約0.75mの落ち込みを見せている。これは本学移転前の棚田の痕跡であり、落ち込みの端部には石組みの暗渠が設けられていた。棚田の構築により、北調査区北西部は遺物包含層が削平され遺存していない。なお、北調査区の東部には旧耕土と床土が、北調査区南端から南調査区にかけて旧耕土がわずかに遺存している。

遺物包含層に含まれる土器を見ると、いずれも室町時代（15～16世紀頃）が堆積時期と見られること、調査区南側で遺物包含層1（基本層序②）に直接旧耕土が被っていることから、上下2枚の包含層は元来同一の堆積で、耕作により上部の土壌化が進行したものと推測される。また、北調査区西半部は地山上に薄く浅黄色（2.5Y7/3）砂礫、褐色（7.5YR4/3）砂礫およびにぶい黄橙色（10YR6/4）砂礫が堆積しており、遺構はこの層を掘り込んで形成されていた。調査最終盤に、確認のため部分的に同層の掘削を試みたが、遺物は含まれていなかった。

（4）遺構（図5・9・10、写真38～44・52・53、表4）

調査区内は、枡や各種管の設置により攪乱が著しかったが、それを差し引いても検出された遺構は希薄で、谷筋のほかは土壙（SK）2基、ピット（Pit）11基、不明遺構（SX）1基、溝（SD）1条が検出されるにとどまった。

谷

南東から北西に走る谷筋を確認した（写真38）。検出されたのは谷の右岸から谷底にかけての範囲で、平成20年度動物医療センター改修Ⅲ期工事に伴う本発掘調査第2調査区にて検出した谷左岸と合わせ、谷幅の規模（約14m）を復元するに至った（図5）。平坦面から急激に落ち込む左岸に比して、右岸は傾斜変換をくり返しながら徐々に降下しており（図9）、右岸より約8mで谷底に至る。谷底幅は約4mで、北西方向に緩やかに降下している。北調査区北端部での右岸標高が26.5m、北調査区の南西端部での谷底標高が25.35mを測ることから、谷の深さは約1.15mとなる。左岸に見られた護岸杭列は、右岸では確認されなかった。

谷の堆積土は調査区内で均一性が見られ、平成20年度第2調査区と同一である。すなわち、上層より谷埋土1（黄灰色（2.5Y4/1)強粘質土に1～2㎜φの白色礫が極少量混ざる：層厚約20㎝）、谷埋土2上層（黒褐色（10YR3/1)弱粘質土に0.5～2㎜φの礫が少量混ざる：層厚約20㎝）、谷埋土2下層（谷埋土2上層と同色・同質であるが0.5～10㎜φの白色礫が多量に混ざる：層厚5～15㎝）、谷埋土3上層（黒褐色（2.5Y3/2)泥土に0.5～3㎝φの礫が極少量混ざる：層厚約30㎝）、谷埋土3下層（黒色（N2/）泥土※有機物腐蝕層：層厚約10～20㎝）、谷埋土4（黒褐色（2.5Y3/2)泥土に灰黄色（2.5Y6/2)強粘質土が混ざる：層厚5～15㎝）、谷埋土5（0.5～10㎝φの砂礫（水流堆積層）：層厚約15㎝）となっている。このうち、谷埋土3上層以下が谷最深部の堆積層であり、谷埋土2下層より上位は右岸緩傾斜部まで堆積している。

遺物の包含状況に関しては、水流堆積層である最下層の谷埋土5に遺物は含まれていなかった。谷埋土4と有機物腐蝕層である谷埋土3下層は遺物を包含しているが極めて少量である。谷埋土3上層と谷埋土2下層は多量の土器類と木製品を包含している。谷埋土2上層は土器類が主であるが、木製品もわずかに包含する。谷埋土1は土器類を包含するが、木製品は含まれない。なお、谷埋土1には極少量ながら中世の遺物が見られる。上位を覆う遺物包含層が室町時代を時期的な下限としていることから、鎌倉時代に谷は完全埋没したものと思われる。この谷筋が低地でどの川筋に抜けるのか未だ不明であるが、総合図書館3号館敷地にて検出した河川と埋没時期を同じくしている[註1]ことは注目に値する。

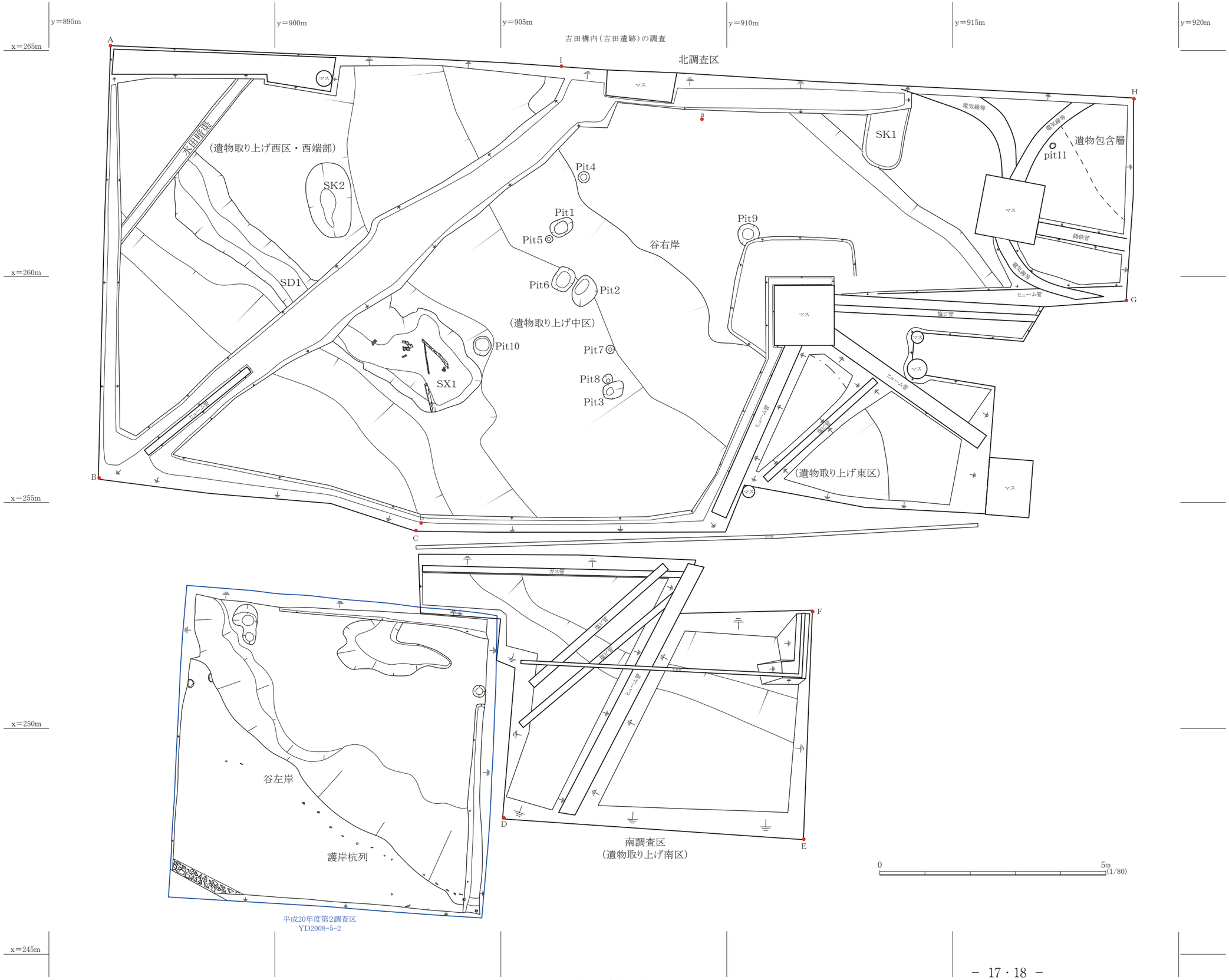

吉田構内（吉田遺跡）の調査
y=895m
y=900m
y=905m
y=910m
y=915m
y=920m
x=265m
x=260m
x=255m
x=250m
x=245m
北調査区
A
B
C
D
E
F
G
H
I
a
b
大田時法
（遺物取り上げ西区・西端部）
SK2
SD1
SX1
Pit1
Pit2
Pit3
Pit4
Pit5
Pit6
Pit7
Pit8
Pit9
Pit10
pit11
SK1
谷右岸
（遺物取り上げ中区）
（遺物取り上げ東区）
遺物包含層
マス
電気線等
鋳鉄管
ヒューム管
塩ビ管
ガス管
谷左岸
護岸杭列
南調査区
（遺物取り上げ南区）
平成20年度第2調査区
YD2008-5-2
0
5m
(1/80)

図5　調査区平面図

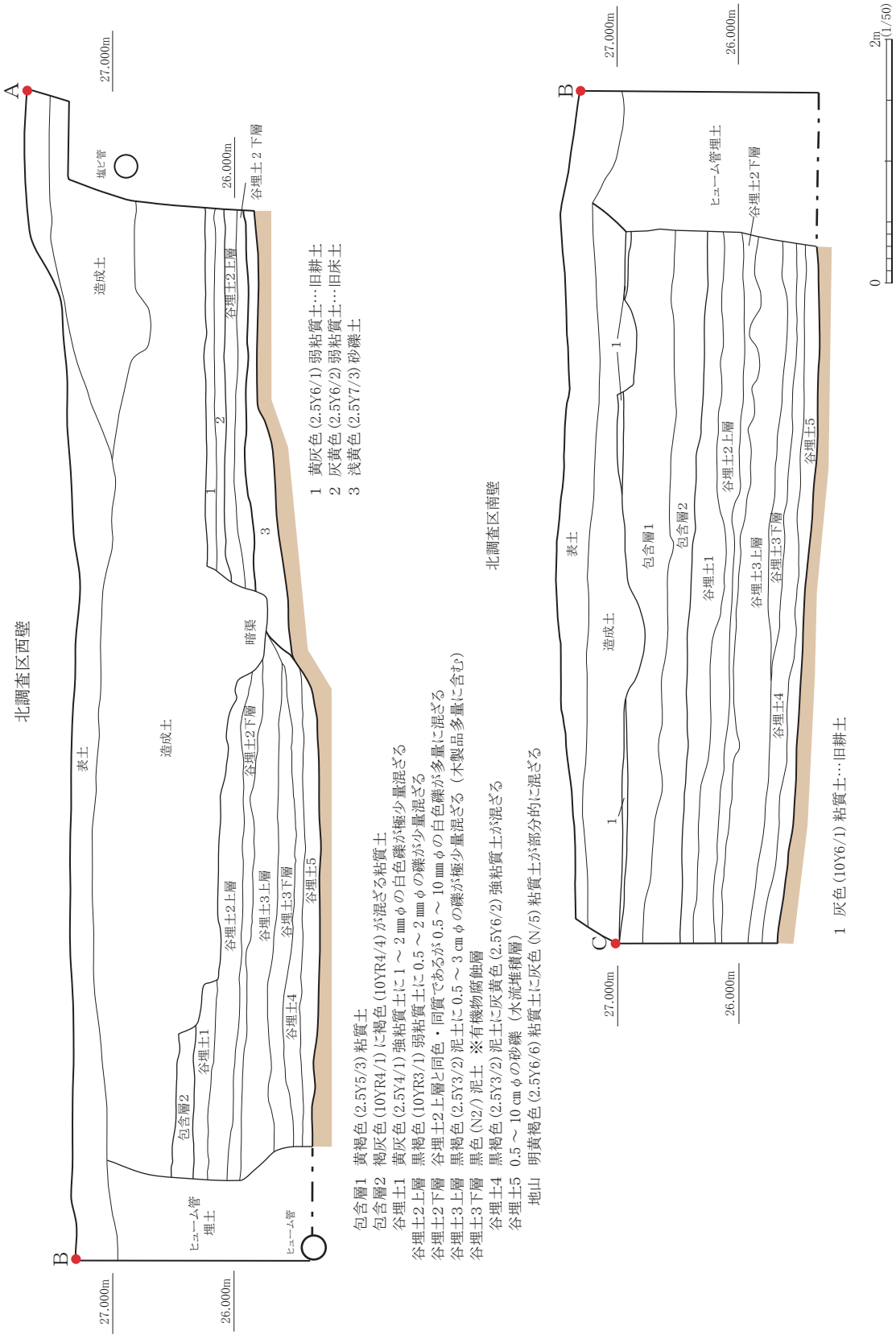


図6 北調査区土層断面図①

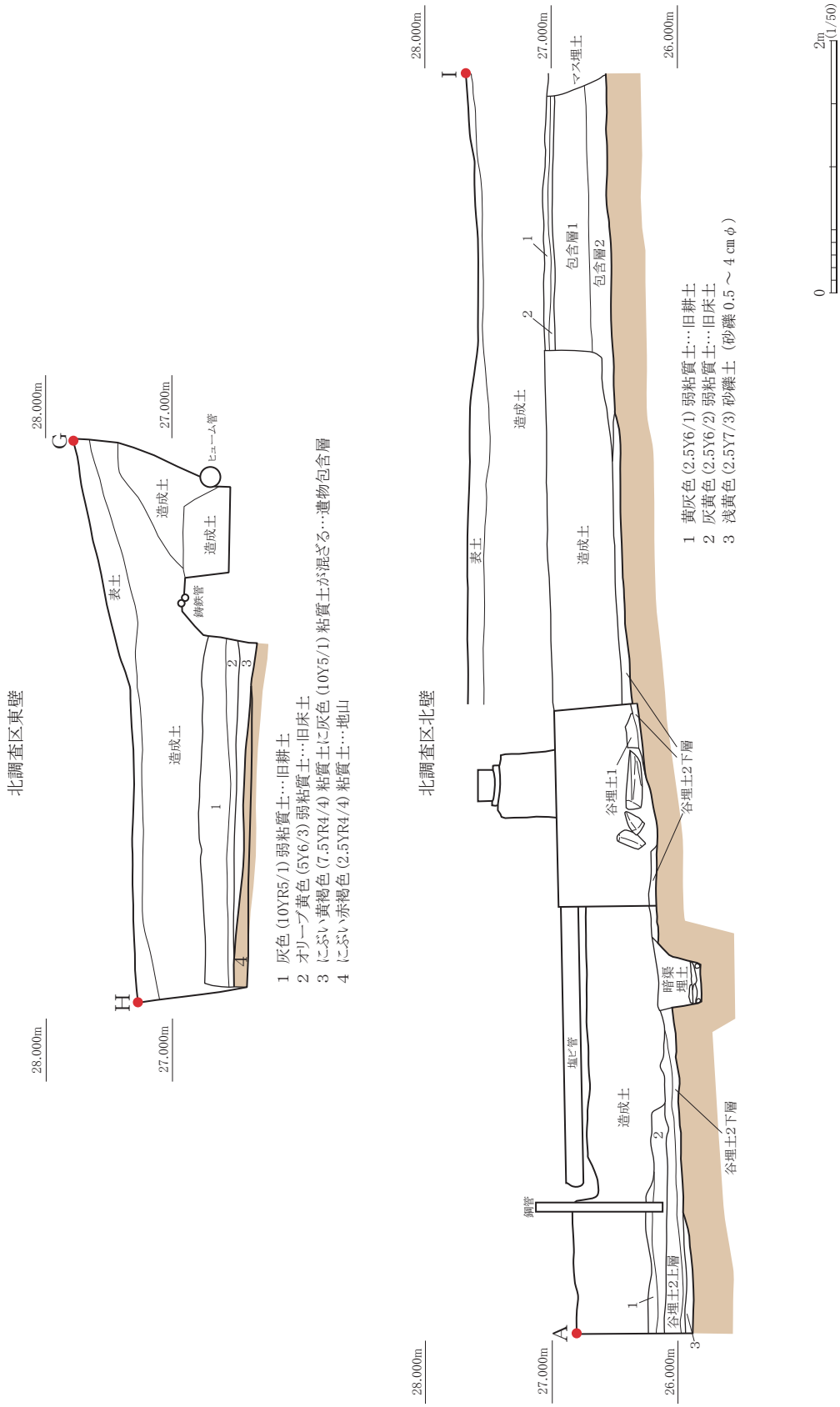


図7　北調査区土層断面図②

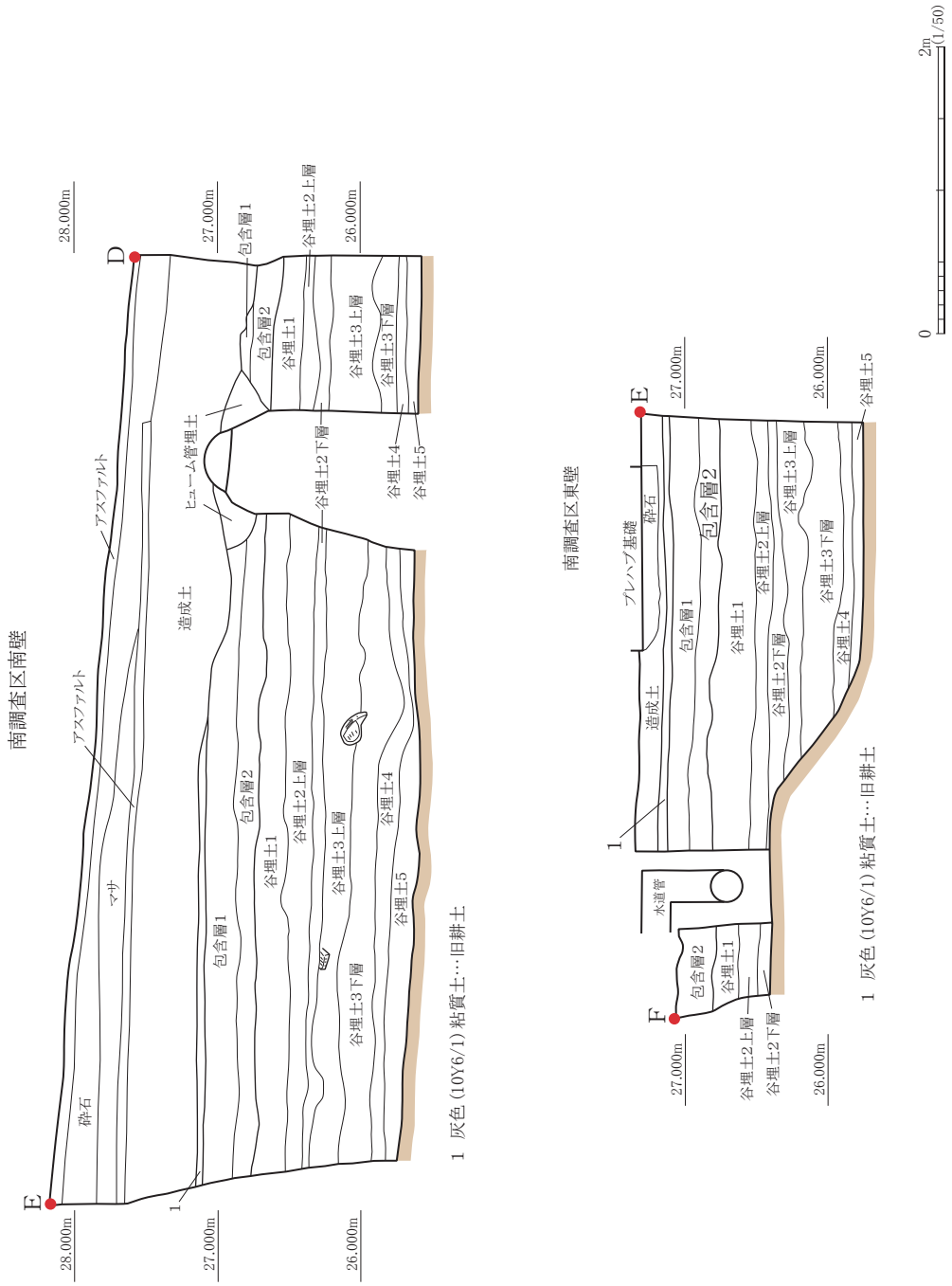


図8 南調査区土層断面図

平成20年度の調査成果と合わせ谷筋の景観変化をたどると、以下の5期に大別可能と考える。

Ⅰ期：谷筋整備期

谷最深部が整った逆台形状を呈することから、自然の谷筋に掘削を伴う整備が施されたと推定される。急傾斜をもって南西尾根に上がる左岸には護岸杭列が設けられる。自然堆積物は除去し続けたようで谷筋は水流があり、最深部への廃棄物投棄は行われない（谷埋土5堆積時期）。官衙域の南西限を区画するための整備と考えられる。

Ⅱ期：谷筋埋没開始期

下流域が埋没を開始したのか水流が停滞をはじめ、堆積物の除去を行わなくなり、有機物（木の葉など）の顕著な堆積が見られる。この時期まで積極的な廃棄物の投棄は行われず、包含される土器、木製品とも極めて少量である。（谷埋土4・3下層堆積時期）。

Ⅲ期：谷筋最深部埋没時期

谷筋に水流がなくなり、淀みのような状態となる。廃棄物の投棄場所となり、大量の土器類が投げ込まれるが、主体は8世紀以前のものである。9世紀以降の土器もわずかではあるが存在する。脆弱な土質であることから、上位からの沈み込みも考えるべきかも知れない。都城系土師器は含まれるが、緑釉陶器は含まれない。廃材や端材、先端が焦げた棒などの木製品が大量に投棄されており、周辺に木工を行う施設が存在した可能性が高い。この時期をもって谷筋最深部はほぼ埋没を終える（谷埋土3上層堆積時期）

Ⅳ期：谷左岸緩傾斜地埋没時期

谷左岸の緩傾斜地に大量の廃棄物が投棄もしくは流れ込む。包含される土器類に、緑釉陶器や円盤高台、底部糸切りが確認されるようになる。この時期まで木製品の大量投棄が行われる（谷埋土2下層堆積時期）。

Ⅴ期：谷筋の平坦化時期

堆積層中に遺物は含まれるが、小片が主体となり、高所からの流れ込みによる二次堆積状況を示す。わずかではあるが中世土師器、瓦質土器を含む。木製品は少数となる。この時期をもって尾根筋と谷筋が平坦化する（谷埋土2上層・1堆積時期）。

そのほか検出した遺構は、谷埋土2下層の堆積と同時に埋まったもの（SX1、SK2、SD1、Pit1～3、Pit10）と、それ以前に埋まっていたもの（Pit4～9）、北調査区東部の遺構（SK1、Pit11）の3種に大別することが可能である（表4）。

性格不明土壙状遺構（SX1）と溝（SD1）（図10）

ともに北調査区の西部、谷筋右岸の緩傾斜地で検出された遺構で、SD1はSX1に接続する。

SX1は長軸228㎝×短軸181㎝の隅丸方形土壙状遺構で、長軸を谷筋

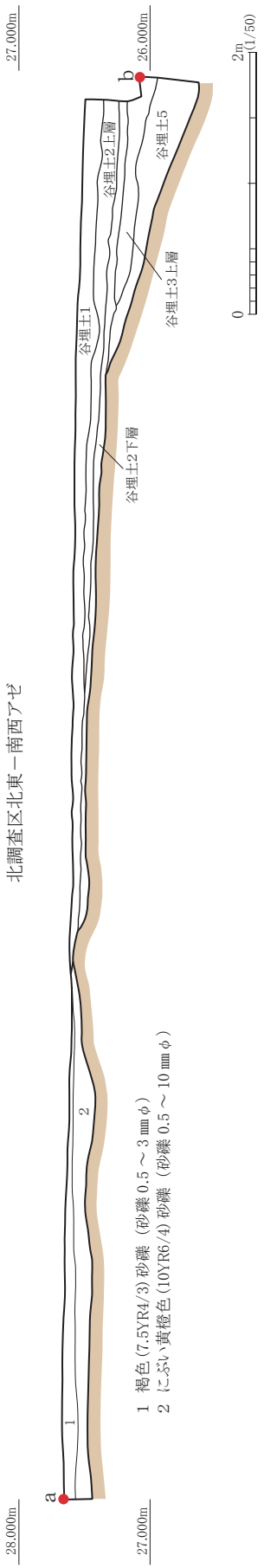


図9 北調査区アゼ土層断面図

写真 34　重機掘削（東から）

写真 35　遺物包含層検出状況（東から）

写真 36　遺物包含層掘削（東から）

写真 37　遺構検出作業（北西から）

写真 38　遺構面検出状況（東から）

写真 39　南調査区木製品出土状況（南から）

写真 40　作業風景（東から）

写真 41　SX1遺物出土状況（東から）

写真 42　SX1遺物出土状況（北から）

写真 43　SD1完掘状況（北西から）

写真 44　南調査区完掘状況（西から）

写真 45　南調査区南壁土層断面（北から）

写真 46　南調査区東壁土層断面（西から）

写真 47　北調査区西壁土層断面（東から）

写真 48　北調査区南壁土層断面（北から）

写真 49　北調査区東壁土層断面（北西から）

写真 50　北調査区北壁土層断面（南東から）

写真 51　北調査区アゼ土層断面（北西から）

写真 52　完掘状況（東から）

写真 53　完掘状況（東から）

方向である南東－北西方向に向けている。遺構北東側からの深さは40㎝を測る。

SX1の西側に接続しているの溝がSD1である。接続部分でやや不整形となっているが、幅80～138㎝、深さ約10㎝で、SX1の主軸方向同様、谷筋方向に沿い南東－北西方向に走っている。北西端部は棚田の暗渠により破壊されており、残存長は約6mを測る。溝底面はわずかに北西方向に降っているが、地形に沿う程度の高低差である。

両者の埋土からは墨書須恵器高坏をはじめ須恵器坏蓋転用硯などの土器類と木製品が出土している（496～504、905～907）が、前述の通り、SX1およびSD1は谷埋土2下層の堆積過程で埋没していることから、厳密には遺構に伴う遺物として認定しがたい。

SK1

SK1は北調査区東部の調査区北壁沿いに検出された土壙で、隅丸長方形を呈しているが、遺構の北側は調査区外へ抜けている。長さ126㎝以上、幅90㎝、深さ8㎝を測る。埋土から須恵器5点が出土しているが、図化不能の小片であり、所属時期も不明である。

SK2

SK2は北調査区の西側、SD1の北側に位置する平面楕円形状の土壙である。長軸を南北方向に向けており、長軸167㎝、幅100㎝、深さ18㎝を測る。SD1同様に谷埋土2下層の堆積過程で埋没しており、埋土に須恵器高坏（495）などを含むが、遺構に伴う遺物として認定しがたい。

Pit1～11

Pitは北調査区中央付近に集中して検出されているものの、明確な並びを見せない。深さも4～10㎝程度と浅いものが多い。平面規模40㎝を越えるPitはいずれも谷埋土2下層の堆積過程で埋没しており、Pit10からはほぼ完存の須恵器坏（494）が出土している。

【註】

1）横山成己（2016）「図書館改修工事及び環境整備（図書館周辺道路迂回）工事に伴う本発掘調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成24年度－』，山口

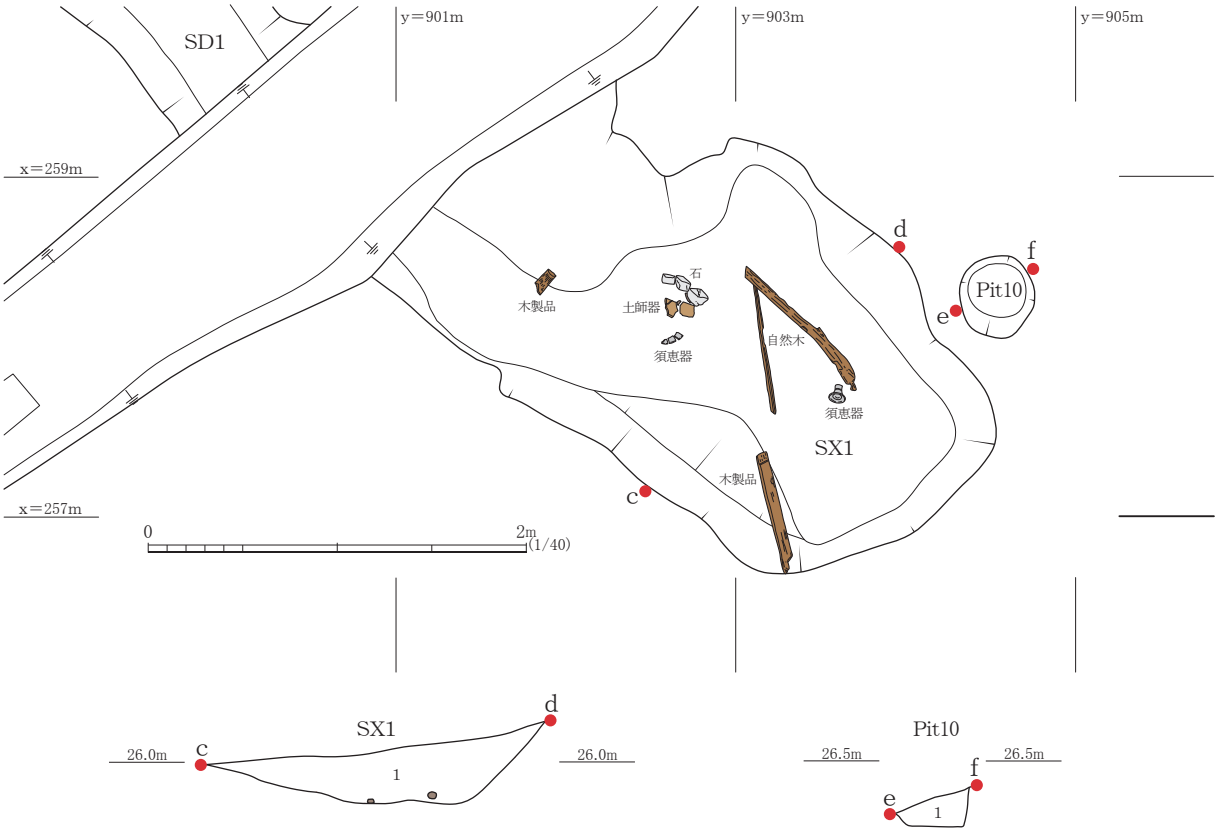
（5）遺物（図11～39、写真54～75、表5～9）

谷埋土の遺物取り上げについて

谷埋土の遺物取り上げに際しては、地区分けを行っている。観察表に「南区」とあるのは、南調査区を指す。「西区」とあるのは、北調査区西側ヒューム管以西の範囲を示し、「西端部」とあるのは西区の調査区西壁付近での取り上げである。「中区」は北調査区西側ヒューム管以東で北調査区中央東寄りの枡から南方に延びるヒューム管までの範囲を示し、東区はその枡－ヒューム管以東の飛び地部分を示す。主に谷埋土2下層以下において、地点的な遺物の傾向が看取されるか検討するための地区分けであったが、詳細な検討を行えず本書刊行に至った。今後の検討課題としたい。

なお、遺物出土標高の記録に関しては、開発着工時期が変更不能であり調査期間が限定されること、包含される遺物量が土器、木製品とも膨大であることを理由に断念した。

以下に出土遺物の報告を行うが、土器の須恵器と土師器の区別について触れておく。吉田遺跡出土の古代須恵器は燃焼不良品が多く、土師器との区分が困難なものが多い。焼き歪みが著しいものも多く、官衙への供給を疑わせる状態であるが、胎土を基準として、須恵器胎土のものは須恵器として報告し、観察表に「土師質」と注記した。逆に胎土的に土師器であるが、須恵器と形態や成形技法を同一にしているものは観察表に「須恵器模倣」と注記している。



1　黒褐色（10YR3/1）弱粘質土に 0.5 ～ 10 ㎜φの礫が多量に混ざる…谷埋土2下層の流入

図 10　SX1・Pit10 平面図・断面図

表4　遺構観察表

種類	遺構番号	平面形態	平面規模（㎝）	深さ（㎝）	埋土	出土遺物	備考
性格不明遺構	SX1	隅丸長方形	228×181	44	谷埋土2下層流入	須恵器（高坏など） 土師器（甕など） 木製品	南西端にSD1が接続
土壙	SK1	隅丸長方形	126＋×90	8	灰黄色(2.5Y6/2)弱粘質土	須恵器	北は調査区外へ
	SK2	楕円形	167×100	18	谷埋土2下層流入	須恵器	
溝	SD1	直線	592＋×138	26	谷埋土2下層流入	須恵器（墨書高坏など） 土師器	SX1に接続 西は調査区外へ
ピット	Pit1	楕円形	52×37	6	谷埋土2下層流入	須恵器　土師器	
	Pit2	楕円形	70×54	6	谷埋土2下層流入	須恵器	
	Pit3	楕円形	45×34	6	谷埋土2下層流入		Pit8を切る
	Pit4	円形	径25	14	黄灰色(2.5Y6/1)強粘質土		
	Pit5	円形	径17	12	黄灰色(2.5Y6/1)強粘質土		
	Pit6	隅丸長方形	54×44	6	褐灰色(10YR5/1)強粘質土	須恵器	
	Pit7	円形	径18	10	褐灰色(10YR5/1)強粘質土		
	Pit8	円形	径22	4	褐灰色(10YR5/1)強粘質土		Pit2に切られる
	Pit9	円形	径49	12	黄灰色(2.5Y6/1)強粘質土	須恵器	マス掘り方で破壊
	Pit10	円形	44×40	21	谷埋土2下層流入	須恵器坏	
	Pit11	円形	14×12	4	灰黄色(2.5Y6/2)弱粘質土		

谷埋土４出土土器（図11、写真54、表５）

図写真が多いことから、文章中の註が大きく乖離してしまうことを防ぐため、出土層など一定のまとまり毎に註を付すことにする。

当層からは小破片を含めても須恵器１点の出土を見るのみである。**1**は坏蓋であるが、復元口径19.0㎝の大型品であり、後述するが高台付皿の蓋である可能性が高い。扁平で低いドーム状の天井部から内湾して口縁が降下する。天井部外面中央に直線３本による鳥足文状のヘラ記号（以降「鳥足ヘラ記号」と記述）が施される。ヘラは解放側から集束側に引かれており、左線→右線→中央線の順に引かれている。当記号を有する土器は、当調査でも複数出土しており、周辺における既往調査でも出土している[註1]ことから注意が必要である。

【註】

1）総合研究棟新営に伴う発掘調査区から2点（Fig18-59、Fig19-72）出土している（田畑2017）。一部欠失するが動物医療センター改修Ⅰ期工事に伴う本発掘調査区から出土している資料（YD2006-2-91）も鳥足ヘラ記号と見られる（横山2010）。

田畑直彦（2017）「吉田構内総合研究棟新営に伴う発掘調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報ＸＸ』，山口

横山成己（2010）「農学部附属家畜病院改修Ⅰ期工事に伴う予備発掘調査・本発掘調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成18年度－』，山口

谷埋土３下層出土土器（図11、写真54、表５）

小破片を含めても少量で、図示可能資料は３点である。**2**は時期違いの資料で、６世紀初頭～前半の須恵器坏蓋。当資料の由来地に関しては、谷筋を挟んだ南西の尾根上（現：牧草地）より、６世紀前半頃の円筒埴輪片が採取されている[註1]ことや、碧玉製勾玉（現：山口市歴史民俗資料館所蔵）が採取されていること、同地にて馬小屋建築中に結晶片岩の板石が掘り出されていること[註2]などに注目したい。この尾根における既往調査成果[註3]を見ると、古墳時代後期に集落が展開する可能性は低いことから、古墳の破壊は比較的早い時期であった可能性がある。**3**・**4**は土師器甕。

【註】

1）吉田寛（1985）「吉田遺跡採取の円筒埴輪について」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅳ』，山口

2）小野忠熙（1976）『山口大学構内　吉田遺跡発掘調査概報』，山口

3）横山成己（2007）「吉田遺跡第Ⅱ地区の調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成17年度－』，山口

谷埋土３上層出土土器（図12～16、写真54～58、表５）

前述したが、この層が形成される時期から谷最深部への廃棄物投棄が始まる。

5～**23**は須恵器坏蓋。**5**は１同様に高台付皿の蓋である可能性が高く、同様に天井部外面中央に鳥足ヘラ記号が施される。１に比して天井部がやや盛り上がったドーム状を呈しており、口縁部はやや外方に開く。口径18.6㎝を測る。**6**も５と同様の器形であるが、口縁がさらに外方に開き、天井が低い。復元口径19.4㎝を測る。完存しないが天井部のヘラ記号は鳥足ヘラ記号と見て良いだろう。５・６ともにやや土師質で、鳥足ヘラ記号を施す須恵器は焼成不良品が多いことも特徴と言える。**7**・**8**は扁平なつまみを有する坏蓋であり、天井部外面に高台が溶着した痕跡を残す。高台付坏を蓋間にまたがせた状態で焼成したのであろう。坏蓋に関しては、破片資料（**15**～**23**）を見ても、天井部から内湾して口縁が降下するものが多く、「く」の字状に外方に屈曲させ口縁端部を下垂させるもの（**23**）は少数である。一方で９世紀

後半以降に比定される扁平な蓋（11・12）も存在する。

24～37は須恵器高台付坏。24・25は底部外面に、26は底部内面に墨が見られる。高台の形状を見ると、長く外方に張り出す高台が底部外端より内側に付くもの（24・25・27～30）が主体であるものの、体部外端付近に断面方形または三角形を呈する小ぶりな高台が付くもの（32～37）も見られる。

38～45は須恵器坏。丸底に近い底部から内湾気味に体部が立ち上がるもの（39～41）と平底から直線的に外方に体部が開き立ち上がるもの（38・42～44）がある。38は土師質焼成であるが墨書が見られ、体部外面に横位に2文字が書かれている。2字目は「殿」であり、1字目は完存しないが「少」と読めるようである。[註1]「少殿」は郡司四等官の次官である「少（領）殿」を示している可能性があり、注目される。45の底部内面には1条の直線ヘラ記号が残る。

46～57は須恵器坏口縁部片。直線的またはやや内湾気味に上方に立ち上がるもの（46～52）、やや外反気味に外方に大きく開くもの（53～56）、内湾気味に外方に大きく開くもの（57）がある。このうち50には外面に墨書が見られ、正位か倒位か判然としないものの「十」の上または下に2点が打たれているように見える。

58～60は須恵器椀口縁部の可能性がある破片である。

61～64は須恵器皿。高台付の61は坏部高に比して口径が大きく、ここでは皿とした。ほぼ完存している個体で、口径は15.4㎝を測る。筆者はこの器形の皿と鳥足ヘラ記号を有する須恵器蓋（1・5・6）がセット関係にあると考えている。63は器種の判別に苦しむが、皿であれば時期は大きく降るが「て」字状口縁の影響下にあるのかも知れない。

65～75は須恵器高坏。吉田遺跡では脚部が裾に向け大きく広がり端部を下垂させるタイプが多く、74のように裾部が広がらない器形は稀少で、脚部の沈線は中位からやや上位に廻るものが主体であるが当資料はやや下位に廻る。沈線が廻らないもの（67・75）は量的に少ない。坏部は底部から内湾して立ち上がるもの（65・67）と直線的に外方に開く（66）2種に大別されるが前者が主体となっている。76～81は須恵器高坏口縁部片と見なされる。

82～89は土師器高台付坏および土師器坏と高坏。当層は土師器の包含量が少ないことも特徴の一つとなっている。高台付坏82は須恵器模倣と見られ、口縁部外面に重ね焼きが行われた痕跡が残る。88の口縁部片の外面にも同様の痕跡が残っている。高台付坏84の底部外面には直線2条が「V」字状に刻まれるヘラ記号が見られる。89は土師器高坏の坏底－脚部片。須恵器高坏の焼成不良品は数多く出土するが、稀少な資料である。

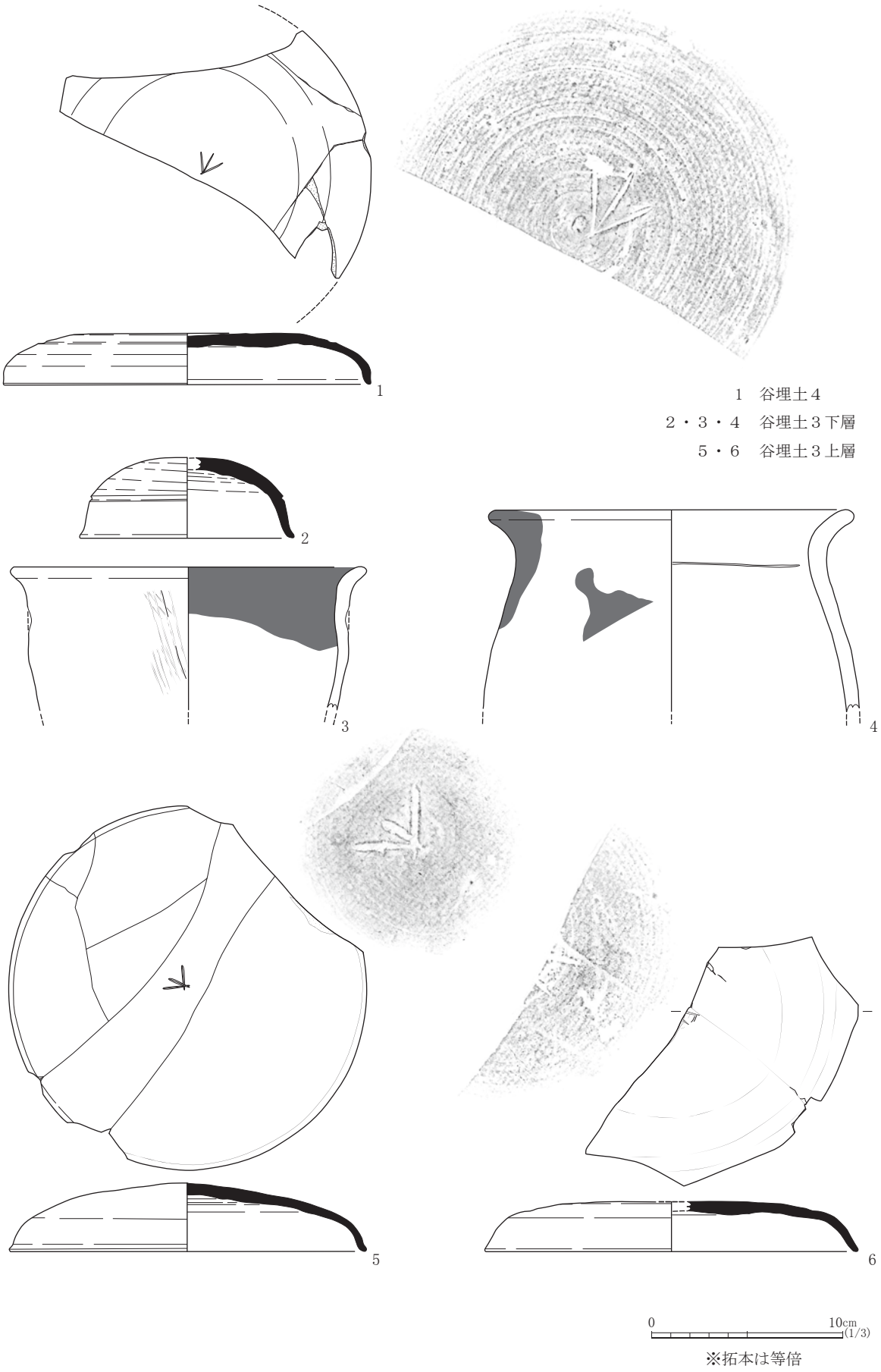
90～97は都城系土師器の坏・皿である。小片資料が多いが、密にミガキを施すものや暗文を明瞭に残すものが多い。94は底部外面に鱗状の墨画が見られる。

98～109は須恵器の壺甕類。量的に少ないように見えるが、体部小片は相当数出土している。101は横瓶の体部片で、同一個体と見られる接合しない破片が他にも存在する。叩きと当て具痕に熟練度がうかがわれ、閉塞円盤内面に布目を明瞭に残している。102は外面にカキ目と呼ぶより幅太の板目が密に廻らされており、内面は丁寧な横ナデが施されている。叩き痕や当て具痕は観察できない。須恵器甑の可能性があるが、須恵器甑とすると吉田遺跡で初の確認となる。

110～116は土師器甕。114の口縁内面には「V」字状のヘラ記号が見られる。116の体部外面には火だすき状に橙色化した痕跡が見られる。焼成時に燃料の藁が影響したのであろうか。

【註】

1）平成27年12月5・6日開催の木簡学会研究集会で奈良文化財研究所都城発掘調査部資料研究室諸氏にご指摘いただいた。



1　谷埋土４
２・３・４　谷埋土３下層
５・６　谷埋土３上層

※拓本は等倍

図 11　谷埋土4・3下層・3上層出土土器実測図①

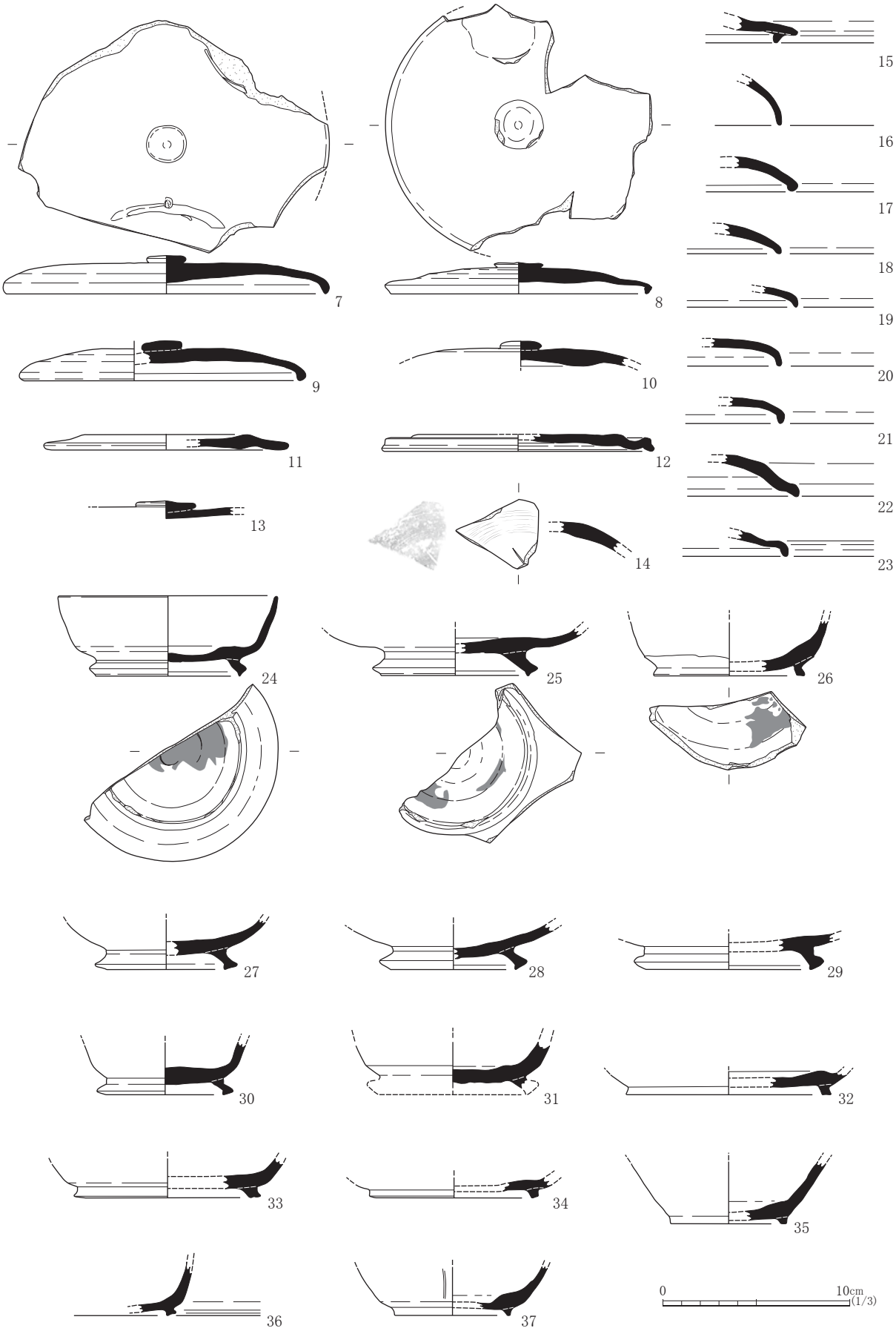


図 12　谷埋土3上層出土土器実測図②

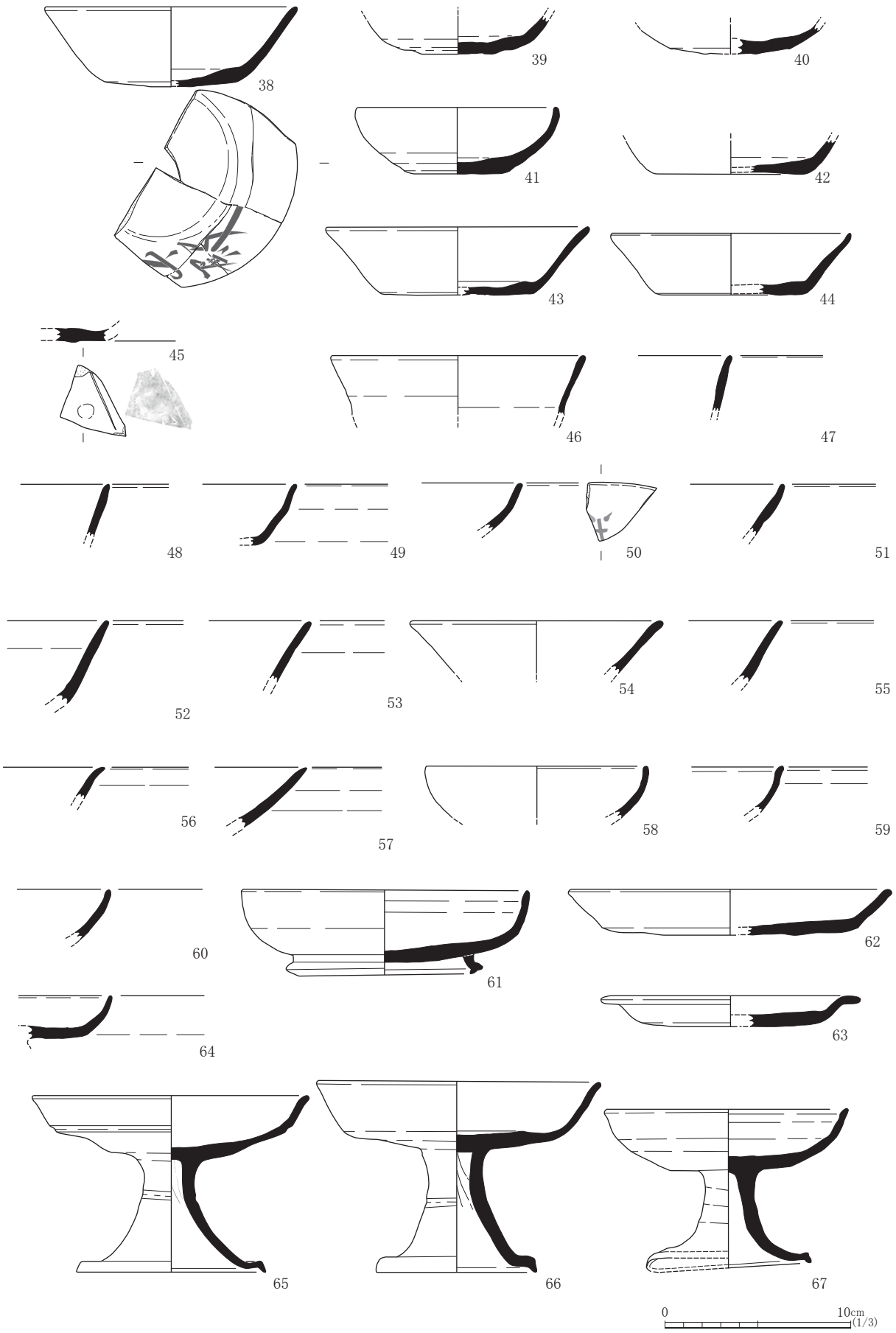


図 13　谷埋土3上層出土土器実測図③

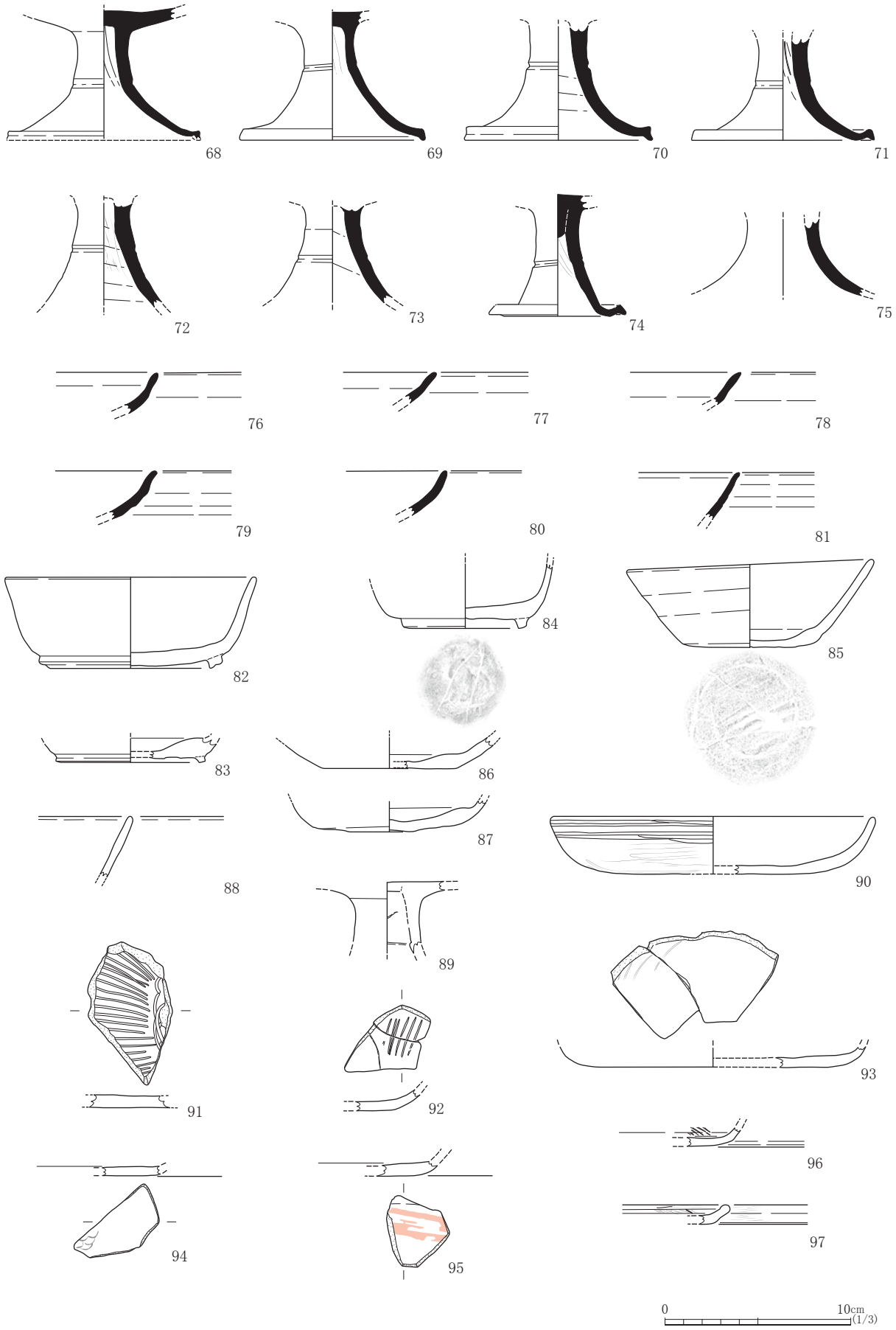


図 14　谷埋土3上層出土土器実測図④

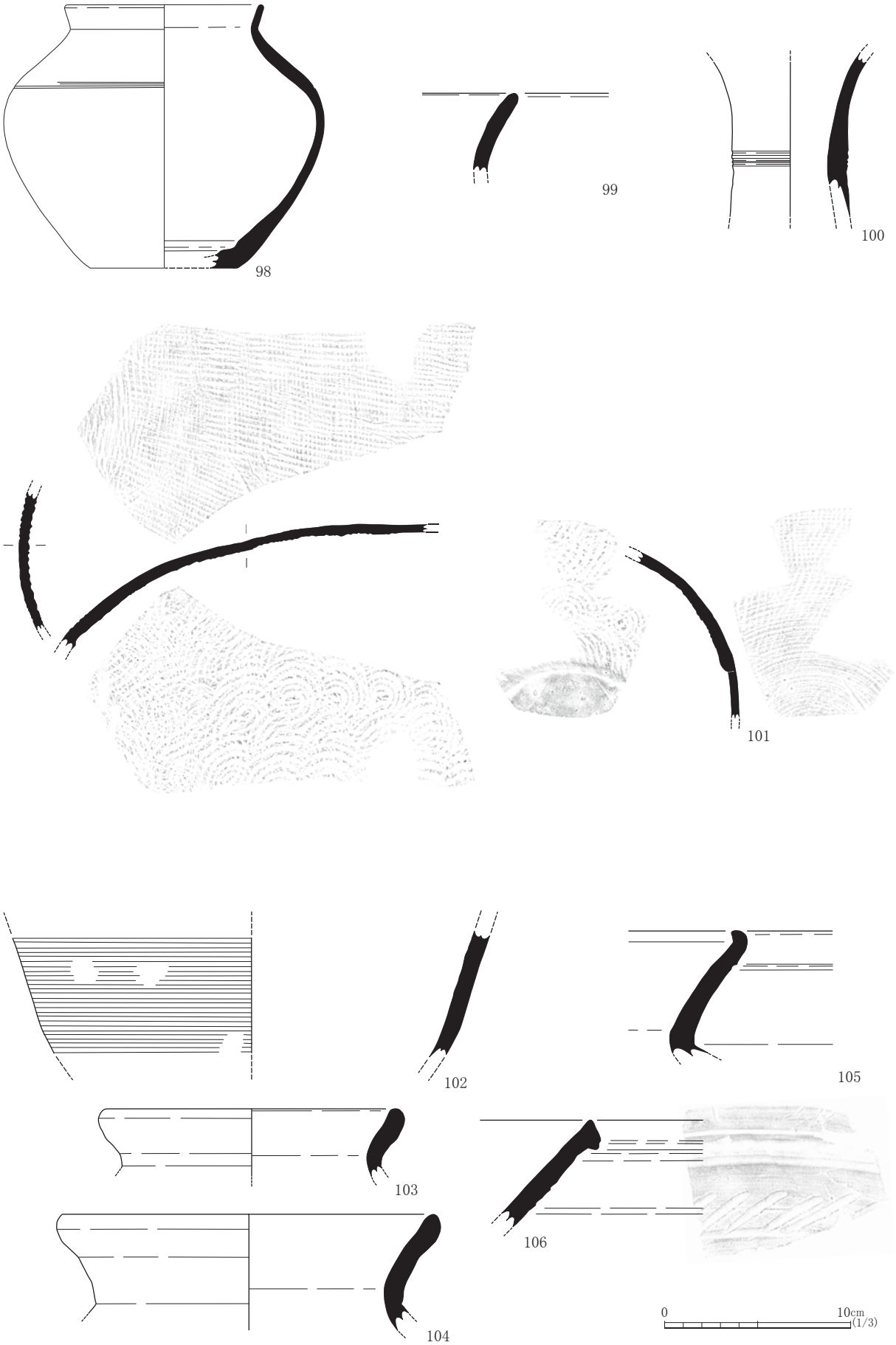


図 15　谷埋土3上層出土土器実測図⑤

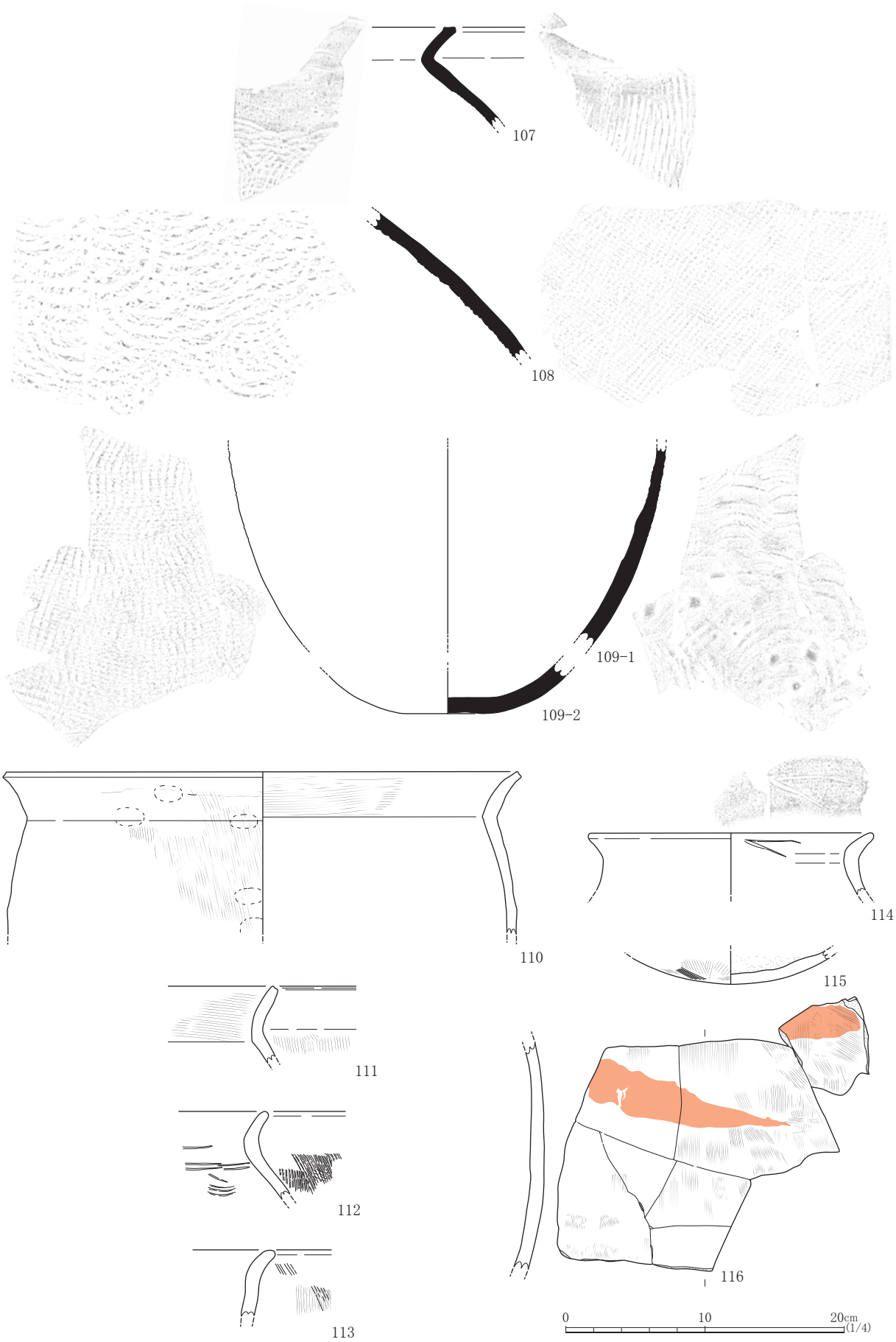


図 16　谷埋土3上層出土土器実測図⑥

谷埋土２下層出土土器（図17～21、写真58～63、表5）

この層より堆積が谷左岸緩傾斜部まで及ぶようになる。

117～140は須恵器坏蓋。117は身の可能性もあるがここでは蓋とした。当層でも、天井部から内湾して口縁が下降する資料（119・120・135～138）が見られるが、「く」の字状に外方に屈曲させ口縁端部を下垂させるもの（121～126・139・140）が量的に増えている。また、輪状つまみを有する蓋132も当層にて確認される。

141～164は須恵器高台付坏。142・143は底部外面の中央付近に墨が付く。谷埋土3上層と同様に長く外方に張り出す高台が底部外端より内側に付くもの（141・145・146・147）が見られるものの、幅太で短く、内外端を肥厚させる高台が底部外端よりやや内側に付くもの（142～144・148～150・161・162）が一定量を占めている。142・155は底部外面にヘラ記号が見られる。157の高台内側に付くヘラ工具による掻痕は、高台貼り付け時の作業痕であろうか。

165～176は須恵器坏で177～187は坏口縁部片。丸底気味の底部から内湾気味に体部が立ち上がる個体は減少し、平底から直線的に体部が外方に開き立ち上がるものの占める割合が高まる。

188～192は須恵器皿。188は焼成不良の高台付皿で、復元口径16.5㎝を測る。注目されるのは底部外面の墨書である。底部中央から外れた位置に、鳥足状記号が墨により書かれており、書き方、書き順もヘラ記号と同一となっている。総合研究棟新営調査区から出土した高台付皿の底部外面に施された鳥足ヘラ記号も中央からやや外れた位置にあり、皿の蓋と身とで記号の位置を違えているのかも知れない。189は破片資料であるが高台付皿の口縁部片と見られる。復元口径15.8㎝を測る。190は強く外方に屈曲する口縁部片で、ここでは皿と見なしておく。

193～201は須恵器高坏。202～204は高坏口縁部片と見られる小片資料である。195は吉田遺跡の古代高坏ではあまり見ることのない器形で、脚柱の器壁もやや厚みがあることから、中型の高坏である可能性がある。

205も吉田遺跡で見ることのない器形の須恵器供膳器であり、鉢として報告しておく。

206は脚部片。厚みを有するが、硯の脚部であろうか。207は須恵器坏蓋天井部片に金属が付着した資料である。既往の調査により、官衙にて金属鋳造が行われていたことは確実であることから、金属成分分析を行ったところ、主成分は鉄であった（本書付篇1参照）。

208・209は緑釉陶器。208は高台付近にのみ釉が残る。209は発色の良い釉がしっかり遺存している。

210～234は土師器の供膳器類。谷埋土3上層と同様に、須恵器に比して量が少ない。高台付坏に円盤高台（212・213）が見られるようになる。217の底部外面には回転糸切り痕が残る。230はほぼ完存の皿で、重ね焼かれた状況が看取される。231～234は都城系土師器片。

235～245は須恵器壺甕類。235の直口壺は肩部から口唇部にまで灰を被っており、無蓋状態で焼成されたことが分かる。237は長頸壷の体部片で、同様に肩部外面に多量の灰を被っており、高台が溶着している。他の同一個体と見られる肩部にも高台が溶着していることから、複数の高台付坏が肩部周囲にまたぎ置かれた状態で焼成されたことが分かる。241は特徴から須恵器甑の可能性がある102の口縁部と見ている。242は異形須恵器。復元口径10.4㎝の細い円筒の外面に鍔状の突帯を廻らす。一見山陰型甑形土器にも似るが、胎土や焼成から見ても須恵器で、器面調整は全面回転ナデである。壺口縁とも考えたが、類例を見いだし得なかった。

246～251は土師器甕。口縁端部を上方につまみ上げる249は都城土師器甕の影響を受けている可能性もある。252は土師器小壺口縁部片。実用品とは思われない。

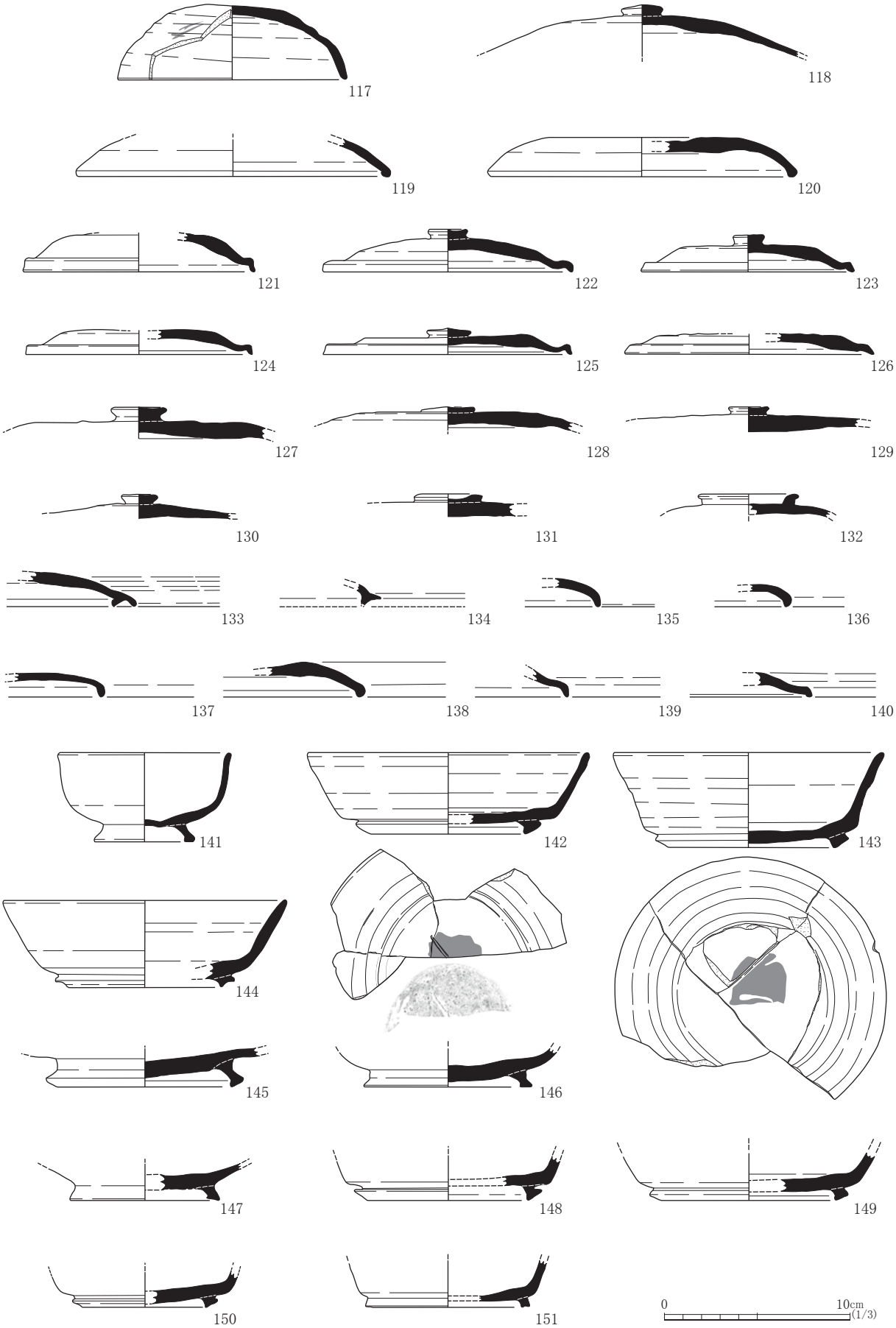


図 17　谷埋土2下層出土土器実測図①

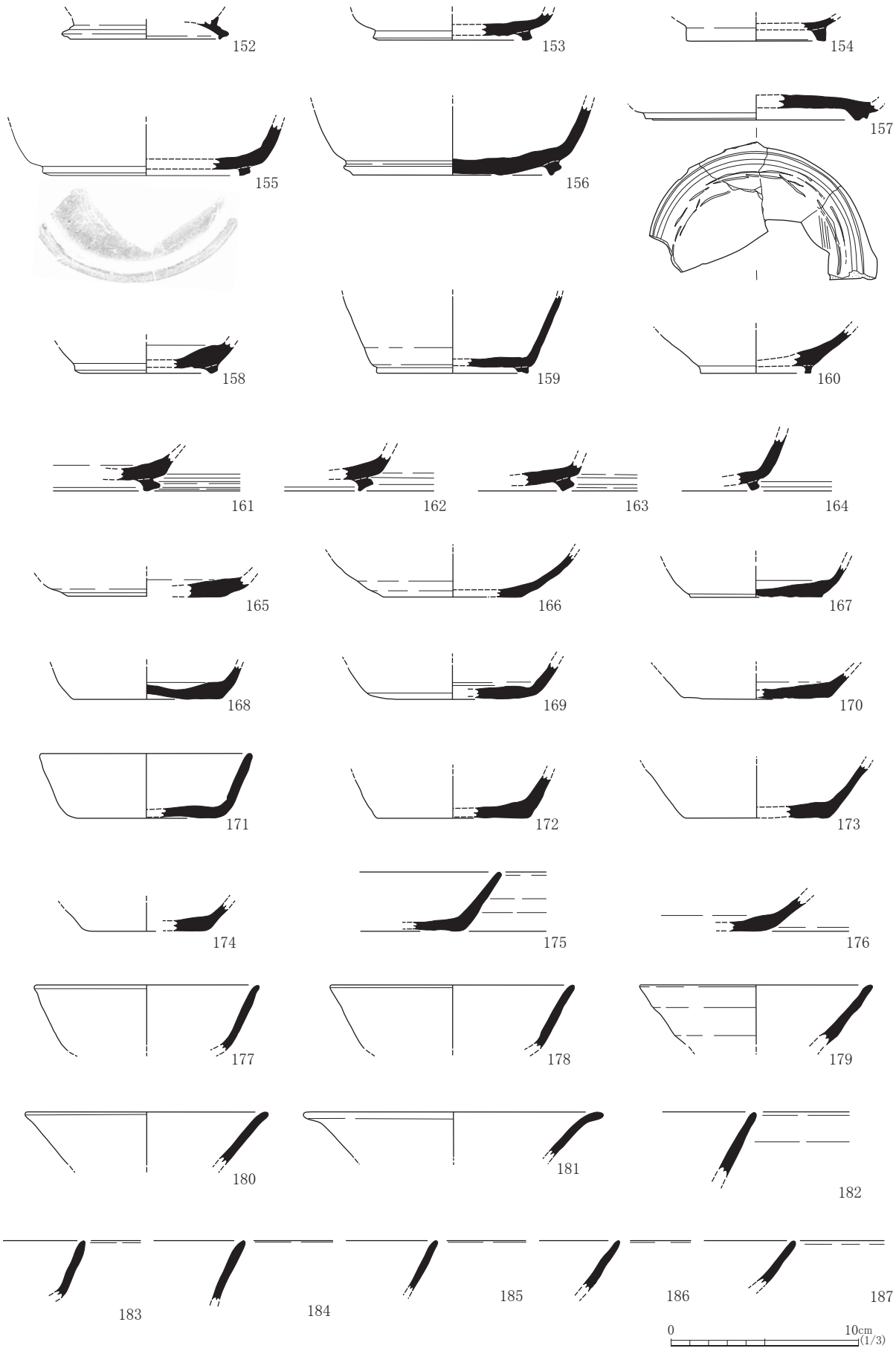


図 18　谷埋土2下層出土土器実測図②

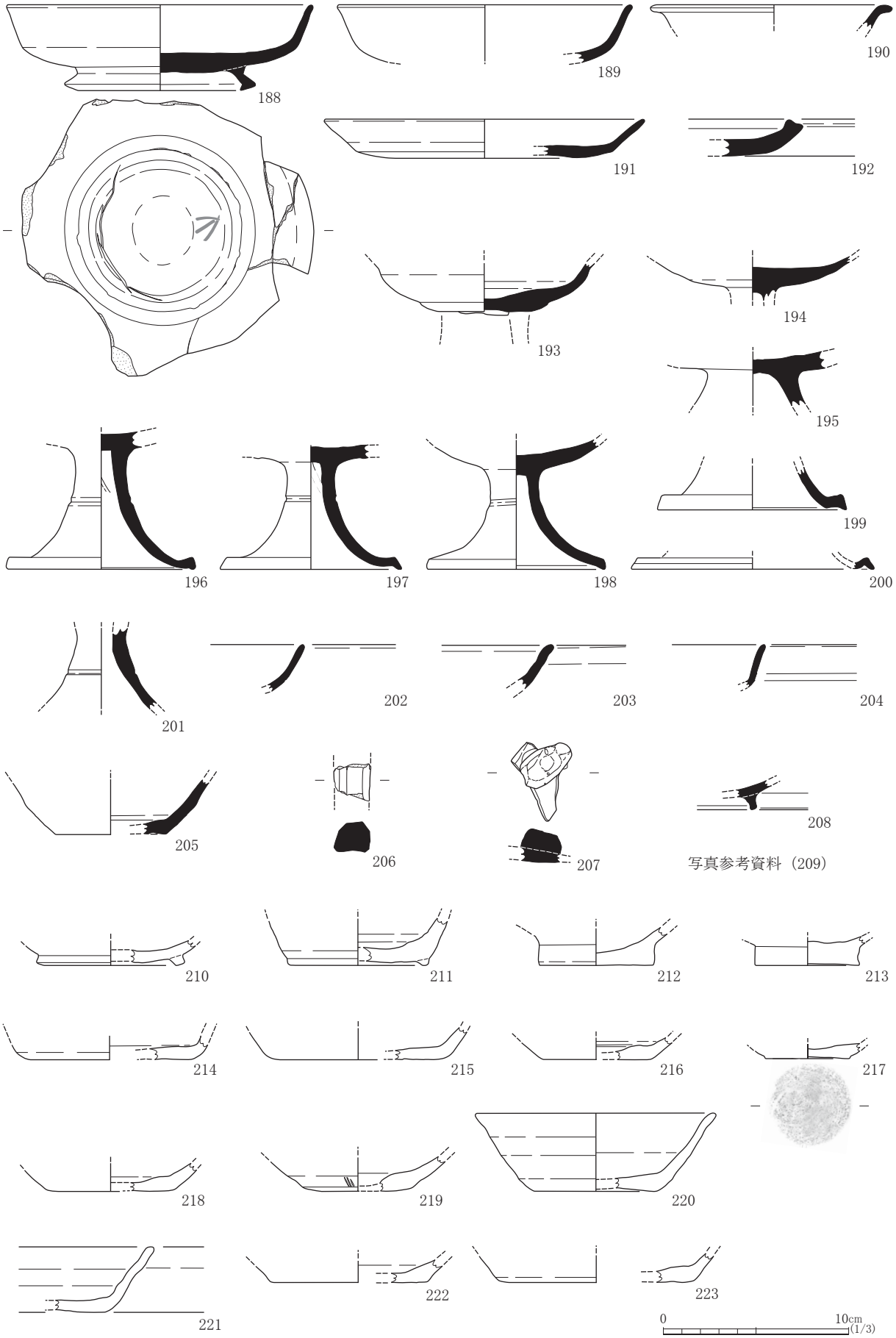


図 19　谷埋土2下層出土土器実測図③

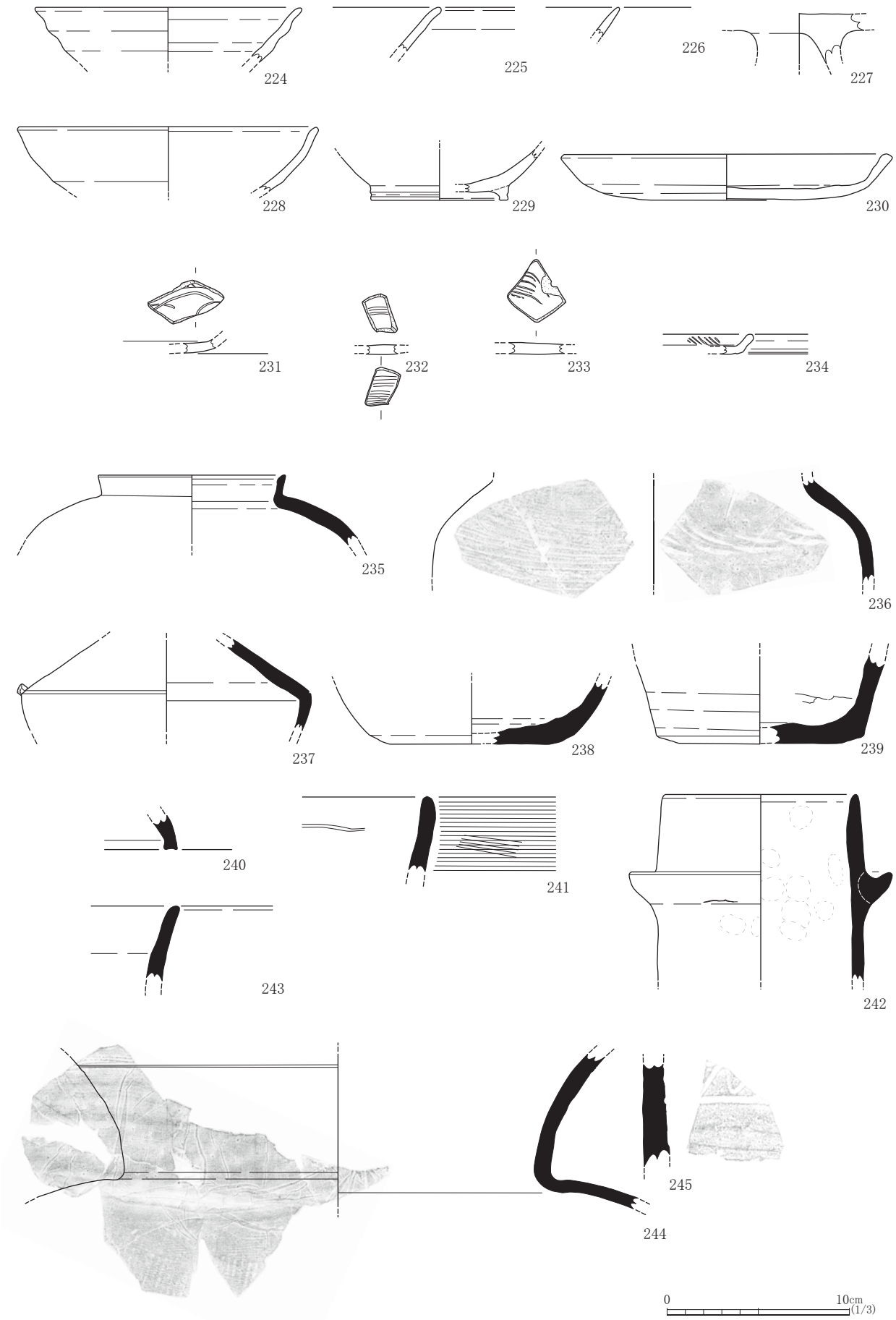


図 20　谷埋土2下層出土土器実測図④

谷埋土２上層出土土器（図22～27、写真63～68、表５）

遺物の小片化が進行しており、遺物包含層状の様相を呈してくる。

253～279は須恵器坏蓋。低い天井部から口縁を外方に伸ばし、口縁端部をわずかに下垂させる260は、天井部外面に墨書が見られるが欠失部が大きく判読できない。内面中央付近にも墨が付いている。そのほか、坏蓋の様相は谷埋土２下層とさほどの相違を示さないが、口縁を外方に伸ばし端部を下垂させないもの（259・279）が新しい要素として見られる。口縁を上に折り返す256は皿の可能性があるものの、天井部の調整状態から蓋と判断した。なお、当層から上位の谷埋土１にかけて、口縁にかえりを有する蓋（253・268～270）が増加傾向にある。これは、尾根の上位に存在した７世紀後半の集落地からの土砂の流入によるものと推定され、当調査区の東方約20m地点で平成18年に実施した動物医療センター改修Ⅰ期工事調査区[註1]での最下層（遺物包含層L6）の様相を反映しているものと思われる。

280～307は須恵器高台付坏。こちらも新古の要素が混ざるが、広い底部に断面方形の小ぶりな高台が付き、体部があまり開かずに立ち上がる法量の大きな個体（295・297・298）が増加する傾向が見られる。

308～339は須恵器坏および坏口縁部片。308の底部外面中央付近には鳥足ヘラ記号が施されているが、高台付皿と異なり記号の入れ方が乱雑で、中央線は集束部に向かわず右線上を突き抜けている。時期差または工人差を示す可能性がある。322は底部内面にヘラ記号が施される。高く立ち上がる338は、上述の法量の大きな坏の口縁部と見られる。

340～345は須恵器皿。340は焼成不良の高台付皿で、口縁は欠失するが口径は18㎝程度となる。底部外面に鳥足ヘラ記号が見られるが、やはり底部中央から外れた位置に施されている。口縁部342は吉田遺跡では稀な器形の高台付皿である。

346～350は須恵器高坏。346は焼成不良品で脚部の器壁が厚く、沈線も巡らせていない。347は坏底と脚部の接着部から折損しており、製作技法が観察できる資料となっている。

251・352は須恵器蓋。353は円面硯の脚部であろう。

354～358は緑釉陶器。355・357は釉薬の状態から同一個体である可能性を残す。359は灰釉陶器の口縁部片。

360～362は土師器蓋。360は口縁にかえりを有しており、須恵器模倣と見られる。361は皿の可能性もあるが、ここでは須恵器模倣蓋と判断した。362は内外面に赤色塗彩が見られる。

363～387は土師器供膳器類。谷埋土２上層では土師器供膳器類が増加する。観察表では多くを高台付坏としたが、椀と皿も混ざる。底部外端に断面長方形または三角形状の長い高台が付くもの（363～366・368～370・372）が多いが、小ぶりな高台（367・371・373・374）も混ざり、円盤高台（375）も見られる。372の底部外面には回転糸切り痕が、382の底部外面にはヘラ記号が見られる。

388・389は屈曲する口縁を有する土師器で、小皿と判断した。390は都城系土師器皿の口縁部片。

391～405は須恵器の壺甕類。394は長頸壷で、頸部付け根に突帯を有する。近隣では鳥取県大山町所在の下市築地ノ峯東通第２遺跡灰原１出土品に類例を見出せるものの、分布的な広がりについて調査できていない。396は平瓶の肩部で、当調査では唯一の平瓶資料である。397は241と同じく須恵器甑口縁部の可能性がある。401の甕口縁部には「Ⅵ」状のヘラ記号が施されている。404-1と404-2は腹部を欠失しているが同一個体の甕と見て良い。

406は土師器甕。口縁まで煤が付着する。407・408は土師器把手。409は六連式製塩土器の口縁部片。410は土師器小壺で、252の体部の可能性がある。

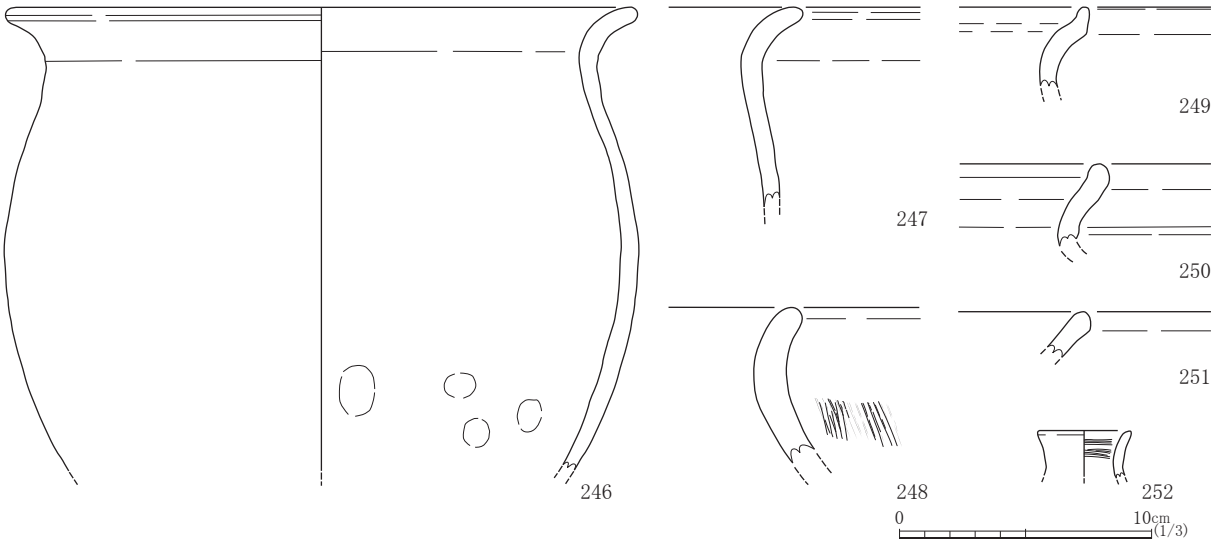


図 21　谷埋土2下層出土土器実測図⑤

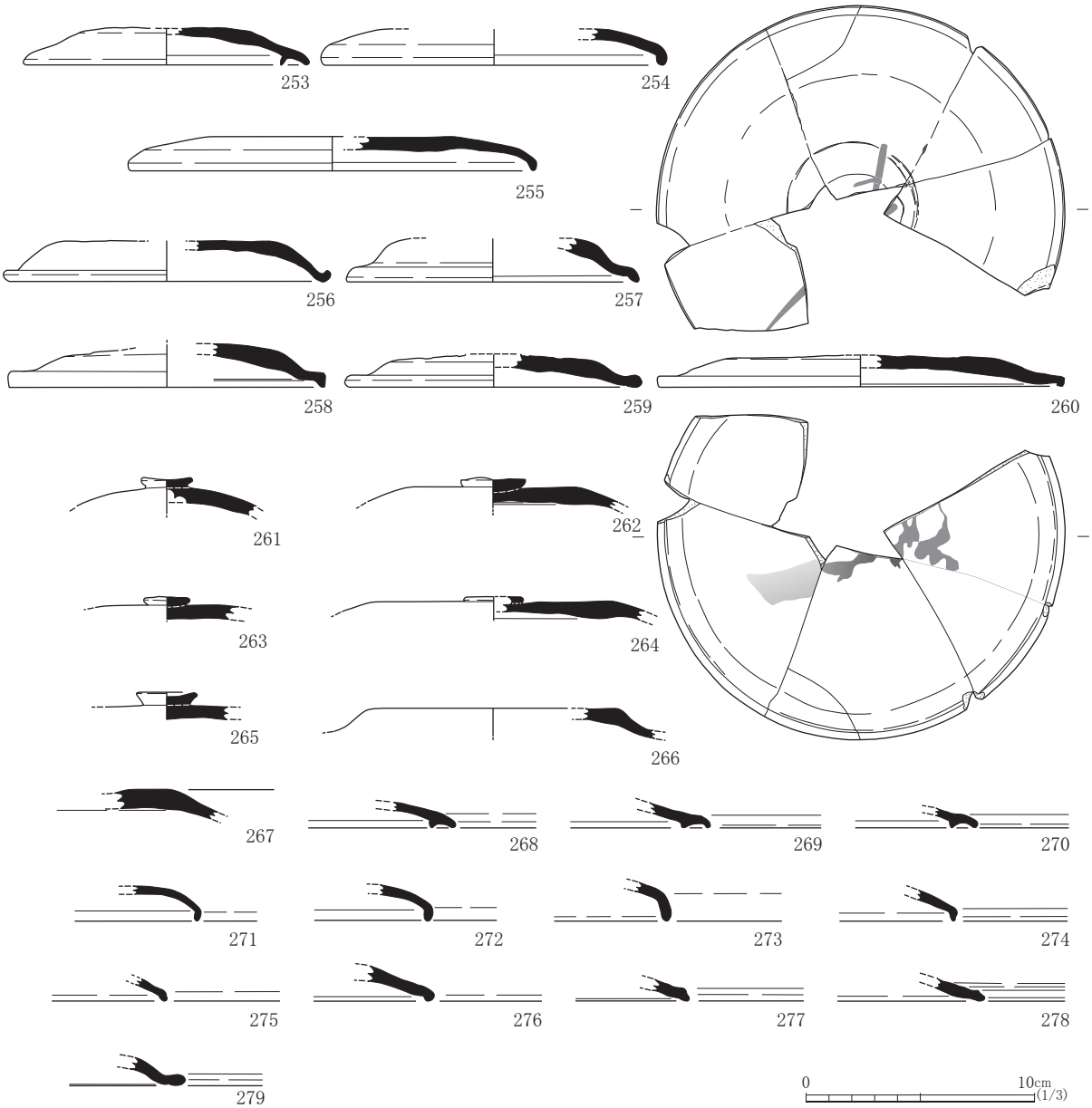


図 22　谷埋土2上層出土土器実測図①

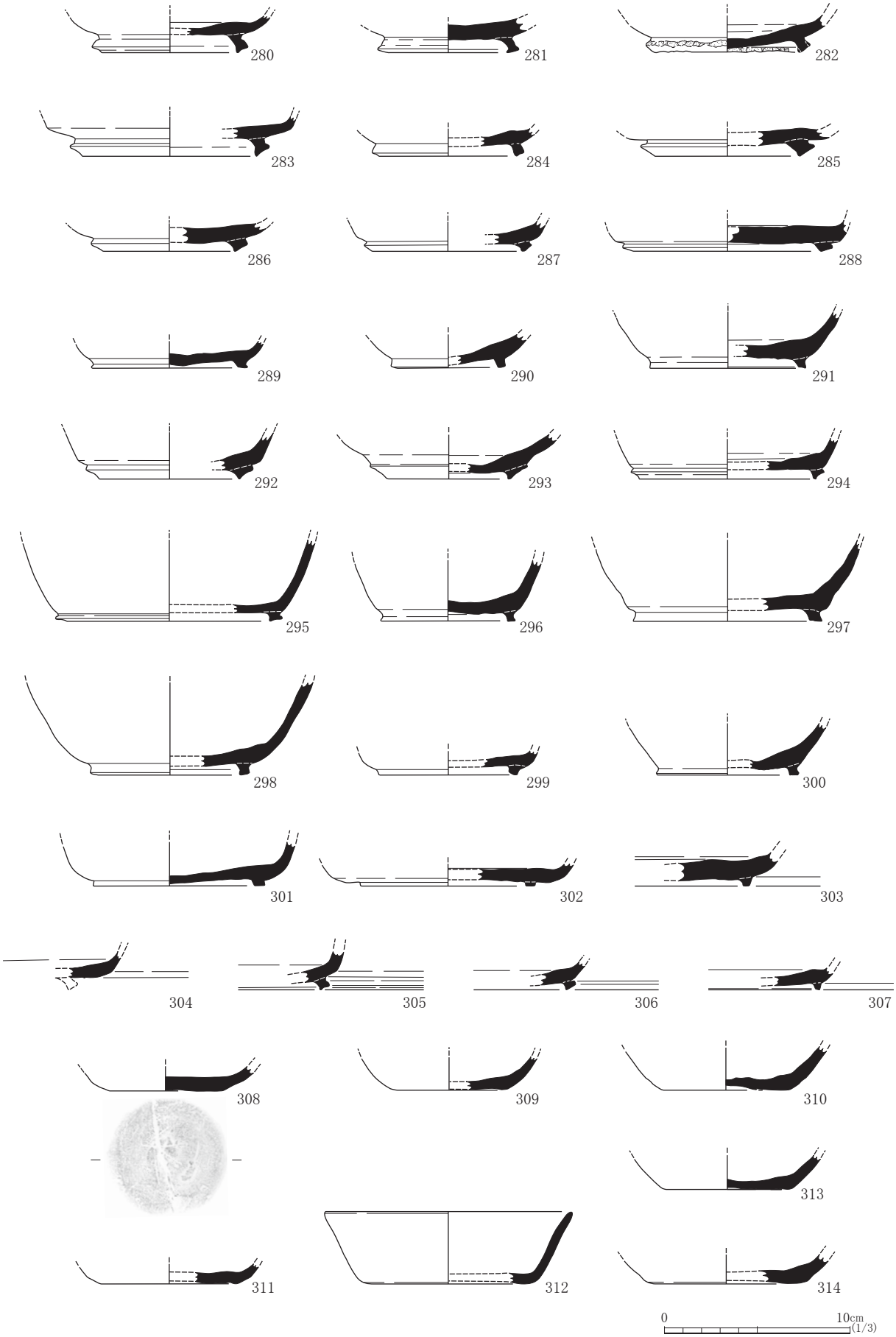


図 23　谷埋土2上層出土土器実測図②

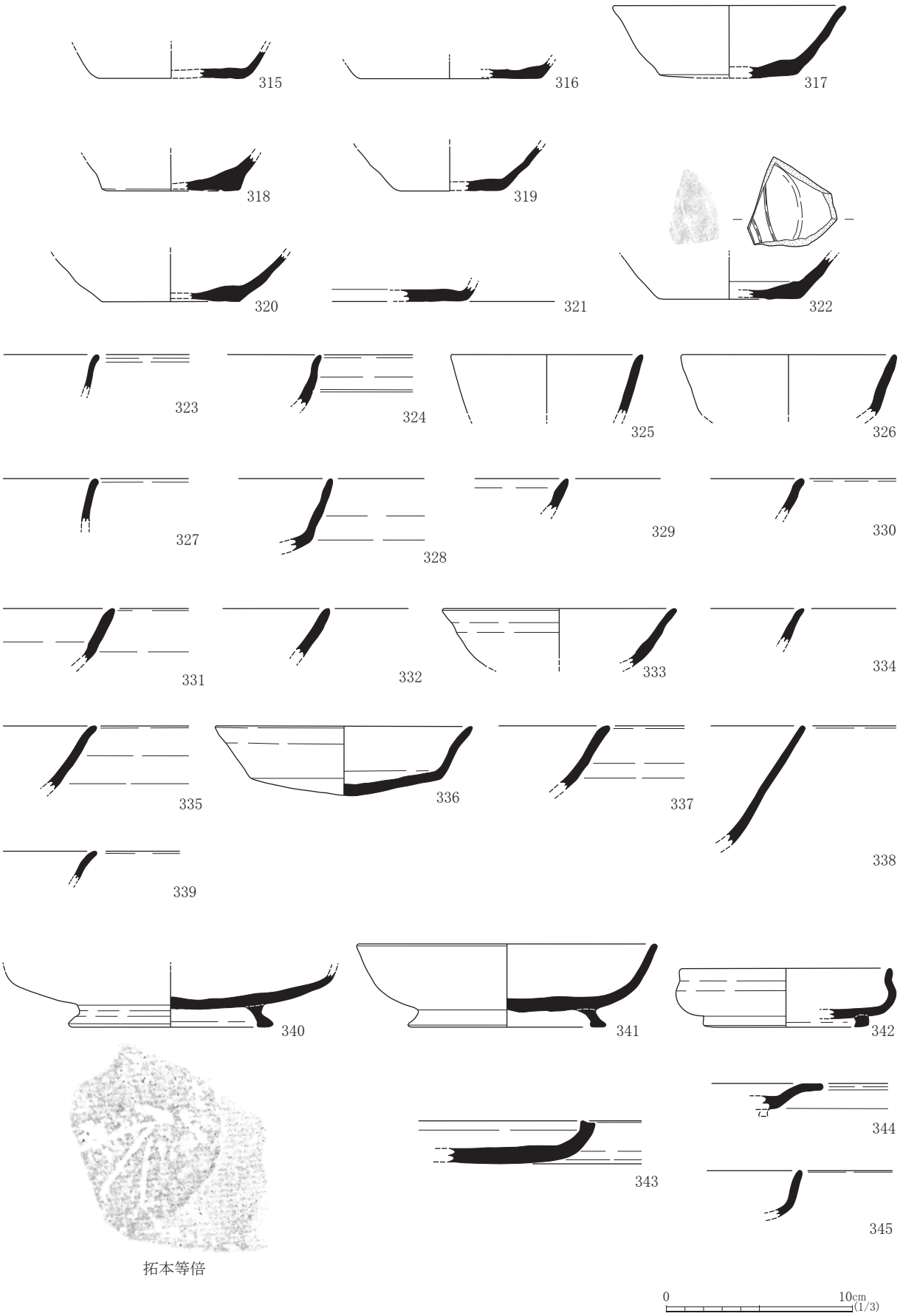


図 24　谷埋土2上層出土土器実測図③

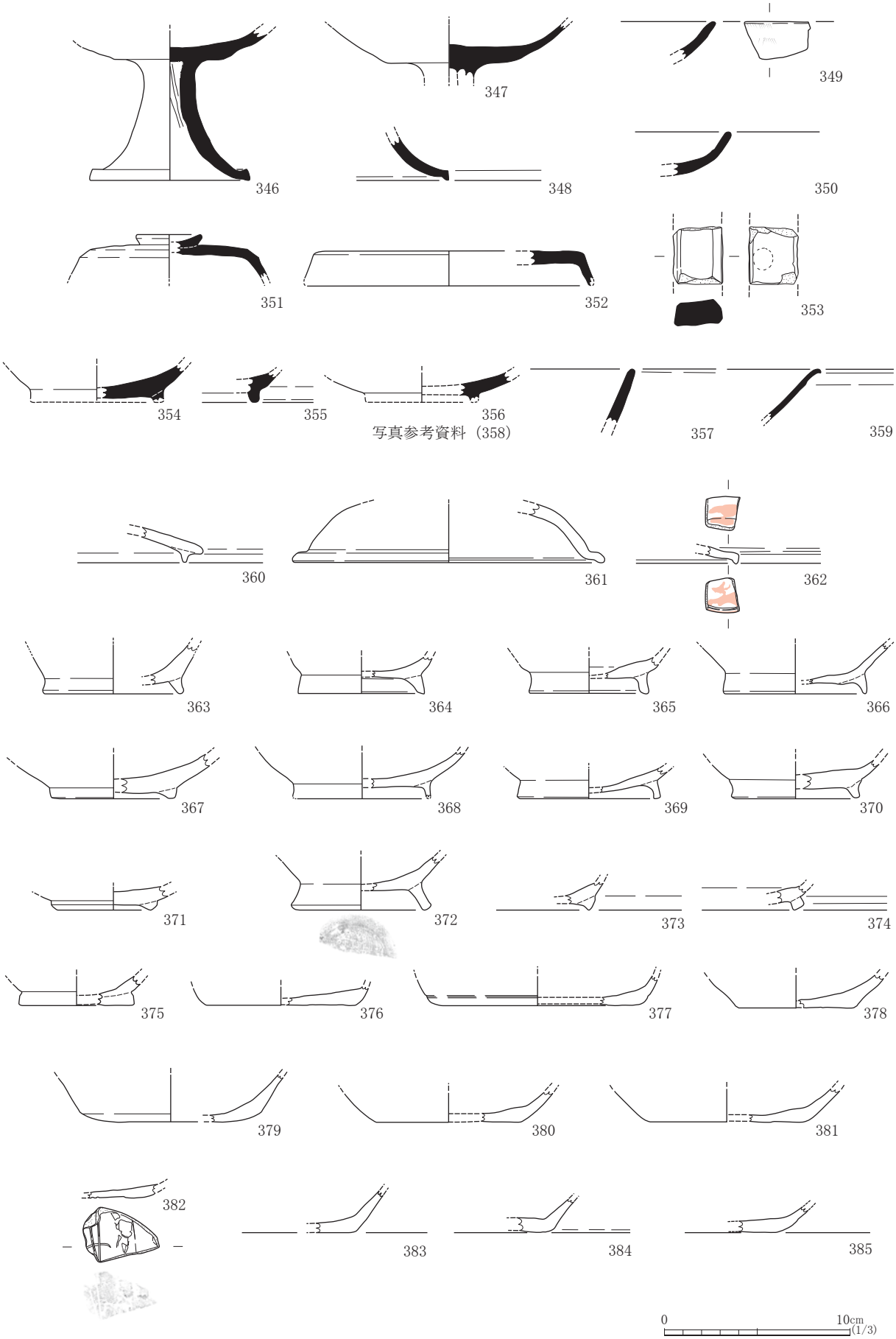


図 25　谷埋土2上層出土土器実測図④

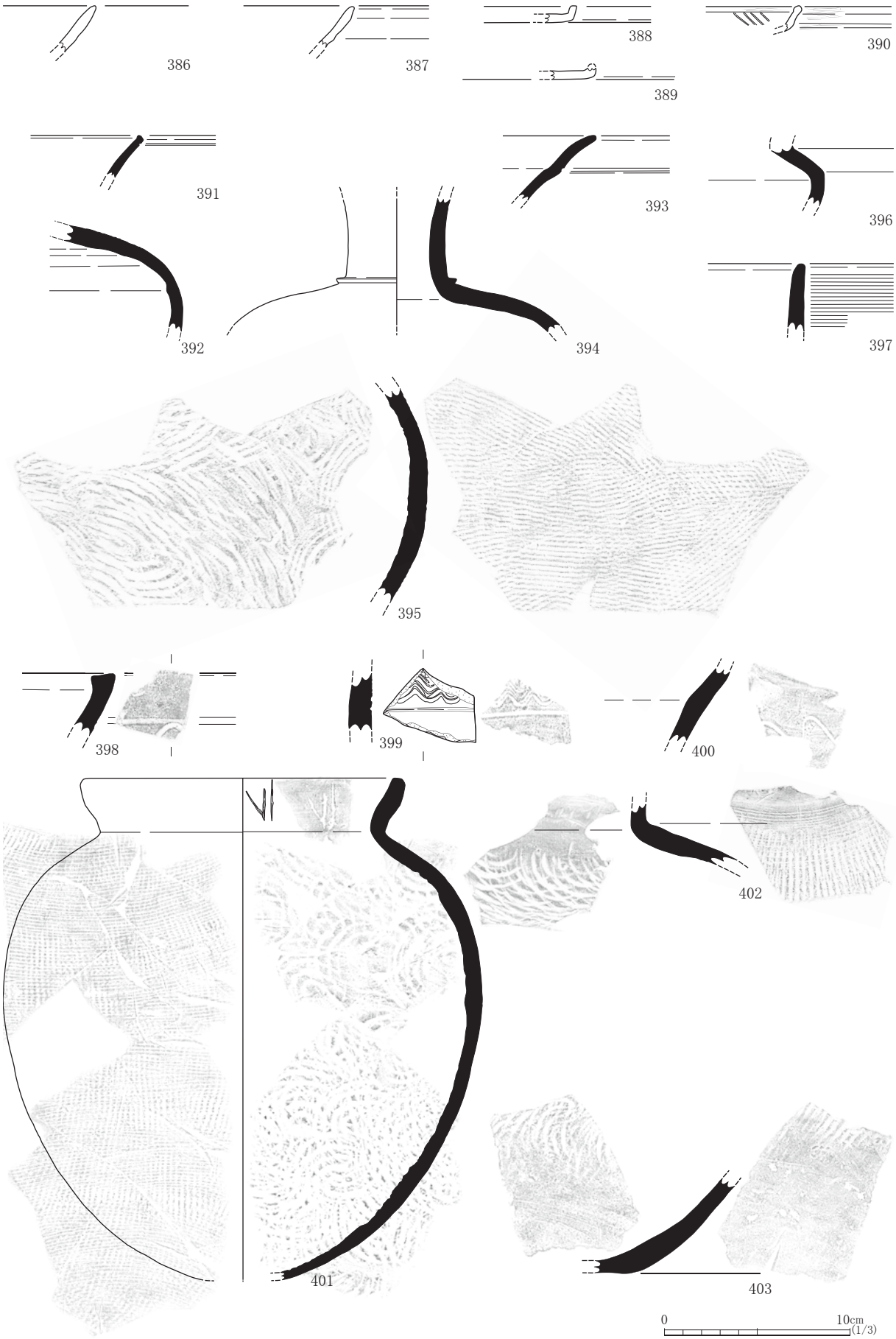


図 26　谷埋土2上層出土土器実測図⑤

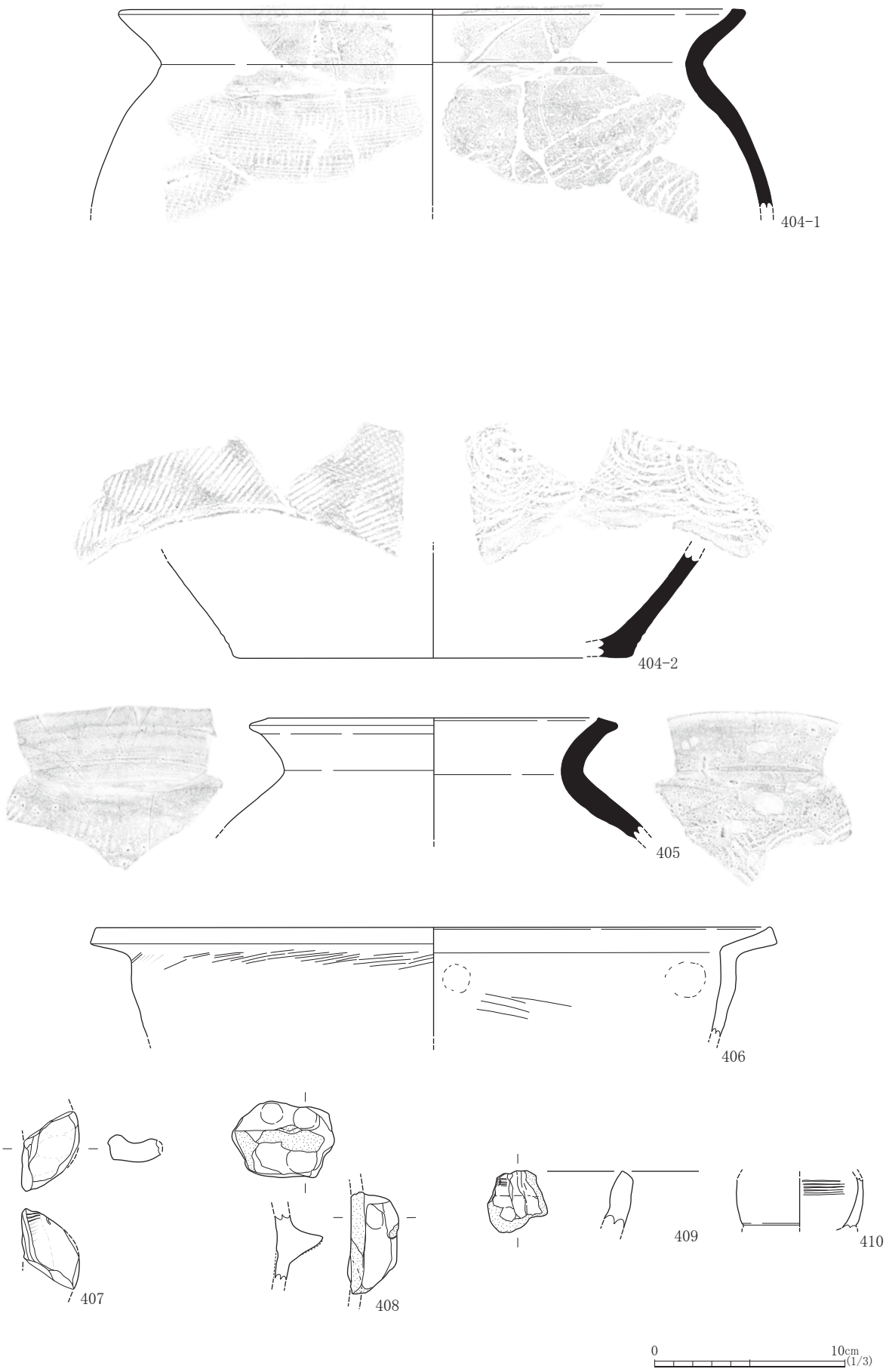


図 27　谷埋土2上層出土土器実測図⑥

谷埋土１出土土器（図28・29、写真68～70、表５）

さらに細片化が進行し、接合する資料も少量となる。

411～427は須恵器坏蓋。前述したように、口縁にかえりを有する蓋（414～420）が谷埋土２上層と当層には目立つ。427は転用硯である。

428～459は須恵器高台付坏と坏。452の底部外面には「V」字状のヘラ記号が施されている。口縁端部をわずかに内側に折り込む455は吉田遺跡ではあまり出土しない口縁部で、注意が必要である。

460～462は須恵器高坏。462は吉田遺跡の高坏に多く見られる焼成不良品である。

464・465は小ぶりな高台が付く土師器坏底部片。下位にある谷埋土２上層と異なり、土師器供膳器は当層では激減する。

466～473は須恵器壺甕類。467は小型の長頸壷と見られ、吉田遺跡では稀な個体である。469は須恵器甑の可能性がある口縁部片で、やや焼成不良である。471～473は亀裂のある同心円当て具を使用した例で、当資料を頼りに須恵器甕体部片の整理を行ったが、同一個体を見いだすことはできなかった。

474・475は土師器甕口縁部片。476は美濃ヶ浜式製塩土器脚部片。477・478は中世遺物で、瓦質土器羽釜と鉢の口縁部である。

北調査区東区谷埋土１・２出土土器（図30、写真70・71、表５）

北調査区東区の掘削は調査の最終盤に行い、時間の制限上層位ごとの取り上げが出来なかった。

484～486は六連式製塩土器片。接合しないが同一個体の可能性がある。

谷埋土層位不明出土土器（図31、写真71、表５）

調査最初期の断ち割や、断面崩落土中から出土した遺物で、いずれも須恵器坏（487～490）である。

遺構出土土器（図32、写真71・72、表５）

図示可能な資料は、Pit１・10、SK２、SX１、SD１から出土しているが、いずも谷埋土２下層堆積過程で埋没している。

（Pit１）491は須恵器高台付坏の底部片。断面方形の小ぶりな高台が底部外端に付く。492は須恵器坏の底部片。平底から体部が開かずに立ち上がる。493は不明須恵器。復元径7.4㎝の円筒状の端部に、串状工具で深さ1.5㎝程度の刺突を不規則に行っている。

（Pit10）494はほぼ完存する須恵器坏で、口縁に焼き歪みが見られる。

（SK２）495は須恵器高坏脚部片。大きく広がる裾部を有しており、脚柱部に沈線は見られない。

（SX１）496も須恵器高坏脚部片。脚柱部のやや上位に沈線が廻る。

（SD１）497は須恵器坏蓋。ボタン状つまみを有し、低いドーム状の天井から内湾して口縁部を降下させ、端部を内側に折り込んでいるが、これは焼き歪みによるもので、成形時は端部を垂直に下垂させていたものと見られる。498は同じくボタン状つまみを有する須恵器坏蓋で、硯に転用している。499・500は須恵器高台付坏と坏。501～503は須恵器高坏で、ほぼ完存する501の脚部内面には倒位で「田」の墨書が見られる。ただし、「十」の右下に１点打たれており、別字である可能性も残す。504は土師器甕の口縁－体部片。復元口径31.0㎝を測る。

【註】

1）横山成己（2010）「農学部附属家畜病院改修Ⅰ期工事に伴う予備発掘調査・本発掘調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成18年度－』，山口

2）森本倫弘ほか（2013）『下市築地ノ峯東通第２遺跡Ⅴ』（鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書49）鳥取県埋蔵文化財センター（編），鳥取

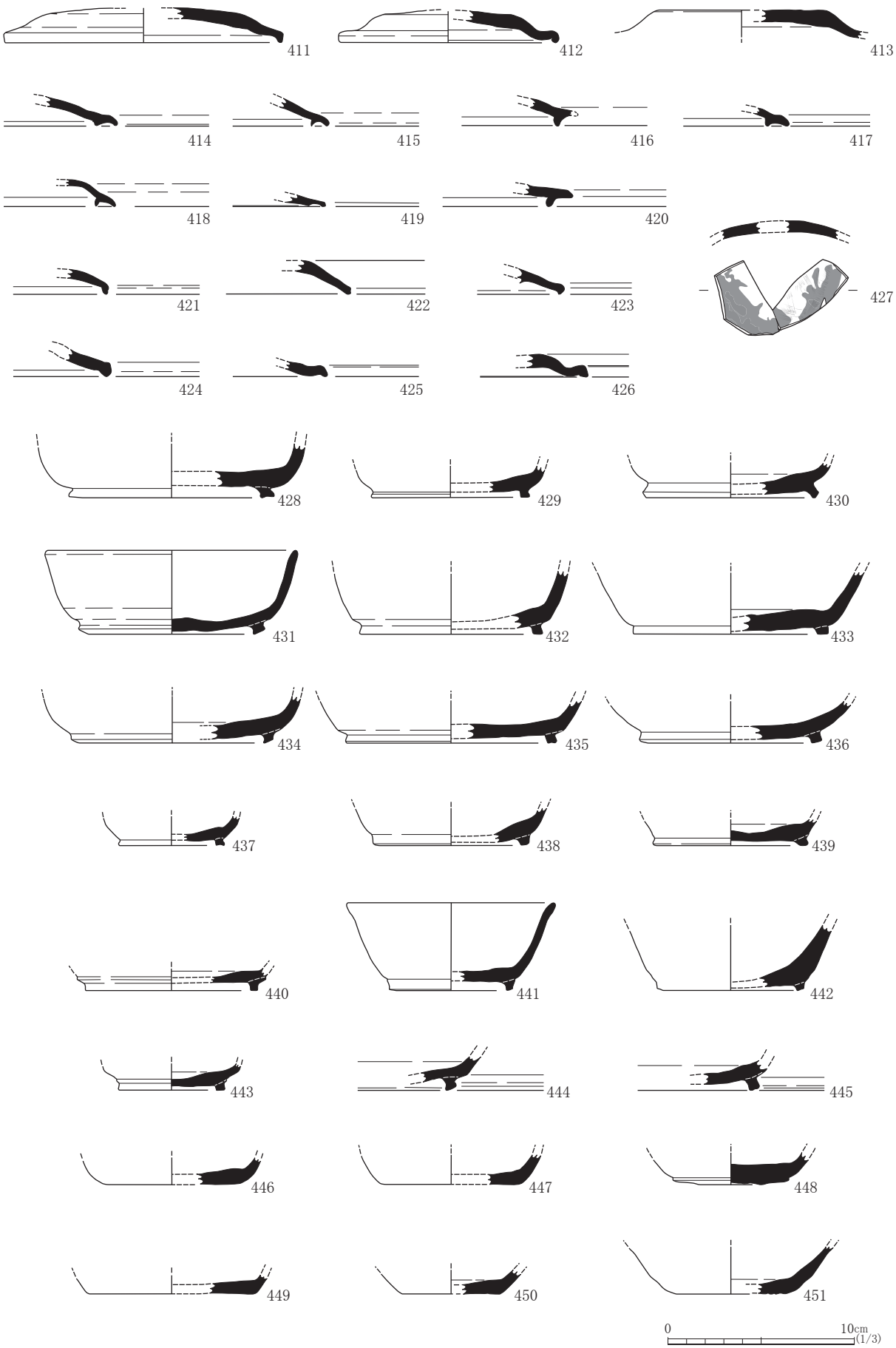


図 28　谷埋土1出土土器実測図①

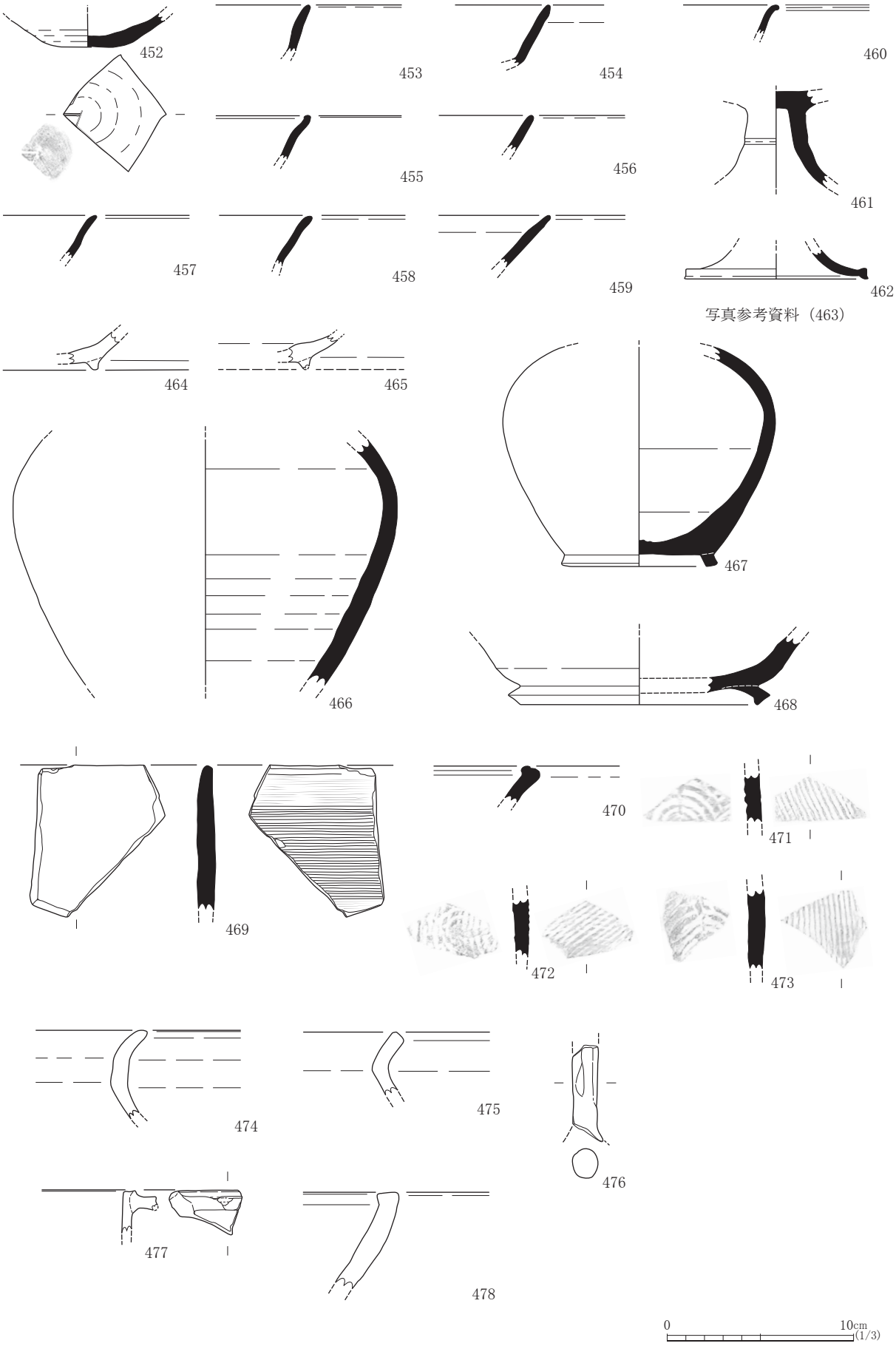


図 29　谷埋土1出土土器実測図②

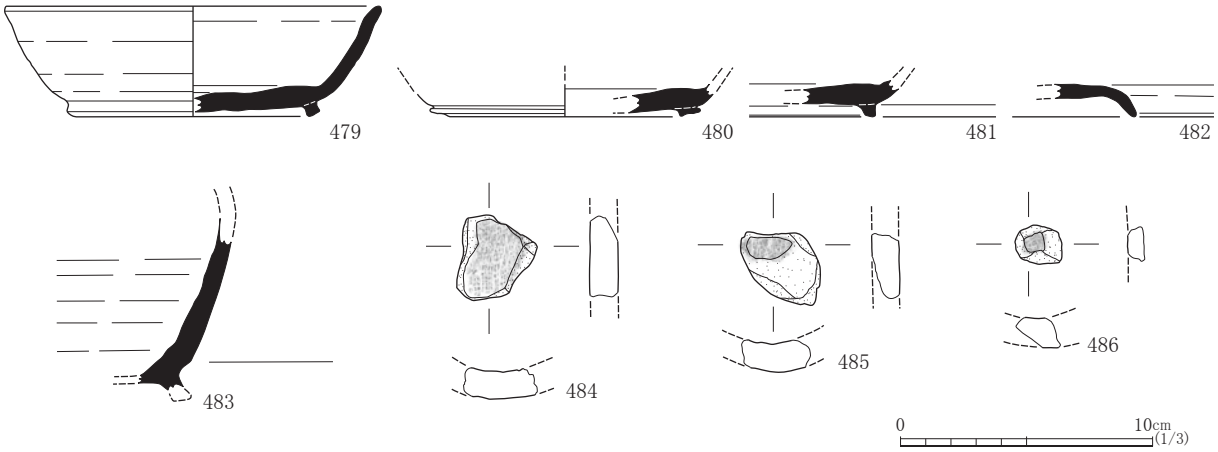


図 30　北調査区東区谷埋土1-2出土土器実測図

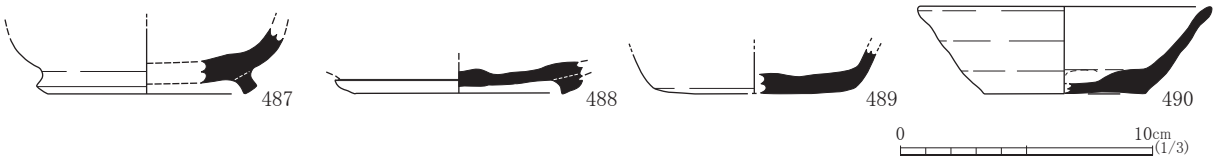


図 31　谷埋土層位不明出土土器実測図

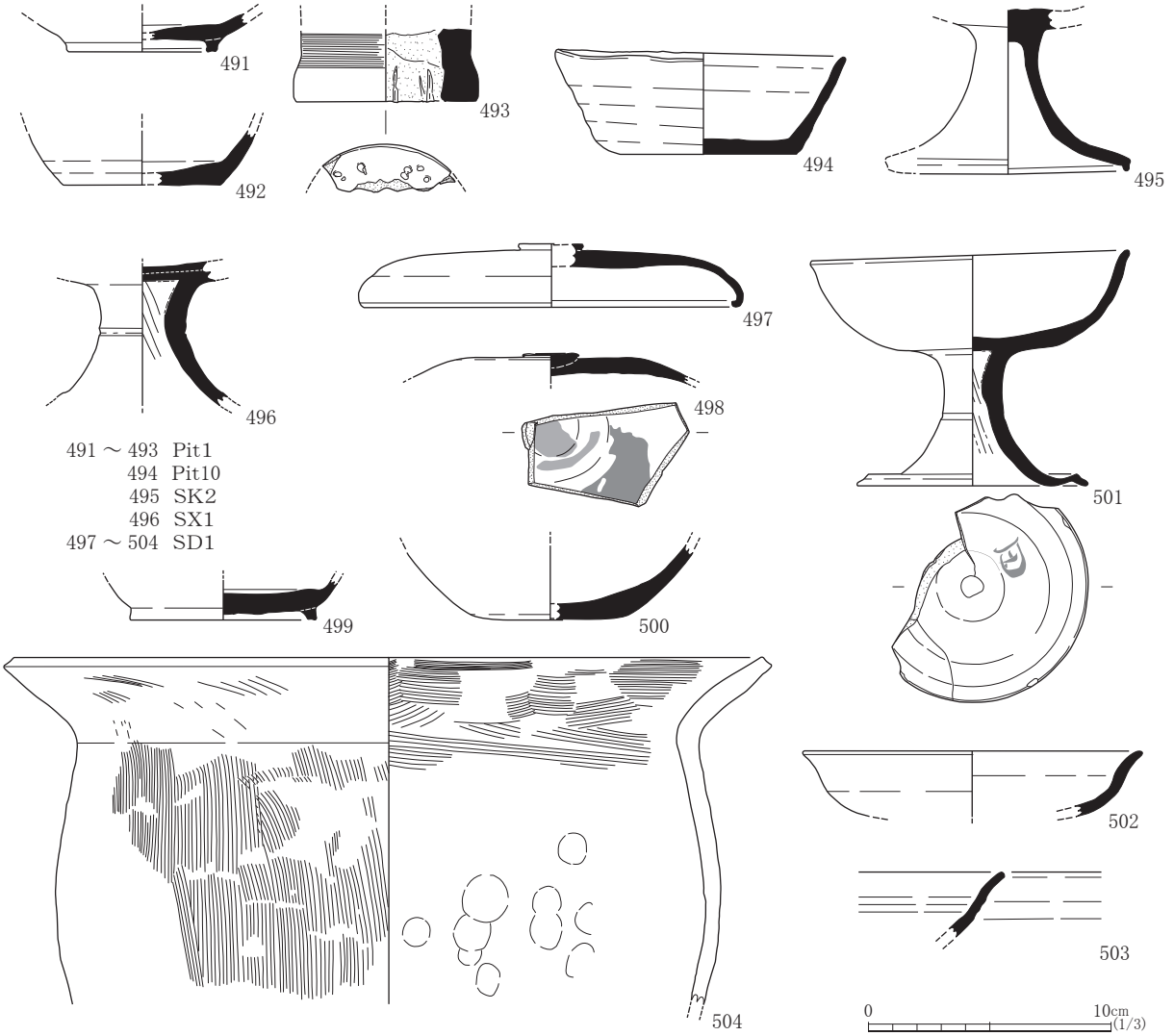


図 32　遺構出土土器実測図

包含層2出土土器（図33～34、写真72・73、表5）

谷埋土上に形成された遺物包含層には明確に室町時代の遺物が混ざる。遺物の由来地は、当調査区東方50m地点の尾根高所にて確認された当該期の集落[註1]と考えられる。

505～510は須恵器坏蓋。505、506は天井折損端部に人為的な研磨が見られる。整形しての二次使用、もしくは蓋自体が工具として使用された可能性もある。

511～525は須恵器高台付坏。519は底部外面に「V」字状のヘラ記号が見られる。

526～533は須恵器坏と坏口縁部片。529は皿底部片の可能性もあり、鳥足ヘラ記号が見られる。527は底部外面に板痕が残る。

534・535は須恵器皿。535は底部外面がわずかに外反していることから高台付皿と見られる。

536・537は白磁の玉縁口縁部片。538は陶器の刷毛目椀。李朝三島か。

540～543は土師器の坏と皿。540の底部外面には平行する直線2条のヘラ記号が施される。541は高高台の皿底部片。

544は弥生土器甕。外面に5条の沈線が施される。545は古墳時代の土師器甕口縁部片。

546～552は須恵器の壺甕類。553・554は土師器甕の口縁部片。

556・557は瓦質土器の鍋。557は底部付近の破片で、外面に格子叩きが残る。558・559はともに瓦質土器擂鉢の口縁部片。

包含層1出土土器（図35、写真73・74、表5）

遺物包含層1・2は元来同一の堆積層で、土色の違いは土壌化の進行差によるものと思われる。

560～565は須恵器坏と坏蓋。566と567は陶器で、椀566には藁灰釉がかかる。568は瓦質土器足鍋脚部片。569は瓦質土器擂鉢底部片。

北調査区東端部包含層出土土器（図36、写真74、表5）

北調査区東端部に形成されている遺物包含層は、中央部から西部に形成されている包含層とは不連続で、土質も異なることから区別しておく。

570～574は須恵器坏と坏蓋。575は須恵器高坏裾部片。576は緑釉陶器底部片。577は土師器坏口縁部片。578～580は須恵器と土師器の壺甕類。581は瓦質土器足鍋脚部片。582は陶器擂鉢。

旧耕土・旧床土出土土器（図37、写真74、表5）

重機掘削中に採取した遺物で、須恵器壺口縁部片（583）、土師器高台付坏底部片（584）、陶器鉢口縁部片（585）がある。

出土土製品・石器・金属器（図39、写真75、表6～8）

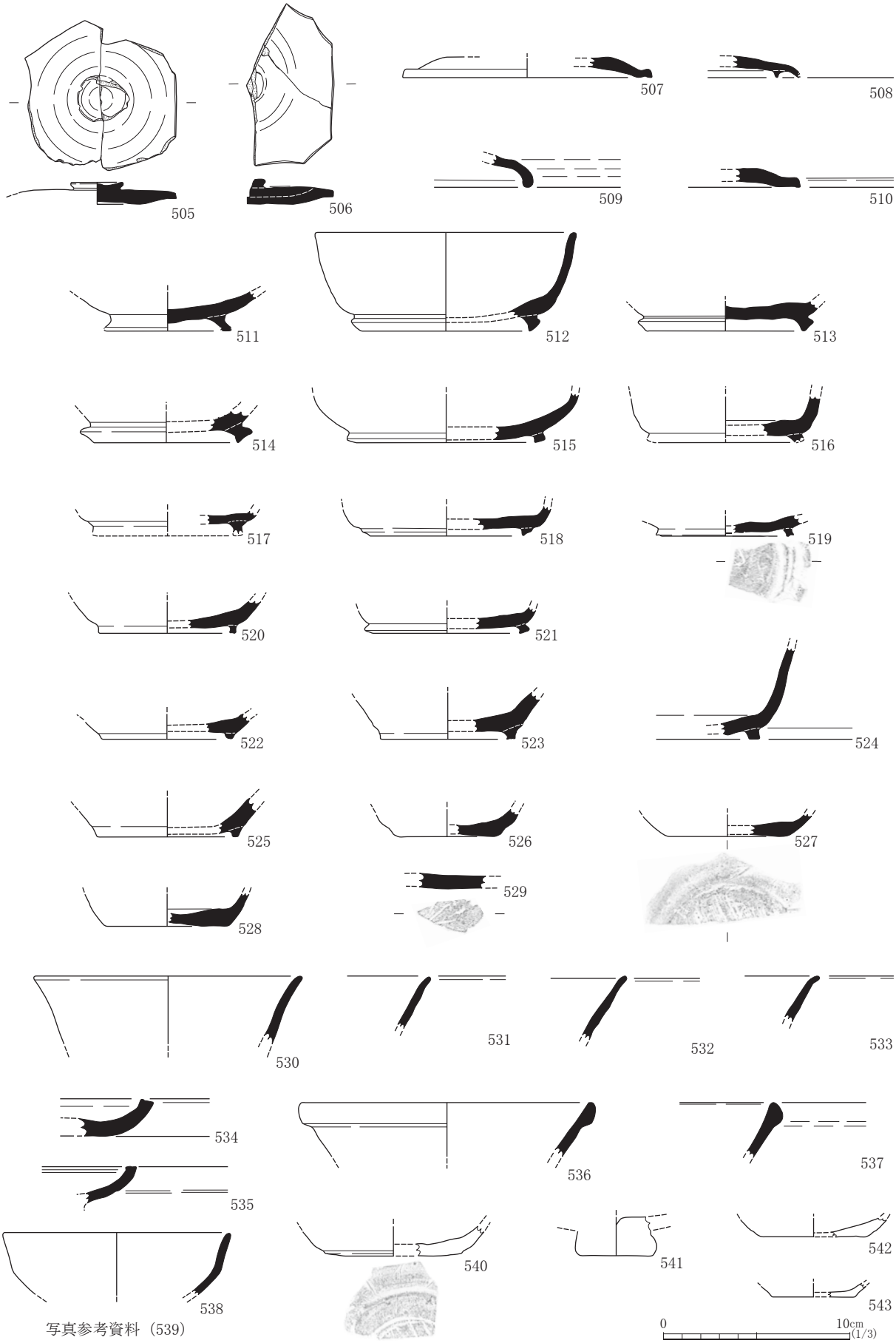
597は谷埋土2下層から出土した鞴羽口の炉側に接続された端部片。外面は二次焼成により須恵質となり、内面は赤化している。通風口径は2㎝程度に復元される。598は包含層2より出土した管状土錘。片側端部を欠失している。残長5.7㎝、最大径1.05㎝、孔径0.4㎝を測り、重量は0.65gを量る。599は包含層2から出土した用途不明品。勾玉形を呈しており、貫通しない孔と5条の沈線が施されている。

600・601は砂岩製の砥石。600は谷埋土3下層から出土しており、5面を使用している。601は包含層2から出土したもので、3方を折損しており、表裏2面が主使用面となっている。

602は谷埋土2上層より出土した鉄釘。残長17.55㎝、最大幅2.35㎝を測り、重量150.13gを量る。

【註】

1）横山成己（2012）「農学部附属動物医療センター改修Ⅲ期工事に伴う本発掘調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成20年度－』，山口



写真参考資料（539）

図 33　包含層2出土土器実測図①

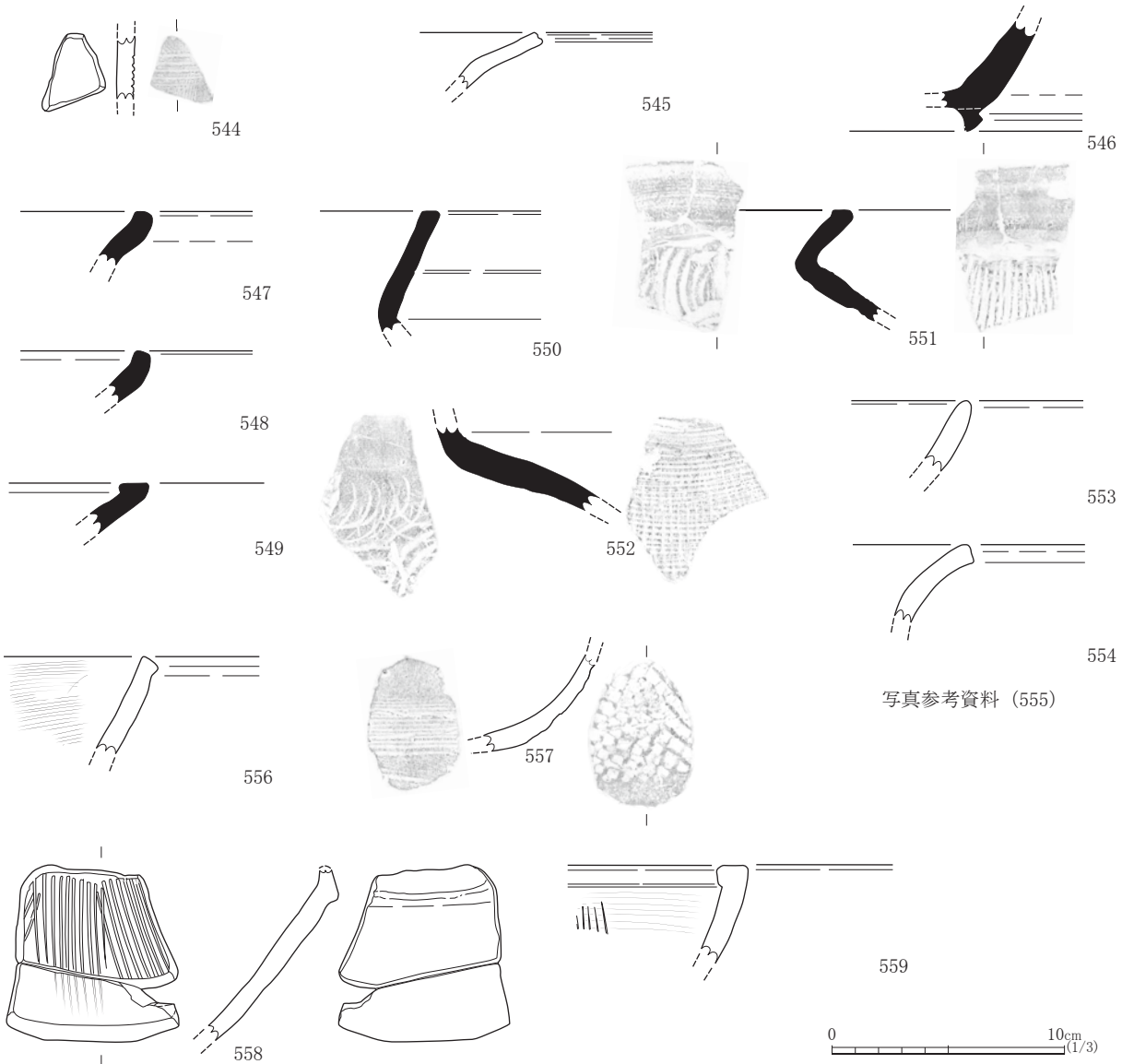


図 34　包含層2出土土器実測図②

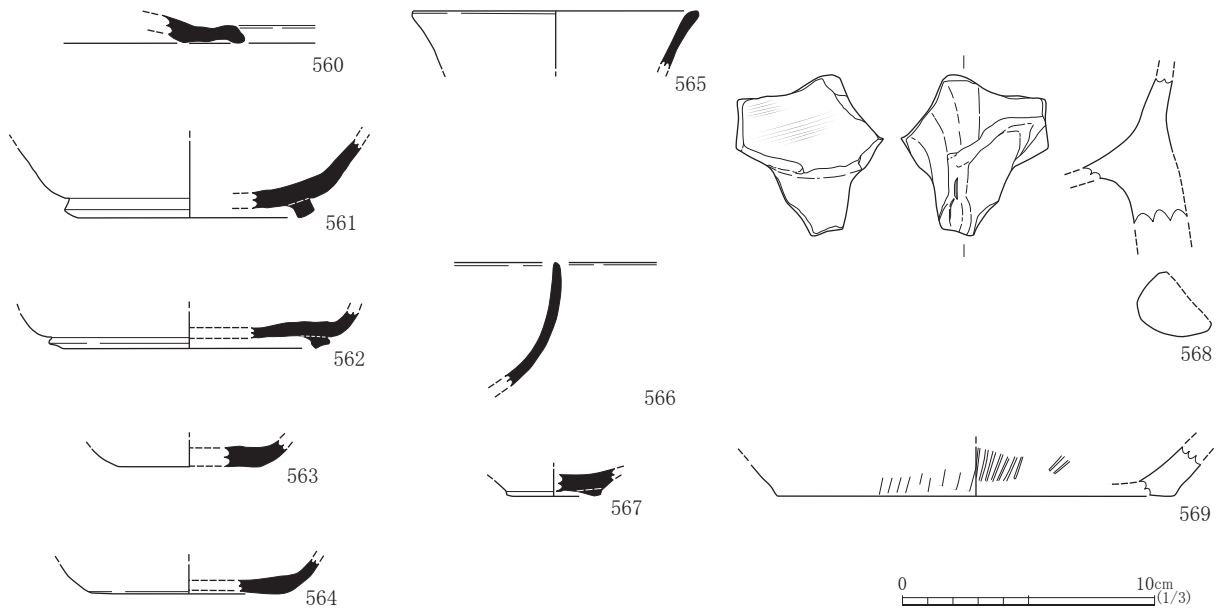


図 35　包含層1出土土器実測図

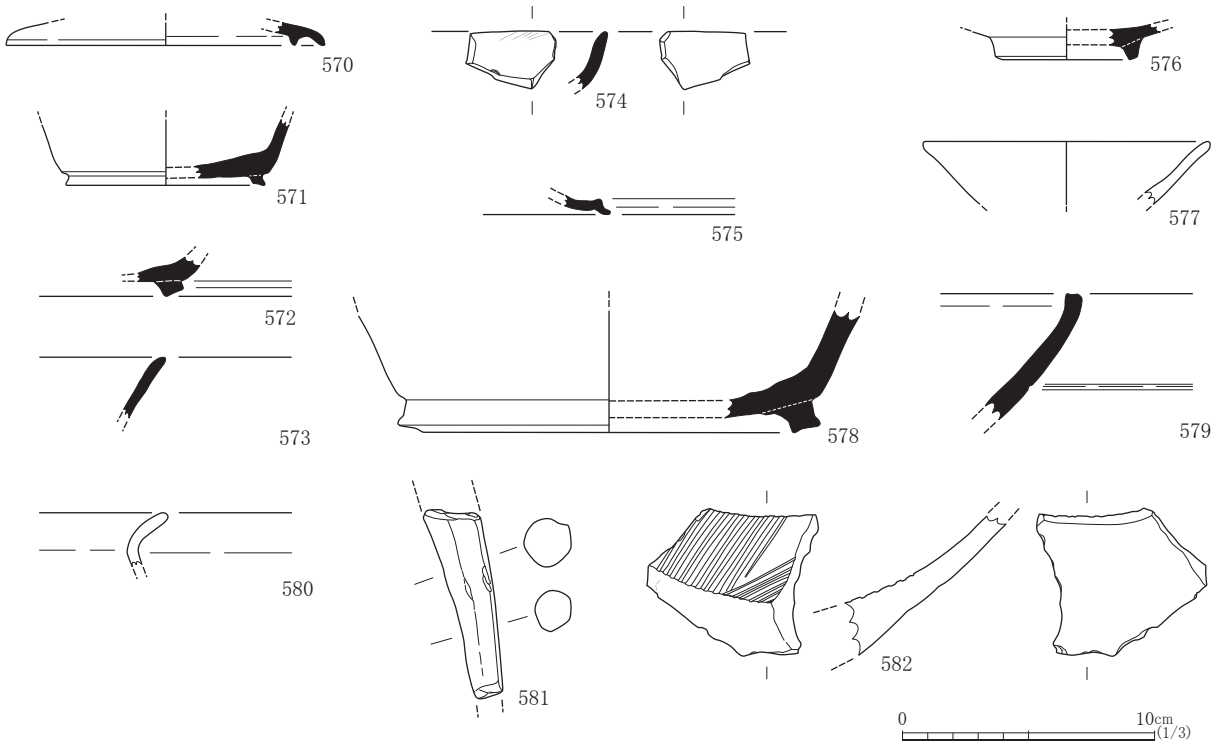
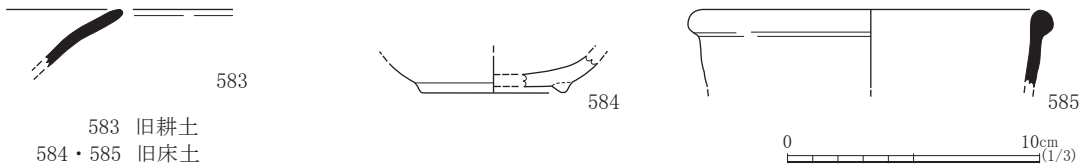
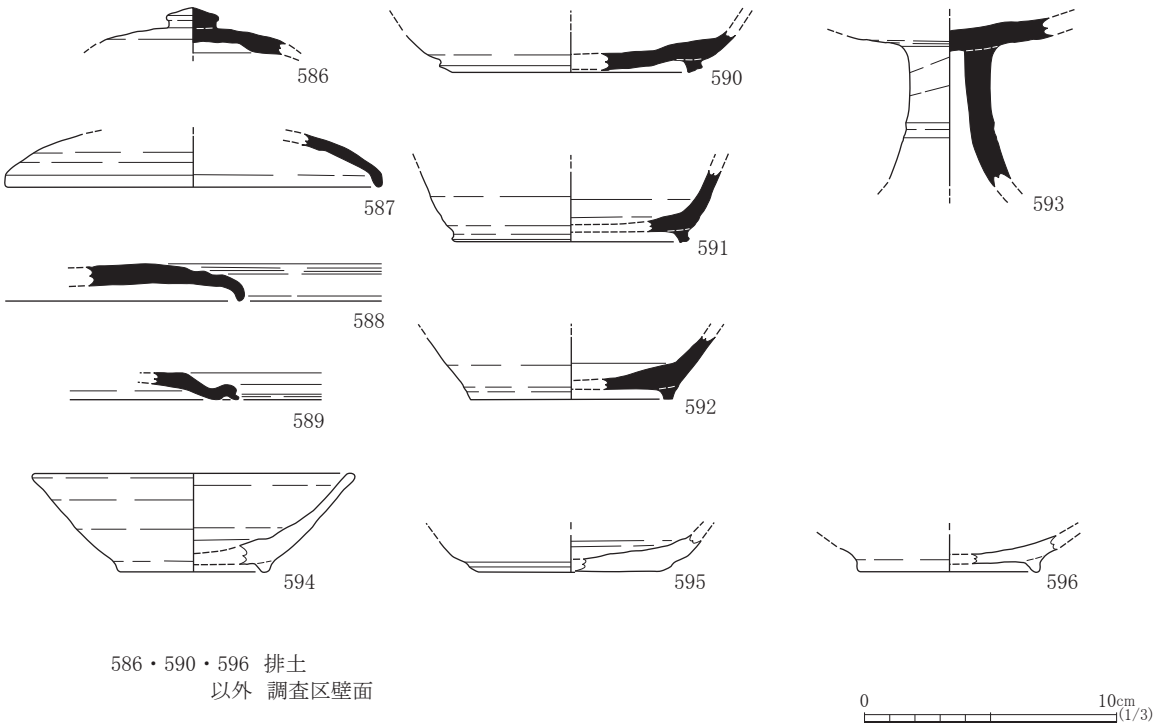


図 36　北調査区東端部包含層出土土器実測図



583　旧耕土
584・585　旧床土

図 37　旧耕土・旧床土出土土器実測図



586・590・596　排土
以外　調査区壁面

図 38　その他出土土器実測図

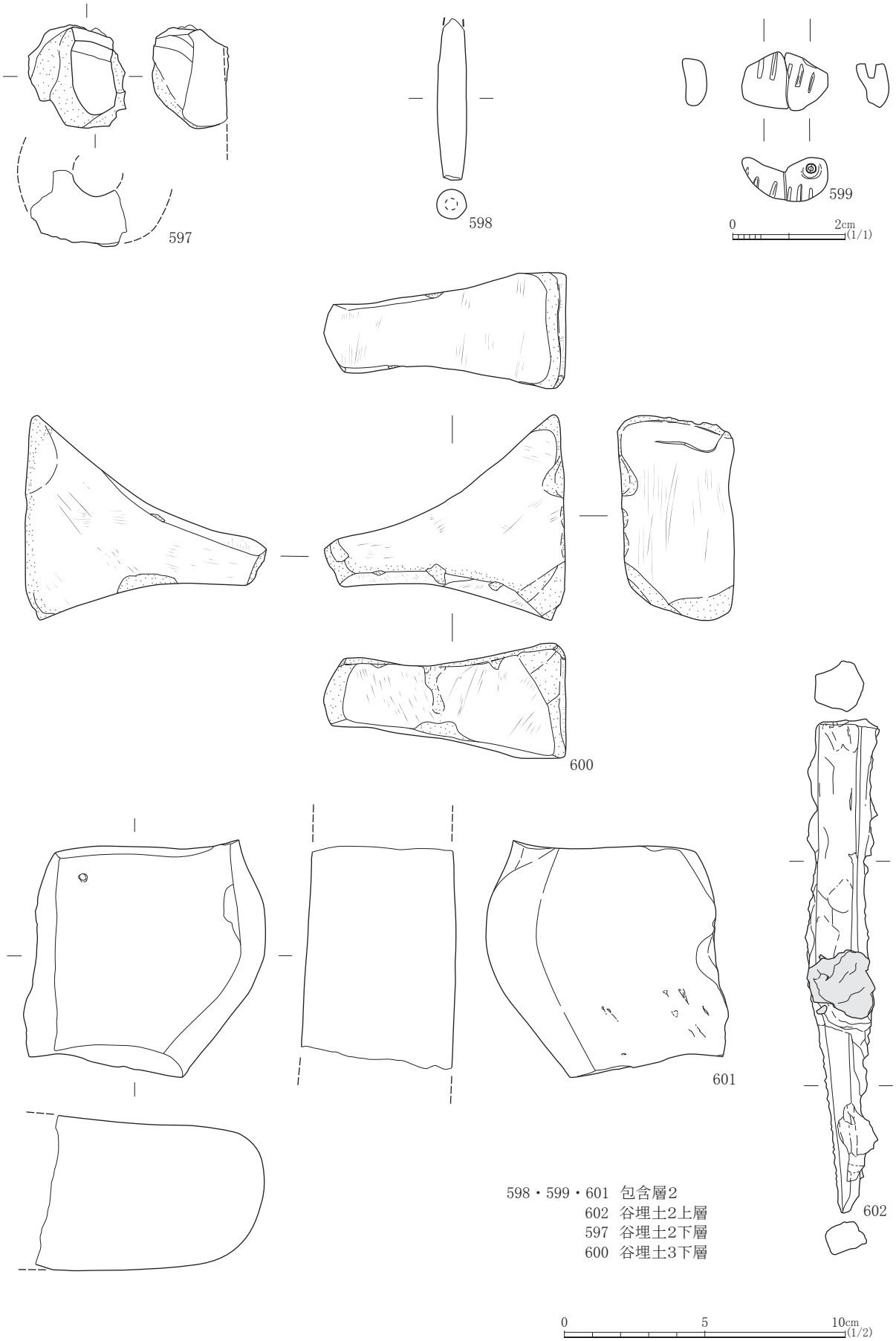


図 39 出土土製品・石器・金属器実測図

写真 54　出土遺物（土器）①

写真 55　出土遺物（土器）②

写真 56　出土遺物（土器）③

写真 57　出土遺物（土器）④

写真 58　出土遺物（土器）⑤

写真 59　出土遺物（土器）⑥

写真 60　出土遺物（土器）⑦

写真 61　出土遺物（土器）⑧

写真 62　出土遺物（土器）⑨

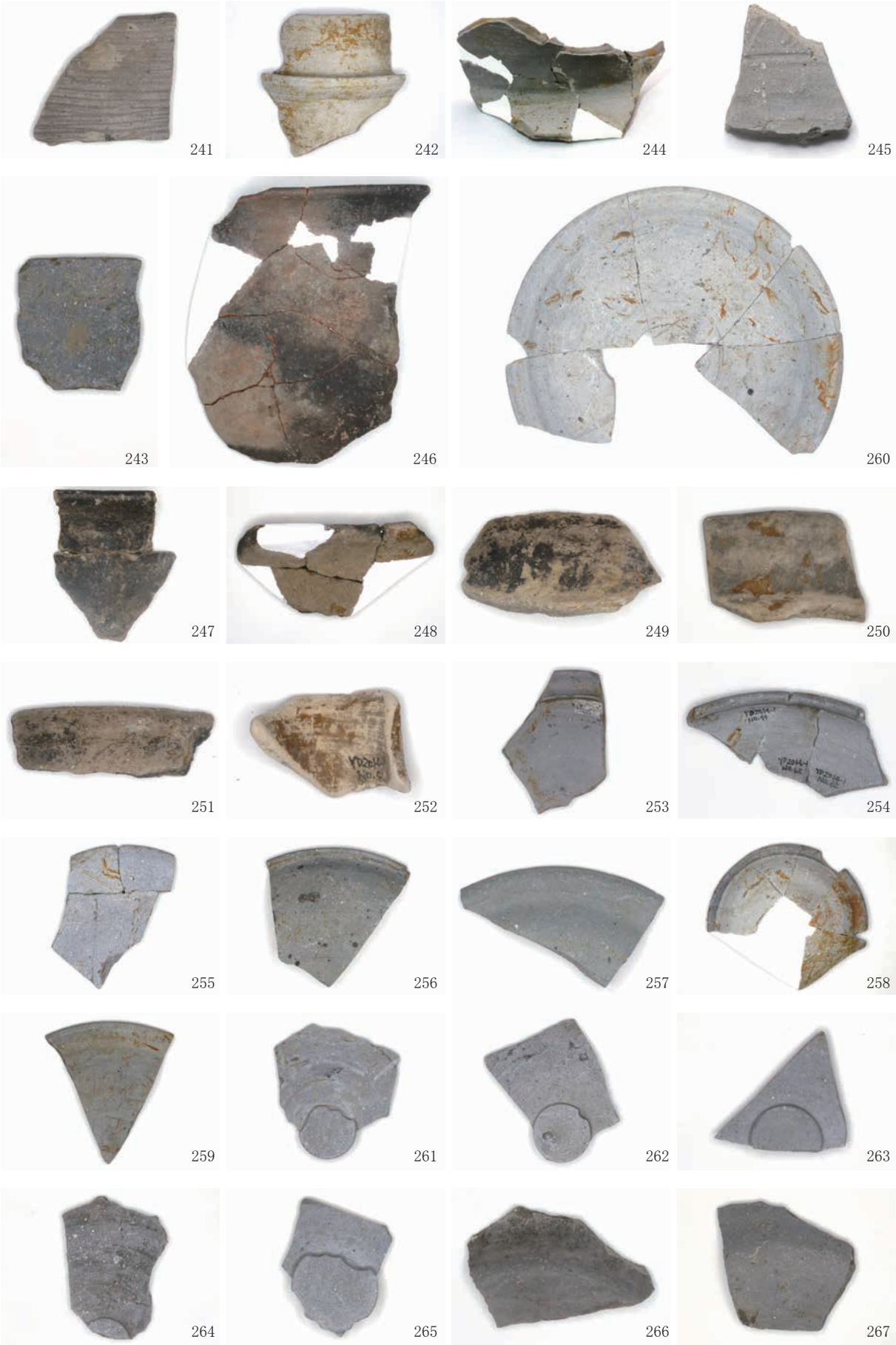


写真 63　出土遺物（土器）⑩

写真 64　出土遺物（土器）⑪

写真 65　出土遺物（土器）⑫

写真 66　出土遺物（土器）⑬

写真 67　出土遺物（土器）⑭

写真 68　出土遺物（土器）⑮

写真 69　出土遺物（土器）⑯

写真 70　出土遺物（土器）⑰

481

482

483

484

485

486

487

488

489

490

491

492

493-1

493-2

494

498

495

496

497

498

501-1

501-2

504

写真 71　出土遺物（土器）⑱

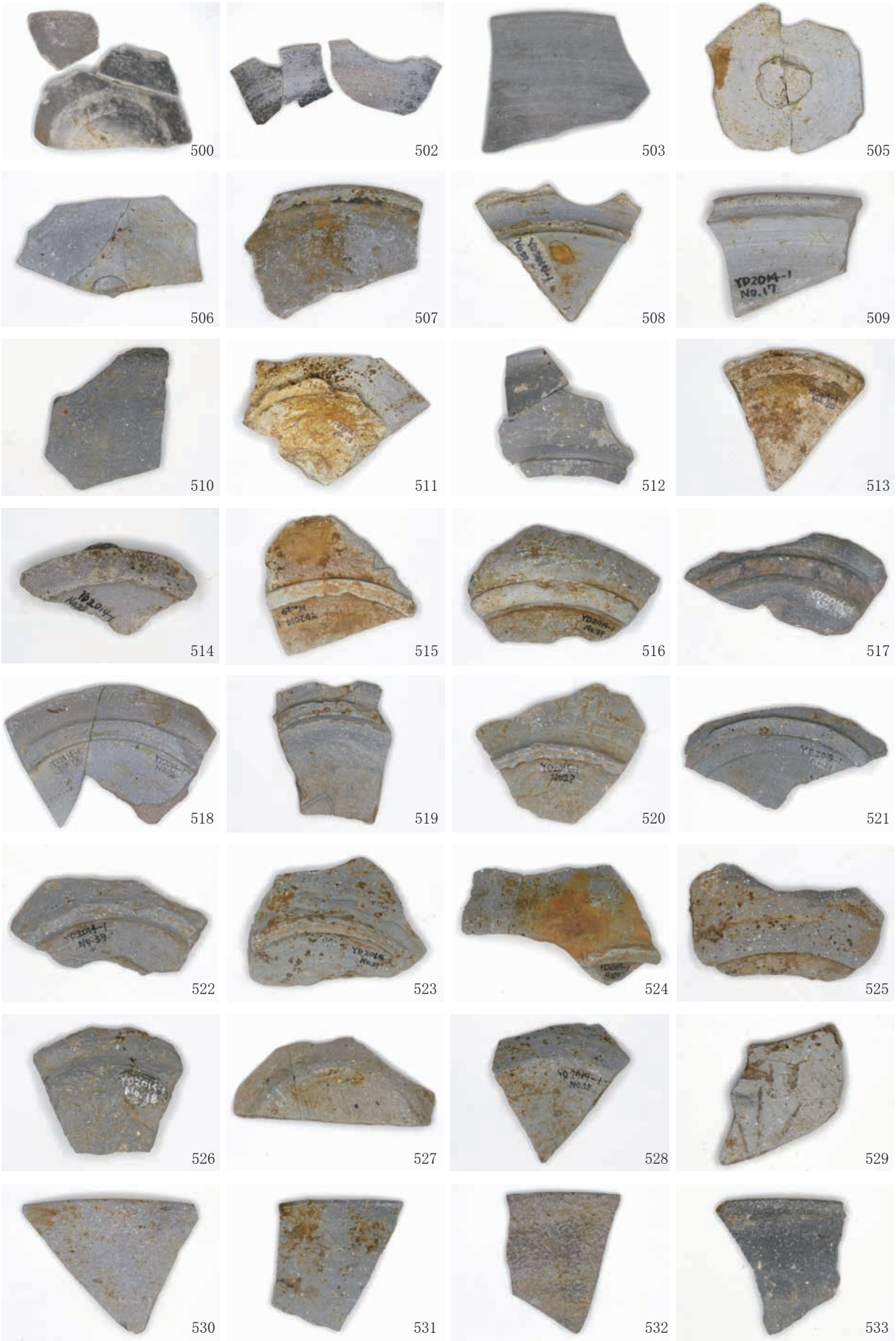


写真 72　出土遺物（土器）⑲

写真 73　出土遺物（土器）⑳

写真 74　出土遺物（土器）㉑

597-1

597-2

598

599

600-1

600-2

600-3

601-1

601-2

602-1

602-2

写真 75　出土遺物（土製品・石器・金属器）

表5 出土遺物（土器）観察表

法量（ ）は復元値

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量（cm）①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
1	西区 谷埋土4	須恵器 坏蓋	天井部～口縁部	①(19.0) ③2.7	①灰白色(N8/) ②灰白色(7.5Y8/1)	密:0.2～2.5mmの砂粒少量混ざる	ヘラ記号
2	南区 谷埋土3 下層	須恵器 坏蓋	天井部～口縁部	①(10.5)	①暗灰色(N3/) ②暗灰色(N3/)～灰白色(7.5Y8/1)	密:0.2mmの砂粒少量混ざる	竹串状のものによる刺突痕
3	南区 谷埋土3 下層	土師器 甕	口縁部～体部	①(17.4)	①にぶい赤褐色(2.5YR5/4)～赤灰色(2.5YR4/1) ②黒色(10YR2/1)	粗:0.2～4mmの砂粒多量に含む	
4	南区 谷埋土3 下層	土師器 甕	口縁部～体部	①(18.4)	①にぶい橙色(7.5YR6/4) ②にぶい赤褐色(5YR5/4)～にぶい褐色(7.5YR5/3)	密:0.2～3mmの砂粒少量混ざる	谷埋土3下層と接合
5	西端部 谷埋土3	須恵器 蓋	ほぼ完存	①18.6 ③3.6	①灰黄色(2.5Y7/2) ②灰白色(2.5Y7/1)	0.5～1mmの長石含む	ヘラ記号
6	中区 谷埋土3 上層	須恵器 坏蓋	口縁部～天井部	①(19.4)	①灰色(10Y7/1) ②浅黄色(2.5Y7/3)	0.5～2mmの長石含む	天井部ヘラ記号
7	西端部 谷埋土3 上層	須恵器 坏蓋	天井部～口縁部	①(17.0)	①灰白色(N7/) ②灰色(N6/)	0.5～3mmの長石含む	重ね焼き痕
8	西端部 谷埋土3 上層	須恵器 坏蓋	天井部～口縁部	①(14.3)	①②灰白色(N7/)	0.5～2mmの長石含む	重ね焼き痕
9	西区 谷埋土3 上層	須恵器 坏蓋	天井部～口縁部	①(14.4) ③2.2	①②灰白色(N7/)	密:0.2～0.5mmの砂粒少量混ざる	ひずみ大
10	南区 谷埋土3 上層	須恵器 坏蓋	天井部		①②灰色(N6/)	密:0.2～1mmの砂粒少量混ざる	
11	中区 谷埋土3 上層	須恵器 坏蓋	天井部～口縁部	①(13.0)	①②灰色(N6/)	0.5mmの長石含む	
12	中区 谷埋土3 上層	須恵器 坏蓋	天井部～口縁部	①(14.3)	①②灰色(N6/)	0.5～1mmの長石含む	
13	西端部 谷埋土3 上層	須恵器 坏蓋	天井部		①灰白色(N7/) ②灰白色(2.5Y7/1)	0.5～2mmの長石・石英含む	
14	南区 谷埋土3 上層	須恵器 坏蓋	天井部		①灰白色(2.5Y7/1) ②灰白色(2.5Y8/1)	密:0.2～5mmの砂粒少量混ざる	ヘラ記号
15	南区 谷埋土3 上層	須恵器 坏蓋	口縁部		①灰色(N5/～N6/) ②灰色(N6/)～灰白色(N7/)	密:0.2～0.5mmの砂粒ごく少量混ざる	
16	西端部 谷埋土3 上層	須恵器 坏蓋か	口縁部		①②灰白色(N7/)	0.5～1mmの長石含む	
17	南区 谷埋土3 上層	須恵器 坏蓋	口縁部		①②灰色(N6/)	密:0.2～2mmの砂粒少量混ざる	
18	西端部 谷埋土3 上層	須恵器 坏蓋	口縁部		①灰白色(N7/) ②灰白色(N8/)	0.5～1mmの長石含む	
19	南区 谷埋土3 上層	須恵器 坏蓋	口縁部		①灰白色(N7/)～灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密:0.2mmの砂粒ごく少量混ざる	
20	中区 谷埋土3 上層	須恵器 坏蓋	口縁部		①灰白色(N7/) ②灰色(N4/)	1mmの長石含む	
21	中区 谷埋土3 上層	須恵器 坏蓋	天井部～口縁部		①灰白色(N7/) ②灰色(N6/)	3mmの長石含む	
22	南区 谷埋土3 上層	須恵器 坏蓋	天井部～口縁部		①②灰色(N6/)	密:0.2～2mmの砂粒やや多く混ざる	
23	中区 谷埋土3 上層	須恵器 坏蓋	口縁部		①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	0.5～1mmの長石含む	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
24	西端部 谷埋土3 上層	須恵器　高台付坏	口縁部 ～底部	①(11.6)② (7.7)③4.3	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	0.5～3mmの長石含む	底部外面墨
25	西端部 谷埋土3 上層	須恵器　高台付坏	底部	②(7.8)	①青灰色(5B6/1) ②灰色(N6/)	0.5～3mmの長石含む	底部外面墨
26	中区 谷埋土3 上層	須恵器　高台付坏	体部 ～底部	②(8.0)	①灰色(N6/) 暗オリーブ灰色(2.5GY4/1) ②灰白色(N7/)	0.5～2mmの長石含む	内面墨付着
27	中区 谷埋土3 上層	須恵器　高台付坏	底部	②(6.2)	①灰白色(N7/) ②明青灰色(5PB7/1)	0.5～2mmの長石含む	
28	西端部 谷埋土3 上層	須恵器　高台付坏	底部	②(6.6)	①②灰色(N6/)	0.5～1mmの長石含む	
29	西端部 谷埋土3 上層	須恵器　高台付坏	底部	②(8.7)	①②灰白色(N7/)	0.5～1mmの長石含む	
30	西端部 谷埋土3	須恵器　高台付坏	底部	②(6.2)	①灰色(5Y4/1) ②灰色(N6/)	0.5～1mmの長石含む	
31	南区 谷埋土3 上層	須恵器　高台付坏	底部		①②灰白色(N7/)	密:0.2～2mmの砂粒少量混ざる	
32	西端部 谷埋土3 上層	須恵器　高台付坏	底部	②(11.0)	①②灰色(N6/)	0.5～2mmの長石含む	
33	中区 谷埋土3 上層	須恵器　高台付坏	底部	②(8.8)	①②灰色(N6/)	0.5～1mmの長石含む	
34	中区 谷埋土3 上層	須恵器　高台付坏	底部	②(8.3)	①②青灰色(5B6/1)	0.5～2mmの長石・石英含む	
35	中区 谷埋土3 上層	須恵器　高台付坏	体部 ～底部	②(6.2)	①②灰色(N6/)	0.5～3mmの長石含む	
36	西端部 谷埋土3 上層	須恵器　高台付坏	体部 ～底部		①②灰色(N6/)	0.5～1mmの長石含む	
37	中区 谷埋土3 上層	須恵器　高台付坏	底部	②(6.2)	①オリーブ灰色(5GY5/1) ②灰色(N5/)	0.5～1mmの長石含む	
38	中区 谷埋土3 上層	須恵器　坏	口縁部 ～底部	①(13.4) ②(7.2)③(4.3)	①灰白色(2.5Y8/1) ②淡黄色(2.5Y8/3)	0.5～2mmの長石・石英含む	土師質 側面墨書 「小殿」
39	西端部 谷埋土3 上層	須恵器　坏	底部	②(3.8)	①②灰白色(5Y7/1)	0.5～3mmの長石含む	
40	西端部 谷埋土3 上層	須恵器　坏	底部		①灰白色(N7/) ②黄灰色(2.5Y6/1)	0.5～1mmの長石含む	
41	中区 谷埋土3 上層	須恵器　坏	口縁部 ～底部	①(10.6) ②(5.2)③3.6	①灰白色(N7/) ②灰白色(N8/)	1mmの長石・石英含む	
42	西端部 谷埋土3 上層	須恵器　坏	底部	②(8.2)	①灰白色(2.5Y7/1) ②灰黄色(2.5Y7/2)	0.5～2mmの長石・石英含む	
43	中区 谷埋土3 上層	須恵器　坏	口縁部 ～底部	①(14.0) ②(8.4)③(3.7)	①②灰黄色(2.5Y7/2)	0.5～1mmの長石・石英含む	土師質
44	西端部 谷埋土3 上層	須恵器　坏	口縁部 ～底部	①(12.8)② (8.2)③3.35	①青灰色(5B5/1) ②青灰色(5B6/1)	0.5～5mmの長石・石英含む	底部ヘラ切り痕 ヘラ記号
45	南区 谷埋土3 上層	須恵器　坏	底部		①灰色(N4/) ②灰白色(N7/)	密:0.2mmの砂粒ごく少量混ざる	ヘラ記号

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
46	南区 谷埋土3 上層	須恵器　坏	口縁部		①灰色(N6/～7/) ②灰色(7.5Y6/1)～灰白色(N7/)	密:0.2～2mmの砂粒やや多く混ざる	
47	中区 谷埋土3 上層	須恵器　坏	口縁部		①②灰色(N5/)	0.5～1mmの長石含む	
48	西端部 谷埋土3 上層	須恵器　坏	口縁部		①②灰色(N6/)	0.5～1mmの長石含む	
49	西端部 谷埋土3 上層	須恵器　坏	口縁部 ～体部		①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	0.1～0.3mmの砂粒含む	
50	西端部 谷埋土3 上層	須恵器　坏	口縁部		①灰白色(N7/) ②明オリーブ色(2.5GY7/1)	1mmの長石含む	墨書
51	中区 谷埋土3 上層	須恵器　坏	口縁部		①②灰色(N5/)	0.5～1mmの長石含む	
52	南区 谷埋土3 上層	須恵器　坏	口縁部		①②灰白色(N7/)	密:0.2～0.5mmの砂粒ごく少量混ざる	
53	南区 谷埋土3 上層	須恵器　坏	口縁部		①灰色(5Y5/1)～灰色(N6/) ②灰色(5Y6/1)～灰白色(N7/)	密:0.2～2mmの砂粒やや多く混ざる	
54	中区 谷埋土3 上層	須恵器　坏	口縁部	①(13.4)	①②灰色(N5/)	0.5～2mmの長石含む	
55	中区 谷埋土3 上層	須恵器　坏	口縁部		①灰色(10Y4/1) ②灰色(N6/)	0.1～0.3mmの砂粒含む	
56	南区 谷埋土3 上層	須恵器　坏	口縁部		①②灰白色(5Y7/1)	密:0.2～5mmの砂粒ごく少量混ざる	
57	南区 谷埋土3 上層	須恵器　坏	口縁部		①灰黄褐色(10YR6/2)～黒色(10YR2/1) ②黒色(10YR2/1)	密:0.2mmの砂粒ごく少量混ざる	土師質
58	中区 谷埋土3 上層	須恵器　椀	口縁部 ～体部	①(11.8)	①灰白色(N7/) ②灰白色(N8/)	0.5～3mmの長石含む	
59	南区 谷埋土3 上層	須恵器　椀	口縁部		①(口縁)灰白色(N7/) (灰被り部)灰白色(7.5N/) ②灰色(N6/)	密:0.2mmの砂粒ごく少量混ざる	
60	中区 谷埋土3 上層	須恵器　椀	口縁部		①灰白色(N7/) ②灰白色(N8/)2.5Y8/2)	1mmの長石含む	
61	西区 谷埋土3 上層	須恵器　高台付皿	ほぼ完存	①15.4 ②9.2③4.8	①灰白色(N7/) ②灰色(5Y6/1)	密:0.2～0.5mmの砂粒ごく少量混ざる	
62	中区 谷埋土3 上層	須恵器　皿	口縁部 ～底部	①(16.9) ②(11.9) ③(2.5)	①②灰色(N6/)	0.5～3mmの長石・石英含む	
63	中区 谷埋土3 上層	須恵器　皿	口縁部 ～底部	①(12.8) ②(9.6) ③(1.55)	①にぶい黄褐色(10YR7/2) ②黄灰色(2.5Y6/1)	0.5～4mmの長石・石英含む	土師質
64	西端部 谷埋土3 上層	須恵器　皿か	口縁部 ～底部		①②灰色(N6/)	0.5mmの長石含む	
65	西端部 谷埋土3 上層	須恵器　高坏	ほぼ完存	①(14.9) ②(10.2)③9.5	①②灰白色(2.5Y7/1) 黒色((N2/)	0.5mmの長石含む	
66	中区 谷埋土3 上層	須恵器　高坏	ほぼ完存	①(15.1) ②8.6③10.35	①灰色(N4/) ②灰色(N6/)	0.5～2mmの長石含む	
67	西区 谷埋土3 上層	須恵器　高坏	ほぼ完存	①12.8 ②8.9③8.5	①灰色(N5/～6/) ②灰白色(N7/)～灰色(N6/)	密:0.2～1.5mmの砂粒ごく少量混ざる	ひずみ大

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
68	中区 谷埋土3 上層	須恵器　高坏	坏底部 ～脚部		①灰色(N5/) ②灰色(N6/)	0.5～1mmの長石含む	
69	西端部 谷埋土3 上層	須恵器　高坏	脚部	②(9.8)	①灰白色(5Y7/1) ②灰白色(N7/)	0.1～0.3mmの砂粒含む	
70	南区 谷埋土3 上層	須恵器　高坏	脚部		①灰色(N5/)～灰白色(N7/) ②灰白色(N7/)	密:0.2～2mmの砂粒やや多く混ざる	
71	中区 谷埋土3 上層	須恵器　高坏	脚部	②(9.8)	①灰色(N6/) ②灰色(N5/)	0.5～2mmの長石含む	
72	南区 谷埋土3 上層	須恵器　高坏	脚部		①灰白色(N7/)～灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmの砂粒やや多く混ざる	
73	南区 谷埋土3 上層	須恵器　高坏	脚部		①黒色(N2/) ②暗灰色(N3/)	密:0.2～2mmの砂粒ごく少量混ざる	土師質
74	西端部 谷埋土3 上層	須恵器　高坏	脚部	②(7.3)	①灰白色(N7/) ②暗灰色(N3/)	0.5～1mmの長石含む	
75	西端部 谷埋土3 上層	須恵器　高坏	脚部		①②灰白色(N7/)	0.5～3mmの長石含む	
76	南区 谷埋土3 上層	須恵器　高坏	口縁部		①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmの砂粒ごく少量混ざる	
77	南区 谷埋土3 上層	須恵器　高坏	口縁部		①②灰黄色(2.5Y7/2)	密:0.2mmの砂粒ごく少量混ざる	土師質
78	南区 谷埋土3 上層	須恵器　高坏	口縁部		①②灰色(N6/)	密:0.2～1mmの砂粒やや多く混ざる	
79	南区 谷埋土3 上層	須恵器　高坏	口縁部		①②灰白色(2.5Y7/1)	密:0.2mmの砂粒ごく少量混ざる	
80	南区 谷埋土3 上層	須恵器　高坏	口縁部		①灰白色(5Y7/1) 灰色(N4/) ②灰白色(5Y7/1)	密:0.2mmの砂粒ごく少量混ざる	
81	南区 谷埋土3 上層	須恵器　高坏	口縁部		①②灰白色(N7/)	密:0.2mmの砂粒ごく少量混ざる	
82	中区 谷埋土3 上層	土師器　高台付坏	口縁部 ～底部	①(13.3) ②(8.6)③4.9	①灰色(7.5Y7/1) ②灰黄色(2.5Y7/2)	0.5～2mmの長石含む	須恵器模倣 重ね焼き
83	西端部 谷埋土3 上層	土師器　高台付坏	底部	②(7.4)	①灰黄色(2.5Y7/2) ②浅黄色(2.5Y7/3)	0.5～1mmの長石・石英含む	
84	中区 谷埋土3 上層	土師器　高台付坏	底部	②5.8	①にぶい黄色(2.5Y6/3) ②灰黄色(2.5Y6/2)	0.5～3mmの長石・石英含む	底部ヘラ記号
85	中区 谷埋土3 上層	土師器　坏	ほぼ完存	①(13.1) ②(7.2)③4.75	①②灰色(N6/)	0.5～4mmの長石含む	底部外面板状圧痕
86	中区 谷埋土3 上層	土師器　坏	底部	②(7.4)	①灰白色(2.5Y8/1) ②灰白色(2.5Y8/2)	0.5～1mmの長石含む	
87	中区 谷埋土3 上層	土師器　坏	底部	②7.5	①黄灰色(2.5Y5/1) ②浅黄色(2.5Y7/3)	0.5～3mmの長石・石英含む	
88	中区 谷埋土3 上層	土師器　坏	口縁部		①灰黄色(2.5Y7/2) 黄灰色(2.5Y5/1) ②浅黄色(2.5Y7/3) 黄灰色(2.5Y5/1)	0.5～3mmの長石含む	重ね焼き痕
89	南区 谷埋土3 上層	土師器　高坏	坏底部 ～脚部		①橙色(7.5YR7/6) ②にぶい橙色(7.5YR7/4)	密:0.2～2mmの砂粒ごく少量混ざる	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
90	西端部 谷埋土3 上層	土師器　皿	口縁部 ～底部	①(17.2) ②(11.4)③3.1	①明赤褐色(5YR5/6) ②橙色(7.5YR6/6)	0.5mmの長石・クサリ礫含む	都城系土器模倣
91	中区 谷埋土3 上層	土師器　皿	底部		①にぶい赤褐色(5YR5/4) ②にぶい橙色(7.5YR6/4)	0.5～1mmの長石・石英含む	都城系土師器
92	南区 谷埋土3 上層	土師器　坏	底部		①②橙色(7.5YR6/6)	密:0.2mmの砂粒ごく少量混ざる	都城系土師器
93	南区 谷埋土3 上層	土師器　皿	底部	②(12.2)	①にぶい橙色(7.5YR6/4) にぶい黄橙色(10YR7/2) ②にぶい橙色(7.5YR6/4)	密:0.2～1mmの砂粒ごく少量混ざる	都城系土師器
94	南区 谷埋土3 上層	土師器　皿か	底部		①②にぶい褐色(7.5YR6/3)	密:0.2mmの砂粒ごく少量混ざる	都城系土師器 外面に鱗状の墨画
95	南区 谷埋土3 上層	土師器　皿	底部		①(塗彩)にぶい赤褐色(5YR5/4) (素地)灰黄褐色(10YR6/2) ②にぶい橙色(5YR6/3)	密:0.2mmの砂粒ごく少量混ざる	底部外面赤色塗彩
96	南区 谷埋土3 上層	土師器　皿	底部		①②にぶい橙色(7.5YR6/4)	密:0.2mmの砂粒ごく少量混ざる	都城系土師器
97	南区 谷埋土3 上層	土師器　皿	口縁部 ～底部		①②にぶい橙色(5YR6/4)	密:0.2mmの砂粒(雲母など)ごく少量混ざる	都城系土師器
98	中区 谷埋土3 上層	須恵器　短頸壺	口縁部 ～底部	①(10.4) ②(8.0)③14.2	①②灰色(N6/)	0.5～3mmの長石含む	
99	中区 谷埋土3 上層	須恵器　壺か	口縁部		①青灰色(5B5/1) ②暗灰色(5B4/1)	0.5～1mmの長石含む	
100	中区 谷埋土3 上層	須恵器　長頸壺	頸部		①②灰白色(N7/)	0.5～2mmの長石含む	
101	中区 谷埋土3 上層	須恵器　横瓶	体部		①灰白色(N7/) ②灰色(N4/)　暗灰色(N3/)	0.5～1mmの長石含む	
102	南区 谷埋土3 上層	須恵器　甑か	体部		①灰色(N4/)～灰白色(N7/) ②灰色(N6/～5/)	密:0.2～2mmの砂粒ごく少量混ざる	
103	中区 谷埋土3 上層	須恵器　甕	口縁部	①(15.4)	①②黄灰色(2.5Y6/1)	0.5～5mmの長石含む	土師質
104	中区 谷埋土3 上層	須恵器　甕	口縁部	①(19.8)	①暗灰色(N3/) ②灰白色(2.5Y8/2)	0.5～3mmの長石含む	土師質
105	中区 谷埋土3 上層	須恵器　甕	口縁部		①灰色(N4/) ②灰白色(2.5Y8/1)	0.5～1mmの長石含む	
106	中区 谷埋土3 上層	須恵器　甕	口縁部		①灰色(10Y5/1) ②灰白色(N8/)	0.5mmの長石含む	土師質
107	中区 谷埋土3 上層	須恵器　甕	口縁部 ～体部		①灰白色(N7/) ②灰色(5Y4/1)	0.5～3mmの長石含む	
108	中区 谷埋土3 上層	須恵器　甕	体部		①灰色(N4/) ②浅黄色(2.5Y8/3)	0.5mm～1cmの長石・石英含む	
109	中区 谷埋土3 上層	須恵器　甕	体部 ～底部	②(8.0)	①灰色(N5/)　灰色(N6/) ②灰色(N6/)　灰白色(N7/)	0.5～2mmの長石含む	
110	西端部 谷埋土3	土師器　甕	口縁部 ～体部	①(36.8)	①灰黄色(2.5Y6/2) ②にぶい黄色(2.5Y6/3)	0.5～3mmの長石・石英含む	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
111	西端部 谷埋土3 上層	土師器　甕	口縁部		①②浅黄色(2.5Y7/3)	0.5～5mmの長石・石英含む	
112	南区 谷埋土3 上層	土師器　甕	口縁部		①にぶい褐色(7.5YR5/4) ②にぶい黄橙色(10YR6/3)	密:0.2～5mmの砂粒多く混ざる	
113	南区 谷埋土3 上層	土師器　甕	口縁部		①②にぶい黄橙色 (10YR6/3)	密:0.2～2mmの砂粒少量混ざる	
114	南区 谷埋土3 上層	土師器　甕	口縁部	①(19.6)	①にぶい赤褐色(2.5YR5/4) ②灰黄褐色(10YR4/2)	密:0.2～1mmの砂粒少量混ざる	ヘラ記号
115	西端部 谷埋土3 上層	土師器　甕	底部		①暗灰黄色(2.5Y5/2) ②にぶい黄色(2.5Y6/3)	0.5～5mmの長石・石英含む	
116	西端部 谷埋土3	土師器　甕	体部		①にぶい黄橙色(10YR7/3) 黒色(N2/) ②灰白色(2.5Y7/1)	0.5～4mmの長石・石英・クサリ礫含む	火だすき
117	西区 谷埋土2 下層	須恵器　坏蓋	天井部 ～口縁部	①12.1③4.1	①②灰白色(N7/)	密:0.2～3mmの粗砂粒少量混ざる	坏の可能性あり
118	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　坏蓋	天井部		①②灰色(N5/)	0.5～1mmの長石含む	
119	南区 谷埋土2 下層	須恵器　坏蓋	口縁部	①(16.0)	①②浅黄色(2.5Y8/3)	密:0.2～1mmの砂粒少量混ざる	土師質
120	南区 谷埋土2 下層	須恵器　坏蓋	天井部 ～口縁部	①(15.8) ③2.1	①灰色(N6/) 灰白色(N7/) ②灰色(N6/)	密:0.2～3mmの砂粒やや多く混ざる	
121	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　坏蓋	天井部 ～口縁部	①(12.4)	①灰色(N6/) ②灰色(N5/)	0.5～1mmの長石含む	
122	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　坏蓋	天井部 ～口縁部	①(13.4)③2.3	①②灰白色(N7/)	0.5～3mmの長石含む	
123	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　坏蓋	天井部 ～口縁部	①(11.4)③2.0	①②灰色(N5/)	0.5～1mmの長石含む	
124	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　坏蓋	天井部 ～口縁部	①(12.2)	①②灰色(N6/)	0.1～0.3mmの砂粒含む	
125	西端部 谷埋土2	須恵器　坏蓋	ほぼ完存	①13.6③1.4	①灰色(N6/) ②青灰色(5B5/1)	0.5～1mmの長石含む	
126	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　坏蓋	天井部 ～口縁部	①(13.3)	①灰色(N5/) ②灰色(N4/)	0.5～2mmの長石含む	
127	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　坏蓋	天井部		①灰色(N5/) ②灰色(N6/)	0.5～2mmの長石含む	
128	南区 谷埋土2 下層	須恵器　坏蓋	天井部		①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	0.5～3mmの長石含む	
129	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　坏蓋	天井部		①②灰白色(N7/)	0.5mmの長石含む	
130	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　坏蓋	天井部		①②灰色(N7/)	0.5～3mmの長石含む	
131	南区 谷埋土2 下層	須恵器　坏蓋	天井部		①黒色(5Y2/1)～灰白色 (5Y8/1) ②にぶい黄橙色(10YR7/2)	密:0.2～0.5mmの砂粒ごく少量混ざる	土師質
132	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　坏蓋	天井部		①②灰白色(N7/)	1mmの長石含む	輪状つまみ

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
133	南区 谷埋土2 下層	須恵器　坏蓋	天井部 ～口縁部		①灰白色(2.5Y7/1) ②暗灰色(N3/)	1mmの長石含む	
134	中区 谷埋土2 下層	須恵器　坏蓋	口縁部		①②灰色(N6/)	密:0.2mmの砂粒少量混ざる	
135	南区 谷埋土2 下層	須恵器　坏蓋	口縁部		①灰色(N6/) (灰被り部)灰白色(N7/) ②灰色(N6/)	密:0.2～1mmの白色砂粒多く混ざる	
136	南区 谷埋土2 下層	須恵器　坏蓋	口縁部		①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密:0.2～2mmの砂粒少量混ざる	
137	中区 谷埋土2 下層	須恵器　坏蓋	天井部 ～口縁部		①灰白色(N8/) ②灰白色(N7/)	2mmの長石含む	
138	南区 谷埋土2 下層	須恵器　坏蓋	天井部 ～口縁部		①灰白色(2.5Y7/1)～灰色(N4/) ②灰白色(7.5N/)～灰色(N4/)	密:0.2～1mmの砂粒少量混ざる	
139	南区 谷埋土2 下層	須恵器　高坏	裾部		①②灰色(N5/)	0.5mmの長石含む	
140	中区 谷埋土2 下層	須恵器　坏蓋	口縁部		①②灰白色(N7/)	密:0.2mmの砂粒ごく少量混ざる	
141	南区 谷埋土2 下層	須恵器　高台付坏	口縁部 ～底部	①(9.1) ②(5.2)	①灰色(N4/) ②灰色(5Y6/1)	0.5～1mmの長石含む	
142	南区 谷埋土2 下層	須恵器　高台付坏	口縁部 ～底部	①(15.0) ②(8.3)③4.4	①灰白色(N7/)　灰色(N5/) ②灰白色(N7/)	密:0.2～2mmの砂粒やや多く混ざる	ヘラ記号 底部外面墨付着
143	南区 谷埋土2 下層	須恵器　高台付坏	口縁部 ～底部	①14.4②8.8 ③5.1	①(底部)灰白色(10YR8/1) (体部～口縁)黒色(2.5Y2/1) ②灰黄色(2.5Y7/2)	密:0.2～1.5mmの砂粒やや多く混ざる	底部外面墨付着 土師質
144	南区 谷埋土2 下層	須恵器　高台付坏	口縁部 ～底部	①(15.0) ②(8.3)③4.7	①黄灰色(2.5Y6/1)～灰白色(2.5Y7/1) ②灰白色(2.5Y7/1)	密:0.2～4mmの砂粒少量混ざる	
145	中区 谷埋土2 下層	須恵器　高台付坏	底部	②(9.3)	①②灰白色(N7/)	0.5～2mmの長石含む	
146	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　高台付坏	底部	②(9.0)	①②灰白色(N7/)	0.5～1mmの長石含む	
147	中区 谷埋土2 下層	須恵器　高台付坏	底部	②(8.0)	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	1mmの長石含む	
148	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　高台付坏	底部	②(8.6)	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	0.5～1mmの長石含む	
149	南区 谷埋土2 下層	須恵器　高台付坏	体部 ～底部	②(9.4)	①灰白色(2.5Y8/2)～灰色(N4/) ②灰白色(2.5Y8/2)	密:0.2～1mmの砂粒少量混ざる	土師質
150	南区 谷埋土2 下層	須恵器　高台付坏	底部	②(6.6)	①灰色(N5/) ②灰色(N6/)	0.5～1mmの長石含む	
151	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　高台付坏	体部 ～底部	②(8.8)	①灰色(N5/) ②灰色(N6/)	0.5～5mmの長石含む	
152	西端部 谷埋土2 下層	須恵器	高台	②(7.0)	①②灰色(N6/)	0.1～0.3mmの砂粒含む	
153	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　高台付坏	底部	②(8.0)	①灰白色(7.5Y7/1) ②灰黄色(2.5Y7/2)	0.5～1mmの長石含む	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
154	中区 谷埋土2 下層	須恵器　高台付坏	底部	②(7.4)	①②灰白色(7.5Y7/1)	0.1～0.3mmの砂粒含む	土師質
155	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　高台付坏	底部	②(10.0)	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	0.5～3mmの長石含む	ヘラ記号
156	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　高台付坏	底部	②(10.6)	①灰色(N6/) ②青灰色(5B6/1)	0.5～3mmの長石含む	
157	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　高台付坏	底部	②(11.0)	①②灰色(N6/)	0.5～2mmの長石含む	底部外面工具痕
158	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　高台付坏	底部	②(6.8)	①青灰色(5B6/1) ②青灰色(5B5/1)	0.5～2mmの長石含む	
159	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　高台付坏	底部	②(8.0)	①灰色(N5/) ②灰色(N6/)	0.5～1mmの長石含む	
160	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　高台付坏	底部	②(7.8)	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	0.5～1mmの長石含む	
161	南区 谷埋土2 下層	須恵器　高台付坏	底部		①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密:0.2～1.5mmの砂粒やや多く混ざる	
162	南区 谷埋土2 下層	須恵器　高台付坏	底部		①灰白色(N7/) ②灰白色(N7/)～暗灰色(N3/)	密:0.2～1mmの砂粒ごく少量混ざる	
163	南区 谷埋土2 下層	須恵器　高台付坏	底部		①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmの砂粒少量混ざる	
164	西区 谷埋土2 下層	須恵器　高台付坏	底部		①②灰色(N6/)	密:0.2～2mmの砂粒多量に含む	
165	南区 谷埋土2 下層	須恵器　坏	底部	②(8.4)	①②灰白色(2.5Y8/2)	密:0.2～1mmの砂粒ごく少量混ざる	土師質
166	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　坏	体部 ～底部	②(7.4)	①②灰白色(N7/)	0.5～1mmの長石含む	
167	谷埋土2 下層	須恵器　坏	体部 ～底部	②(7.2)	①②灰色(N6/)	密:0.2～3mmの砂粒少量混ざる	
168	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　坏	底部	②(7.8)	①②灰色(N6/)	0.5～2mmの長石含む	
169	南区 谷埋土2 下層	須恵器　坏	体部 ～底部	②(9.0)	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmの砂粒やや多く混ざる	
170	谷埋土2 下層	須恵器　坏	底部	②(7.8)	①②灰色(N6/)～灰黄色(2.5Y7/2)	密:0.2～1.5mmの砂粒少量混ざる	
171	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　坏	口縁部 ～底部	①(11.2) ②(8.2) ③3.45	①灰色(N4/) ②灰色(N6/)	0.5～1mmの長石含む	
172	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　坏	底部	②(8.0)	①灰色(N8/) ②青灰色(5B6/1)	0.5～1mmの長石含む	
173	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　坏	体部 ～底部	②(7.6)	①灰色(5Y6/1) ②灰色(10Y6/1)	0.5～3mmの長石・石英含む	
174	中区 谷埋土2 下層	須恵器　坏	底部	②(6.4)	①②灰白色(5Y7/1)	0.5～1mmの長石・石英含む	
175	南区 谷埋土2 下層	須恵器　坏	口縁部 ～底部	①(15.8) ②(12.0) ③(3.15)	①青灰色(10BG5/1) ②青灰色(10BG6/1)	0.5～3mmの長石含む	
176	中区 谷埋土2 下層	須恵器　坏	体部 ～底部		①②灰白色(2.5Y8/2)	密:0.2～1mmの砂粒(雲母入る)ごく少量混ざる	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
177	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　坏	口縁部 ～体部	①(11.8)	①灰白色(N7/) ②灰色(N6/)	0.5mmの長石含む	
178	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　坏	口縁部 ～体部	①(12.9)	①②灰黄色(2.5Y7/2)	0.5mmの長石含む	
179	南区 谷埋土2 下層	須恵器　坏	口縁部	①(12.0)	①灰色(N6/) 灰白色(N7/) ②灰色(N6/)	密:0.2～0.5mmの砂粒少量混ざる	
180	中区 谷埋土2 下層	須恵器　坏	口縁部	①(12.6)	①灰白色(10Y7/1) ②灰黄色(2.5Y7/2)	0.5mmの長石含む	
181	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　坏	口縁部	①(15.1)	①②灰色(10Y6/1)	0.5～1mmの長石含む	
182	南区 谷埋土2 下層	須恵器　坏蓋	口縁部		①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmの砂粒多く混ざる	
183	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　坏	口縁部		①灰白色(5Y7/1) ②灰白色(N7/)	0.5～5mmの長石含む	
184	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　坏	口縁部		①灰色(N4/) ②灰色(N6/)	0.5mmの長石含む	
185	中区 谷埋土2 下層	須恵器　坏	口縁部		①②灰白色(N7/)	0.5～2mmの長石・石英含む	
186	西区 谷埋土2 下層	須恵器　坏	口縁部		①②灰白色(5Y7/1)	密:0.2～2mmの白色砂粒ごく少量混ざる	
187	南区 谷埋土2 下層	須恵器　坏	口縁部		①灰白色(N7/) ②灰白色(N8/)	0.5～3mmの長石・石英含む	
188	南区 谷埋土2 下層	須恵器　高台付皿	口縁部 ～底部	①(16.5) ②8.8③4.65	①灰色(N4/) ②灰白色(N7/)	1～3mmの長石・石英含む	底部外面墨書
189	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　皿	口縁部 ～底部	①(15.8)	①灰白色(N7/) ②灰色(N6/)	0.1～0.3mmの砂粒含む	
190	中区 谷埋土2 下層	須恵器　皿か	口縁部	①(11.8)	①②青灰色(5B6/1)	0.5～3mmの長石含む	
191	南区 谷埋土2 下層	須恵器　皿	口縁部 ～底部	①(17.2) ②(13.8) ③(2.1)	①灰白色(N7/) 灰色(N5/) ②灰白色(N7/)	0.5～2mmの長石含む	
192	南区 谷埋土2 下層	須恵器　皿	口縁部		①黄灰色(2.5Y6/1) ②灰色(N6/)	密:0.2～1mmの砂粒多く混ざる	
193	南区 谷埋土2 下層	須恵器　高坏	坏部		①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmの砂粒ごく少量混ざる	
194	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　高坏	坏底部		①暗灰色(N3/) ②灰白色(2.5Y7/1)	0.5～1mmの長石・石英含む	
195	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　高坏	坏底部 ～脚部		①②灰白色(N7/)	0.5～5mmの長石含む	
196	南区 谷埋土2 下層	須恵器　高坏	坏底部 ～脚部	②(10.0)	①②暗灰色(N3/)	密:0.2～0.5mmの砂粒ごく少量混ざる	土師質
197	中区 谷埋土2 下層	須恵器　高坏	坏底部 ～脚部	②(9.8)	①灰色(7.5Y6/1) ②灰白色(N7/)	0.5～2mmの長石含む	
198	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　高坏	坏底部 ～脚裾部	②(9.6)	①②灰白色(N7/)	0.5～1mmの長石含む	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
199	中区 谷埋土2 下層	須恵器　高坏	裾部	②(10.2)	①灰色(N5/) ②灰色(N6/)	0.5～1mmの長石含む	
200	西区 谷埋土2 下層	須恵器　高坏	裾部	②(13.2)	①②灰色(N6/)	密:0.2～1.5mmの砂粒ごく少量混ざる	
201	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　高坏	脚部		①暗灰色(N3/) ②灰白色(5Y7/1)	0.1～0.3mmの砂粒含む	
202	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　高坏	口縁部		①灰白色(N7/) ②灰色(N6/)	0.5mmの長石含む	
203	中区 谷埋土2 下層	須恵器　高坏	口縁部		①②灰白色(N7/)	密:0.2～0.5mmの砂粒やや多く混ざる	
204	南区 谷埋土2 下層	須恵器　高坏	口縁部		①灰色(N5/) ②灰色(N6/)	1mmの長石含む	
205	南区 谷埋土2 下層	須恵器　鉢か	体部 ～底部	②(6.0)	①②灰色(N6/)	密:0.2～1mmの砂粒少量混ざる	
206	中区 谷埋土2 下層	須恵器　硯か	脚部		①灰白色(2.5Y7/1) ②灰白色(2.5Y8/2)	0.1～0.3mmの砂粒含む	
207	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　坏蓋	天井部		①②灰白色(10Y8/1)	0.1～0.3mmの砂粒含む	鉄付着
208	南区 谷埋土2 下層	緑釉陶器　椀	底部		(釉薬)赤褐色(5YR4/6) (素地)にぶい黄橙色(10YR7/2)	精緻	
209	中区 谷埋土2 下層	緑釉陶器　椀	体部		(釉薬)灰オリーブ色(7.5Y5/1) (素地)灰白色(2.5Y8/2)	0.2mmの砂粒含む	
210	西端部 谷埋土2 下層	土師器　高台付坏	底部	②(7.0)	①灰白色(2.5Y8/1) ②灰白色(5Y8/2)	0.5mmの長石含む	
211	南区 谷埋土2 下層	土師器　高台付坏	体部 ～底部	②(7.6)	①灰黄色(2.5Y7/2) ②灰白色(2.5Y8/2)	密:0.2～1.5mmの砂粒少量混ざる	
212	南区 谷埋土2 下層	土師器　高台付坏	底部	②6.2	①②橙色(7.5YR7/6)	密:0.2～1mmの砂粒少量混ざる	円盤高台
213	南区 谷埋土2 下層	土師器　高台付坏	底部	②(5.6)	①にぶい黄橙色(10YR7/3) ②浅黄色(7.5YR8/3)	0.1～0.3mmの砂粒含む	円盤高台
214	南区 谷埋土2 下層	土師器　坏	底部	②(9.0)	①(底部)黄灰色(2.5Y5/1) (体部)にぶい黄橙色(10YR6/3) ②褐灰色(10YR5/1)	密:0.2～1mmの砂粒少量混ざる	
215	中区 谷埋土2 下層	土師器　坏	底部	②(9.6)	①②灰色(5Y5/1)	0.5～1mmの長石含む	
216	南区 谷埋土2 下層	土師器　坏	底部	②(5.8)	①②灰黄色(2.5Y7/2)	密:0.2～1mmの砂粒少量混ざる	
217	西端部 谷埋土2 下層	土師器　坏	底部	②(4.6)	①暗灰黄色(2.5Y5/2) ②灰黄色(2.5Y6/2)	0.5～2mmの長石・石英・チャート含む	底部糸切り痕
218	西端部 谷埋土2 下層	土師器　坏	底部	②(6.7)	①灰白色(5Y8/2) ②灰白色(2.5Y8/2)	0.1～0.3mmの砂粒含む	
219	南区 谷埋土2 下層	土師器　坏	底部	②(6.0)	①②灰白色(2.5Y8/2)	やや粗:0.2～1mmの砂粒多く混ざる	
220	西端部 谷埋土2 下層	土師器　坏	口縁部 ～底部	①(12.8) ②(6.8) ③4.2	①灰黄色(2.5Y7/2) ②浅黄色(2.5Y7/3)	0.5～3mmの長石含む	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
221	西端部 谷埋土2 下層	土師器　坏	口縁部 ～底部	③3.5	①灰黄色(2.5Y7/2) ②灰白色(2.5Y7/1)	0.5～1mmの長石・石英含む	
222	南区 谷埋土2 下層	土師器　坏	底部	②(7.4)	①(底部)黒色(2.5Y2/1) (体部)灰黄色(2.5Y7/2) ②黒色(2.5Y2/1)	密:0.2～1.5mmの砂粒多く混ざる	
223	西区 谷埋土2 下層	土師器　坏	底部	②(10.6)	①黄灰色(2.5Y5/1) ②暗灰黄色(2.5Y5/2)	密:0.2～4mmの砂粒少量混ざる	
224	南区 谷埋土2 下層	土師器　坏	口縁部	①(14.4)	①浅黄色(2.5Y7/3) 黒色(2.5Y2/1) ②浅黄色(2.5Y7/3)	密:0.2～0.5mmの砂粒少量混ざる	
225	中区 谷埋土2 下層	土師器　坏	口縁部		①②灰白色(5Y7/1)	密:0.2～0.5mmの砂粒多く混ざる	
226	南区 谷埋土2 下層	土師器　椀	口縁部		①灰黄色(2.5Y6/2) ②黄灰色(2.5Y4/1)	0.5～1mmの長石・石英含む	
227	南区 谷埋土2 下層	土師器　高坏	坏底部 ～脚部		①にぶい橙色(10YR6/4) ②浅黄色(2.5Y7/3)	0.5～2mmの長石・石英含む	
228	西端部 谷埋土2 下層	土師器　坏	口縁部 ～体部	①(16.4)	①②淡黄色(2.5Y8/3)	1mmの長石含む	
229	南区 谷埋土2 下層	土師器　高台付坏	底部	②(7.4)	①にぶい黄橙色(10YR7/3) ②黒色(N2/)	0.5～1mmの長石含む	
230	南区 谷埋土2 下層	土師器　皿	ほぼ完存	①17.4②13.8 ③2.5	①灰白色(2.5Y8/2)～暗灰色(N3/) ②灰白色(2.5Y8/1～8/2)	密:0.2～1mmの砂粒ごく少量混ざる	須恵器模倣
231	南区 谷埋土2 下層	土師器　坏	底部		①②にぶい橙色(7.5YR6/4)	密:0.2～1mmの砂粒ごく少量混ざる	都城系土師器
232	南区 谷埋土2 下層	土師器　皿か	底部		①②にぶい赤褐色(5YR5/4)	密:0.2～0.5mmの砂粒ごく少量混ざる	都城系土師器
233	南区 谷埋土2 下層	土師器　皿か	底部		①②にぶい橙色(7.5YR6/4)	密:0.2mmの細砂粒ごく少量混ざる	都城系土師器
234	南区 谷埋土2 下層	土師器　皿	口縁部 ～底部		①②にぶい橙色(7.5YR6/4)	密:0.2mmの細砂粒(雲母)ごく少量混ざる	都城系土師器
235	西区 谷埋土2 下層	須恵器　直口壺	口縁部 ～肩部	①(10.2)	①灰白色(N7/) (灰被り部)灰白色(N8/) ②灰白色(N7/)	密:0.2～3mmの砂粒やや多く混ざる	
236	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　壺	体部		①②灰白色(N7/)	0.5～3mmの長石含む	
237	南区 谷埋土2 下層	須恵器　長頸壺	体部		①灰色(N6/)～オリーブ灰色(2.5GY6/1) (灰)淡黄色(2.5Y8/3) ②灰色(N6/)	密:0.2～1.5mmの砂粒少量混ざる	坏高台癒着
238	中区 谷埋土2 下層	須恵器　壺	底部	②(9.0)	①②灰白色(N7/)	0.5～2mmの長石含む	
239	中区 谷埋土2 下層	須恵器　壺	底部	②(9.0)	①(体部)暗青灰色(5B4/1) (底部)青灰色(5B6/1) ②青灰色(5B6/1)	密:0.2～4mmの砂粒やや多く混ざる	
240	南区 谷埋土2 下層	須恵器　壺類	高台		①灰色(5Y6/1) ②灰色(N6/)	密:0.2～0.5mmの砂粒ごく少量混ざる	
241	南区 谷埋土2 下層	須恵器　甑か	口縁部		①灰白色(2.5Y7/1) ②灰色(N6/)	密:0.2～1mmの砂粒ごく少量混ざる	
242	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　不明	口縁部	①(10.4)	①灰白色(10Y8/1) ②灰白色(5Y8/2)	0.5～2mmの長石含む	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
243	南区 谷埋土2 下層	須恵器　甕	口縁部		①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmの砂粒やや多く混ざる	
244	西端部 谷埋土2 下層	須恵器　甕	頸部 ～肩部		①②灰色(N6/)	0.5～1mmの長石含む	
245	中区 谷埋土2 下層	須恵器　甕	頸部		①灰色(5Y6/1) ②灰白色(N7/)	0.5～3mmの長石含む	
246	南区 谷埋土2 下層	土師器　甕	口縁部 ～体部	①(24.8)	①褐灰色(7.5YR5/2) ②黒褐色(2.5Y3/1)	0.5～1mmの長石・石英含む	
247	南区 谷埋土2 下層	土師器　甕	口縁部 ～体部		①黒色(N2/) ②灰黄褐色(10YR4/2)	0.5～3mmの長石・石英含む	
248	南区 谷埋土2 下層	土師器　甕	口縁部		①②浅黄色(2.5Y7/3)	密:0.2～1mmの砂粒少量混ざる	
249	中区 谷埋土2 下層	土師器　甕	口縁部		①②浅黄色(2.5Y7/3)	0.5～2mmの長石・石英・チャート含む	煤付着
250	南区 谷埋土2 下層	土師器　甕	口縁部		①浅黄色(2.5Y7/3) ②淡黄色(2.5Y8/3)	密:0.2～0.5mmの砂粒ごく少量混ざる	
251	西端部 谷埋土2 下層	土師器　甕	口縁部		①②にぶい黄色(2.5Y6/3)	0.5～1mmの長石・クサリ礫含む	
252	西端部 谷埋土2 下層	土師器　小壺か	口縁部	①(3.6)	①②浅黄色(2.5Y8/3)	砂粒を含まない	
253	西端部 谷埋土2 上層	須恵器　坏蓋	天井部 ～口縁部	①(12.2)	①②灰色(N6/)	0.5mmの長石含む	
254	中区 谷埋土2 上層	須恵器　坏蓋	天井部 ～口縁部	①(14.6)	①②灰色(N6/)	0.5～2mmの長石含む	
255	中区 谷埋土2 上層	須恵器　坏蓋	天井部 ～口縁部	①(17.6)	①灰白色(N7/) ②灰色(N6/)	0.5～3mmの長石含む	撮剥離痕
256	西端部 谷埋土2 上層	須恵器　坏蓋	天井部 ～口縁部	①(13.7)	①灰色(10Y6/1) ②灰色(N5/)	0.5～1mmの長石含む	
257	西端部 谷埋土2 上層	須恵器　坏蓋	天井部 ～口縁部	①(12.7)	①明青灰色(10BG7/1) ②青灰色(10BG6/1)	0.5～3mmの長石含む	
258	西端部 谷埋土2 上層	須恵器　坏蓋	天井部 ～口縁部	①(13.8)	①灰白色(N7/) ②灰色(N5/)	0.5～1mmの長石含む	
259	西端部 谷埋土2 上層	須恵器　坏蓋	天井部 ～口縁部	①(12.4)	①灰色(10Y6/1) ②灰白色(7.5Y7/1)	0.5～1mmの長石含む	
260	中区 谷埋土2 上層	須恵器　坏蓋	天井部 ～口縁部	①(17.8)	①②灰色(N6/)	0.5～2mmの長石含む	内面墨痕 外面墨書
261	西端部 谷埋土2 上層	須恵器　坏蓋	天井部		①②灰白色(N7/)	0.5～1mmの長石含む	
262	南区 谷埋土2 上層	須恵器　坏蓋	天井部		①灰白色(N7/) ②灰色(N6/)	0.5～1mmの長石含む	
263	南区 谷埋土2 上層	須恵器　坏蓋	天井部		①②灰白色(N7/)	0.5～1mmの長石含む	
264	南区 谷埋土2 上層	須恵器　坏蓋	天井部		①②灰色(N6/)	0.5～2mmの長石含む	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
265	中区 谷埋土2 上層	須恵器　坏蓋	天井部		①②灰白色(N7/)	0.5mmの長石含む	
266	南区 谷埋土2 上層	須恵器　坏蓋	天井部 ～口縁部		①灰色(5Y5/1) ②灰色(5Y6/1)	0.5～5mmの長石含む	
267	南区 谷埋土2 上層	須恵器　坏蓋	天井部		①②灰色(N6/)	0.5～1mmの長石含む	
268	南区 谷埋土2 上層	須恵器　坏蓋	口縁部		①灰白色(N7/)～灰色(N5/) ②灰色(N4/)	密:0.2～0.5mmの砂粒少量混ざる	
269	中区 谷埋土2 上層	須恵器　坏蓋	口縁部		①灰白色(N8/) ②灰白色(N7/)	0.5～2mmの長石含む	
270	西端部 谷埋土2 上層	須恵器　坏蓋	口縁部		①②灰白色(N7/)	0.5mmの長石含む	
271	西端部 谷埋土2 上層	須恵器　蓋	天井部 ～口縁部		①②灰色(N6/)	0.5～2mmの長石含む	
272	中区 谷埋土2 上層	須恵器　坏蓋	口縁部		①灰白色(N8/) ②灰白色(N7/)	0.5mmの長石含む	
273	南区 谷埋土2 上層	須恵器　坏蓋	口縁部		①灰色(N5/) ②灰色(N6/)	0.5～3mmの長石含む	
274	南区 谷埋土2 上層	須恵器　坏蓋	口縁部		①②灰色(N6/)	0.5～1mmの長石含む	
275	南区 谷埋土2 上層	須恵器　坏蓋	口縁部		①②灰色(N6/)	0.5～1mmの長石含む	
276	中区 谷埋土2 上層	須恵器　坏蓋	口縁部		①②灰色(N6/)	0.5～2mmの長石含む	
277	南区 谷埋土2 上層	須恵器　坏蓋	口縁部		①灰色(N5/) ②灰色(N6/)	0.5～1mmの長石含む	
278	南区 谷埋土2 上層	須恵器　坏蓋	口縁部		①②浅黄色(2.5Y7/3)	密:0.2～0.5mmの砂粒ごく少量混ざる	土師質
279	南区 谷埋土2 上層	須恵器　坏蓋	口縁部		①②灰色(N5/)	0.5～2mmの長石含む	
280	中区 谷埋土2 上層	須恵器　高台付坏	底部	②(7.3)	①②灰色(N6/)	0.5～1mmの長石含む	
281	中区 谷埋土2 上層	須恵器　高台付坏	底部	②(6.3)	①灰色(N5/) ②灰色(N6/)	0.5～1mmの長石含む	
282	南区 谷埋土2 上層	須恵器　高台付坏	底部	②(7.6)	①灰白色(N7/)～灰色(N6/) ②灰色(N6/)	密:0.2～1mmの砂粒ごく少量混ざる	高台打ち欠き
283	南区 谷埋土2 上層	須恵器　高台付坏	底部	②(9.4)	①②灰色(N6/)	0.5～1mmの長石含む	328と同一個体か
284	西端部 谷埋土2 上層	須恵器　高台付坏	底部	②(7.4)	①②青灰色(5B6/1)	0.5～2mmの長石含む	
285	西端部 谷埋土2 上層	須恵器　高台付坏	底部	②(7.8)	①②灰白色(N7/)	0.5～2mmの長石含む	
286	南区 谷埋土2 上層	須恵器　高台付坏	底部	②(7.0)	①灰白色(2.5Y8/1) ②灰黄色(2.5Y7/2)	0.5～2mmの長石・石英含む	土師質

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
287	南区 谷埋土2 上層	須恵器　高台付坏	底部	②(8.0)	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	0.5～1mmの長石含む	
288	中区 谷埋土2 上層	須恵器　高台付坏	底部	②(10.0)	①②灰色(N6/)	0.5～1mmの長石含む	
289	西端部 谷埋土2 上層	須恵器　高台付坏	底部	②(8.3)	①②灰色(N5/)	0.5～3mmの長石含む	
290	西端部 谷埋土2 上層	須恵器　高台付坏	底部	②(5.4)	①②灰白色(N7/)	0.5～1mmの長石含む	
291	南区 谷埋土2 上層	須恵器　高台付坏	底部	②(8.4)	①明青灰色(5B7/1) ②灰色(N6/)	0.5～3mmの長石含む	
292	南区 谷埋土2 上層	須恵器　高台付坏	底部	②(7.6)	①②灰色(N6/)	0.5～2mmの長石含む	
293	中区 谷埋土2 上層	須恵器　高台付坏	底部	②(6.6)	①青灰色(10BG6/1) ②青灰色(5BG6/1)	0.5～3mmの長石含む	
294	南区 谷埋土2 上層	須恵器　高台付坏	底部	②(10.4)	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmの砂粒やや多く混ざる	
295	中区 谷埋土2 上層	須恵器　高台付坏	底部	②(10.9)	①灰色(N5/) ②灰色(N6/)	0.5～2mmの長石・石英含む	
296	中区 谷埋土2 上層	須恵器　高台付坏	底部	②(7.2)	①緑灰色(5G5/1) ②青灰色(10BG5/1)	0.5～2mmの長石含む	
297	西端部 谷埋土2 上層	須恵器　高台付坏	体部 ～底部	②(10.2)	①オリーブ灰色(2.5GY6/1) ②緑灰色(5G6/1)	0.5～3mmの長石含む	
298	西端部 谷埋土2 上層	須恵器　高台付坏	体部 ～底部	②(7.6)	①②青灰色(5B5/1)	0.5～3mmの長石・石英含む	
299	西端部 谷埋土2 上層	須恵器　高台付坏	底部	②(7.4)	①灰色(N4/) ②灰色(N5/)	0.5～1mmの長石含む	
300	中区 谷埋土2 上層	須恵器　高台付坏	底部	②(7.5)	①灰白色(N7/) ②灰色(N6/)	0.5～2mmの長石含む	
301	西端部 谷埋土2 上層	須恵器　高台付坏	底部	②(10.2)	①②青灰色(5B6/1)	0.5～3mmの長石含む	
302	中区 谷埋土2 上層	須恵器　高台付坏	底部	②(9.4)	①②灰色(N6/)	0.5～1mmの長石含む	
303	南区 谷埋土2 上層	須恵器　高台付坏	底部		①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmの砂粒やや多く混ざる	
304	南区 谷埋土2 上層	須恵器　高台付坏	底部		①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmの砂粒ごく少量混ざる	
305	南区 谷埋土2 上層	須恵器　高台付坏	底部		①灰色(N6/) ②灰色(7.5Y6/1)	密:0.2～2mmの砂粒少量混ざる	
306	南区 谷埋土2 上層	須恵器　高台付坏	底部		①②灰色(N5/)	0.5～1mmの長石含む	
307	南区 谷埋土2 上層	須恵器　高台付坏	底部		①②灰色(N6/)	密:0.2～2mmの砂粒やや多く混ざる	
308	西端部 谷埋土2 上層	須恵器　坏	底部	②6.0	①灰白色(N8/) ②灰白色(N7/)	0.5mmの長石含む	ヘラ記号

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
309	中区 谷埋土2 上層	須恵器　坏	底部	②(5.8)	①②灰色(7.5Y6/1)	0.5～2mmの長石含む	
310	西端部 谷埋土2 上層	須恵器　坏	体部 ～底部	②(6.8)	①②灰白色(N7/)	0.5～2mmの長石含む	
311	西端部 谷埋土2 上層	須恵器　坏	底部	②(7.4)	①灰黄色(2.5Y6/2) ②にぶい黄橙色(10YR6/3)	0.5～5mmの長石・チャート含む	
312	中区 谷埋土2 上層	須恵器　坏	口縁部 ～底部	①(13.2) ②(8.0)③3.9	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	0.5～3mmの長石含む	
313	西端部 谷埋土2 上層	須恵器　坏	体部 ～底部	②(7.0)	①②灰白色(10Y6/1)	0.5～2mmの長石含む	
314	中区 谷埋土2 上層	須恵器　坏	底部	②(8.0)	①②灰白色(N7/)	0.5～3mmの長石含む	
315	西端部 谷埋土2 上層	須恵器　坏	底部	②(7.8)	①②灰白色(10Y7/1)	0.5～3mmの長石含む	
316	南区 谷埋土2 上層	須恵器　坏	底部	②(9.6)	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	0.5～2mmの長石含む	
317	西端部 谷埋土2 上層	須恵器　坏	口縁部 ～底部	①(12.4) ②(7.4) ③3.9	①②灰白色(10Y7/1)	0.5～3mmの長石含む	
318	中区 谷埋土2 上層	須恵器　坏	底部	②(6.8)	①②灰色(N6/)	0.5～2mmの長石含む	
319	西端部 谷埋土2 上層	須恵器　坏	体部 ～底部	②(5.2)	①②灰色(N5/)	0.5～3mmの長石含む	
320	西端部 谷埋土2 上層	須恵器　坏	体部 ～底部	②(7.4)	①②灰色(10Y6/1)	0.5～2mmの長石含む	
321	南区 谷埋土2 上層	須恵器　坏	底部		①灰白色(5Y7/1) ②灰白色(2.5Y8/1)	0.5～2mmの長石含む	
322	南区 谷埋土2 上層	須恵器　坏	底部	②(7.6)	①灰色(7.5Y6/1) ②灰色(10Y6/1)	0.5～1mmの長石含む	底部内面ヘラ記号
323	南区 谷埋土2 上層	須恵器　坏	口縁部		①灰色(N6/) ②灰色(N4/)	0.5～1mmの長石含む	
324	南区 谷埋土2 上層	須恵器　坏	口縁部		①灰色(N4/) ②灰黄色(2.5Y6/2)	0.5～3mmの長石含む	土師質
325	西端部 谷埋土2 上層	須恵器　坏	口縁部	①(10.2)	①明青灰色(5B4/1) ②灰色(N5/)	0.5～1mmの長石含む	
326	西端部 谷埋土2 上層	須恵器　坏	口縁部	①(11.4)	①②灰白色(N7/)	0.5～3mmの長石含む	
327	南区 谷埋土2 上層	須恵器　坏	口縁部		①②灰黄色(2.5Y7/2)	0.1～0.3mmの砂粒含む	土師質
328	南区 谷埋土2 上層	須恵器　坏	口縁部 ～体部		①灰色(N6/) ②灰色(N5/)	0.5～1mmの長石含む	283と同一個体か
329	南区 谷埋土2 上層	須恵器　坏	口縁部		①②灰白色(N7/)	0.5～1mmの長石含む	
330	南区 谷埋土2 上層	須恵器　坏	口縁部		①②灰色(N6/)	1mmの長石含む	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
331	南区 谷埋土2 上層	須恵器　坏	口縁部		①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmの砂粒やや多く混ざる	
332	西端部 谷埋土2 上層	須恵器　坏	口縁部		①②灰白色(N7/)	0.5～1mmの長石含む	
333	中区 谷埋土2 上層	須恵器　坏	口縁部 ～体部	①(12.4)	①②灰白色(10Y7/1)	0.5～1mmの長石含む	
334	南区 谷埋土2 上層	須恵器　坏	口縁部		①②灰白色(N7/)	0.1～0.3mmの砂粒含む	
335	南区 谷埋土2 上層	須恵器　坏	口縁部		①浅黄色(2.5Y7/3) ②灰白色(2.5Y8/2)	0.1～0.3mmの砂粒含む	土師質
336	西端部 谷埋土2 上層	須恵器　坏	口縁部 ～底部	①(13.7) ②(10.4)③3.75	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	0.5～1mmの長石含む	
337	南区 谷埋土2 上層	須恵器　椀	口縁部 ～体部		①②灰白色(2.5Y7/1)～灰黄色(2.5Y7/2)	密:0.2～3mmの砂粒少量混ざる	土師質
338	中区 谷埋土2 上層	須恵器　坏	口縁部 ～体部		①灰色(N6/) ②オリーブ灰色(2.5GY6/1)	0.5～1mmの長石含む	
339	南区 谷埋土2 上層	須恵器　坏	口縁部		①②灰色(N6/)	0.5mmの長石含む	
340	南区 谷埋土2 上層	須恵器　高台付皿	坏部 ～底部	②(9.4)	①灰白色(2.5Y8/2) ②灰黄色(2.5Y7/2)	0.5mmの長石含む	土師質 ヘラ記号
341	西端部 谷埋土2 上層	須恵器　高台付皿	口縁部 ～底部	①(15.9) ②(10.4)③4.45	①②明青灰色(5PB7/1)	0.5～2mmの長石含む	
342	南区 谷埋土2 上層	須恵器　高台付皿	口縁部 ～底部	①(11.2) ②(7.4)	①②灰色(N5/)	0.5～2mmの長石含む	
343	中区 谷埋土2 上層	須恵器　皿	口縁部 ～底部		①灰色(N5/) ②灰色(N6/)	0.5～3mmの長石含む	
344	南区 谷埋土2 上層	須恵器　高台付皿	口縁部		①青灰色(5B6/1) ②青灰色(10BG6/1)	0.5～2mmの長石含む	
345	南区 谷埋土2 上層	須恵器　皿	口縁部		①②灰白色(2.5Y8/2)	0.3mmの砂粒含む	土師質
346	南区 谷埋土2 上層	須恵器　高坏	坏部 ～脚部	②(8.6)	①灰色(5Y4/1) ②灰色(5Y4/1) 灰白色(2.5Y8/2)	0.3～0.5mmの砂粒含む	
347	南区 谷埋土2 上層	須恵器　高坏	坏部		①灰白色(N7/) ②灰白色(N8/)	0.5～1mmの長石含む	
348	南区 谷埋土2 上層	須恵器　高坏	脚部		①灰色(5Y6/1) ②灰白色(N7/)	0.5～5mmの長石含む	
349	中区 谷埋土2 上層	須恵器　高坏	口縁部		①②灰白色(N7/)	0.5～1mmの長石含む	
350	中区 谷埋土2 上層	須恵器　高坏	口縁部		①②灰色(N6/)	0.5mmの長石含む	
351	南区 谷埋土2 上層	須恵器　蓋	天井部		①灰色(7.5Y6/1) ②灰色(N6/)	0.5～2mmの長石含む	
352	中区 谷埋土2 上層	須恵器　蓋か	天井部 ～口縁部	①(15.3)	①②灰白色(N7/)	0.5～3mmの長石・石英含む	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
353	中区 谷埋土2 上層	須恵器　硯	脚部		①②灰色(N6/)	0.5～1mmの長石含む	両側面透かし
354	中区 谷埋土2 上層	緑釉陶器　椀	底部	②(7.0)	(釉薬)灰オリーブ色 (7.5Y5/3) (素地)灰白色(2.5Y8/2)	0.1～0.3mmの砂粒含む	
355	南区 谷埋土2 上層	緑釉陶器　椀	底部		(釉薬)暗緑灰色 (7.5GY3/1) (素地)浅黄色(2.5Y7/3)	0.3mmの砂粒含む	
356	西端部 谷埋土2 上層	緑釉陶器　椀	底部	②(6.0)	①(釉薬)オリーブ黄色 (2.5Y6/1) ①②(素地)黄灰色 (2.5Y6/1)	0.5mmの長石含む	
357	南区 谷埋土2 上層	緑釉陶器　椀	口縁部		(釉薬)暗緑灰色(10GY4/1) (素地)淡黄色(2.5Y8/3)	密:0.1～0.2mmの砂粒ごく少量混ざる	
358	中区 谷埋土2 上層	緑釉陶器　椀	底部		(釉薬)オリーブ褐色 (2.5Y4/4) (素地)淡黄色(2.5Y8/3)	0.3～0.5mmの砂粒含む	
359	南区 谷埋土2 上層	灰釉陶器　皿	口縁部		①(釉薬)灰白色(5Y8/2) ②(釉薬)灰白色(5Y8/2) 灰オリーブ色(7.5Y6/2) ①②(素地)灰白色(5Y8/1)	砂粒を含まない	
360	南区 谷埋土2 上層	土師器　坏蓋	口縁部		①黄灰色(2.5Y5/1) ②淡黄色(2.5Y4/1)～黄灰色(2.5Y5/1)	やや粗:0.2～1mmの砂粒少量混ざる	須恵器模倣
361	中区 谷埋土2 上層	土師器　坏蓋	天井部 ～口縁部	①(16.4)	①②黄灰色(2.5Y5/1)	0.5～2mmの長石・石英含む	須恵器模倣
362	南区 谷埋土2 上層	土師器　坏蓋	口縁部		①②(塗彩)明赤褐色 (2.5YR5/6) (素地)にぶい黄橙色 (10YR6/4)	密:0.2mmの砂粒ごく少量混ざる	赤色塗彩
363	南区 谷埋土2 上層	土師器　高台付坏	底部	②(6.3)	①にぶい黄橙色(10YR7/3) ②灰黄褐色(10YR6/2)	0.5mmの長石含む	
364	西端部 谷埋土2 上層	土師器　高台付坏	底部	②(6.8)	①浅黄色(2.5Y7/3) ②黄灰色(2.5Y6/2)	0.3mmの砂粒含む	
365	南区 谷埋土2 上層	土師器　高台付坏	底部	②(6.4)	①橙色(5YR6/6)～灰黄色 (2.5Y6/2) ②黄灰色(2.5Y5/1)	密:0.2～2mmの砂粒ごく少量混ざる	
366	南区 谷埋土2 上層	土師器　高台付坏	底部	②(7.6)	①②にぶい褐色(7.5YR6/3)	0.5～1mmの長石・石英含む	
367	中区 谷埋土2 上層	土師器　高台付坏	底部	②(5.9)	①灰白色(10Y8/1) ②灰白色(10Y8/2)	0.5～1mmの長石含む	
368	西端部 谷埋土2 上層	土師器　高台付坏	体部 ～底部	②(7.4)	①②浅黄色(2.5Y8/3)	0.5～2mmの長石・チャート・クサリ礫含む	
369	南区 谷埋土2 上層	土師器　高台付坏	底部	②(7.0)	①灰白色(10YR8/2) ②灰色(5Y4/1)	0.5～1mmの長石含む	
370	南区 谷埋土2 上層	土師器　高台付坏	底部	②(6.3)	①(体部)にぶい黄橙色 (10YR7/2) (底部)灰黄色(2.5Y7/2) ②暗灰色(N3/)	やや粗:0.1～1mmの砂粒多量に含む	
371	中区 谷埋土2 上層	土師器　高台付坏	底部	②4.0	①にぶい黄色(2.5Y6/3) ②灰黄色(2.5Y7/2)	0.5mmの長石含む	
372	南区 谷埋土2 上層	土師器　高台付坏	底部	②(6.6)	①にぶい黄橙色(10YR7/2) ②灰黄褐色(10YR6/2)	0.5～1mmの長石含む	
373	中区 谷埋土2 上層	土師器　高台付坏	底部		①②灰白色(2.5Y8/2)	0.5～1mmの長石・石英・クサリ礫含む	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
374	南区 谷埋土2 上層	土師器　高台付坏	底部		①②灰黄色(2.5Y6/2)	0.5mmの長石含む	
375	中区 谷埋土2 上層	土師器　高台付坏	底部	②(5.9)	①②橙色(7.5YR7/6)	0.5～1mmの長石・クサリ礫含む	円盤高台
376	西端部 谷埋土2 上層	土師器　坏	底部	②(8.0)	①にぶい黄褐色(10YR5/3) ②灰黄色(2.5Y6/2)	0.5～1mmの長石含む	
377	中区 谷埋土2 上層	土師器　坏	底部	②(10.2)	①灰白色(2.5Y8/1) ②浅黄色(2.5Y7/3)	0.5～2mmの長石含む	
378	中区 谷埋土2 上層	土師器　坏	底部	②(6.2)	①灰黄褐色(10YR6/2) ②にぶい黄橙色(10YR7/3)	0.5～3mmの長石・チャート・クサリ礫含む	
379	中区 谷埋土2 上層	土師器　坏	底部	②(7.4)	①灰白色(2.5Y8/2) ②淡黄色(2.5Y8/3)	0.5～1mmの長石含む	
380	西端部 谷埋土2 上層	土師器　坏	底部	②(7.8)	①淡黄色(2.5Y8/3) ②淡黄色(2.5Y8/4)	0.5～3mmの長石含む	
381	西端部 谷埋土2 上層	土師器　坏	底部	②(8.4)	①②浅黄色(2.5Y8/3)	0.5～3mmの長石・石英含む	
382	中区 谷埋土2 上層	土師器　坏	底部		①灰白色(2.5Y8/2) ②灰黄色(2.5Y6/2)	0.5mmの長石含む	ヘラ記号
383	南区 谷埋土2 上層	土師器　坏	底部		①②灰黄色(2.5Y7/2) 黄灰色(2.5Y6/1)	0.5～3mmの長石含む	
384	南区 谷埋土2 上層	土師器　坏	底部		①②灰色(5Y4/1)	0.5～1mmの長石含む	
385	南区 谷埋土2 上層	土師器　坏	底部		①②灰黄色(2.5Y7/2)	0.5～1mmの長石含む	
386	西端部 谷埋土2 上層	土師器　坏	口縁部		①②灰白色(2.5Y8/2)	0.5～1mmの長石含む	
387	南区 谷埋土2 上層	土師器　坏	口縁部		①②淡黄色(2.5Y8/3)	密:0.2～0.5mmの砂粒ごく少量混ざる	
388	西端部 谷埋土2 上層	土師器　皿か	口縁部 ～底部		①②淡黄色(2.5Y8/3)	0.5mmの長石含む	
389	西端部 谷埋土2 上層	土師器　皿か	口縁部 ～底部		①灰黄色(2.5Y6/2) ②浅黄色(2.5Y7/3)	0.5mmの長石含む	
390	南区 谷埋土2 上層	土師器　皿	口縁部		①②にぶい橙色(7.5YR6/4)	密:0.2mmの砂粒ごく少量混ざる	都城系土師器
391	南区 谷埋土2 上層	須恵器　壺	口縁部		①②灰白色(7.5N/) ①(灰)灰色(5Y6/1)	密:0.2～1.5mmの砂粒ごく少量混ざる	
392	南区 谷埋土2 上層	須恵器　長頸壺	体部		①灰白色(N8/) ②灰色(N5/)	0.5～2mmの長石含む	
393	南区 谷埋土2 上層	須恵器　長頸壺	口縁部		①②灰白色(N7/)	0.5～1mmの長石含む	
394	中区 谷埋土2 上層	須恵器　長頸壺	頸部 ～肩部		①灰白色(2.5Y7/1) ②にぶい褐色(7.5YR6/3)	0.5～3mmの長石・石英含む	頸部付け根に突帯
395	西端部 谷埋土2 上層	須恵器　平瓶	体部		①灰白色(N7/) ②灰色(N5/)	0.5～3mmの長石含む	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
396	中区 谷埋土2 上層	須恵器　平瓶	体部		①灰色(5Y7/1) 暗オリーブ灰色(5GY4/1) ②灰白色(N7/)	0.5mmの長石・クサリ礫含む	
397	南区 谷埋土2 上層	須恵器　甑か	口縁部		①灰白色(N7/) ②灰色(N6/)	0.5～1mmの長石含む	
398	西端部 谷埋土2 上層	須恵器　甕	口縁部		①灰色(2.5Y6/1 ②灰白色(N7/)	0.5mmの長石含む	
399	中区 谷埋土2 上層	須恵器　甕	頸部		①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	0.5～1mmの長石含む	
400	中区 谷埋土2 上層	須恵器　甕	頸部		①②灰白色(2.5Y8/2)	0.5～1mmの長石・石英含む	
401	中区 谷埋土2 上層	須恵器　甕	口縁部 ～体部	①(16.5)	①黄灰色(2.5Y6/1) ②灰黄色(2.5Y6/2)	0.5～1mmの長石含む	口縁部内面 ヘラ記号
402	西端部 谷埋土2 上層	須恵器　甕	頸部 ～肩部		①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	0.5～2mmの長石含む	
403	南区 谷埋土2 上層	須恵器　甕	体部 ～底部		①灰白色(N7/) ②灰色(N6/)	0.5～1mmの長石含む	
404 -1	中区 谷埋土2 上層	須恵器　甕	口縁部	①(31.8)	①②灰白色(2.5Y7/1)	0.5～1mmの長石含む	
404 -2	中区 谷埋土2 上層	須恵器　甕	底部	②(20.4)	①②灰白色(2.5Y7/1)	0.5～1mmの長石含む	
405	中区 谷埋土2 上層	須恵器　甕	口縁部 ～肩部	①(17.4)	①灰色(N5/) ②灰色(10Y5/1)	0.5～4mmの長石・石英含む	
406	中区 谷埋土2 上層	土師器　甕	口縁部	①(35.6)	①褐灰色(10YR4/1) ②灰黄褐色(10YR6/2)	0.5～3mmの長石・チャート含む	
407	西端部 谷埋土2 上層	土師器	把手		①にぶい橙色(7.5YR7/4)	0.5～5mmの長石含む	
408	南区 谷埋土2 上層	土師器	把手		①橙色(5YR6/6) ②灰色(5Y4/1)	0.5～3mmの長石・石英含む	
409	南区 谷埋土2 上層	製塩土器	口縁部		①にぶい黄橙色(10YR6/3) ②にぶい黄橙色(10YR7/4)	0.5～3mmの長石・石英含む	六連式
410	西端部 谷埋土2 上層	土師器　不明	体部		①②浅黄色(2.5Y8/3)	0.1～0.3mmの砂粒含む	
411	中区 谷埋土1	須恵器　坏蓋	天井部 ～口縁部	①(14.6)	①灰色(N6/) ②灰白色(5Y7/1)	0.5～2mmの長石・石英含む	
412	南区 谷埋土1	須恵器　坏蓋	天井部 ～口縁部	①(11.4)	①灰白色(N7/) ②灰色(7.5Y6/1)	密:0.2～0.5mmの砂粒少量混ざる	
413	中区 谷埋土1	須恵器　坏蓋	天井部 ～口縁部		①灰色(10Y6/1) ②灰白色(10Y7/1)	0.5～3mmの長石含む	
414	中区 谷埋土1	須恵器　坏蓋	口縁部		①灰白色(N8/) ②灰白色(N7/)	0.5～1mmの長石含む	
415	中区 谷埋土1	須恵器　坏蓋	口縁部		①②灰白色(N7/)	0.5～1mmの長石含む	
416	中区 谷埋土1	須恵器　坏蓋	口縁部		①②灰白色(N7/)	密:0.2～0.5mmの砂粒少量混ざる	
417	中区 谷埋土1	須恵器　坏蓋	口縁部		①(灰)浅黄色(2.5Y7/3) ②灰白色(N7/)	密:0.2mmの砂粒ごく少量混ざる	
418	中部 谷埋土1	須恵器　坏蓋	口縁部		①②青灰色(N7/)	0.1～0.3mmの砂粒含む	
419	中部 谷埋土1	須恵器　坏蓋	口縁部		①②青灰色(N7/)	0.5mmの長石含む	
420	中部 谷埋土1	須恵器　坏蓋	口縁部		①灰白色(5Y7/1) ②灰白色(N7/)	0.5mmの長石含む	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量（cm）①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
421	中区 谷埋土1	須恵器　坏蓋	口縁部		①②灰白色（N7/）	0.5～1mmの長石含む	
422	西端部 谷埋土1	須恵器　坏蓋	口縁部	①（13.0）	①灰白色（N7/） ②灰色（N6/）	0.5～1mmの長石含む	
423	南区 谷埋土1	須恵器　坏蓋	口縁部		①②灰色（N6/）	0.5mmの長石含む	
424	中区 谷埋土1	須恵器　坏蓋	口縁部		①灰色（N5/） ②灰色（N6/）	0.5～1mmの長石含む	
425	中区 谷埋土1	須恵器　高坏	裾部		①灰白色（N7/） ②灰色（N6/）	0.5～2mmの長石含む	
426	中区 谷埋土1	須恵器　坏蓋	口縁部		①灰色（N6/） ②オリーブ灰色（2.5GY6/1）	0.5～1mmの長石含む	
427	西端部 谷埋土1	須恵器　坏蓋	天井部		①灰白色（N8/） ②灰色（N6/）	0.5mmの長石含む	転用硯
428	西端部 谷埋土1	須恵器　高台付坏	底部	②（11.0）	①灰色（N6/） ②灰白色（N7/）	0.5～1mmの長石含む	
429	西端部 谷埋土1	須恵器　高台付坏	底部	②（8.4）	①明青灰色（5B7/1） ②青灰色（5B6/1）	0.5～3mmの長石含む	
430	中区 谷埋土1	須恵器　高台付坏	底部	②（9.0）	①②灰白色（N7/）	0.5～1mmの長石含む	
431	南区 谷埋土1	須恵器　高台付坏	口縁部～底部	①（13.3） ②（8.8）	①灰色（N6/） 褐灰色（7.5YR6/2） ②灰色（N6/）	0.5～3mmの長石含む	
432	中区 谷埋土1	須恵器　高台付坏	体部～底部	②（9.8）	①②灰色（N5/）	0.5～2mmの長石含む	
433	中区 谷埋土1	須恵器　高台付坏	体部～底部	②（10.4）	①灰白色（2.5Y8/1） ②灰白色（5Y8/1）	0.5～1mmの長石・石英含む	
434	南区 谷埋土1	須恵器　高台付坏	底部	②（9.8）	①青灰色（5B5/1） ②青灰色（5B6/1）	0.5～2mmの長石含む	
435	中区 谷埋土1	須恵器　高台付坏	底部	②（11.2）	①②灰色（N6/）	0.5～1mmの長石含む	
436	中区 谷埋土1	須恵器　高台付坏	底部	②（8.8）	①②灰白色（10Y7/1）	0.5～1mmの長石含む	
437	西端部 谷埋土1	須恵器　高台付坏	底部	②（5.6）	①青灰色（10BG5/1） ②明青灰色（5B7/1）	0.5～1mmの長石含む	
438	中区 谷埋土1	須恵器　高台付坏	底部	②（7.6）	①②明青灰色（5B7/1）	0.5～1mmの長石含む	
439	中区 谷埋土1	須恵器　高台付坏	底部	②（8.2）	①②青灰色（5B6/1）	0.5～1mmの長石含む	
440	中区 谷埋土1	須恵器　高台付坏	底部	②（9.2）	①②青灰色（5B5/1）	0.5～1mmの長石含む	
441	西端部 谷埋土1	須恵器　高台付坏	口縁部～底部	①（11.0） ②（5.9） ③4.7	①灰色（N6/） ②灰白色（10Y7/1）	0.5～1mmの長石含む	
442	西端部 谷埋土1	須恵器　高台付坏	底部	②（7.2）	①灰白色（5Y8/1） ②灰白色（5Y8/2）	0.5～3mmの長石含む	
443	中区 谷埋土1	須恵器　高台付坏	底部	②（5.6）	①灰色（N5/） ②灰色（N6/）	0.5～1mmの長石含む	
444	中区 谷埋土1	須恵器　高台付坏	底部		①灰色（N5/～6/） ②灰色（N6/）	密：0.2mmの砂粒ごく少量混ざる	
445	中区 谷埋土1	須恵器　高台付坏	底部		①②灰白色（N7/）	密：0.2～1.5mmの砂粒やや多く混ざる	
446	西端部 谷埋土1	須恵器　坏	底部	②（7.4）	①灰白色（N7/） ②明青灰色（5B7/1）	0.5～1mmの長石含む	
447	西端部 谷埋土1	須恵器　坏	底部	②（7.0）	①②灰白色（5Y7/1）	0.5～1mmの長石含む	
448	中区 谷埋土1	須恵器　坏	底部	②（6.2）	①灰白色（10Y7/1） ②灰白色（5Y7/1）	0.5～1mmの長石・チャート含む	
449	西端部 谷埋土1	須恵器　坏	体部～底部	②（9.0）	①灰白色（5Y8/1） ②灰白色（5Y8/2）	0.5～1mmの長石・石英含む	
450	中区 谷埋土1	須恵器　坏	底部	②（5.2）	①②青灰色（5B6/1）	0.5～1mmの長石含む	
451	中区 谷埋土1	須恵器　坏	体部～底部	②（5.8）	①②灰色（N6/）	0.5～1mmの長石含む	
452	中区 谷埋土1	須恵器　坏	底部	②（2.8）	①灰色（N6/） ②灰白色（N7/）	0.5～1mmの長石含む	ヘラ記号
453	南区 谷埋土1	須恵器　坏	口縁部		①灰色（N5/） ②灰色（N6/）	0.5mmの長石含む	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
454	中区 谷埋土1	須恵器　坏	口縁部	①(12.4)	①②灰色(N6/)	0.5～3mmの長石含む	
455	中区 谷埋土1	須恵器　坏	口縁部		①②青灰色(5PB5/1)	0.1～0.3mmの砂粒含む	
456	南区 谷埋土1	須恵器　坏	口縁部		①②灰白色(N7/)	0.5mmの長石含む	
457	中区 谷埋土1	須恵器　坏	口縁部		①②灰白色(N7/)	0.5～2mmの長石含む	
458	中部 谷埋土1	須恵器　坏	口縁部		①②灰色(N6/)	0.5mmの長石含む	
459	南区 谷埋土1	須恵器　坏	口縁部		①②灰色(N6/)	密:0.2～0.5mmの砂粒やや多く混ざる	
460	南区 谷埋土1	須恵器　皿か	口縁部		①灰白色(N7/) ②灰白色(N8/)	0.1～0.3mmの砂粒含む	
461	西端部 谷埋土1	須恵器　高坏	脚部		①②灰白色(N7/)	0.5～1mmの長石含む	
462	南区 谷埋土1	須恵器　高坏	脚裾部		①灰白色(5Y7/1)～灰色(5Y5/1) ②灰白色(5Y7/1)	密:0.2mmの砂粒ごく少量混ざる	土師質
463	中区 谷埋土1	青磁　椀	体部		(釉薬)灰オリーブ色(7.5Y6/2) (素地)灰白色(5Y7/1)	0.2mmの砂粒含む	
464	中部 谷埋土1	土師器　高台付坏	底部		①淡黄色(2.5Y8/4) ②浅黄橙色(10YR8/4)	0.5～2mmの長石・石英・チャート含む	
465	南区 谷埋土1	土師器　高台付坏	底部		①浅黄色(2.5Y8/3) ②浅黄橙色(10YR8/3)	0.5～1mmの長石・石英含む	
466	西端部 谷埋土1	須恵器　壺	体部		①灰色(N5/) ②灰色(N6/)	0.5～1mmの長石含む	
467	中部 谷埋土1	須恵器　長頸壺	体部 ～底部	②(7.2)	①灰色(N6/) ②灰色(N5/)	0.1～0.3mmの砂粒含む	
468	西端部 谷埋土1	須恵器　高台付壺	底部	②(12.7)	①青灰色(5B6/1) ②灰白色(N7/)	0.5～2mmの長石含む	
469	西端部 谷埋土1	須恵器　甑か	口縁部		①灰黄色(2.5Y7/2) ②灰白色(N7/)	0.5～1mmの長石含む	
470	中区 谷埋土1	須恵器　甕	口縁部		①灰色(N5/) ②灰色(N6/)	0.5～3mmの長石含む	
471	西端部 谷埋土1	須恵器　甕	体部		①灰白色(N7/) ②灰色(N5/)	0.5～2mmの長石含む	車輪文あて具痕
472	西端部 谷埋土1	須恵器　甕	体部		①灰白色(N7/) ②灰色(N6/)	0.5～1mmの長石ふ	
473	西端部 谷埋土1	須恵器　甕	体部		①灰白色(N7/) ②灰色(N6/)	0.5～3mmの長石含む	
474	中部 谷埋土1	土師器　甕	口縁部		①にぶい黄色(2.5Y6/3) ②浅黄色(2.5Y7/4)	0.5～5mmの長石・石英含む	
475	西端部 谷埋土1	土師器　壺	口縁部		①暗灰黄色(2.5Y5/2) ②灰黄色(2.5Y6/2)	0.5～2mmの長石・石英含む クサリ礫含む	
476	西端部 谷埋土1	製塩土器	脚部		①浅黄色(2.5Y7/3)	0.5～3mmの長石・石英含む	美濃ヶ浜式
477	中区 谷埋土1	瓦質土器　羽釜	口縁部		①浅黄色(2.5Y7/3) ②黄灰色(2.5Y4/1)	0.5～1mmの長石・石英含む	
478	中区 谷埋土1	瓦質土器　鉢	口縁部		①灰色(N5/) ②灰白色(5Y7/1)	0.5～3mmの長石・石英含む	
479	東区 谷埋土 1-2	須恵器　高台付坏	口縁部 ～底部	①(14.8) ②(9.1)③4.4	①灰色(N5/)～灰白色(N7/) ②灰色(N6/)	密:0.2～2mmの粗砂粒少量混ざる	
480	東区 谷埋土 1-2	須恵器　高台付坏	底部	②(9.2)	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密:0.2～4mmの白色砂粒少量混ざる	
481	東区 谷埋土 1-2	須恵器　高台付坏	底部		①②灰色(N6/)	密:0.2～1mmの砂粒ごく少量混ざる	
482	東区 谷埋土 1-2	須恵器　壺蓋か	天井部 ～口縁部		①②灰白色(N7/)	密:0.2～0.5mmの砂粒少量混ざる	
483	東区 谷埋土 1-2	須恵器　壺	体部 ～底部		①②灰白色(N7/)	密:0.5～4.5mmの粗砂粒少量混ざる	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
484	東区 谷埋土 1-2	製塩土器			①灰白色(2.5Y7/1) ②橙色(2.5YR6/8)	密:0.1～0.3mmの白色砂粒ごく少量混ざる	六連式
485	東区 谷埋土 1-2	製塩土器			①にぶい黄橙色(10YR7/2) ②橙色(2.5YR6/8)	密:0.1～0.2mmの砂粒少量混ざる	六連式
486	東区 谷埋土 1-2	製塩土器			①にぶい黄橙色(10YR7/2) ②橙色(2.5YR6/8)	密:0.1～0.3mmの砂粒少量混ざる	六連式
487	谷埋土 壁面	須恵器　高台付坏	底部	②(7.8)	①灰色(N5/) ②灰色(N6/)	0.5～3mmの長石・石英含む	
488	谷埋土 壁面	須恵器　高台付坏	底部	②(8.2)	①②灰色(N5/)	0.5～1mmの長石含む	
489	谷埋土	須恵器　坏	底部	②(8.0)	①②灰白色(2.5Y7/1)	0.1～2mmの長石含む	
490	谷埋土 壁面	須恵器　坏	口縁部 ～底部	①(11.4) ②(6.2) ③3.5	①②灰白色(N7/)	0.3～1mmの長石含む	
491	Pit1	須恵器　高台付坏	底部	②(6.2)	①②灰色(N6/)	密:0.2～1mmの砂粒少量混ざる	
492	中区 Pit1	須恵器　坏	体部	②(6.5)	①②灰白色(N7/)	密:0.2～0.5mmの砂粒やや多く混ざる	
493	中区 Pit1	須恵器　不明	端部	端部復元径 (7.4)	①②灰白色(N7/～N8/)	密:0.2mmの砂粒ごく少量混ざる	
494	Pit10	須恵器　坏	ほぼ完存	①11.6～11.8 ②7.6～7.8 ③4.0～4.3	①②灰白色(N7/)～灰色(N6/)	密:0.2～1.5mmの白色砂粒少量混ざる	
495	西区 SK2	須恵器　高坏	坏底部 ～脚部	②(9.8～10.1)	①(脚部)灰白色(N7/)～灰色(N4/) (坏部)褐灰色(7.5YR6/1～6/2) ②(脚部)灰色(N5/)～暗灰色(N3/) (坏部)灰白色(10Y7/1)	密:0.2～1mmの白色砂粒ごく少量混ざる	
496	谷右岸 SD1	須恵器　高坏	坏底部 ～脚部		①②灰色(N6/)	0.5～2mmの長石含む	
497	西区 SD1 西端部	須恵器　坏蓋	天井部 ～口縁部	①(15.0)	①灰白色(N7/) (重ね焼き部)灰色(N5/) (灰)灰白色(N8/) ②灰色(N4/)	密:0.2～1mmの砂粒少量混ざる	
498	SD1	須恵器　坏蓋	天井部		①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	0.5～1mmの長石含む	内面墨付着
499	SD1	須恵器　高台付坏	底部	②(7.7)	①②灰色(N6/)	1mmの長石含む	
500	西区 SD1	須恵器　坏	体部 ～底部	②(6.6)	①灰色(N4/) ②灰白色(2.5Y8/1)	0.5～1mmの長石含む	土師質
501	SD1	須恵器　高坏	口縁部 ～底部	①(13.1) ②(9.6)③9.75	①灰色(10Y4/1) ②灰色(N4/)	0.5～1mmの長石・石英・チャート含む	脚部内面墨書「田」か
502	西区 SD1	須恵器　高坏	坏部	①(14.0)	①灰白色(N7/)～灰色(N4/) ②灰白色(5Y7/1)～灰白色(N7/)	密:0.2～1mmの砂粒ごく少量混ざる	
503	SD1	須恵器　高坏	口縁部		①②灰白色(N7/)	精緻:0.2～0.5mmの砂粒ごく少量混ざる	
504	SD1	土師器　甕	口縁部 ～体部	①(31.0)	①灰黄色(2.5Y7/2) ②灰白色(2.5Y8/2)	0.5～5mmの長石・石英含む	
505	中北部 包含層2	須恵器　坏蓋	撮部～ 天井部		①灰白色(N8/) ②灰白色(N7/)	0.5～2mmの長石含む	口縁部付近加工成形痕
506	中北部 包含層2	須恵器　坏蓋	撮部～ 天井部		①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	0.5～1mmの長石含む	口縁部付近加工成形痕
507	中北部 包含層2	須恵器　坏蓋	天井部 ～口縁部	①(13.2)	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	0.5mmの長石含む	
508	中北部 包含層2	須恵器　坏蓋	口縁部		①灰白色(N8/) ②灰色(N6/)	0.5mmの長石含む	
509	中南部 包含層2	須恵器　坏蓋	口縁部		①②灰白色(N7/)	1mmの長石含む	
510	中北部 包含層2	須恵器　坏蓋	天井部 ～口縁部		①②青灰色(5B6/1)	0.5～1mmの長石含む	
511	中北部 包含層2	須恵器　高台付坏	底部	②(6.8)	①灰白色(N7/) ②灰白色(N8/)	0.5mmの長石含む	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
512	中北部 包含層2	須恵器　高台付坏	口縁部 ～底部	①(13.7) ②(9.0) ③5.3	①青灰色(5PB5/1) ②青灰色(5PB6/1)	0.3～2mmの長石含む	
513	中南部 包含層2	須恵器　高台付坏	底部	②(8.4)	①灰白色(2.5Y8/2) ②灰白色(2.5Y8/1)	0.5～1mmの長石含む	
514	中北部 包含層2	須恵器　高台付坏	底部	②(7.8)	①灰色(N6/) ②欠損のため不明	0.5～3mmの長石含む	
515	中北部 包含層2	須恵器　高台付坏	体部 ～底部	②(9.6)	①灰白色(5Y7/2) ②灰白色(5Y7/1)	0.5～1mmの長石含む	
516	中北部 包含層2	須恵器　高台付坏	底部	②(7.4)	①明オリーブ灰色 (2.5GY7/1) ②灰色(N6/)	0.5～5mmの長石含む	
517	中南部 包含層2	須恵器　高台付坏	底部	②(8.0)	①②青灰色(5B5/1)	0.5mmの長石含む	
518	西北部 包含層2	須恵器　高台付坏	底部	②(8.2)	①②灰色(N6/)	0.5～1mmの長石含む	
519	中南部 包含層2	須恵器　高台付坏	底部	②(6.6)	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	0.5mmの長石含む	ヘラ記号
520	中北部 包含層2	須恵器　高台付坏	底部	②(7.2)	①明オリーブ灰色 (2.5GY7/1) ②オリーブ灰色(2.5GY6/1)	0.5～1mmの長石・石英含む	
521	中北部 包含層2	須恵器　高台付坏	底部	②(7.8)	①②青灰色(5B6/1)	0.5～1mmの長石含む	
522	西端部 包含層2	須恵器　高台付坏	底部	②(7.0)	①②灰白色(N7/)	0.5～1mmの長石含む	
523	中北部 包含層2	須恵器　高台付坏	底部	②(7.2)	①灰色(N6/) ②明オリーブ灰色 (2.5GY7/1)	0.5～1mmの長石含む	
524	中北部 包含層2	須恵器　高台付杯	底部		①青灰色(5B6/1) ②青灰色(5B5/1)	0.5～1mmの長石含む	
525	西端部 包含層2	須恵器　高台付坏	底部	②(7.6)	①灰白色(N7/) ②明オリーブ色(2.5GY7/1)	0.5～1mmの長石含む	
526	西北部 包含層2	須恵器　坏	底部	②(5.2)	①青灰色(5B6/1) ②オリーブ灰色(2.5Y6/1)	0.3～0.5mmの長石含む	
527	中北部 包含層2	須恵器　坏	底部	②(6.6)	①明オリーブ灰色 (2.5GY7/1) ②灰白色(7.5Y7/1)	0.5～1mmの長石含む	底部外面板痕
528	中北部 包含層2	須恵器　坏	底部	②(6.4)	①オリーブ灰色(2.5GY6/1) ②緑灰色(10GY6/1)	0.5～5mmの長石含む	
529	中南部 包含層2	須恵器　坏か	底部		①②灰白色(N8/)	0.5～1mmの長石含む	ヘラ記号
530	中南部 包含層2	須恵器　坏	口縁部	①(14.2)	①②灰白色(N7/)	0.5mmの長石含む	
531	西北部 包含層2	須恵器　坏	口縁部		①②青灰色(5B6/1)	0.5mmの長石含む	
532	西北部 包含層2	須恵器　坏	口縁部		①②灰色(N6/)	0.1mmの砂粒含む	
533	西北部 包含層2	須恵器　坏	口縁部		①②青灰色(5B5/1)	0.5～1mmの長石含む	
534	中北部 包含層2	須恵器　皿	口縁部		①②青灰色(5PB6/1)	0.5～2mmの長石含む	
535	中北部 包含層2	須恵器　皿	口縁部		①青灰色(5B6/1) ②明青灰色(5B7/1)	0.5～1mmの長石含む	高台付か
536	西北部 包含層2	白磁　椀	口縁部	①(14.8)	①②灰白色(7.5Y7/2)	砂粒を含まない	玉縁口縁
537	中北部 包含層2	陶磁器　壺	口縁部		①②オリーブ黄色(5Y6/3)	0.1～0.3mmの砂粒含む	
538	中北部 包含層2	陶器　椀	口縁部 ～体部	①(12.0)	①灰色(5Y5/1) ②灰色(5Y5/1) 灰白色(5Y8/1)	0.1mmの砂粒含む	刷毛目
539	西北部 包含層2	緑釉陶器　椀	体部		(釉薬)浅黄色(7.5Y7/3) (素地)浅黄色(2.5Y7/4)	0.2mmの砂粒含む	
540	中南部 包含層2	土師器　坏	底部	②(7.4)	①②浅黄色(2.5Y8/3)	0.5～1mmの長石・石英含む	ヘラ記号
541	中北部 包含層2	土師器　高台付皿	底部	②3.8	①浅黄色(2.5Y7/3) ②浅黄色(2.5Y7/4)	0.5～1mmの長石・石英含む	
542	西北部 包含層2	土師器　坏	底部	②(5.6)	①②橙色(7.5YR7/6)	1mmの長石含む	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
543	中南部 包含層2	土師器　皿	底部	②(4.4)	①②浅黄色(2.5Y7/3)	0.1～0.3mmの砂粒含む	
544	西北部 包含層2	弥生土器　甕	体部		①②青黒色(5B2/1)	0.5～1mmの長石含む	
545	西北部 包含層2	土師器　甕	口縁部		①②灰白色(2.5Y8/1)	0.5～1mmの長石含む	
546	中南部 包含層2	須恵器　高台付壺	底部		①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	0.5～1mmの長石含む	
547	中北部 包含層2	須恵器　甕	口縁部		①青灰色(5PB5/1) ②明青灰色(5PB7/1)	0.3～1mmの長石含む	
548	西端部 包含層2	須恵器　甕	口縁部		①灰白色(N8/) ②灰白色(5Y7/2)	0.1～0.3mmの砂粒含む	
549	中北部 包含層2	須恵器　甕	口縁部		①②暗青灰色(5B4/1)	0.3～0.5mmの長石含む	
550	西北部 包含層2	須恵器　甕	口縁部		①青灰色(5B6/1) ②灰白色(2.5Y7/1)	0.5mmの長石含む	
551	中北部 包含層2	須恵器　甕	口縁部		①灰白色(N7/) ②灰色(N6/)	0.3～1mmの長石含む	
552	西端部 包含層2	須恵器　甕	頸部 ～肩部		①灰白色(N7/) ②灰白色(5Y8/1)	0.5～1mmの長石含む	
553	中北部 包含層2	土師器　甕	口縁部		①②灰白色(2.5Y8/1)	0.1～0.3mmの砂粒含む	
554	中北部 包含層2	土師器　甕	口縁部		①浅黄色(2.5Y7/4) ②浅黄色(2.5Y8/4)	0.5～1mmの長石・石英含む	
555	中南部 包含層2	製塩土器	体部		①にぶい橙色(7.5YR7/4) 明赤褐色(2.5YR5/6) ②灰オリーブ色(5Y6/2)	0.3～0.5mmの砂粒含む	
556	中南部 包含層2	瓦質土器　鍋	口縁部		①明黄褐色(10YR7/6) ②浅黄色(2.5Y7/3)	0.5～1mmの長石・石英含む	土師質
557	西北部 包含層2	瓦質土器　鍋	底部		①②灰白色(5Y7/1)	0.5～1mmの長石含む	
558	西端部 包含層2	瓦質土器　擂鉢	口縁部 ～体部		①②灰白色(7.5YR8/2)	0.5mmの長石含む	土師質
559	西北部 包含層2	瓦質土器　擂鉢	口縁部		①浅黄色(2.5Y7/4) ③浅黄色(2.5Y7/3)	0.5～1mmの長石・石英含む	
560	西北部 包含層1	須恵器　坏蓋	口縁部		①②灰色(N6/)	0.1～1mmの長石含む	
561	中北部 包含層1	須恵器　高台付坏	底部	②(8.8)	①灰白色(N7/) ②灰色(N5/)	0.5～2mmの長石含む	
562	西北部 包含層1	須恵器　高台付坏	底部	②(10.0)	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	0.5～1mmの長石含む	
563	中北部 包含層1	須恵器　坏	底部	②(5.6)	①灰白色(N7/) ②灰白色(N8/)	0.5～2mmの長石含む	
564	西北部 包含層1	須恵器　坏	底部	②(8.0)	①②灰白色(N7/)	0.5mmの長石含む	
565	南東部 包含層1	須恵器　坏	口縁部	①(11.2)	①灰色(N7/) ②灰色(N6/)	0.1～3mmの長石含む	
566	西北部 包含層1	陶器　椀	口縁部		①②(釉薬)灰白色 (2.5Y8/2) (素地)にぶい黄色 (2.5Y3/3) ②(釉薬)灰白色(2.5Y8/2) (素地)灰黄色(2.5Y6/2)	0.1mmの砂粒含む	藁灰釉
567	西北部 包含層1	陶器　椀	底部	②(3.2)	①②青灰色(5B5/1)	0.5～1mmの長石含む	
568	南東部 包含層1	瓦質土器　足鍋	脚部	③(5.7)	①浅黄色(10YR7/3) ②灰オリーブ色(5Y6/2)	0.5～2mmの長石・石英含む	
569	西北部 包含層1	瓦質土器　擂鉢	底部	②(15.6)	①②灰白色(2.5Y8/1)	1mmの長石含む	土師質
570	東端部 包含層	須恵器　坏蓋	口縁部	①(12.6)	①灰白色(N8/) ②灰白色(N7/)	0.5mmの長石含む	
571	東端部 包含層	須恵器　高台付坏	底部	②(7.8)	①青灰色(5B5/1) ②青灰色(5B6/1)	0.5～2mmの長石含む	
572	東端部 包含層	須恵器　高台付坏	底部		①灰白色(N8/) ②灰白色(N7/)	0.5～1mmの長石含む	
573	東端部 包含層	須恵器　坏	口縁部		①②青灰色(5B5/1)	0.5～3mmの長石含む	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
574	東端部包含層	須恵器　坏	口縁部		①灰色(7.5Y6/1) ②灰白色(N7/)	0.3～1mmの長石含む	
575	東端部包含層	須恵器　高坏	裾部		①②灰白色(N7/)	0.5～1mmの長石含む	
576	東端部包含層	緑釉陶器　椀か	底部	②(5.0)	(釉薬)灰オリーブ色(2.5Y8/2) (素地)灰白色(10Y7/1)	0.1～0.3mmの砂粒含む	
577	東端部包含層	土師器　坏	口縁部	①(11.2)	①暗灰黄色(2.5Y4/2) ②暗灰黄色(2.5Y5/2)	0.5mmの長石含む	
578	東端部包含層	須恵器　高台付壺	底部	②(14.6)	①暗青灰色(5B4/1) ②青灰色(5B6/1)	0.5～5mmの長石含む	
579	東端部包含層	須恵器　甕	口縁部		①②灰白色(5Y7/1)	0.5～2mmの長石含む	
580	東端部包含層	土師器　甕	口縁部		①にぶい橙色(7.5YR6/4) 暗灰色(N3/) ②にぶい黄橙色(10YR7/4)	0.5～1mmの長石・石英含む	
581	東端部包含層	瓦質土器　足鍋	脚部		①②灰白色(2.5Y8/2)～暗灰色(N3/)	0.5～1mmの長石含む	
582	東端部包含層	陶器　擂鉢	底部		①にぶい黄橙色(10YR6/3) ②青灰色(5B5/1)	0.1～0.5mmの砂粒含む	
583	旧耕土	須恵器　壺	口縁部		①灰色(N5/)②灰色(N6/)	1～2mmの長石含む	
584	西南部・中南部床土	土師器　高台付坏	底部	②(5.7)	①②浅黄色(2.5Y8/3)	0.1～1mmの長石含む	
585	西南部・中南部床土	陶器	鉢	①(13.4)	①灰色(N5/) ②暗灰色(N4/)	0.1mmの砂粒含む	
586	排土中	須恵器　坏蓋	天井部		①灰白色(2.5Y7/1) ②灰白色(2.5Y8/1)	密:0.5～1mmの砂粒ごく少量混ざる	
587	西部南壁断面	須恵器　坏蓋	天井部～口縁部	①14.4	①灰白色(2.5Y7/1) (灰)にぶい黄色(2.5Y6/3) ②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmの砂粒少量混ざる	
588	西部南壁断面	須恵器　坏蓋	天井部～口縁部		①灰色(N5/) ②灰色(N6/)	密:0.2～1mmの砂粒少量混ざる	
589	西部南壁断面	須恵器　坏蓋	口縁部		①②灰白色(N7/)	密:0.2～0.5mmの砂粒少量混ざる	
590	排土中	須恵器　高台付坏	底部	②(9.3)	①灰色(N6/) ②灰色(N5/)	密:0.1～1mmの砂粒ごく少量混ざる	
591	西部南壁断面	須恵器　高台付坏	体部	②(8.6)	①灰色(N5/～6/) ②灰色(N6/)	密:0.2～1mmの砂粒やや多く混ざる	
592	西部南壁断面	須恵器　高台付坏	体部	②(7.4)	①灰色(N6/) ②灰色(7.5Y6/1)	密:0.2～1.5mmの砂粒少量混ざる	
593	西部南壁断面	須恵器　高坏	坏底部～脚部		①②灰色(5Y7/1)	密:0.2～4mmの砂粒やや多く混ざる	
594	西部南壁断面	土師器　高台付坏	口縁部 底部	①(12.2) ②(5.4)③3.9	①②灰白色(2.5Y8/2)	密:0.2～1mmの砂粒少量混ざる	
595	東区谷埋土1-2	土師器　坏	底部	②(8.0)	①②浅黄色(2.5Y8/3)	密:0.1～0.3mmの砂粒ごく少量混ざる	
596	排土中	土師器　高台付椀	底部	②(7.2)	①黄灰色(2.5Y5/1) ②灰黄色(2.5Y7/2)	密:0.2～4mmの白色砂粒少量混ざる	

表6 出土遺物（土製品）観察表

法量（ ）は残存値

遺物番号	遺構・層位	器種	法量(cm) ①長さ②幅③厚④重量(g)	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
597	南区 谷埋土2 下層	鞴　羽口	内径(1.8)外径(5.6) ④(23.23)	①灰白色(N7/) ②橙色(5YR6/6)～赤褐色(10YR5/3)	蜜:0.2～1mmの砂粒ごく少量混ざる	端部が残る(炉側)
598	中南部 包含層2	管状土錘	最大径(1.05)孔径(0.4) ①(5.7)④(6.70)	①②灰黄色(2.5Y7/2)	0.5～2mmの長石含む	
599	中南部 包含層2	不明	①(1.05)②(1.5)③(0.45)④(0.65)	①②橙色(5YR6/8)	0.1～0.3mmの砂粒含む	

表7 出土遺物（石器）観察表

法量（ ）は残存値

遺物番号	遺構・層位	器種	法量(cm) ①長さ②幅③厚④重量(g)	石材	備考
600	南区　谷埋土3　上層	砥石	①(8.55)　②(7.3)　③(4.1)　④(179.93)	珪長岩	5面使用
601	中北部　包含層2	砥石	①(7.8)　②(8.1)　③5.4　④(669.1)	珪長岩	

表8 出土遺物（金属器）観察表

法量（ ）は残存値

遺物番号	遺構・層位	器種	法量(cm) ①長さ②幅③厚④重量(g)	備考
602	南区　谷埋土　2上層	鉄釘	①(17.55)　②(2.35)　③(1.8)　④(150.13)	

谷埋土4出土木製品（図40、表9）

調査では313点の木製品を取り上げた。資料の保存面と労力を考慮し、写真撮影は行っていない。

土器と同様、谷埋土4からは1点の木製品しか出土していない。603は板状製品で、上端の一部と下端を折損している。

谷埋土3下層出土木製品（図40、表9）

当層は自然木や木の葉の腐植土層であるが、木製品は少量であった。

604は細板の両端が焦げた資料。谷にはこの様な資料が大量に投棄されており、過去の報告では器種を「松明か」などとして報告していたが、大多数が先端部しか焦げていないことから、妥当性はともかく「火付け木」と名付けた。605は杭。上部を人為的に削って芯を残しているが、芯の上半は炭化している。

谷埋土3上層出土木製品（図40～52、表9）

当層形成期より破損した木製品や廃材の投棄が本格化する。

606～620は曲物の底板や蓋。側板結合のための樺皮（606・613）や木釘（607）の遺存するものもあるが、総じて遺存状態が悪い。621～625は曲物側板。斜格子（621・622）や平行線（623）の刻みを施すものがある。624・625は同一個体と思われる。

626～629は木錘。比較的遺存状態の良い626には樹皮が残っている。630はやや径の大きな独楽状製品であるが、木錘の可能性を残す。

631は横槌であろう。柄の部分を欠失している。632は半損品と見られる。上寄り中央に斜め方向の孔が穿たれている。下駄の可能性もあるが特定できない。633・634は先端を尖らせた杭状製品である。635は小ぶりな板に穿孔が見られる。636は細板状製品の先端付近に両側面から抉りが入れられており、637は先端を三角形状に整形している。斎串であろうか。638～640は杭先である。

641は建築部材と見られる（出土状況：写真39）。一側面3箇所にホゾ穴を穿ち、両端に穿孔している小ぶりなホゾ板と木釘で連結する仕組みとなっている。当資料は優先的に保存処理を済ませている。

642は幹を刳り抜いた樋状の製品で、槽の可能性もある。643・644は篦状製品。両端部を篦状に丸め

て使用したようである。

645～652は棒状製品で、653～660は棒状端材。製品と端材の間には明確な基準を設けておらず、整形面の多寡で分けている。661～670は角端材。661は作業台として使用された痕跡が残る。671～673は角材と板材。まだ材として使用できそうであるが、何らかの理由で投棄されたものと思われる。674～700は板状製品。木簡としての使用が想像されるが、現状で墨書は確認できていない。701～733は板状端材とした。チョウナクズなども含まれている。

734～788は火付け木。多くは端部のみ焦げている。短くなったものの廃棄は理解できるが、再利用できそうな長さのもの（734～741など）までなぜ投棄されるのであろうか。

谷埋土２下層出土木製品（図53～56、表9）

当層も多量の木製品を包含しているが、破損した製品（道具）の投棄は激減する。

789は曲物の蓋と見られる。半損品であり、現状で2つに分離している。790は木錘。半損品であり、遺存部裏面も剥離している。791は細板状製品。２箇所に孔が穿たれている。792は端材とも思われるが、形状から斎串の可能性も残る。

793～809は棒状端材で、810～812は角端材。813～817は板状製品で、墨書は確認できない。818～836は板状端材で、チョウナクズと見られる小片を含む。

837～887は火付け木。当層堆積時まで、火を用いた作業、行為が続いたようである。

谷埋土２上層出土木製品（図57・58、表9）

当層からは少量の木製品しか出土していない。廃材の投棄行為自体が終焉に向かった可能性が高いが、下位の堆積層に比して土がさほど湿潤でないことへの考慮も必要であろう。

888・889は曲物底板と見られる。890は鍬の半損品であろうか。891～893は棒状製品、894～895は棒状端材、897は角端材、898は板材で、899～904は火付け木である。

ＳＤ１出土木製品（図59、表9）

土器でも触れたが、ＳＤ1は谷埋土2下層の堆積過程で埋没している。

905・906は遺存状態が悪く接合しないが、同一個体と見られる。曲物の底板または蓋と思われる。907は火付け木。

北調査区西壁出土木製品（図60、表9）

北調査区西壁が崩落した際に出土しており、所属層位が不明な木製品である。908は棒状製品。909は篦状製品で、先端に黒色塗料（漆か）が付着している。910～915は火付け木。

（6）小結

本稿では、出土遺物の公開を最重要に位置付けた。遺物整理から復元、実測など作業に4年の歳月を費やしたが、各遺物に対する詳細な検討が行えているとは言えず、課題も数多く抱えている。事実誤認があるかもしれないが、ご容赦いただきたい。なお、当調査を実施した翌平成27年度には、事前に解体して調査域に加えることができなかった動物医療センター西側プレハブ敷地の立会調査を実施している。「千字文」音義木簡が出土したことからすでに略報[註1]を公開しているが、木簡以外の遺物は未だ整理途中にある。当館の平成27年度年報は次年度刊行予定であり、残された多くの課題の検討を行う所存である。

さて、当調査地点は、官衙域の南西を区画する古代の埋没谷が検出されることが確実な場所であったが、隣接地で谷左岸を確認した平成20年度実施の調査[註2]では、7m角の狭小な調査区にもかかわらず、

谷埋土から198点もの木製品が出土したのに対し、墨書須恵器が複数含まれていたものの土器はさほど出土しなかった。当調査区でおびただしい量の土器が出土した事実は、谷の右岸に官衙施設が展開していたことを裏付ける間接的な証拠となる。[註3]

谷に対する木製品の大量投棄に関しては、限られた場所での行為であったようで、当調査区でも南調査区と北調査区中区に集中する。北調査区西区では減少し、北西に隣接する農学部解剖実習棟新営調査区、さらにその北西に隣接する総合研究棟新営調査区では谷埋土からの顕著な木製品の出土は見られなかったようである。[註4] 当調査区中央部における木製品の出土は、平成20年度調査と合わせすでに500点を超えており、この事実から筆者は調査区の周域、おそらく北東側のあまり離れていない地点に木工を執り行う施設が存在した可能性が高いと考えている。そのように考えると、谷の最深部が埋没し始めた後に設けられたと推定されるSX1およびSD1は、木工に関連する施設、例えば材木や未製品を水漬け保管しておくための施設などが予想されるが、調査において物的証拠を得るに至らなかった。

最後に、谷埋土中から出土する土器にふれておく。吉田遺跡の古代に所属する土器は、谷埋土出土が圧倒的多数で、遺構からの出土が少ない。このため、遺跡での土器編年や器種組成に関する考察が困難なものとなっている。遺物の取り上げや遺物整理に際しては、層境界出土品や層をまたいで遺物が接合する場合は上位層に所属させるなどの操作を行っているものの、本稿のように大まかな組成変化を追うことはできても、詳細な検討にまで至らない。そこで注目しているのが、鳥足ヘラ記号である。これまでにその存在が確認できた器種は、未報告のものを含めると、高台付坏、坏、高台付皿、蓋の4種である。無高台の皿も存在する可能性があるが、破片資料のため特定できない。これらの資料には、焼成の優劣、記号の入れ方に精粗が見られることから、一概に同時生産と見なして良いとは思わないが、未だ谷埋土出土土器の全てを確認したわけではないことから、今後の可能性に期待している。

本年2月16日に、本学人文学部の橋本義則教授が他界された。橋本先生には、遺跡から文字資料が出土するたび判読にご協力いただくとともに、当館の将来像に多くのご助言をいただいた。末筆ではあるが、これまでの感謝を込めて、ご冥福をお祈りしたい。

【註】

1）横山成己（2018）「吉田遺跡出土「千字文」音義木簡略報」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成25年度－』，山口

2）横山成己（2012）「農学部附属動物医療センター改修Ⅲ期工事に伴う本発掘調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成20年度－』，山口

3）谷の南西に南東－北西方向に伸びる尾根上では、吉田構内統合移転時の昭和41年に吉田遺跡第Ⅱ地区と命名され、発掘調査が実施されている。多くの柱穴や溝、土壙が検出され、出土遺物から古代から中世にかけての集落であることが予想された。しかし遺物を見ると主体は鎌倉時代から室町時代にかけてのもので、古代に安定的な集落が形成されていた可能性は低い。横山成己（2007）「吉田遺跡第Ⅱ地区の調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成17年度－』，山口

4）田畑直彦（2004）「平成7・10～14年度山口大学構内遺跡調査の概要」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報ⅩⅥ・ⅩⅦ』，山口

田畑直彦（2017）「吉田構内総合研究棟新営に伴う発掘調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報ⅩⅩ』，山口

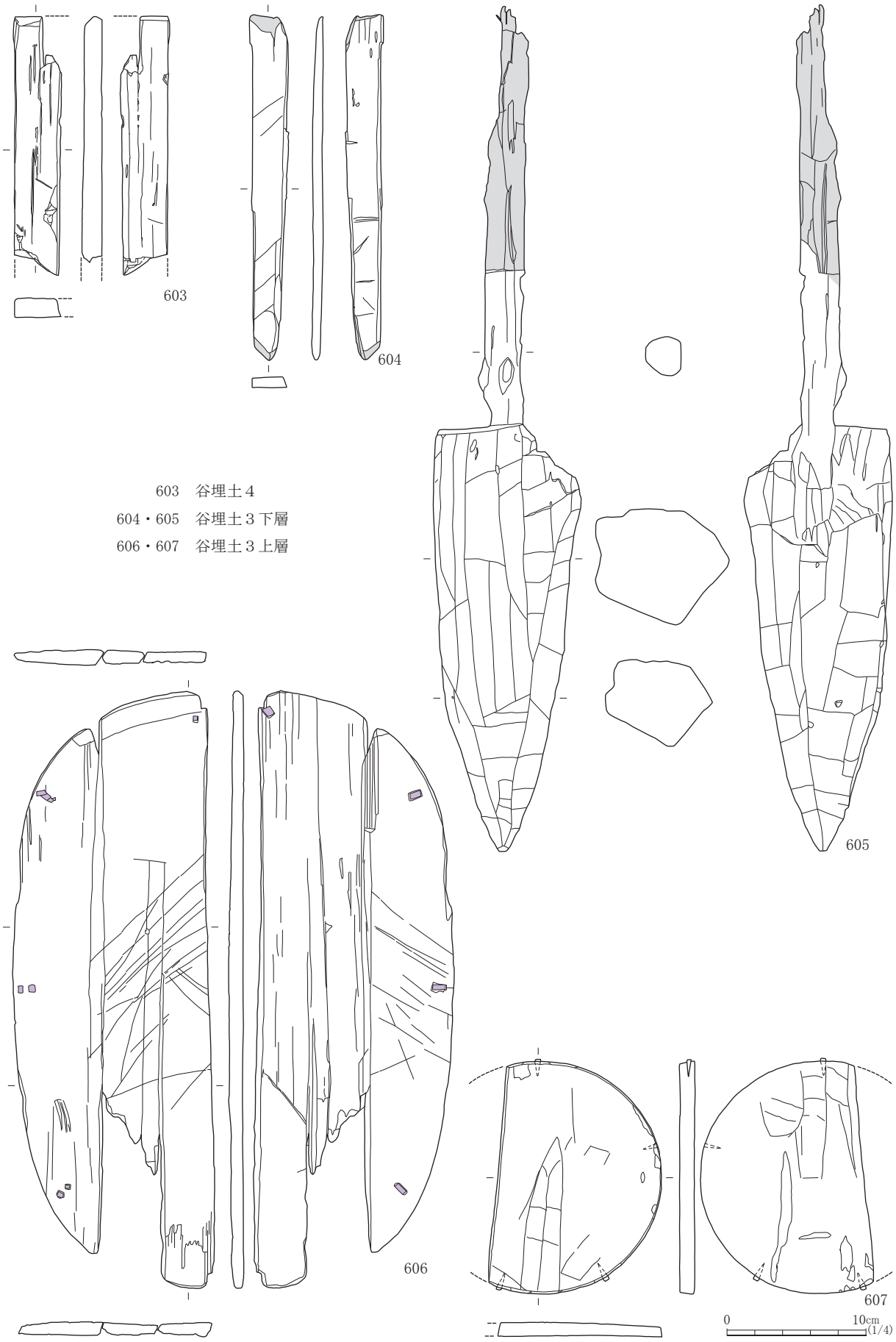


図 40　谷埋土4・3下層・3上層出土木製品実測図①

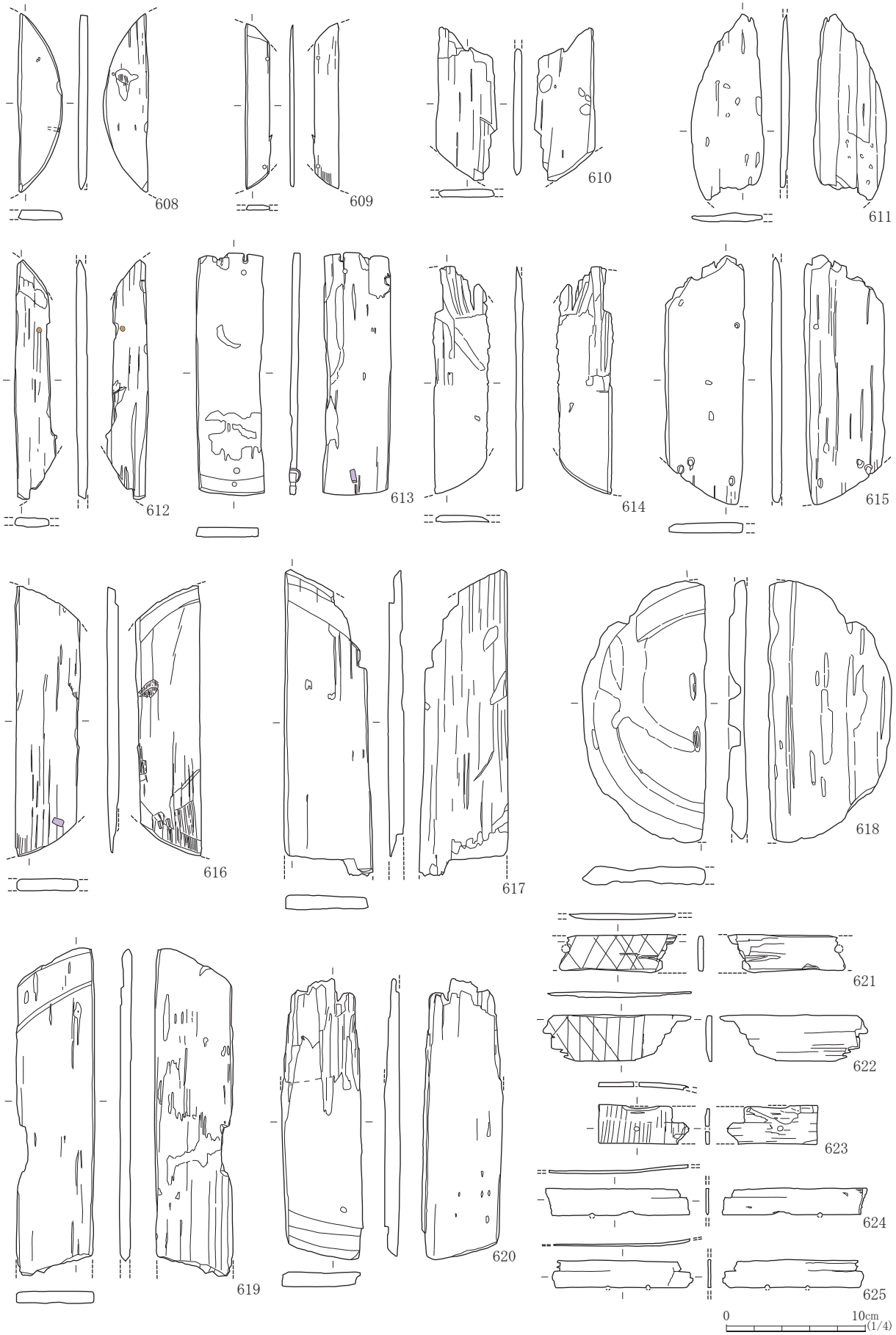


図 41　谷埋土3上層出土木製品実測図②

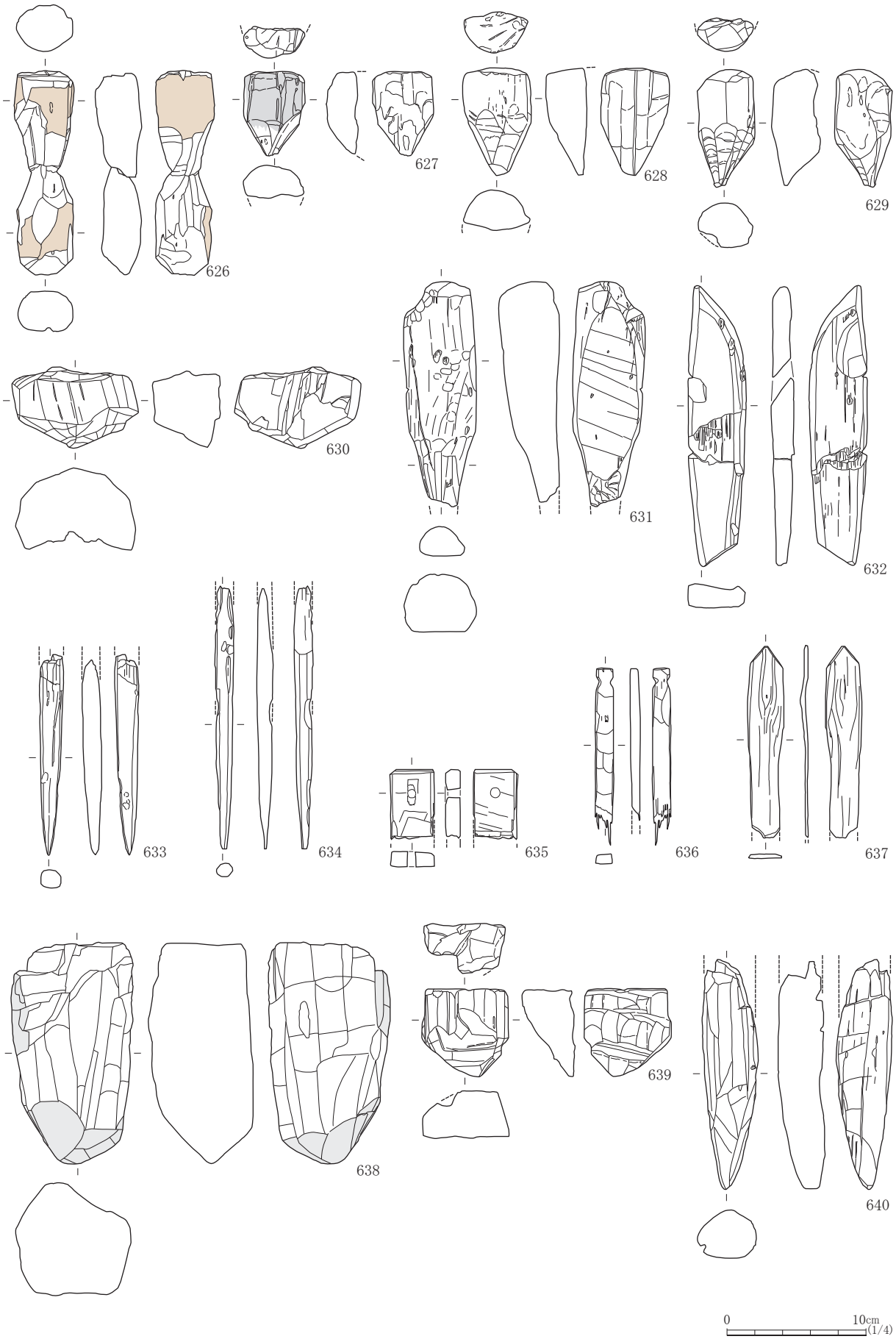


図 42　谷埋土3上層出土木製品実測図③

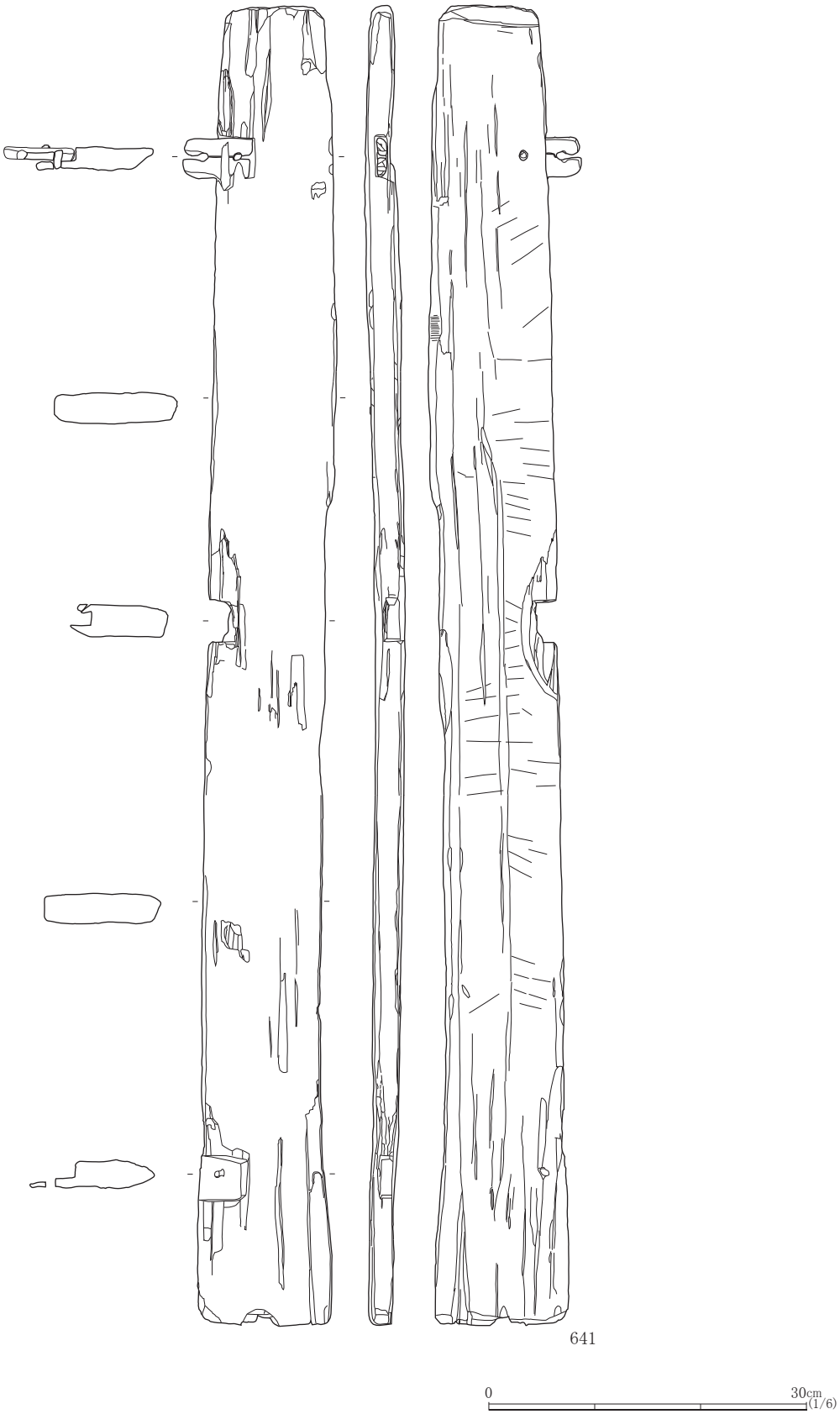


図 43　谷埋土3上層出土木製品実測図④

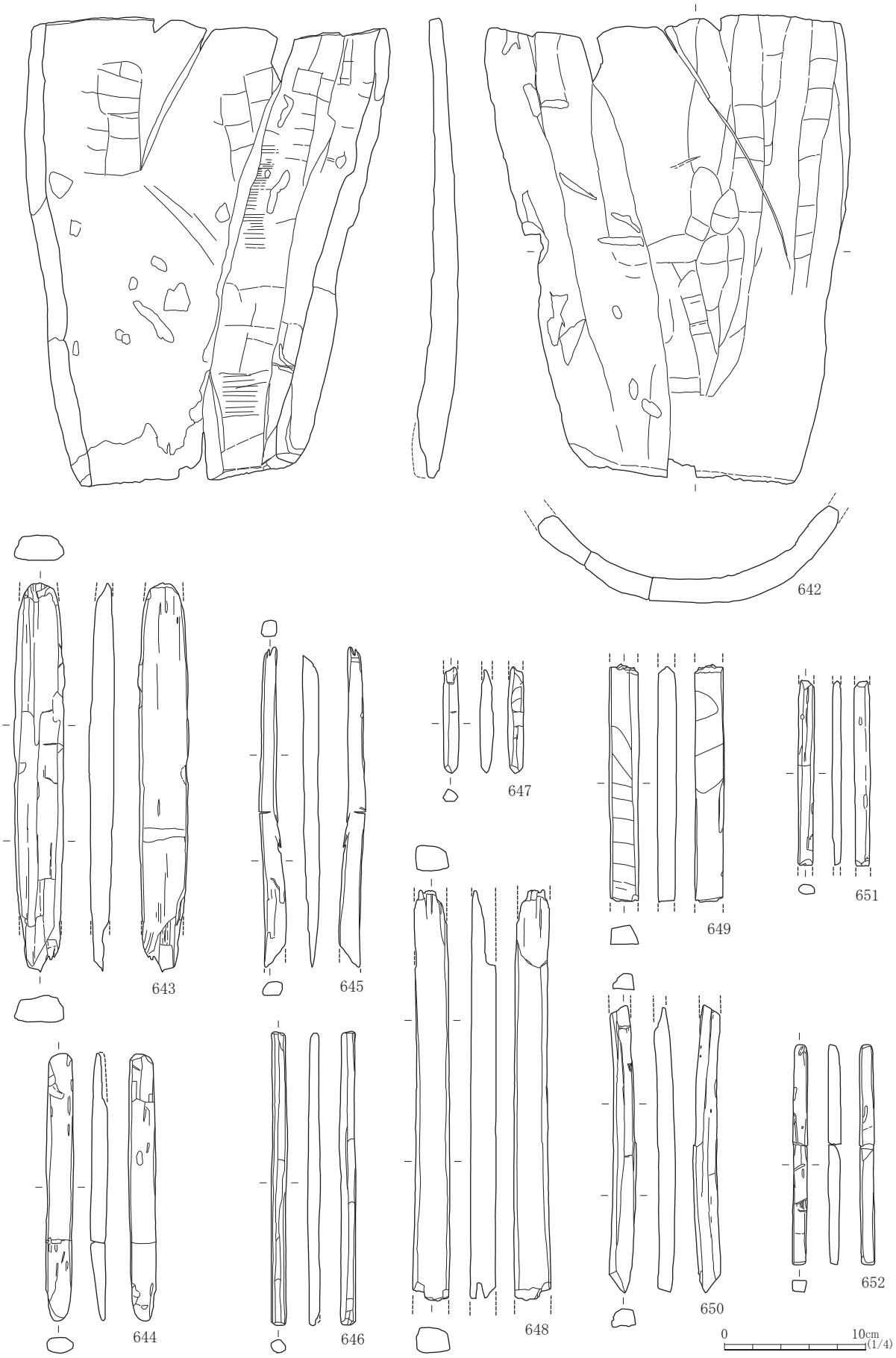


図 44　谷埋土3上層出土木製品実測図⑤

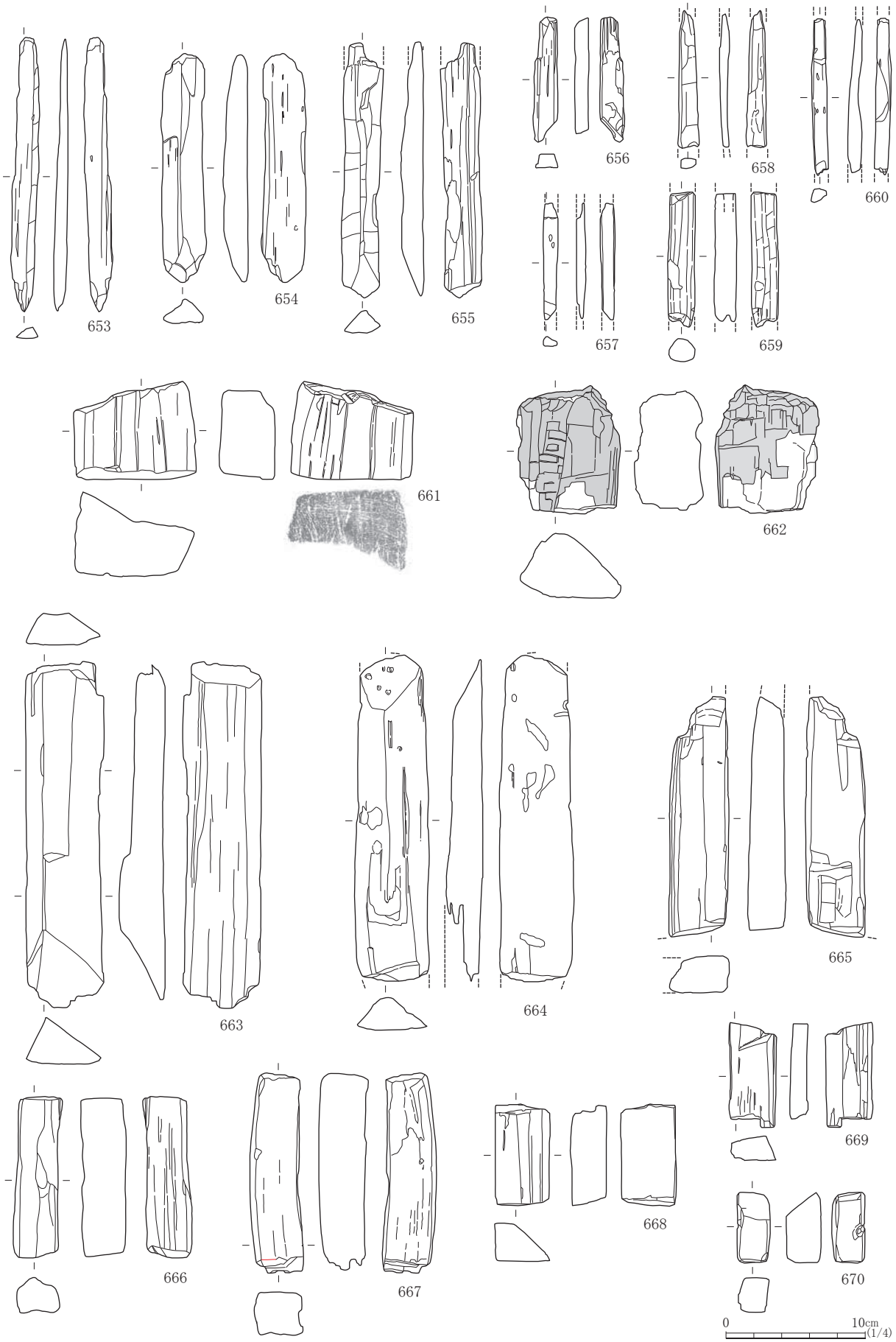


図 45　谷埋土3上層出土木製品実測図⑥

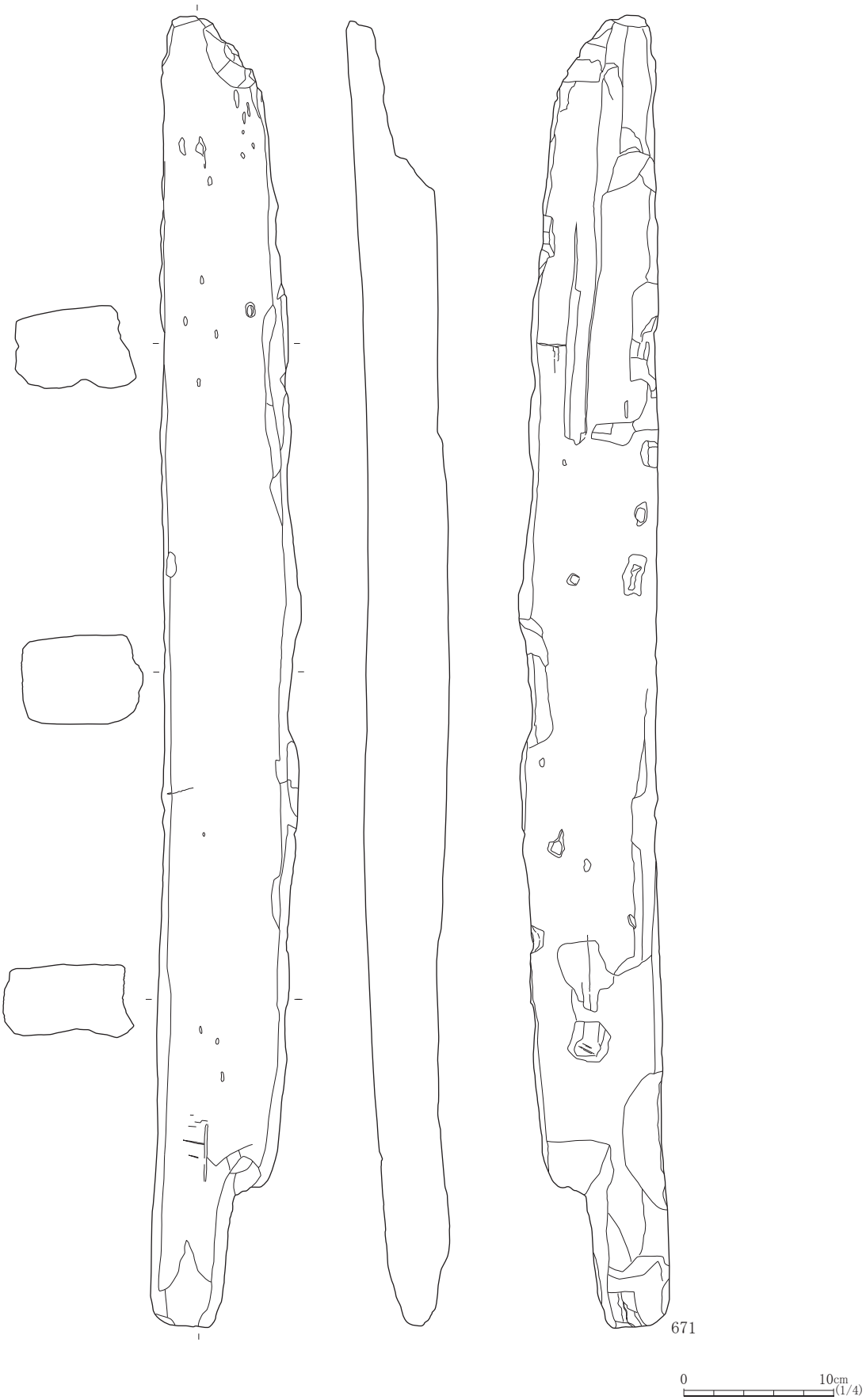


図 46　谷埋土3上層出土木製品実測図⑦

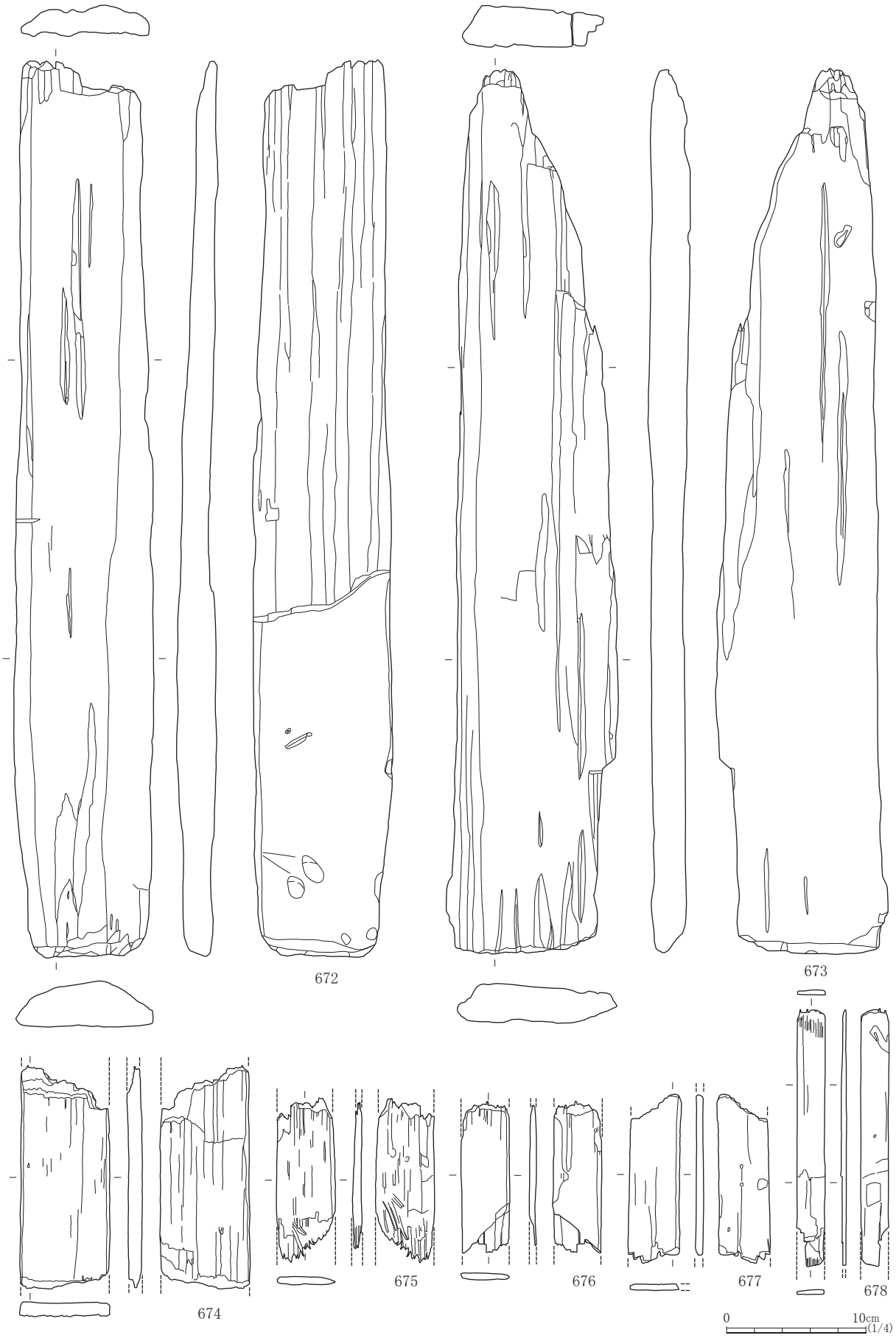


図 47　谷埋土3上層出土木製品実測図⑧

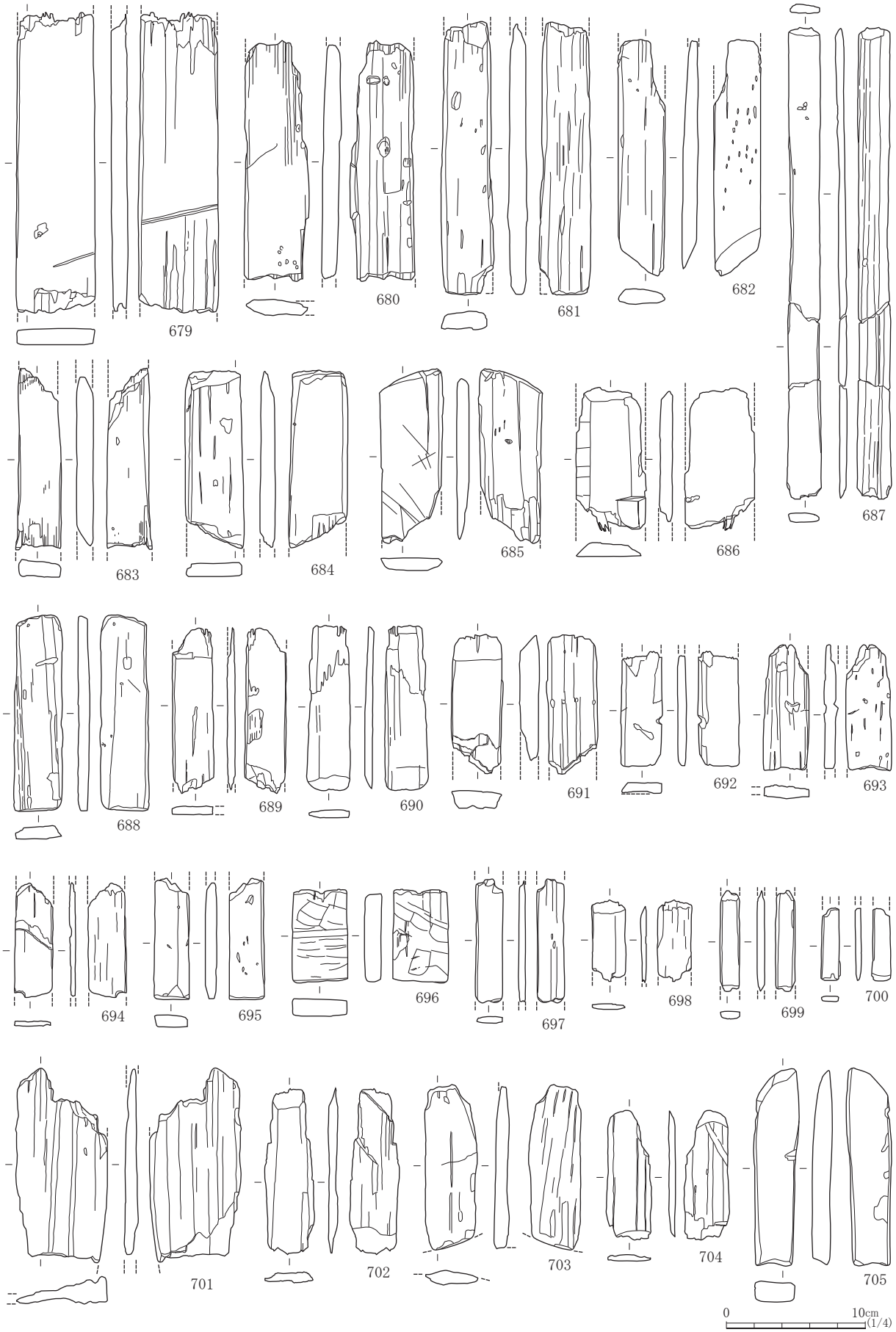


図 48　谷埋土3上層出土木製品実測図⑨

図 49　谷埋土3上層出土木製品実測図⑩

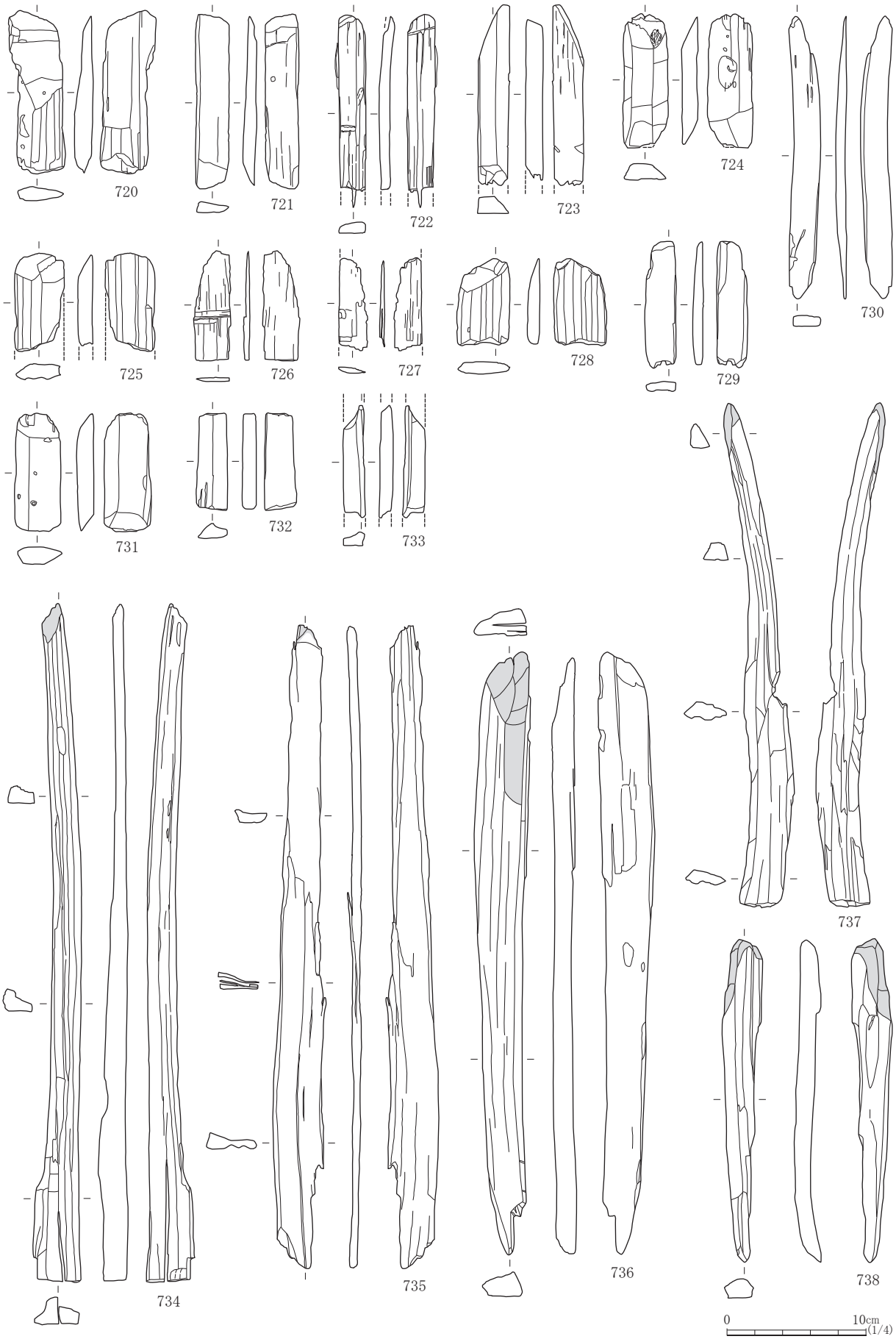


図 50　谷埋土3上層出土木製品実測図⑪

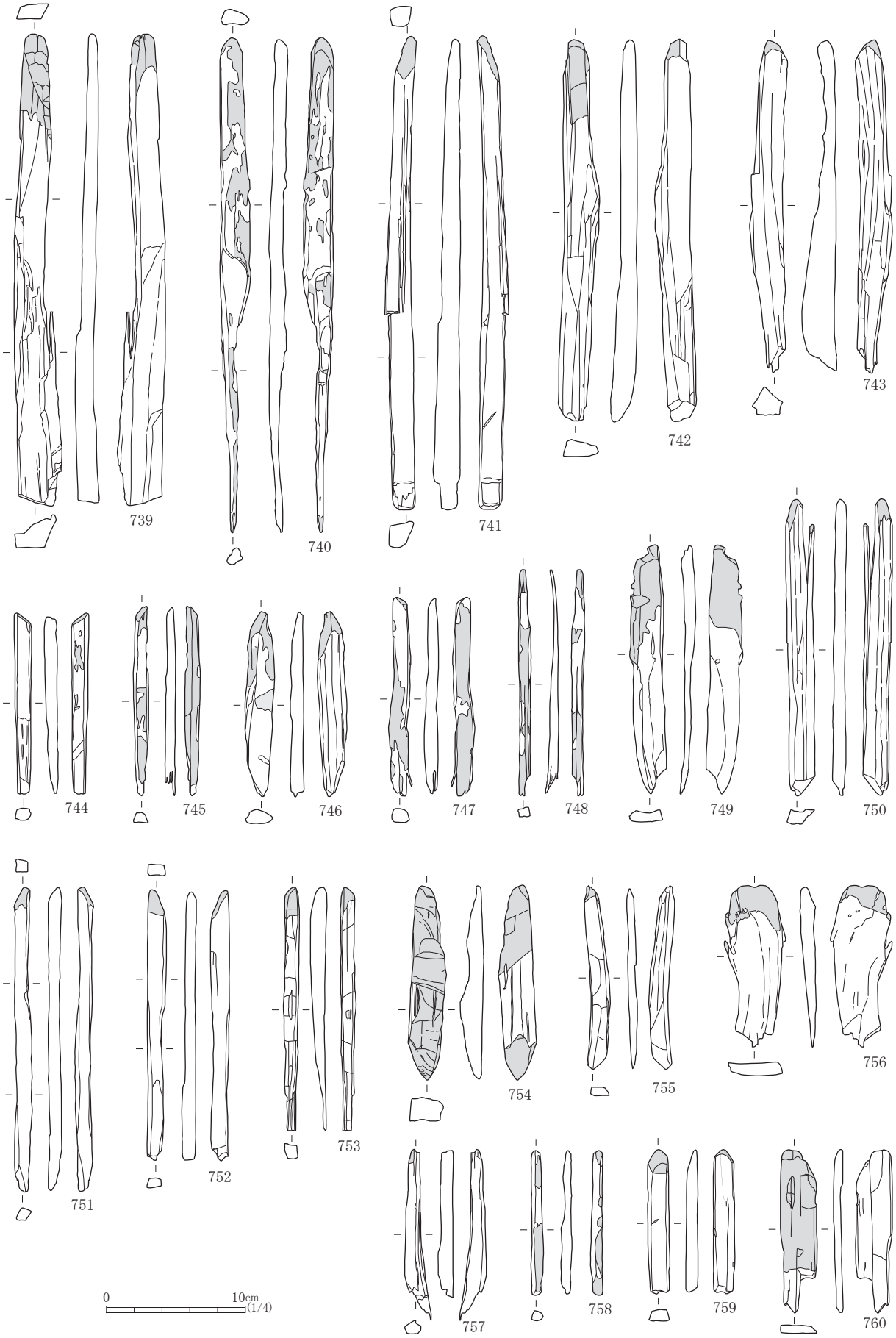


図 51　谷埋土3上層出土木製品実測図⑫

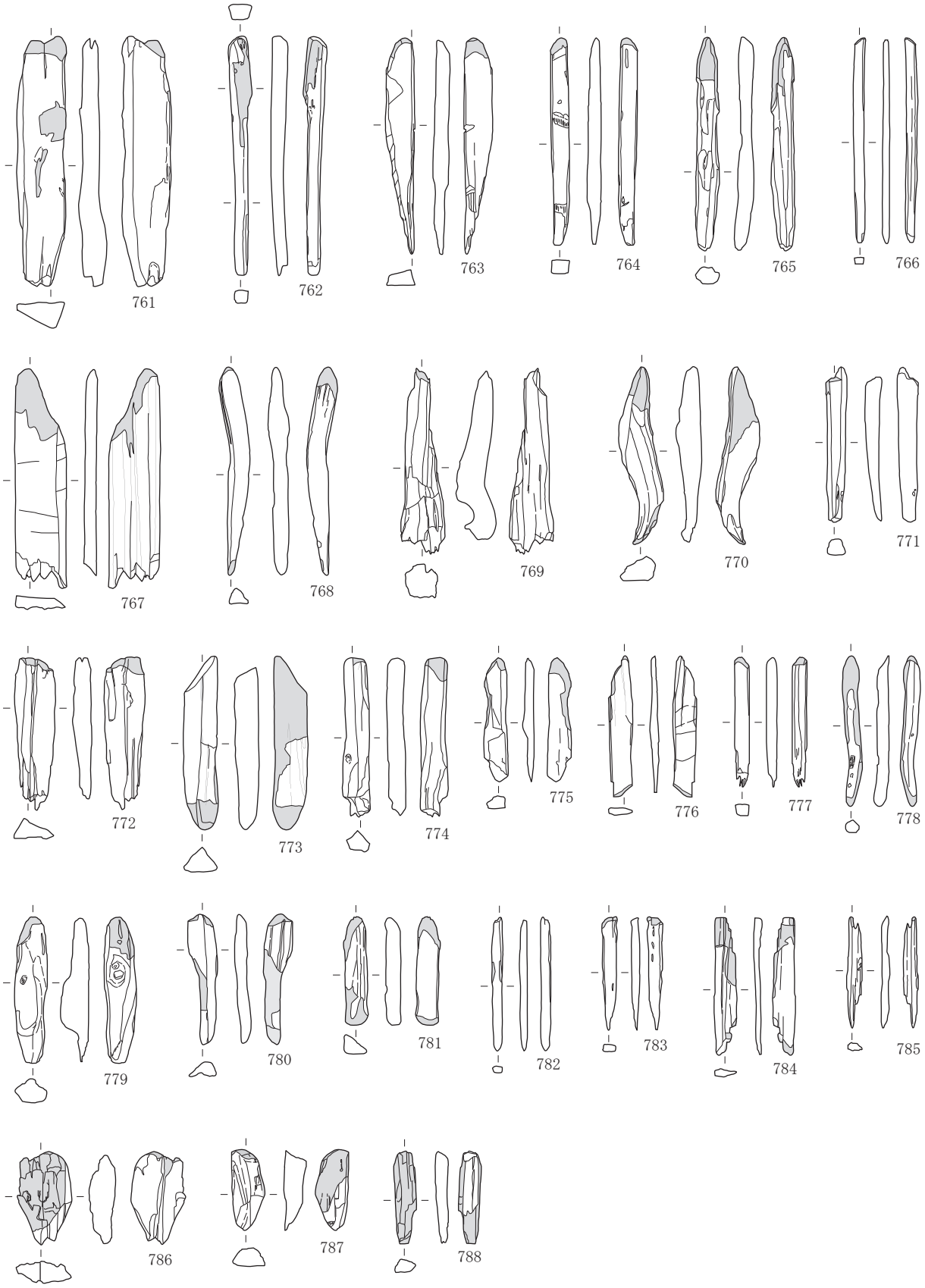


図 52　谷埋土3上層出土木製品実測図⑬

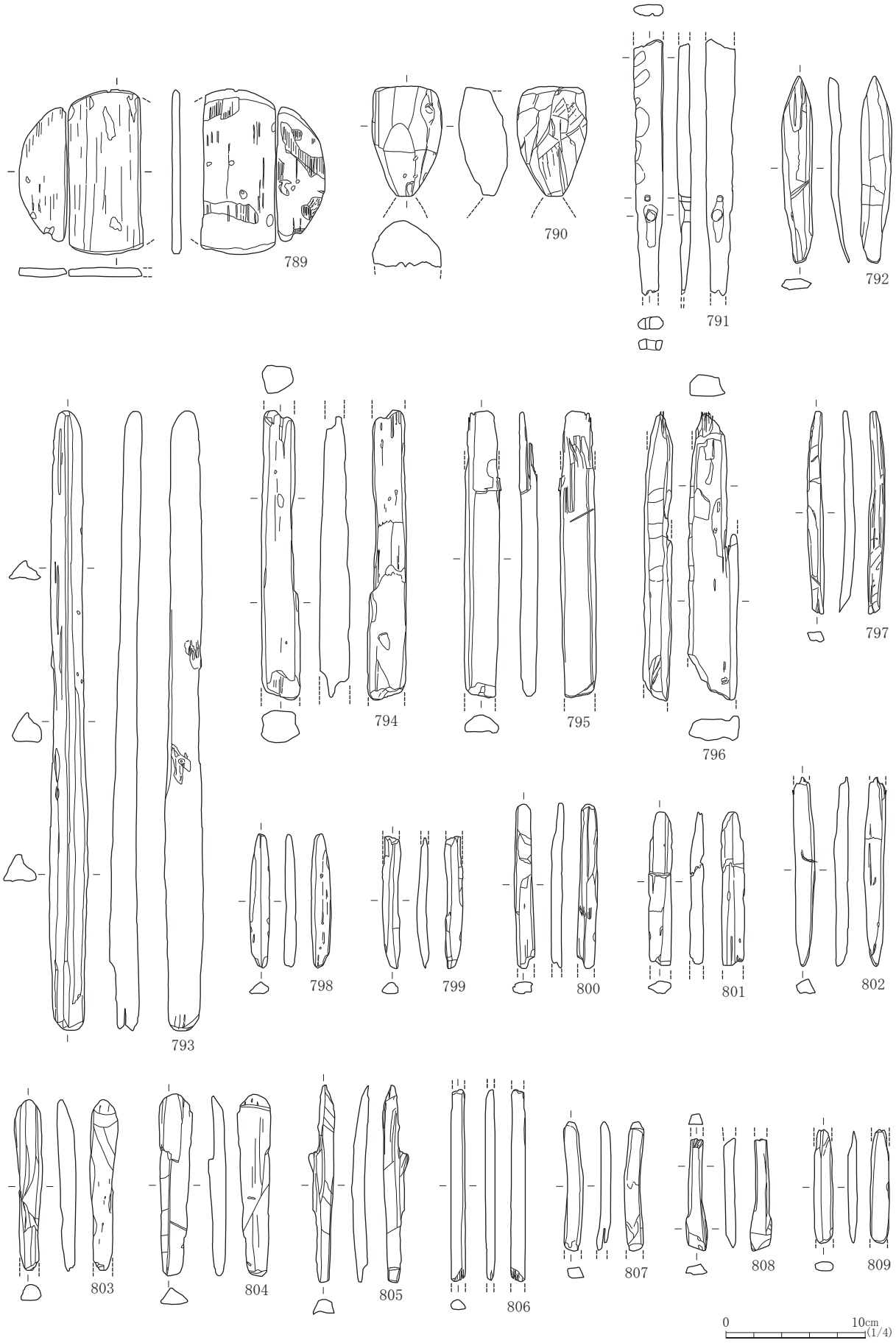


図 53　谷埋土2下層出土木製品実測図①

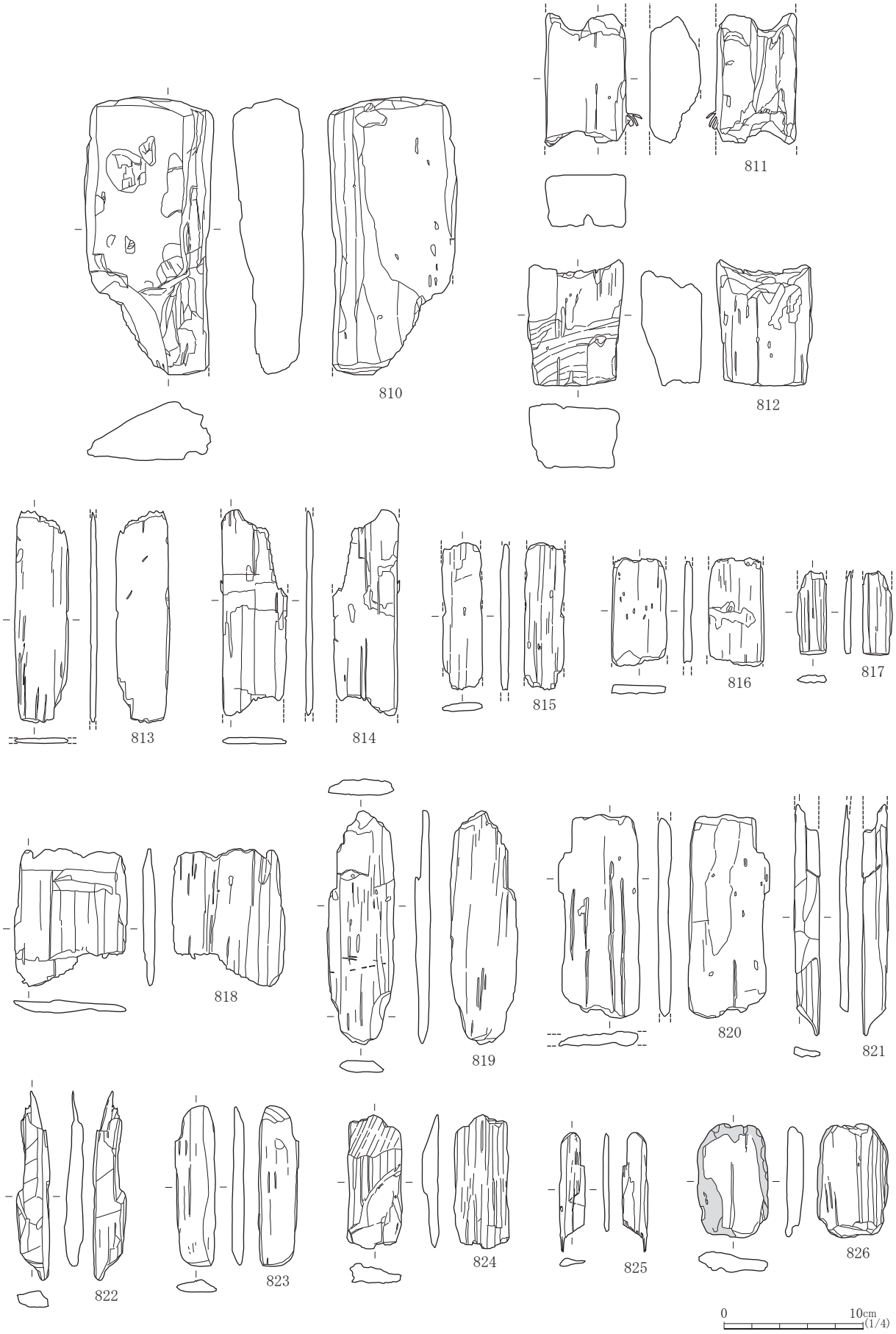


図 54　谷埋土2下層出土木製品実測図②

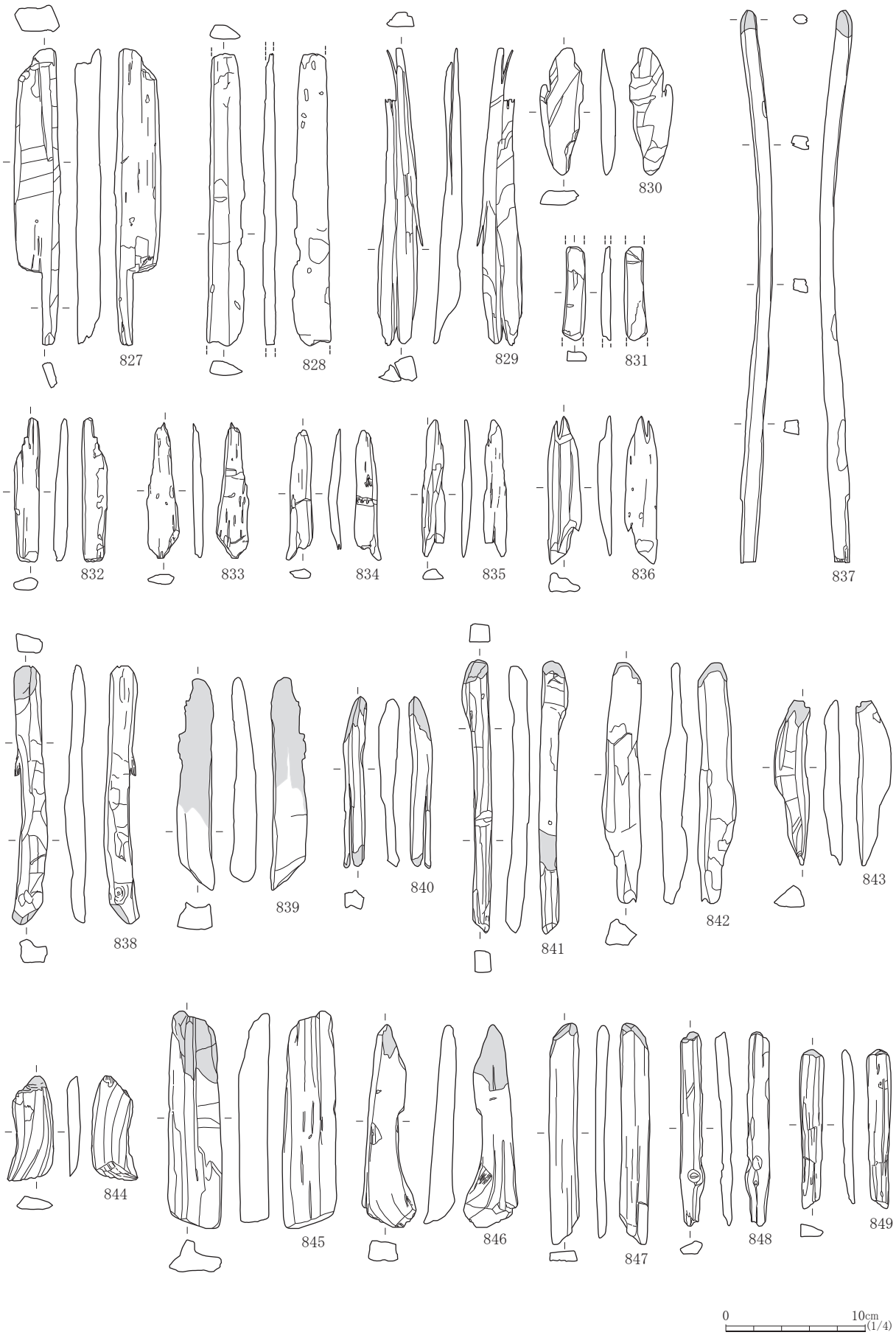


図 55　谷埋土2下層出土木製品実測図③

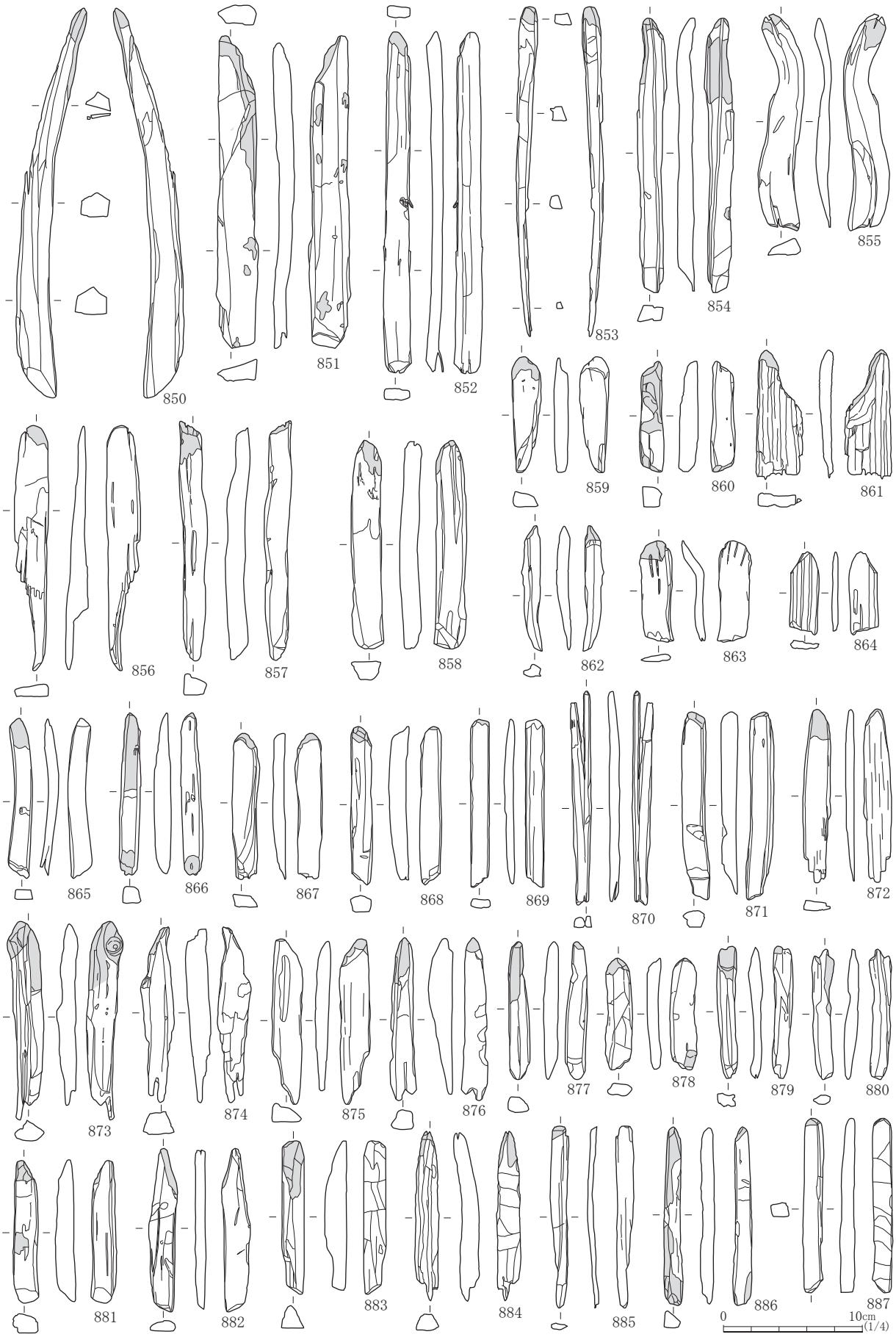


図 56　谷埋土2下層出土木製品実測図④

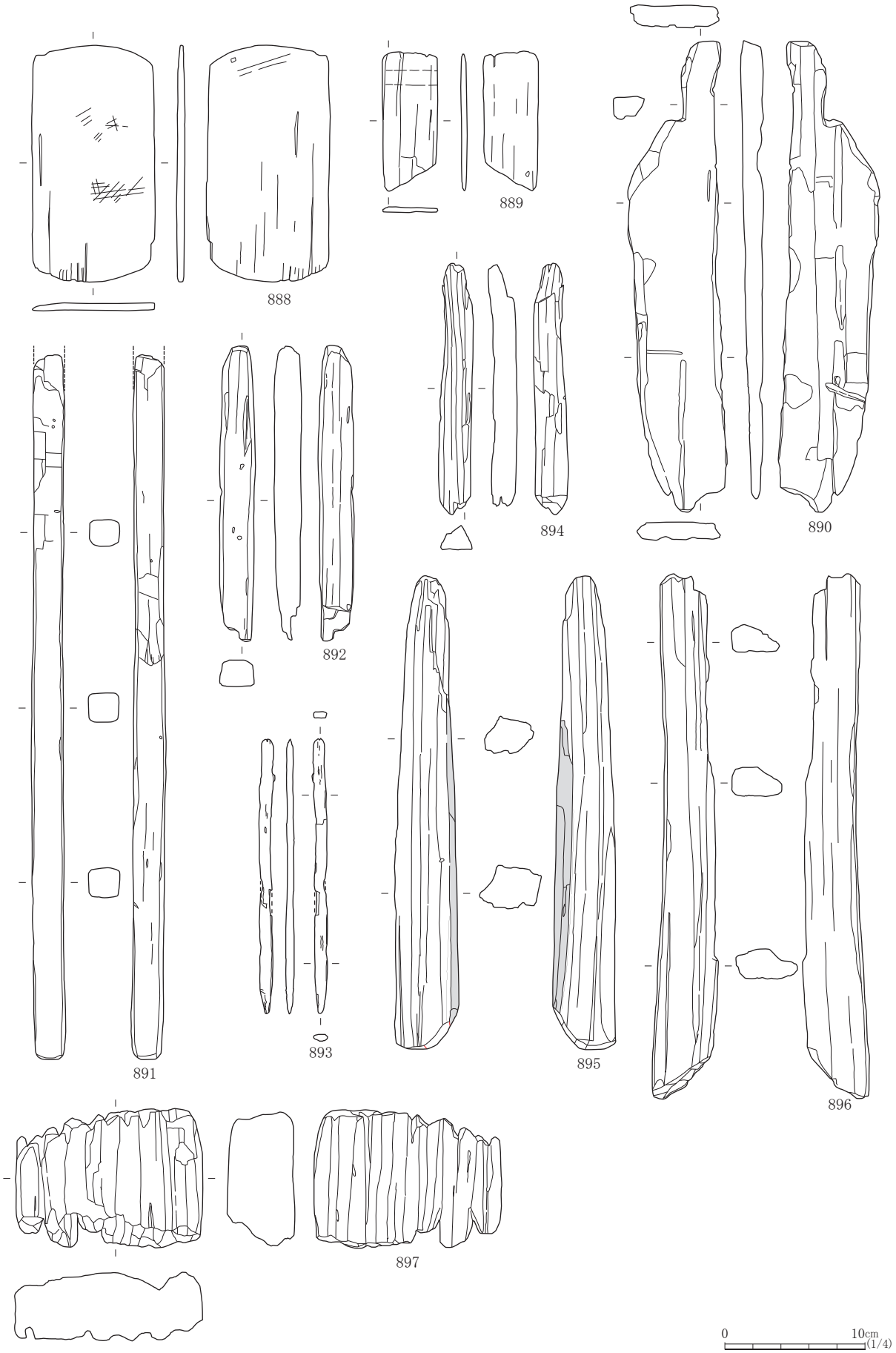


図 57　谷埋土2上層出土木製品実測図①

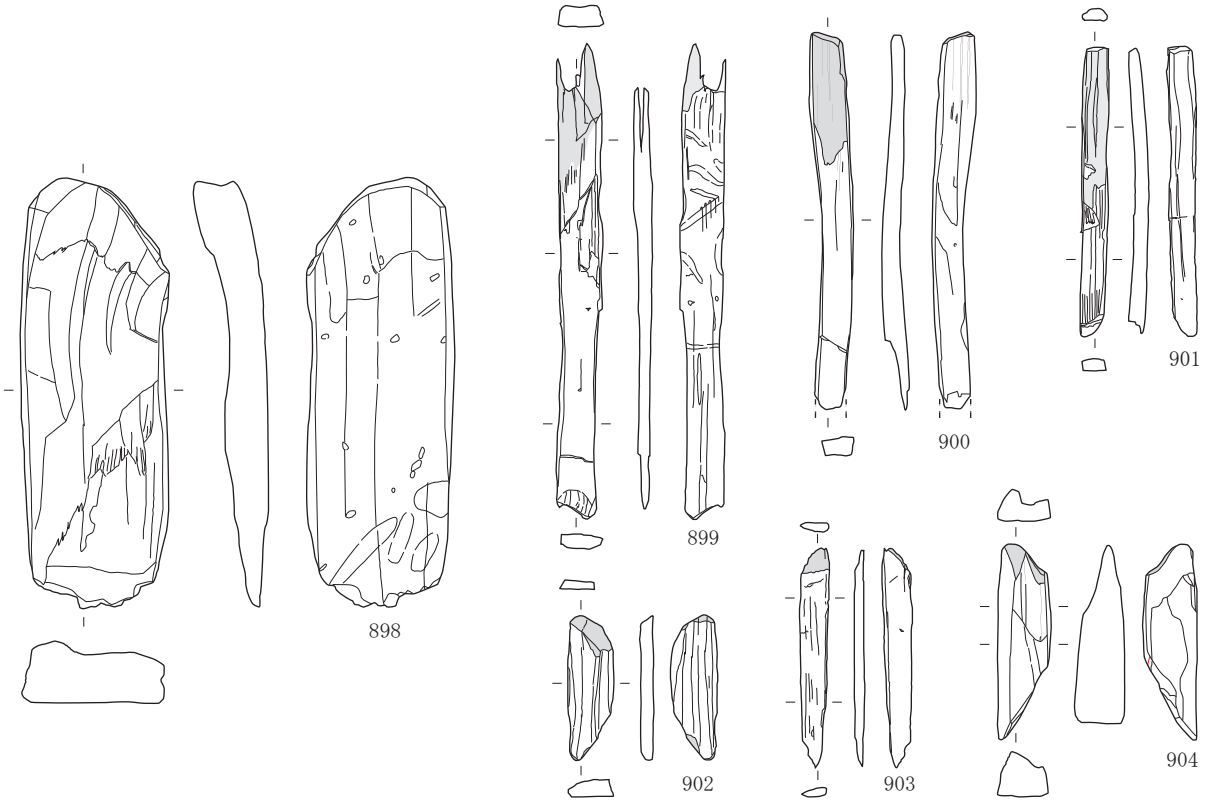


図 58　谷埋土2上層出土木製品実測図②

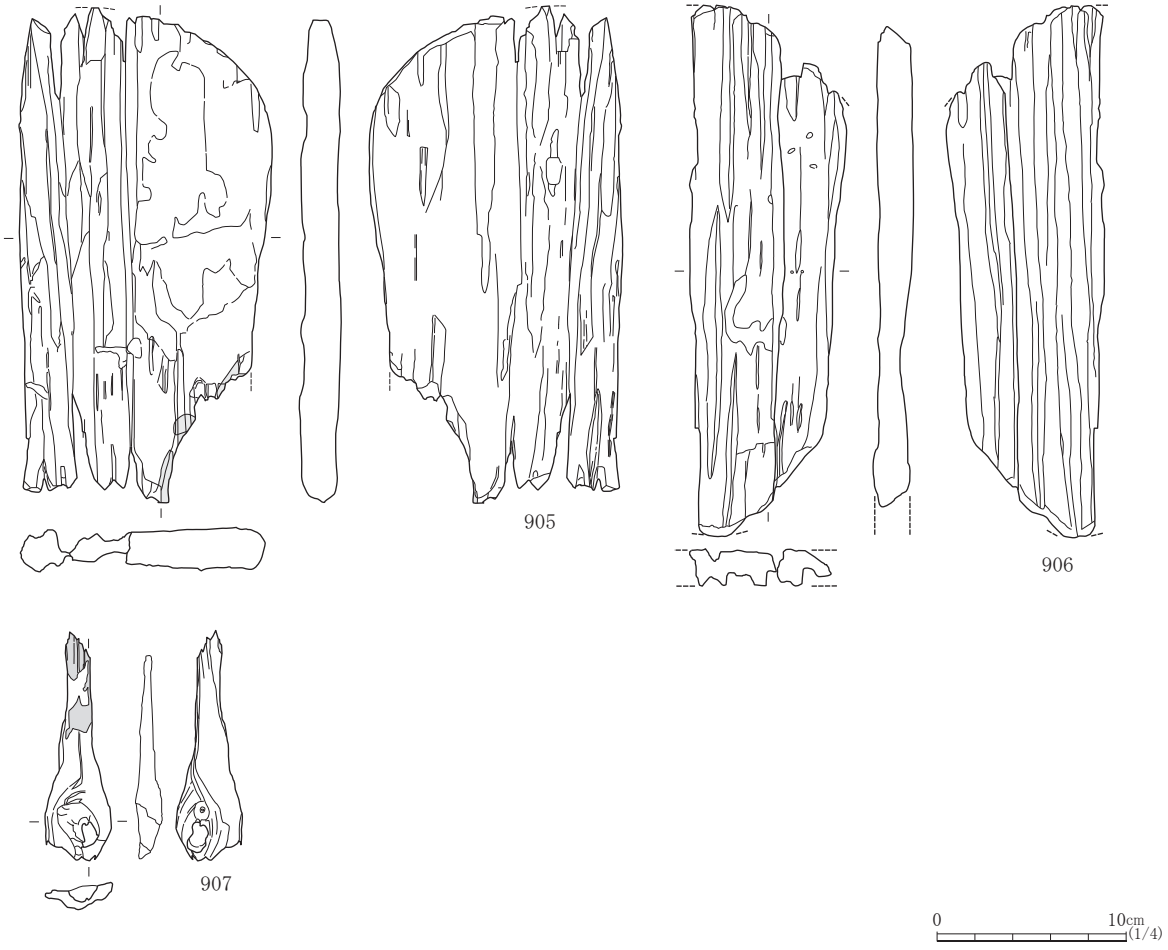


図 59　SD1（谷埋土2下層）出土木製品実測図

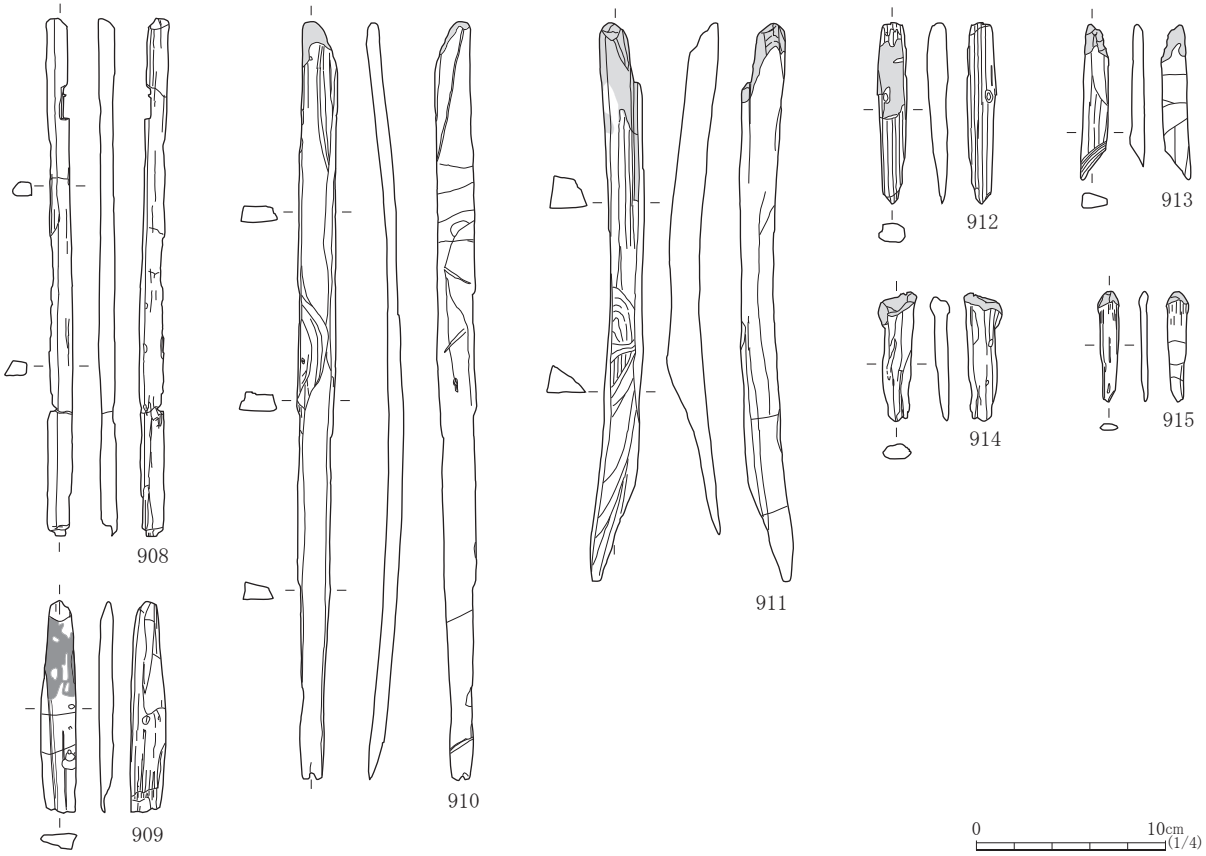


図 60　調査区西壁出土木製品実測図

表9 出土遺物（木製品）観察表

法量（ ）は復元値

遺物番号	遺構	器種	法量（cm）①長さ②最大幅③最大厚	備考
603	中区 谷埋土5	板状製品	①(18.6) ②3.3 ③1.5	
604	南区 谷埋土3 下層	火付け木	①24.7 ②2.6 ③0.75	
605	南区 谷埋土3 下層	杭	①(60.8) ②10.7 ③8.1	
606	南区 谷埋土3 上層	曲物底板	①43.0 ②14.0 ③1.1	
607	南区 谷埋土3 上層	曲物底板	①16.8 ②11.8 ②1.0	
608	南区 谷埋土3 上層	曲物底板	①(12.8) ②3.2 ③0.7	
609	南区 谷埋土3 上層	曲物底板	①(9.9) ②1.8 ③0.3	釘結合　釘位置推定5箇所 うち3本残存
610	南区 谷埋土3 上層	曲物蓋か	①(9.5) ②4.6 ③0.6	
611	南区 谷埋土3 上層	曲物蓋か	①(12.6) ②5.2 ③0.6	
612	南区 谷埋土3 上層	曲物底板	①(12.3) ②2.9 ③0.7	
613	南区 谷埋土3 上層	曲物底板	①17.5 ②4.9 ③0.7	
614	西端部 谷埋土3 上層	曲物蓋か	①(16.2) ②4.0 ③0.6	
615	中区 谷埋土3 上層	曲物蓋か	①(17.8) ②5.7 ③0.7	
616	南区 谷埋土3 上層	曲物底板	①(19.4) ②4.5 ③0.9	
617	南区 谷埋土3 上層	曲物底板	①(20.5) ②6.4 ③1.1	
618	中区 谷埋土3 上層	曲物蓋か	①(18.8) ②8.9 ③1.5	
619	南区 谷埋土3 上層	曲物底板	①(22.5) ②5.6 ③0.8	
620	南区 谷埋土3 上層	曲物底板	①(20.0) ②5.6 ③1.1	
621	南区 谷埋土3 上層	曲物側板	①(7.9) ②2.8 ③0.4	
622	中区 谷埋土3 上層	曲物側板	①(10.3) ②3.4 ③0.4	
623	南区 谷埋土3 上層	曲物側板	①(6.5) ②2.8 ③0.3	
624	南区 谷埋土3 上層	曲物側板か	①(10.3) ②1.9 ③0.2	625と同一個体か
625	南区 谷埋土3 上層	曲物側板か	①(10.1) ②2.0 ③0.2	624と同一個体か
626	南区 谷埋土3 上層	木錘	①(14.6) ②4.0 ③3.0	
627	中区 谷埋土3 上層	木錘	①(6.0) ②4.4 ③2.4	
628	中区 谷埋土3 上層	木錘	①(7.7) ②4.8 ③3.0	
629	中区 谷埋土3 上層	木錘	①(8.3) ②4.0 ③3.3	
630	南区 谷埋土3 上層	木錘か	①(5.5) ②8.9 ③4.8	
631	南区 谷埋土3 上層	横槌	①(16.2) ②5.1 ③4.3	
632	南区 谷埋土3 上層	下駄か	①21.1 ②4.2 ③1.7	
633	中区 谷埋土3 上層	細杭	①(14.0) ②1.7 ③1.3	
634	南区 谷埋土3 上層	細杭	①(18.9) ②1.3 ③1.1	
635	南区 谷埋土3 上層	木札状製品	①(5.0) ②3.1 ③1.1	
636	南区 谷埋土3 上層	斎串か	①(11.0) ②1.3 ③0.7	
637	南区 谷埋土3 上層	斎串か	①(13.7) ②2.6 ③0.35	
638	南区 谷埋土3 上層	杭先	①(15.9) ②8.7 ③7.1	
639	中区 谷埋土3 上層	杭先	①(6.3) ②6.2 ③3.5	
640	南区 谷埋土3 上層	杭	①(16.4) ②4.0 ③3.5	
641	南区 谷埋土3 上層	建築部材か	①(124.3) ②12.5 ③3.1	ホゾ穴にホゾを差し込み木釘で留める
642	南区 谷埋土3 上層	槽か	①(33.0) ②15.0 ③0.9	
643	西端部 谷埋土3 上層	篦状製品	①(27.6) ②3.6 ③1.8	
644	西端部 谷埋土3 上層	篦状製品	①(19.0) ②2.0 ③1.1	
645	南区 谷埋土3 上層	棒状製品	①(22.4) ②1.6 ③1.1	
646	南区 谷埋土3 上層	棒状製品	①(20.7) ②1.1 ③0.9	
647	南区 谷埋土3 上層	棒状製品	①(7.5) ②1.1 ③0.9	
648	南区 谷埋土3 上層	棒状製品	①(29.0) ②2.5 ③1.8	
649	南区 谷埋土3 上層	棒状製品	①(16.8) ②2.0 ③1.4	
650	南区 谷埋土3 上層	棒状製品	①(20.4) ②1.6 ③1.2	
651	中区 谷埋土3 上層	棒状製品	①(13.1) ②1.1 ③0.6	
652	西端部 谷埋土3 上層	棒状製品	①15.6 ②1.1 ③0.9	
653	南区 谷埋土3 上層	棒状端材	①(19.7) ②1.7 ③0.9	
654	南区 谷埋土3 上層	棒状端材	①(16.4) ②3.1 ③1.7	
655	南区 谷埋土3 上層	棒状端材	①(18.1) ②2.8 ③1.6	

遺物番号	遺構	器種	法量（cm）①長さ②最大幅③最大厚	備考
656	南区 谷埋土3 上層	棒状端材	①(9.0) ②2.0 ③1.0	
657	中区 谷埋土3 上層	棒状端材	①(6.4) ②1.0 ③0.7	
658	西端部 谷埋土3 上層	棒状端材	①(9.8) ②1.6 ③0.7	
659	西端部 谷埋土3 上層	棒状端材	①(9.6) ②2.0 ③1.6	
660	南区 谷埋土3 上層	棒状端材	①(11.1) ②1.1 ③1.0	
661	西端部 谷埋土3 上層	角端材	①(6.9) ②8.7 ③5.8	作業台として使用
662	西端部 谷埋土3 上層	角端材	①(9.0) ②7.3 ③4.8	
663	南区 谷埋土3 上層	角端材	①(24.8) ②5.8 ③3.3	
664	南区 谷埋土3 上層	角端材	①(23.3) ②5.2 ③2.6	
665	西端部 谷埋土3 上層	角端材	①(11.7) ②4.3 ③2.8	
666	中区 谷埋土3 上層	角端材	①(11.5) ②3.2 ③3.2	
667	南区 谷埋土3 上層	角端材	①(14.3) ②3.5 ③3.4	
668	南区 谷埋土3 上層	角端材	①7.2 ②4.0 ③2.6	
669	南区 谷埋土3 上層	角端材	①(6.9) ②3.5 ③1.8	
670	南区 谷埋土3 上層	角端材	①5.1 ②2.4 ③2.5	
671	南区 谷埋土3 上層	角材	①(87.9) ②9.0 ③6.0	
672	南区 谷埋土3 上層	板材	①(64.2) ②10.1 ③3.3	
673	南区 谷埋土3 上層	板材	①(63.3) ②11.6 ③2.9	
674	南区 谷埋土3 上層	板状製品	①(15.9) ②6.5 ③1.0	
675	中区 谷埋土3 上層	板状製品	①(11.2) ②4.2 ③0.6	
676	中区 谷埋土3 上層	板状製品	①(10.8) ②3.5 ③0.5	
677	南区 谷埋土3 上層	板状製品	①(11.5) ②3.7 ③0.5	
678	南区 谷埋土3 上層	板状製品	①(18.4) ②2.0 ③0.3	
679	南区 谷埋土3 上層	板状製品	①(21.4) ②5.8 ③1.1	
680	南区 谷埋土3 上層	板状製品	①(16.8) ②4.7 ③1.1	
681	南区 谷埋土3 上層	板状製品	①(19.6) ②3.5 ③1.4	
682	南区 谷埋土3 上層	板状製品	①(16.8) ②3.4 ③1.1	
683	南区 谷埋土3 上層	板状製品	①(12.6) ②3.0 ③1.2	
684	南区 谷埋土3 上層	板状製品	①(12.5) ②4.2 ③1.1	
685	南区 谷埋土3 上層	板状製品	①(11.8) ②4.6 ③0.9	
686	南区 谷埋土3 上層	板状製品	①(9.8) ②5.0 ③1.0	
687	南区 谷埋土3 上層	板状製品	①(34.0) ②2.3 ③0.6	
688	南区 谷埋土3 上層	板状製品	①(14.1) ②3.5 ③0.9	
689	南区 谷埋土3 上層	板状製品	①(11.5) ②3.0 ③0.6	
690	南区 谷埋土3 上層	板状製品	①(11.8) ②3.1 ③0.6	
691	南区 谷埋土3 上層	板状製品	①(10.0) ②3.7 ③1.4	
692	南区 谷埋土3 上層	板状製品	①(8.2) ②3.0 ③0.8	
693	南区 谷埋土3 上層	板状製品	①(8.9) ②3.3 ③1.0	
694	南区 谷埋土3 上層	板状製品	①(8.2) ②2.8 ③0.4	
695	南区 谷埋土3 上層	板状製品	①(8.7) ②2.5 ③0.8	
696	南区 谷埋土3 上層	板状製品	①(6.6) ②4.0 ③1.2	
697	南区 谷埋土3 上層	板状製品	①(8.9) ②2.0 ③0.5	
698	南区 谷埋土3 上層	板状製品	①(5.9) ②2.5 ③0.4	
699	中区 谷埋土3 上層	板状製品	①(7.3) ②1.5 ③0.5	
700	南区 谷埋土3 上層	板状製品	①(5.2) ②1.5 ③0.4	
701	南区 谷埋土3 上層	板状端材	①(13.4) ②6.6 ③1.8	
702	南区 谷埋土3 上層	板状端材	①(11.9) ②3.5 ③0.7	
703	南区 谷埋土3 上層	板状端材	①(11.7) ②3.8 ③1.0	
704	南区 谷埋土3 上層	板状端材	①(9.0) ②3.1 ③0.5	
705	南区 谷埋土3 上層	板状端材	①12.2 ②3.0 ③1.4	
706	南区 谷埋土3 上層	板状端材	①(25.5) ②9.7 ③2.8	
707	南区 谷埋土3 上層	板状端材	①(20.8) ②7.9 ③2.7	
708	南区 谷埋土3 上層	板状端材	①(17.5) ②4.1 ③1.4	部分的に炭化

遺物番号	遺構	器種	法量(cm) ①長さ②最大幅③最大厚	備考
709	中区 谷埋土3 上層	板状端材	①(18.3) ②7.5 ③2.6	
710	南区 谷埋土3 上層	板状端材	①(11.4) ②8.1 ③1.7	
711	南区 谷埋土3 上層	板状端材	①(14.6) ②5.5 ③2.8	
712	南区 谷埋土3 上層	板状端材	①(13.8) ②3.6 ③1.2	
713	南区 谷埋土3 上層	板状端材	①(13.6) ②5.1 ③1.2	
714	南区 谷埋土3 上層	板状端材	①(12.1) ②6.4 ③1.6	
715	南区 谷埋土3 上層	板状端材	①14.2 ②3.3 ③1.0	
716	南区 谷埋土3 上層	板状端材	①(13.1) ②4.2 ③1.0	
717	南区 谷埋土3 上層	板状端材	①(9.4) ②5.5 ③2.2	
718	南区 谷埋土3 上層	板状端材	①(8.8) ②4.7 ③1.5	
719	南区 谷埋土3 上層	板状端材	①(10.5) ②6.9 ③1.2	
720	南区 谷埋土3 上層	板状端材	①(11.5) ②3.5 ③1.3	
721	南区 谷埋土3 上層	板状端材	①12.5 ②2.3 ③0.8	
722	西区 谷埋土3 上層	板状端材	①(12.6) ②2.0 ③0.8	
723	南区 谷埋土3 上層	板状端材	①(12.9) ②2.1 ③1.2	
724	南区 谷埋土3 上層	板状端材	①(9.5) ②3.3 ③1.1	
725	南区 谷埋土3 上層	板状端材	①(6.7) ②3.5 ③1.1	
726	南区 谷埋土3 上層	板状端材	①(7.9) ②2.8 ③0.5	
727	南区 谷埋土3 上層	板状端材	①(6.2) ②2.1 ③0.3	
728	南区 谷埋土3 上層	板状端材	①(6.2) ②3.8 ③0.9	
729	中区 谷埋土3 上層	板状端材	①(8.8) ②2.2 ③0.8	
730	南区 谷埋土3 上層	板状端材	①(20.4) ②2.0 ③0.8	
731	南区 谷埋土3 上層	板状端材	①(8.5) ②3.3 ③1.2	
732	南区 谷埋土3 上層	板状端材	①(6.8) ②2.3 ③1.0	
733	中区 谷埋土3 上層	板状端材	①(8.0) ②1.5 ③0.9	
734	南区 谷埋土3 上層	火付け木	①(48.8) ②3.2 ③1.9	
735	南区 谷埋土3 上層	火付け木	①(46.1) ②3.5 ③2.1	
736	南区 谷埋土3 上層	火付け木	①(42.9) ②3.6 ③1.7	
737	南区 谷埋土3 上層	火付け木	①(36.2) ②3.1 ③1.7	
738	南区 谷埋土3 上層	火付け木	①(23.1) ②2.7 ③1.5	
739	南区 谷埋土3 上層	火付け木	①(33.8) ②3.1 ③2.0	
740	西端部 谷埋土3 上層	火付け木	①(35.6) ②2.2 ③1.1	
741	南区 谷埋土3 上層	火付け木	①(34.0) ②1.7 ③1.9	
742	南区 谷埋土3 上層	火付け木	①(27.4) ②2.5 ③1.7	
743	南区 谷埋土3 上層	火付け木	①(23.8) ②2.5 ③2.4	
744	西端部 谷埋土3 上層	火付け木	①(13.0) ②1.2 ③0.9	
745	西端部 谷埋土3 上層	火付け木	①(13.6) ②1.1 ③0.7	
746	南区 谷埋土3 上層	火付け木	①(13.3) ②2.0 ③1.0	
747	西端部 谷埋土3 上層	火付け木	①(14.3) ②1.2 ③1.0	
748	西端部 谷埋土3 上層	火付け木	①(16.3) ②0.9 ③0.7	
749	西端部 谷埋土3 上層	火付け木	①(17.9) ②2.4 ③0.9	下面に細かい擦痕
750	西端部 谷埋土3 上層	火付け木	①(21.3) ②1.9 ③1.0	
751	南区 谷埋土3 上層	火付け木	①(16.9) ②1.2 ③1.0	
752	南区 谷埋土3 上層	火付け木	①(19.5) ②1.3 ③1.0	
753	中区 谷埋土3 上層	火付け木	①(17.5) ②1.1 ③1.2	
754	南区 谷埋土3 上層	火付け木	①(13.9) ②2.5 ③1.6	
755	南区 谷埋土3 上層	火付け木	①(13.2) ②1.3 ③0.6	
756	南区 谷埋土3 上層	火付け木	①(11.6) ②4.0 ③0.9	
757	南区 谷埋土3 上層	火付け木	①(12.3) ②1.9 ③1.5	
758	西端部 谷埋土3 上層	火付け木	①(10.4) ②0.8 ③0.7	下部以外炭化　部分的に炭化剥離
759	南区 谷埋土3 上層	火付け木	①(10.2) ②1.6 ③0.8	
760	南区 谷埋土3 上層	火付け木	①(11.6) ②2.6 ③0.6	
761	中区 谷埋土3 上層	火付け木	①(17.4) ②3.3 ③1.8	

遺物番号	遺構	器種	法量（cm）①長さ②最大幅③最大厚	備考
762	中区 谷埋土3 上層	火付け木	①(16.7) ②1.5 ③1.1	
763	南区 谷埋土3 上層	火付け木	①(14.8) ②2.0 ③1.0	
764	中区 谷埋土3 上層	火付け木	①(14.4) ②1.3 ③0.9	
765	中区 谷埋土3 上層	火付け木	①(14.8) ②1.7 ③1.2	
766	南区 谷埋土3 上層	火付け木	①(14.3) ②0.9 ③0.5	
767	南区 谷埋土3 上層	火付け木	①(14.5) ②5.6 ③0.9	
768	中区 谷埋土3 上層	火付け木	①(14.5) ②1.4 ③1.5	
769	中区 谷埋土3 上層	火付け木	①(12.5) ②3.1 ③2.3	
770	中区 谷埋土3 上層	火付け木	①(12.4) ②2.4 ③1.8	
771	中区 谷埋土3 上層	火付け木	①(10.8) ②1.4 ③1.1	
772	南区 谷埋土3 上層	火付け木	①(10.6) ②2.8 ③1.4	
773	南区 谷埋土3 上層	火付け木	①(12.1) ②2.5 ③1.7	
774	南区 谷埋土3 上層	火付け木	①(10.1) ②1.9 ③1.3	
775	南区 谷埋土3 上層	火付け木	①(7.6) ②1.7 ③0.8	
776	南区 谷埋土3 上層	火付け木	①(9.5) ②1.7 ③0.6	
777	南区 谷埋土3 上層	火付け木	①(9.6) ②1.0 ③0.8	
778	中区 谷埋土3 上層	火付け木	①(10.5) ②1.1 ③0.9	
779	中区 谷埋土3 上層	火付け木	①(10.1) ②2.3 ③2.0	
780	中区 谷埋土3 上層	火付け木	①(9.1) ②2.0 ③1.0	
781	中区 谷埋土3 上層	火付け木	①(7.5) ②1.6 ③1.8	
782	中区 谷埋土3 上層	火付け木か	①(9.3) ②0.7 ③0.5	
783	中区 谷埋土3 上層	火付け木	①(7.8) ②0.9 ③0.5	
784	中区 谷埋土3 上層	火付け木	①(9.5) ②1.5 ③0.5	
785	中区 谷埋土3 上層	火付け木	①(7.8) ②1.1 ③0.6	
786	中区 谷埋土3 上層	火付け木	①(6.4) ②3.8 ③1.8	
787	中区 谷埋土3 上層	火付け木	①(5.6) ②2.3 ③1.5	
788	中区 谷埋土3 上層	火付け木	①(6.4) ②1.5 ③0.9	
789	南区 谷埋土2 下層	曲物蓋か	①(11.8) ②8.0 ③0.6	
790	南区 谷埋土2 下層	木錘	①(7.9) ②5.0 ③3.3	
791	中区 谷埋土2 下層	有穴板状製品	①(17.4) ②2.0 ③1.0	
792	南区 谷埋土2 下層	斎串か	①(8.3) ②2.3 ③0.7	
793	南区 谷埋土2 下層	棒状端材	①(44.5) ②2.7 ③2.0	
794	南区 谷埋土2 下層	棒状端材	①(20.3) ②2.8 ③2.2	
795	南区 谷埋土2 下層	棒状端材	①(20.6) ②2.5 ③1.2	
796	南区 谷埋土2 下層	棒状端材	①(20.4) ②3.5 ③2.0	
797	南区 谷埋土3 下層	棒状端材	①(14.6) ②1.1 ③0.7	
798	南区 谷埋土3 下層	棒状端材	①(9.6) ②1.3 ③0.8	
799	南区 谷埋土2 下層	棒状端材	①(9.4) ②1.2 ③0.8	
800	南区 谷埋土3 下層	棒状端材	①(11.8) ②1.5 ③0.8	
801	南区 谷埋土3 下層	棒状端材	①(11.0) ②1.7 ③1.0	
802	南区 谷埋土2 下層	棒状端材	①(13.6) ②1.4 ③1.0	
803	南区 谷埋土2 下層	棒状端材	①(12.2) ②2.0 ③1.2	
804	南区 谷埋土2 下層	棒状端材	①(13.0) ②2.4 ③1.2	
805	南区 谷埋土2 下層	棒状端材	①(14.2) ②1.5 ③0.9	
806	南区 谷埋土2 下層	棒状端材	①(13.7) ②1.0 ③0.7	
807	南区 谷埋土2 下層	棒状端材	①(9.3) ②1.2 ③0.8	
808	南区 谷埋土2 下層	棒状端材	①(8.0) ②1.5 ③0.8	
809	南区 谷埋土2 下層	棒状端材	①(8.2) ②1.4 ③0.65	
810	南区 谷埋土2 下層	角端材	①(19.8) ②9.1 ③5.0	
811	南区 谷埋土2 下層	角端材	①(9.6) ②5.8 ③3.7	
812	南区 谷埋土2 下層	角端材	①(8.6) ②6.7 ③4.6	
813	南区 谷埋土2 下層	板状製品	①(15.2) ②3.8 ③0.4	
814	南区 谷埋土2 下層	板状製品	①(14.7) ②4.7 ③0.5	

遺物番号	遺構	器種	法量（cm）①長さ②最大幅③最大厚	備考
815	南区 谷埋土2 下層	板状製品	①(10.6) ②2.8 ③0.6	
816	南区 谷埋土2 下層	板状製品	①(7.8) ②4.0 ③0.65	
817	南区 谷埋土2 下層	板状製品	①(6.1) ②2.1 ③0.6	
818	南区 谷埋土2 下層	板状端材	①(9.9) ②8.0 ③0.8	
819	南区 谷埋土2 下層	板状端材	①(16.8) ②4.7 ③1.0	
820	南区 谷埋土2 下層	板状端材	①(14.4) ②5.7 ③1.0	
821	南区 谷埋土2 下層	板状端材	①(14.8) ②1.9 ③0.6	
822	南区 谷埋土2 下層	板状端材	①(11.7) ②2.3 ③1.1	
823	南区 谷埋土2 下層	板状端材	①(11.5) ②2.8 ③0.8	
824	南区 谷埋土2 下層	板状端材	①(9.6) ②4.9 ③1.3	
825	南区 谷埋土2 下層	板状端材	①(7.2) ②1.9 ③0.6	
826	南区 谷埋土2 下層	板状端材	①(8.1) ②5.1 ③1.3	
827	南区 谷埋土2 下層	板状端材	①(21.2) ②3.3 ③1.8	
828	南区 谷埋土2 下層	板状端材	①(20.9) ②2.6 ③0.8	
829	南区 谷埋土2 下層	板状端材	①(21.3) ②2.9 ③1.6	
830	南区 谷埋土2 下層	板状端材	①(9.1) ②3.1 ③1.0	杭先加工のチョウナクズか
831	南区 谷埋土2 下層	板状端材	①(6.7) ②1.6 ③0.7	
832	南区 谷埋土3 下層	板状端材	①(10.2) ②1.8 ③0.9	
833	南区 谷埋土3 下層	板状端材	①(9.7) ②2.2 ③0.7	
834	南区 谷埋土3 下層	板状端材	①(8.1) ②1.7 ③0.7	
835	南区 谷埋土3 下層	板状端材	①(9.3) ②1.6 ③0.7	
836	南区 谷埋土2 下層	板状端材	①(10.0) ②2.3 ③1.3	
837	南区 谷埋土2 下層	火付け木	①(39.7) ②1.4 ③1.0	自然木
838	南区 谷埋土2 下層	火付け木	①(18.5) ②1.9 ③1.6	
839	南区 谷埋土2 下層	火付け木	①(15.2) ②2.3 ③1.9	
840	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(12.3) ②1.5 ③1.2	
841	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(19.5) ②1.9 ③1.3	
842	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(17.2) ②2.7 ③1.8	
843	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(11.8) ②2.2 ③1.5	
844	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(7.2) ②2.8 ③0.9	
845	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(15.0) ②3.9 ③2.2	
846	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(14.2) ②3.7 ③1.8	
847	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(15.9) ②2.1 ③0.8	
848	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(13.9) ②1.8 ③0.9	
849	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(11.2) ②1.7 ③0.9	
850	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(28.0) ②2.6 ③2.1	
851	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(22.0) ②3.0 ③1.5	楕円形 桜皮綴じ 木釘穴は見当たらない
852	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(24.5) ②1.9 ③0.9	
853	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(23.8) ②1.3 ③1.0	
854	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(19.6) ②1.8 ③1.1	
855	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(15.0) ②2.6 ③1.2	
856	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(17.6) ②2.5 ③1.6	
857	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(17.2) ②1.8 ③1.4	
858	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(15.0) ②2.3 ③1.3	
859	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(8.3) ②2.1 ③1.1	
860	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(7.9) ②1.8 ③1.4	
861	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(9.3) ②3.3 ③1.0	
862	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(9.0) ②1.3 ③0.9	
863	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(7.2) ②2.4 ③0.5	
864	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(5.7) ②2.1 ③0.5	
865	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(11.5) ②1.5 ③0.8	
866	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(11.6) ②1.5 ③1.2	
867	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(10.5) ②1.9 ③0.9	

遺物番号	遺構	器種	法量（cm）①長さ②最大幅③最大厚	備考
868	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(11.0) ②1.6 ③1.2	
869	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(12.0) ②1.4 ③0.6	
870	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(15.4) ②1.8 ③0.8	
871	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(13.1) ②1.7 ③1.2	
872	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(12.4) ②2.0 ③0.7	
873	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(14.4) ②2.3 ③1.4	
874	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(12.6) ②2.4 ③1.7	
875	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(10.8) ②2.2 ③1.3	
876	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(11.7) ②1.8 ③1.7	
877	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(9.9) ②1.4 ③1.1	
878	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(7.9) ②1.9 ③0.9	
879	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(9.5) ②1.4 ③0.9	
880	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(9.4) ②1.3 ③0.9	
881	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(10.2) ②2.3 ③1.4	
882	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(10.5) ②1.9 ③0.8	
883	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(11.0) ②1.6 ③1.6	
884	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(12.2) ②1.7 ③1.3	
885	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(13.0) ②1.2 ③0.4	
886	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(12.7) ②1.4 ③1.2	
887	中区 谷埋土2 下層	火付け木	①(12.5) ②1.4 ③1.1	
888	南区 谷埋土2 上層	曲物底板	①16.9 ②8.7 ③0.5	
889	南区 谷埋土2 上層	曲物底板	①(9.7) ②3.9 ③0.4	
890	南区 谷埋土2 上層	鍬か	①(33.5) ②6.5 ③1.6	
891	南区 谷埋土2 上層	棒状製品	①(50.1) ②2.2 ③1.2	
892	南区 谷埋土2 上層	棒状製品	①(21.1) ②2.6 ③1.9	
893	中区 谷埋土2 上層	棒状製品	①(19.6) ②0.9 ③0.4	
894	南区 谷埋土2 上層	棒状端材	①(19.9) ②2.3 ③1.8	
895	南区 谷埋土2 上層	棒状端材	①(32.7) ②4.5 ③3.0	
896	南区 谷埋土2 上層	棒状端材	①(37.4) ②4.4 ③2.1	
897	南区 谷埋土2 上層	角端材	①(9.9) ②13.4 ③4.9	
898	南区 谷埋土2 上層	板材	①(22.6) ②7.5 ③3.6	
899	中区 谷埋土2 上層	火付け木	①(25.1) ②2.3 ③1.1	
900	南区 谷埋土2 上層	火付け木	①(19.9) ②2.0 ③1.1	
901	中区 谷埋土2 上層	火付け木	①(15.3) ②1.5 ③0.8	
902	中区 谷埋土2 上層	火付け木	①(7.7) ②2.5 ③0.9	
903	中区 谷埋土2 上層	火付け木	①(11.6) ②1.5 ③0.5	
904	南区 谷埋土2 上層	火付け木	①10.2 ②2.9 ③2.4	
905	SD1	曲物底板または蓋	①(25.5) ②13.2 ③2.2	906と同一個体か
906	SD1	曲物底板または蓋	①(28.1) ②8.0 ③1.9	905と同一個体か
907	SD1	火付け木	①(11.8) ②3.5 ③1.4	
908	西壁断面	棒状製品	①(22.3) ②1.3 ③0.8	
909	西壁断面	篦状製品	①(11.2) ②1.9 ③0.8	端部付近に黒色の塗料？が付着
910	西壁断面	火付け木	①(40.0) ②2.0 ③0.8	
911	西壁断面	火付け木	①(29.5) ②2.0 ③1.9	
912	西壁断面	火付け木	①(9.6) ②1.6 ③1.0	
913	西壁断面	火付け木	①(8.2) ②1.4 ③0.7	
914	西壁断面	火付け木	①(6.8) ②1.6 ③1.0	
915	西壁断面	火付け木	①(5.8) ②1.1 ③0.4	

2．椹野寮１号棟改修工事に伴う立会調査

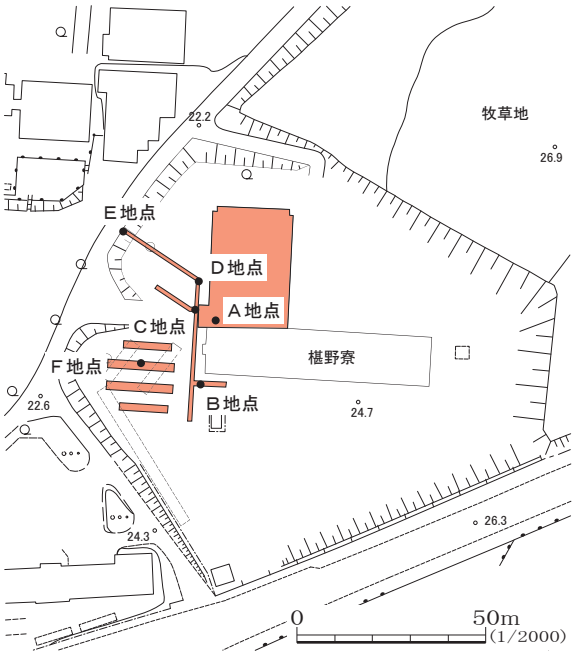


図 61　調査区位置図

写真 76　A地点土層断面（北から）

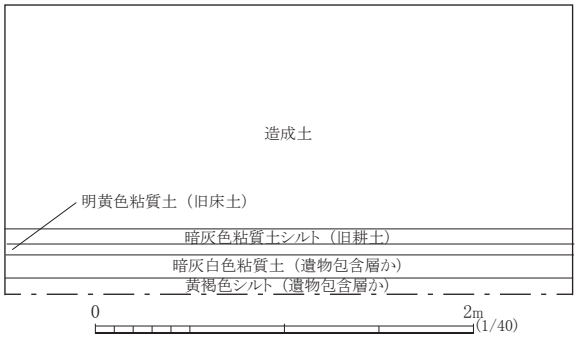


図 62　A地点土層断面柱状図

調査地区　吉田構内O－20・21区、P－20・21区

調査面積　801㎡

調査期間　平成26年10月９日、12月17日
平成27年３月17・23～26日

調査担当　横山成己

調査結果

平成24年度から開始された吉田構内椹野寮（女子学生寮）２号棟新営工事[註1]に引き続き、既設の椹野寮１号棟の改修工事が立案され、平成25年度第10回埋蔵文化財資料館専門委員会（平成25年３月24日開催）による審議の結果、工事立会による埋蔵文化財保護対応が決定された。

工事立会は１号棟北側平屋建物（食堂）解体時と、新規配管布設および駐輪場設置時に行うこととなった（図61）。

北側平屋建物基礎の深度は浅かったが、南端部でピットの掘削解体が行われたため、土層断面確認ポイント（A地点）とした（図62、写真76）。調査の結果、現地表より下に1.5mまでが造成土で、以下に旧耕土、旧床土、遺物包含層と推測される2枚の堆積層（暗灰白色粘質土、黄褐色シルト）が遺存することを確認した。

新規配管布設ルートは、掘削深度が深い反面、幅が狭小であるため、安全を確保するため幅広に掘削される枡設置地点を中心に断面観察を行った（B～E地点）。

B地点（図63、写真77）では、現地表下1.04mに旧耕土と旧床土を確認したが、その下位は地山と見られ、２号棟敷地の調査成果同様、棚田形成のため地山を削平したことが確認された。

C地点（図64、写真78）では、現地表下１mに旧耕土と2枚の旧床土を確認し、その下位に層厚0.3mの遺物包含層である暗灰黄色粘質土を検出した。当層からは、須恵器の坏と思われる小片が出土している。

D地点（図65、写真79）では、現地表下1.45mに旧耕土と旧床土を確認し、その下位に層厚0.3mの

灰白色（黄色混じり）砂礫（1～5㎜φ）を検出した。河川堆積層と見られる。

E地点（図66、写真80）では、現地表下1.7mに旧耕土と旧床土を確認し、その下位に層厚0.3mの遺物包含層である暗灰黄色粘質土を検出した。

自転車置き場基礎掘削時に立会を行ったF地点（図67、写真81）では、深度0.6mの掘削で造成土内にとどまった。

椹野寮1号棟は、本学の埋蔵文化財保護体制が整う以前の統合移転開始期である昭和41年(1966)に建設されたため、長らく地下の様相が不明であったが、平成24年度に実施した椹野寮2号棟新営に伴う予備発掘調査により、敷地の南半部は大学移転前にすでに削平を受けており、棚田が形成されていたことが確認された。椹野寮敷地は、東に隣接する農学部附属農場牧草地（昭和41年に吉田第Ⅱ地区として小野忠熙氏が発掘調査を実施。古代から中世にかけての遺構・遺物が密に分布し、竪穴式住居跡と見られる遺構の存在も指摘される[註2]）から大きな段差をもって平坦化されているため、敷地全域が同様の削平を受けているものと想像されたが、今回の調査によって、敷地の中央から北部は旧耕土・旧床土下に遺物包含層が遺存することが判明した。確認できた遺物が少量であるため断定は困難であるが、古代以前の遺物を包含する堆積層である可能性が高いと考える。平成25調査に実施した椹野寮新営工事に伴う立会調査においても、1号棟の西側にて実施された配管工事時に、遺物包含層下位の地山を掘り込む大型の遺構を確認しており、周域に古代以前の集落が埋存している可能性は高いと見なして良い。

椹野寮1号棟北側は現在更地となっているが、当該地において新たな女子学生寮等建物が計画された場合には、予備発掘調査を実施し、地下の様相を確認する必要がある。

写真 77　B地点土層断面（東から）

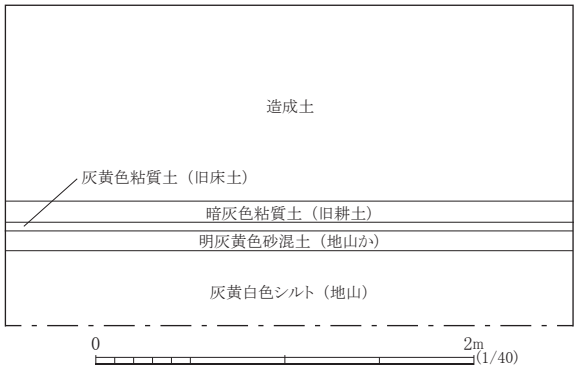


図 63　B地点土層断面柱状図

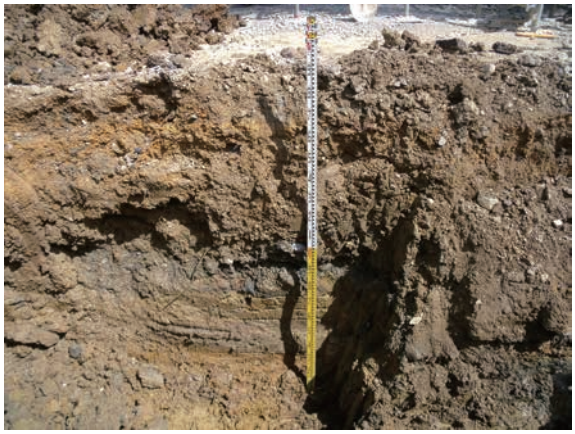


写真 78　C地点土層断面（西から）

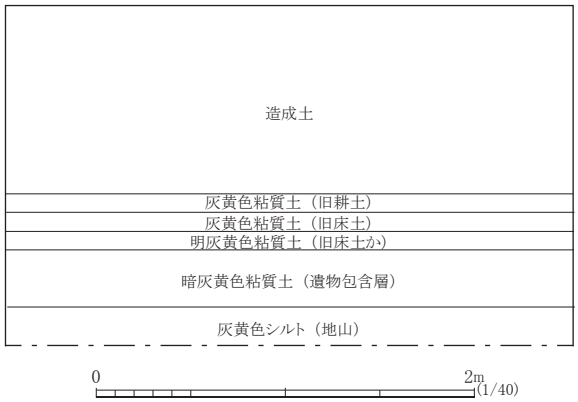


図 64　C地点土層断面柱状図

【註】

1）横山成己（2016）「椹野寮新営工事に伴う予備発掘調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報-平成24年度-』，山口

横山成己（2017）「椹野寮新営工事に伴う立会調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報-平成25年度-』，山口

2）小野忠熙（1976）『山口大学構内　吉田遺跡発掘調査概報』，山口大学吉田遺跡調査団，山口

横山成己（2007）「吉田遺跡第Ⅱ地区の調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報-平成17年度-』，山口

写真 79　D地点土層断面（西から）

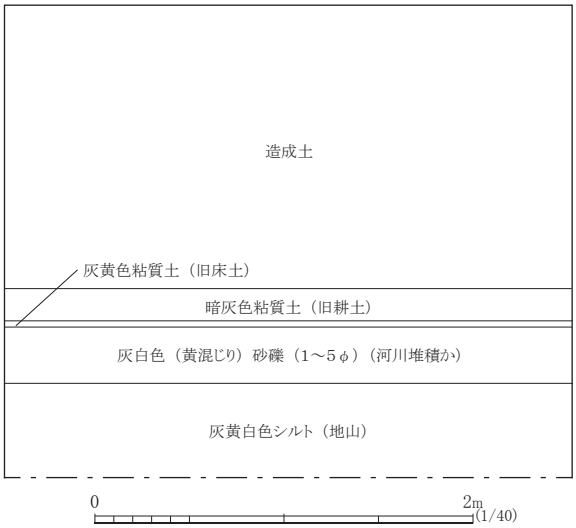


図 65　D地点土層断面柱状図

写真 80　E地点土層断面（南東から）

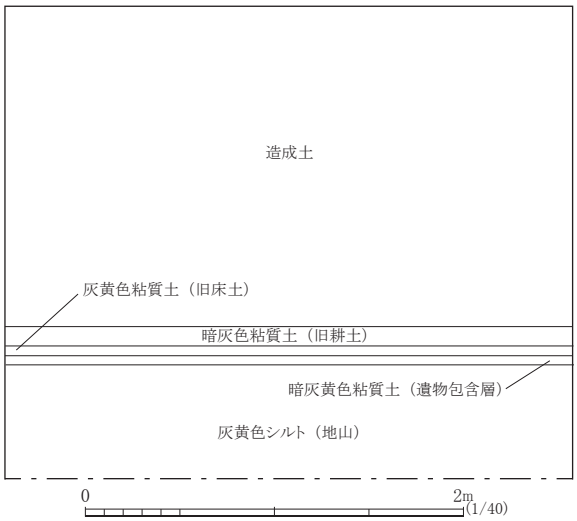


図 66　E地点土層断面柱状図

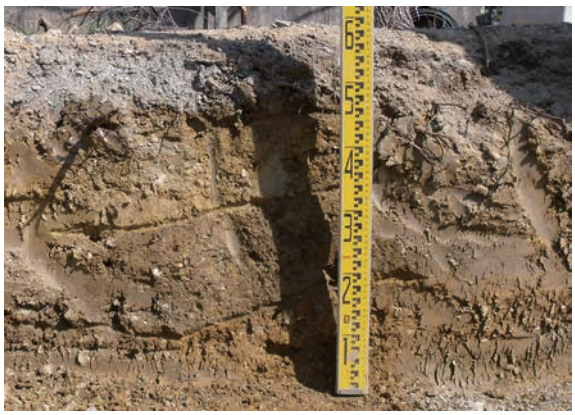


写真 81　F地点土層断面（南から）

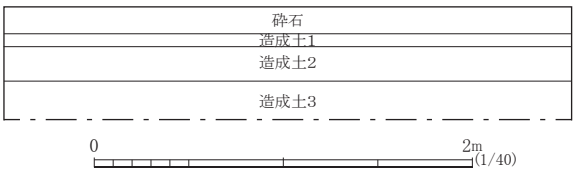


図 67　F地点土層断面柱状図

３．動物医療センター改修電気設備工事に伴う立会調査

調査地区　吉田構内Ｓ－19区

調査面積　9㎡

調査期間　平成27年3月2日

調査担当　横山成己

調査結果

本書第2章第2節1でも述べたが、吉田構内東南部に所在する動物医療センター周域は古代官衙が展開しており、吉田遺跡内でも重点的埋蔵文化財保護地域の一つとなっていることから、小規模工事においても立会調査を実施している。

この度計画された電気設備工事は、昭和60年度に工事立会が実施され、5～7㎝の掘削で赤黄色粘質土の地山が露出し、遺物包含層や遺構は存在しない[註1]とされる地点（図68）であったが、慎重を期して立会調査を実施した。

調査の結果、昭和60年度に設けられたアスファルトと砕石の下位はいずれも造成土で、0.6mの掘削でも地山は露出しなかった（図69、写真82）。赤褐色の造成土を地山と誤認したのであろう。

平成24年度の共同獣医学部新設以降、動物医療センター周域での開発工事が頻発しており、当館は毎年のごとくその対応に苦慮している。大学である以上、教育研究が最優先されることは理解できるが、教育研究が埋蔵文化財を消滅させる免罪符となっては本末転倒である。遺跡は本学の所有物ではなく、人類共有の財産である。全人類に説明できるよう、慎重な開発計画を立案するべきと考える。

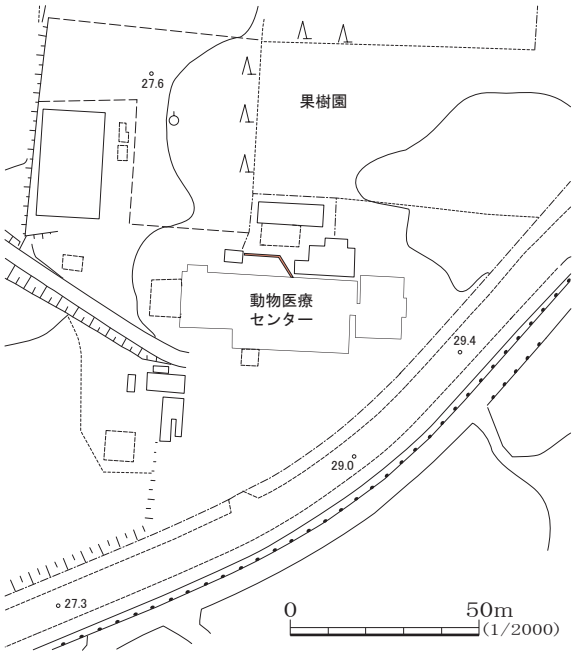


図 68　調査区位置図

写真 82　土層断面（南東から）

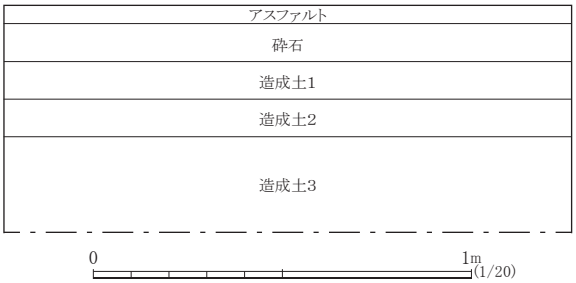


図 69　土層断面柱状図

【註】

1）河村吉行（1986）「農学部解剖実習棟周辺（第1地点）および附属家畜病院（第2地点）環境整備に伴う立会調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅴ』，山口

４．農学部附属農場水田排水路工事に伴う立会調査

図 70　調査区位置図

写真 83　掘削状況（東から）

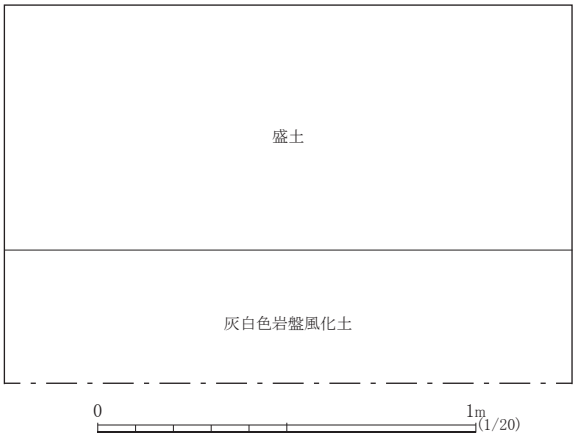


図 71　土層断面柱状図

調査地区　吉田構内U・V－17区

調査面積　50㎡

調査期間　平成27年1月27日

調査担当　横山成己

調査結果

農学部附属農場実験水田は、以前より水はけの悪さが指摘されており、平成21年度には1号田から5号田の北側、5号田の西側と中央に排水用暗渠を設置する工事を実施し、立会調査を行っている[註1]。その際は西端の5号田において遺物包含層および河川跡を確認し、古代の遺物が包含されていることを確認した。一方で、平成9年から10年にかけて実施した分布調査では、1号田の主に北半部で40点の遺物が採取されており、7世紀代の須恵器が報告されている[註2]。工事計画は、その1号田の南端部に東西方向の排水路を設けるもの（図70）で、水田面より0.35mの掘削を必要とすることから、工事立会を実施する運びとなった。

調査の結果、水田耕土下は岩盤風化層で、地山は大きく削平を受けていることが判明し（図71、写真83）、分布調査成果を裏付ける結果となった。

【註】

1）横山成己（2013）「農学部附属農場水田暗渠排水工事に伴う立会調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報-平成21年度-』，山口

2）田畑直彦（2004）「吉田構内農学部附属農場の分布調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報ⅩⅥ、ⅩⅦ』，山口

５．経済学部Ｄ棟改修電気設備工事に伴う立会調査

調査地区　吉田構内Ｋ－19区

調査面積　4㎡

調査期間　平成27年1月20日

調査担当　横山成己

調査結果

山口県内に散在していた本学各学部は、昭和41年（1966）以降山口市吉田地区に段階的に統合移転を果たす。公的には、大学造成中に吉田遺跡が発見され、昭和42年（1967）から統合移転が一旦の終了を迎える昭和48年（1973）まで、学長を団長とする「山口大学吉田遺跡調査団」が構内の埋蔵文化財の保護を目的とする発掘調査を実施したとされるが、各学部校舎、総合図書館、体育館、共通教育棟など本学主要建物敷地に発掘調査を実施した記録は全く残されていない。

当館設立以降、失われた地下情報を復元するため、学部校舎周域での工事に対しては、たとえ掘削範囲が狭小であっても調査を実施し、情報収集に努めている。当該年度に経済学部にて計画された電気設備工事はその好例で、アース接地部が深掘りされるとのことから、工事立会を行った（図72）。

掘削は深度1.2mにおよび、現地表下0.9mまでは表土、造成土であったが、その下位に旧耕土と見られる層厚0.1mの灰黄色（2.5Y7/2）弱粘質土、旧床土と見られる層厚0.05mの浅黄色（2.5Y7/3）弱粘質土が確認され、最下層として地山である浅黄色（5Y8/5）シルトが検出された（図73）。経済学部D棟周域においては、本学造成時に地山を削平することなく、盛土を施すことによって校舎を建築したと見られる。

当工事地点の南西約60mには、弥生時代中期から古墳時代前期の集落跡が発見され、現在埋め戻し保存されている「遺跡保存地区」が存在する。集落は低湿地の微高地に形成されたとされるが、周辺地形が不明確な状況での推定である。今後も地下情報の収集に努めたい。

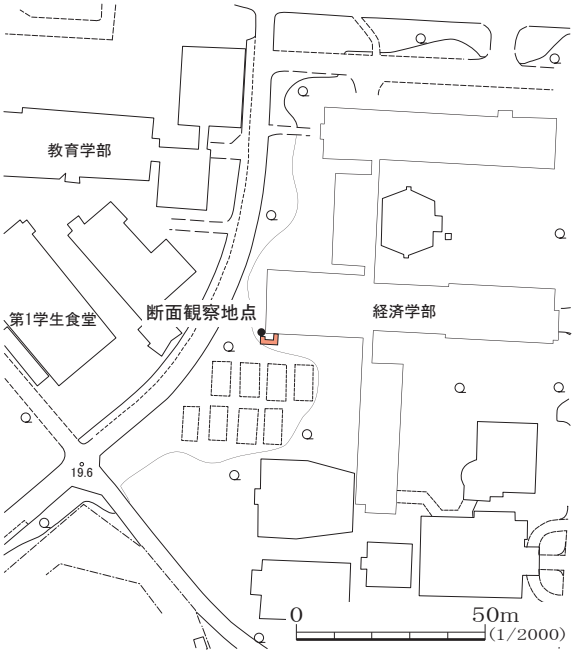


図 72　調査区位置図

写真 84　土層断面（南から）

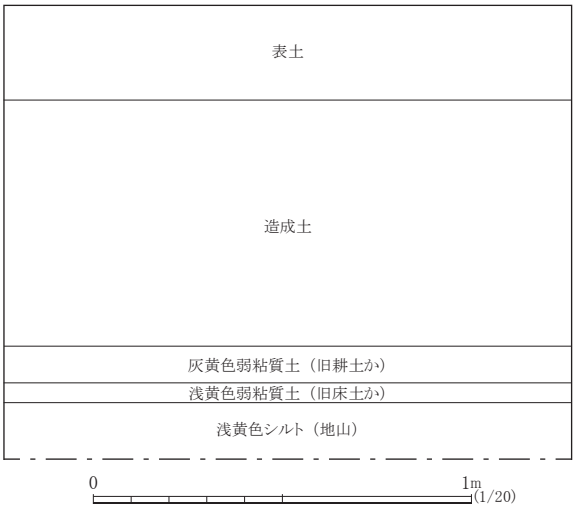


図 73　土層断面柱状図

6．第1学生食堂増築工事に伴う立会調査

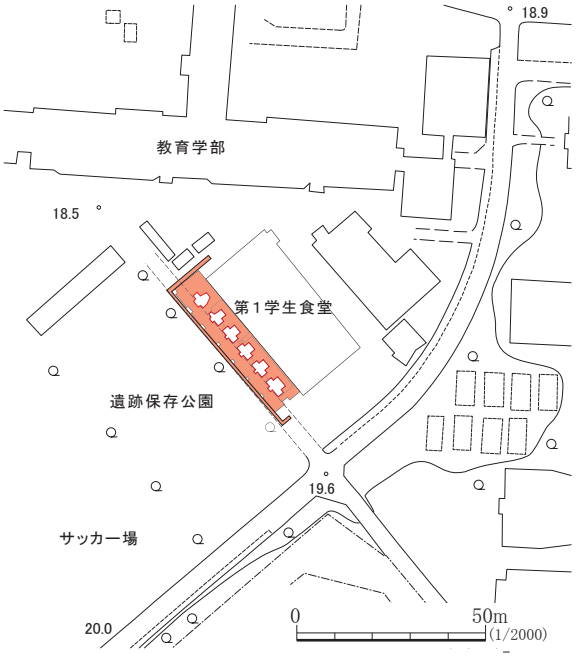


図 74　調査区位置図

写真 85　建物基礎掘削部全景（南西から）

写真 86　A地点土層断面（南から）

調査地区　吉田構内I－19・20、J－20

調査面積　約341㎡

調査期間　平成26年4月11・21・22・30・5月14～17・19・20日

調査担当　田畑直彦・川島尚宗

調査結果

（1）基本層序・遺構（図75・写真87～90）

第1学生食堂増築工事に伴い、平成24年度に予備発掘調査[註1]を行い、審議の結果工事、施工時に立会調査を実施することになった（平成25年度第10回埋蔵文化財資料館専門委員会　平成25年3月29日開催）。その後、平成26年4月に工事が開始されたことに伴い、立会調査を実施した。今回の掘削は排水管新設工事、建物建設工事に伴うものである。調査区内の基本層序は第1層：アスファルト・コンクリート・表土、第2層：造成土、第3層：旧耕土、第4層：旧床土、第5層：遺物包含層、第6層：地山である。

調査区北部のA地点の層序は、現地表下約40㎝までが造成土、以下約40～44㎝が旧耕土、約44～48㎝が旧床土、約48～55㎝が遺構もしくは河川埋土と考えられる黒褐色（10YR3/1）シルト、約55㎝以下が地山である浅黄色（2.5Y7/4）シルトであった。B地点では、現地表下約100㎝までが造成土で、地山を検出面として、直径約20㎝・深さ5㎝のピットを検出した。C地点の層序は、現地表下約50㎝までが造成土で、以下で河川肩部を検出した。河川埋土は灰オリーブ色（7.5Y5/2）粗砂で層厚は約32㎝であった。D地点の層序は現地表下約35㎝までが造成土、以下約35～68㎝が河川埋土である褐灰色（10YR4/1）シルト、約68～86㎝が河川埋土である灰色（5Y5/1）粗砂、約86～95㎝が地山である黄色（10Y6/1）シルト、約95㎝以下が河川埋土である黒褐色、灰色の粘土・粗砂の互層であった。褐灰色シルトからは弥生土器片が出土した。

また、調査区北部では予備発掘調査で検出した河川2・3の延長部分、調査区南部では河川1の延長部

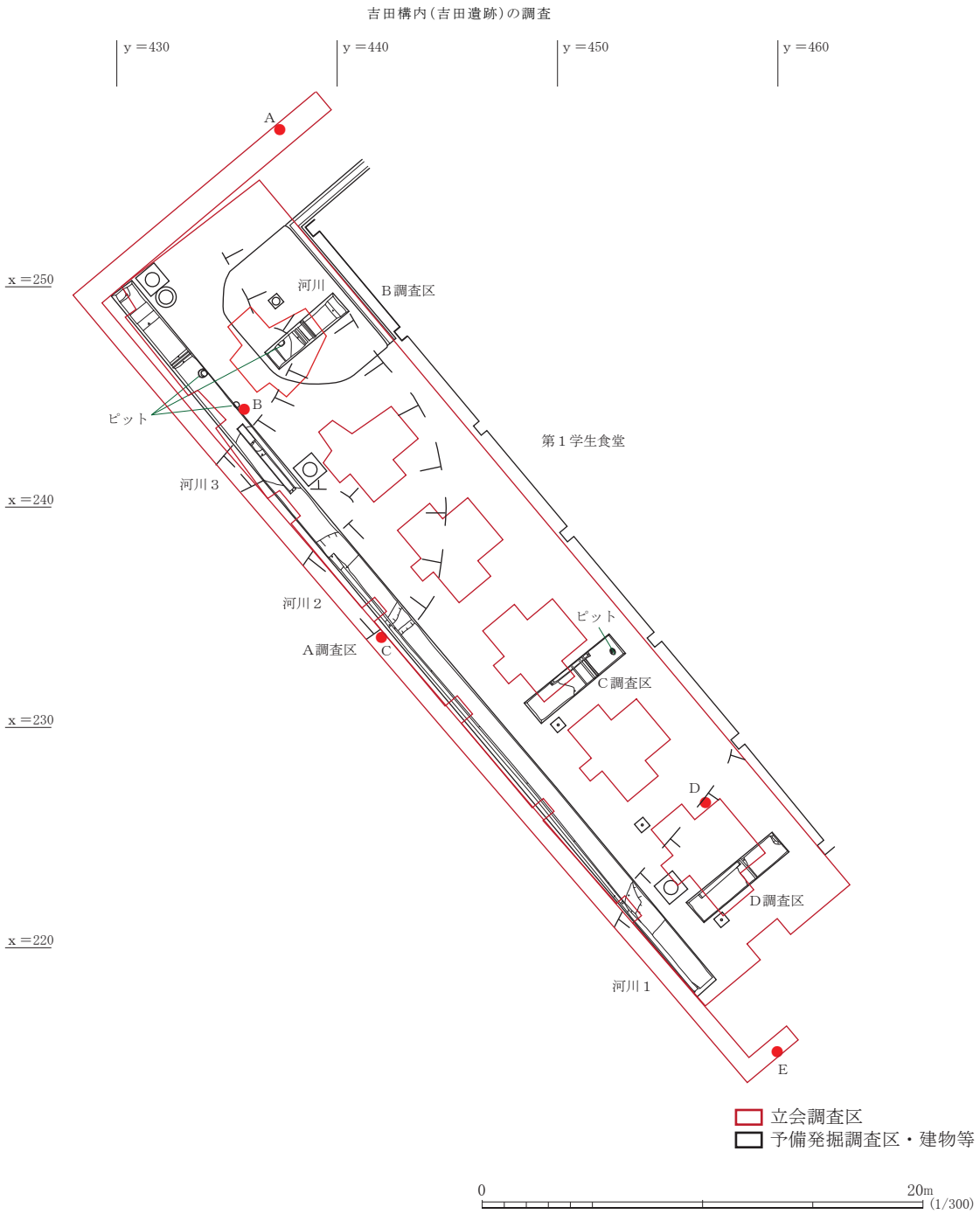


図 75　調査区詳細図

分を検出した。河川1については調査区南端部（E地点）においても確認でき、少なくとも11m以上の幅を持つことが判明した。しかし、これらの河川からは土器が少量出土するにとどまった。

【註】

1）田畑直彦（2016）「第1章第2節4　第1学生食堂増築工事に伴う予備発掘調査」山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成24年度－』,山口

（2）遺物（図76・写真91）

1は弥生時代中期の甕底部である。外面は被熱しており、底部の充填部が剥離している。D地点河川埋土（褐灰色シルト）出土。

写真87　B地点ピット検出状況（北西から）

写真88　C地点土層断面(南西から)

写真89　D地点土層断面（北から）

写真90　E地点土層断面(北から)

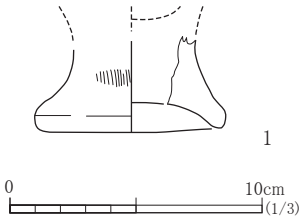


図76　出土遺物

写真91 出土遺物

表10 出土遺物（土器）観察表

法量（ ）は復元値

遺物番号	遺構層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
1	D地点 河川埋土	弥生土器　甕	口縁部	②7.6	①②灰オリーブ色(5YR7/4)	0.5～3mmの砂粒を含む	

（3）小結

今回の調査結果は予備発掘調査の結果を追認するもので、検出した確実な遺構はピット1基のみであった。また、河川を検出し、弥生土器が出土したが、出土量が僅少で時期の特定には至らなかった。今後、河川の分布範囲や時期の確定が課題である。

7. 第1学生食堂増築電気設備工事に伴う立会調査

調査地区　吉田構内I－19

調査面積　約16㎡

調査期間　平成26年6月17・18日

調査担当　田畑直彦

調査結果

前項で報告した第1学生食堂増築工事に付随し電気設備工事が計画されたことに伴い、立会調査を実施した。立会調査の対象は、教育学部から第1学生食堂間の管路埋設工事である。

調査の結果、A地点では現地表下46㎝まで掘削が行われたが、全て造成土の範囲内であった。B地点では、現地表下35㎝までが表土・造成土で、以下35～40㎝までが旧耕土、40～50㎝が旧床土であった。C地点は、現地表下66㎝まで掘削が行われたが、全て造成土の範囲内であった。

以上の結果、埋蔵文化財に支障はなかったが、B地点周辺では旧耕土以下の土層の残存が確認できた。今回の調査区は遺跡保存公園に隣接していることから、B地点周辺では弥生～古墳時代の遺構・遺物が存在する可能性が高く、注意が必要である。

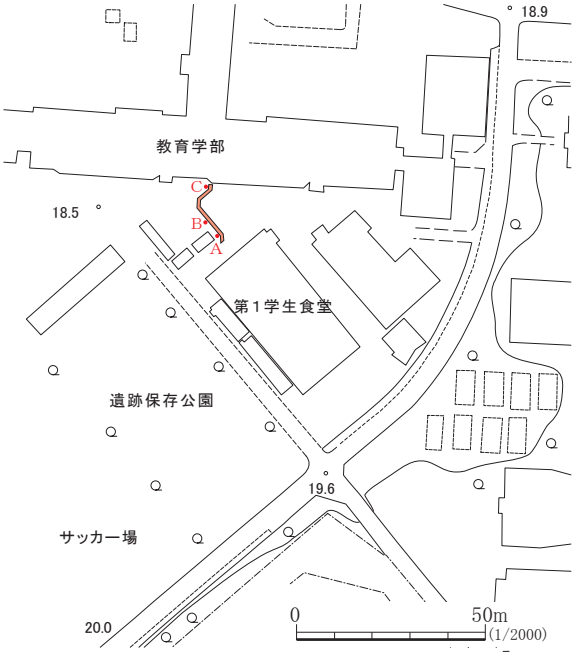


図 77　調査区位置図

写真 92　A地点土層断面（南東から）

写真 93　B地点土層断面（北東から）

8. 吉田構内南門アプローチ整備工事に伴う立会調査

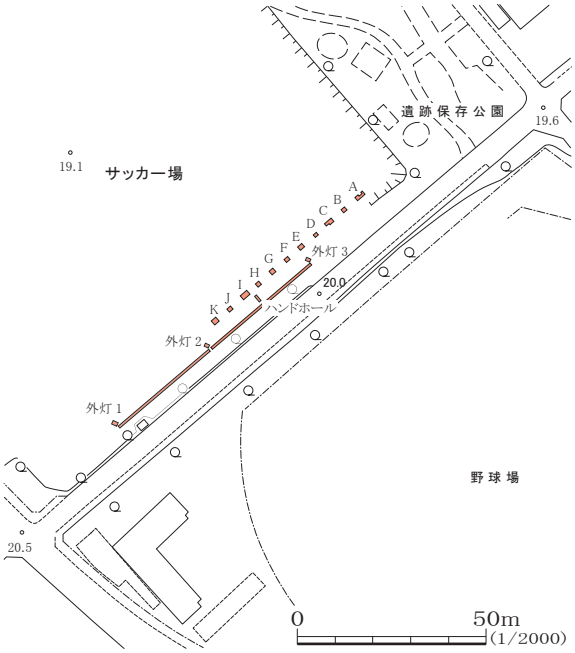


図 78　調査区位置図

写真 94　調査区全景（北東から）

写真 95　調査区全景（南西から）

調査地区　吉田構内H・I-21・22区

調査面積　約66.5㎡

調査期間　平成26年11月20・24日
12月3・5日

調査担当　現地：川島尚宗　遺物：横山成己

調査結果

吉田構内南門アプローチ整備工事に伴い、平成25年度第10回埋蔵文化財資料館専門委員会（3月24日開催）において、当該工事における埋蔵文化財の取り扱いについて協議した結果、遺物の出土が予想されるものの掘削範囲が小規模であるため、立会調査で対応することとした。調査地点は平成8年度におこなわれた外灯新設に伴う試掘調査地点[註1]、および平成20年度の防球ネット取設工事に伴う立会調査地点[註2]と一部重複、隣接している。過去の調査において、縄文時代晩期～古墳時代前期の土器が出土し、河川跡などの遺構が確認されている。

今回の調査地点は南門からの通路北西側に位置しており、南門周辺から遺跡保存公園までの範囲となっている。防球ネットの移設に伴い、現地表面下75cmまで、外灯新設・移設に伴い盛土後・舗装前の地表下約145㎝までの掘削が計画された。

防球ネット移設地点の模式的な土層断面を第78図に示す。東側断面はほぼすべてが攪乱を受けていたため、土層の観察・記録はすべて西壁でおこなった。平成20年度の防球ネット取設工事に伴う立会調査とほぼ同様の調査結果が得られ、表土・造成土の下に明黄褐色土（地山）という基本層序に加え、河川埋土と考えられる黒色シルト層・砂礫層が検出された。A地点北端では、屋外照明の新設に伴う試掘調査[註3]で検出された河川埋土と同一であると考えられる黒色シルト層が検出された。この黒色シルト層からは弥生時代末～古墳時代前期の土器が出土した（写真97）。このうち第81図1～7は、地表下48cm付近において重なるようにまとまって出土した資料である。今回の外灯設置にともなう管路の掘削は深さ約55～60cm、幅約65cmで、全長は約66mにお

よぶ。調査区は平成8年度の外灯新設に伴う試掘調査地点[註4]と一部重複すると考えられる。今回、歩道整備のため、外灯設置箇所で35～50cm、管路掘削箇所で20～35cm、新たに盛土がなされた。管路の基本層序は、第1層：真砂土（層厚20～30㎝）、第2層：造成土（層厚15～30㎝）、第3層：シルト層であり、シルト層は地点によって明黄褐色（10YR4/3）～にぶい黄褐色（2.5YR6/6）を呈する。ハンドホールからの拡張部では、第1層：真砂土（層厚15～20cm）、第2層：造成土（25～60cm）、第3層：明黄褐色シルト層（2.5Y6/6）（最大10cm）という層序であった。

南側の外灯1では第1層：真砂土（層厚50cm）、第2層：造成土（55～65cm）、第3層：オリーブ灰色砂礫層（2.5Y6/6）（最大30㎝）が確認された。最下層の砂礫層は、平成8年度の外灯新設に伴う試掘調査で検出された河川3に相当[註5]すると考えられ、大学移転時の調査で検出された河川跡の一部である可能性が指摘されている。外灯2・3では第1層：真砂土（層厚35～40cm）、第2層：造成土（15～20cm）、第3層：明黄褐色シルト層（2.5Y6/6）（85～90cm）という層序であった。

遺物に関しては、図示可能なものはすべてA地点表土・造成土下の黒色シルト（河川埋土）から出土している（図81、写真104）。**1・2**は弥生土器口縁部片。**3**は弥生土器底部片。**4**は山陰系の土師器甕で、肩部に2条の櫛描波状文を施している。内面は横方向にケズリを施す。外面下位に煤が著しく付着している。**5**は土師器甕の体部片。外面は叩き後ハケ、内面はハケを施す。**6**は弥生土器高坏口縁部片。復元口径34.1㎝を測る。内外面とも丁寧にミガキを施している。**7**も弥生土器高坏口縁部片。口縁外面は薄く剥離しており、口唇部は少し欠失しているようである。内面は丁寧にミガキが施されている。

今回の工事による掘削面積は大きくないものの、これまでの調査でも明らかなようにサッカーグラウンドでは地表から遺構確認面までが約10cm～25cmと浅くなっているため、掘削深度が浅い場合でも遺構に到達する可能性が高い。検出される遺構は河川跡が中心となろうが、防球ネットA地点のように遺物が比較的良好な状態で出土する。過去の調査に加え、今回の調査結果から判断すると、これらの遺構はグラウンド側に展開しているものと考えられる。したがって、今後も調査区周辺及びグラウンドにおいては埋蔵文化財の保護に細心の注意が必要となる。

【註】

1）村田裕一（2004）「第3章第1節2　吉田構内基幹環境整備（外灯新設）に伴う試掘調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報ⅩⅥ・ⅩⅦ』,山口

2）田畑直彦（2012）「第1章第2節7　サッカーグラウンド防球ネット取設工事に伴う立会調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報6―平成20年度―』，山口

3）豆谷和之（2004）「第2章　吉田構内グランド屋外照明施設新設に伴う発掘調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報ⅩⅣ』，山口

4）註1に同じ。

5）小野忠熙（1976），山口大学吉田遺跡調査団（編）『吉田遺跡発掘調査概報』，山口

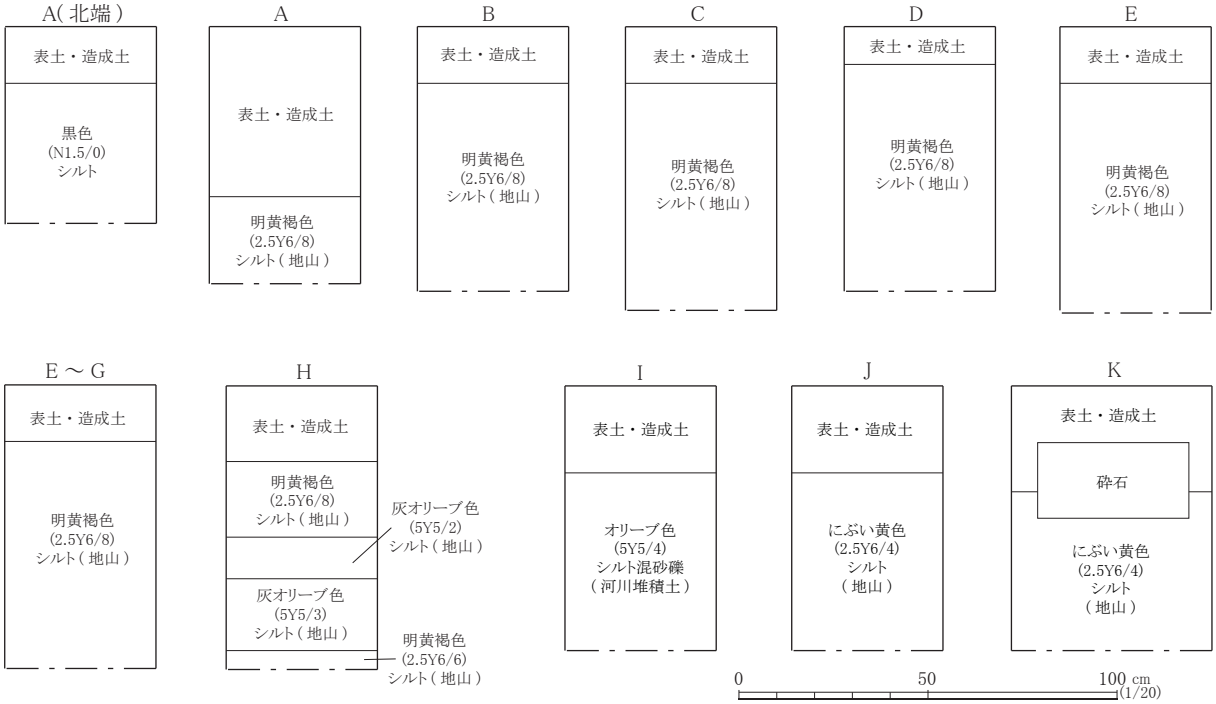


図79　防球ネット地点土層断面模式図

写真96　防球ネットＡ地点北壁（南東から）

写真97　Ａ地点遺物出土状況（南東から）

写真98　防球ネットＤ地点北西壁（南東から）

写真99　防球ネットＨ地点北西壁（南東から）

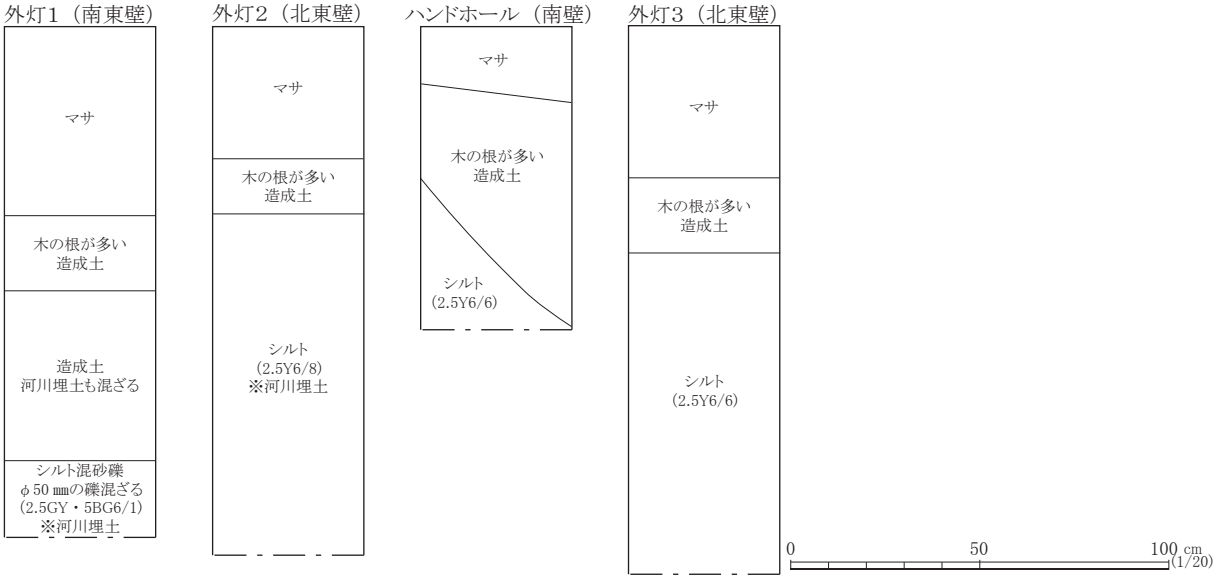


図80　外灯地点土層断面模式図

写真100　外灯1地点東壁（西から）

写真101　外灯3地点北壁（南から）

写真102　管路北側（南西から）

写真103　管路南側（北東から）

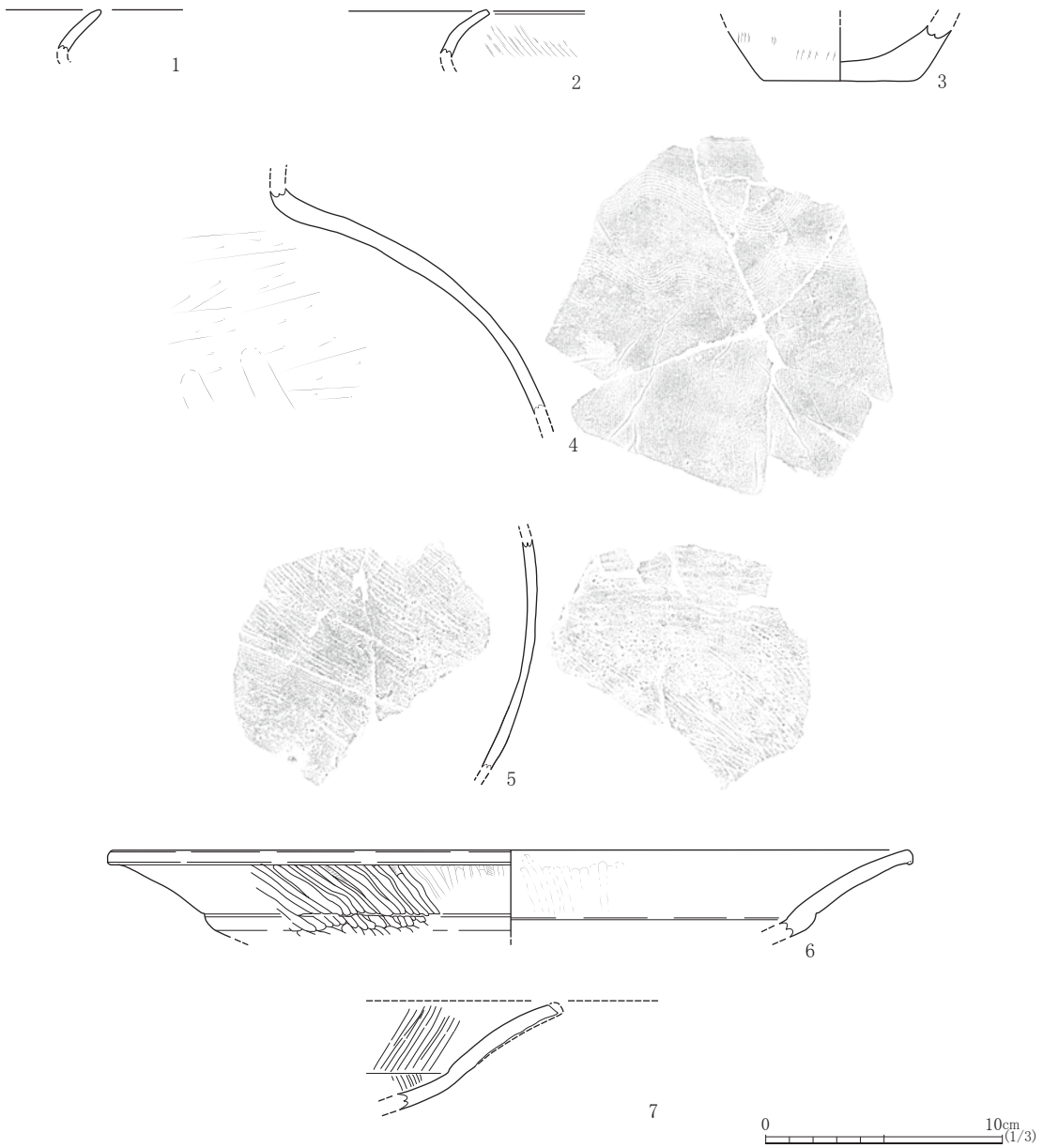


図81 出土土器実測図

表11 出土遺物（土器）観察表

法量（ ）は復元値

遺物番号	遺構・層位	器種	部位		色調 ①外面　②内面	胎土	備考
1	A地点 黒色シルト	弥生土器　甕	口縁部	③1.8	①にぶい黄褐色（10YR5/3） ②にぶい黄褐色（10YR4/3）	密：0.5～4㎜の砂粒やや多く混ざる	内外面縦・斜め方向のナデ
2	A地点 黒色シルト	弥生土器　甕	口縁部	③2.0	①にぶい黄褐色（10YR5/3） ②にぶい黄橙色（10YR7/4）	密：0.2㎜～1㎜の砂粒極少量混ざる	口縁外面縦ハケ
3	A地点 黒色シルト	弥生土器　甕	底部	②（3.6） ③2.3	①にぶい黄橙色（10YR7/2） ②褐灰色（10YR4/1）	密：0.5～4㎜の砂粒少量混ざる	
4	A地点 黒色シルト	土師器　甕	頸 ～体部		①灰白色（2.5Y8/2） 煤：黒色（N2/） ②にぶい黄橙色（10YR7/4）	密：0.2～4㎜の砂粒やや多く混ざる	肩部に櫛描波状文
5	A地点 黒色シルト	土師器　甕	体部		①にぶい黄褐色（10YR5/4） ②にぶい黄橙色（10YR7/4）	密：0.5～2.5㎜の砂粒が多く混ざる	外面全面煤付着
6	A地点 黒色シルト	弥生土器　高坏	口縁部	①（34.1） ③3.7	①淡黄色（2.5Y8/4） ②淡黄色（2.5Y8/3）	密：0.5～1.5㎜の砂粒が多く混ざる	内外面丁寧なミガキ
7	A地点 黒色シルト	弥生土器　高坏	口縁部		①にぶい黄橙色（10YR7/3） ②にぶい橙色（7.5YR7/3）	やや粗：0.2～1.5㎜の砂粒少量混ざる	口縁外面が薄く剥離

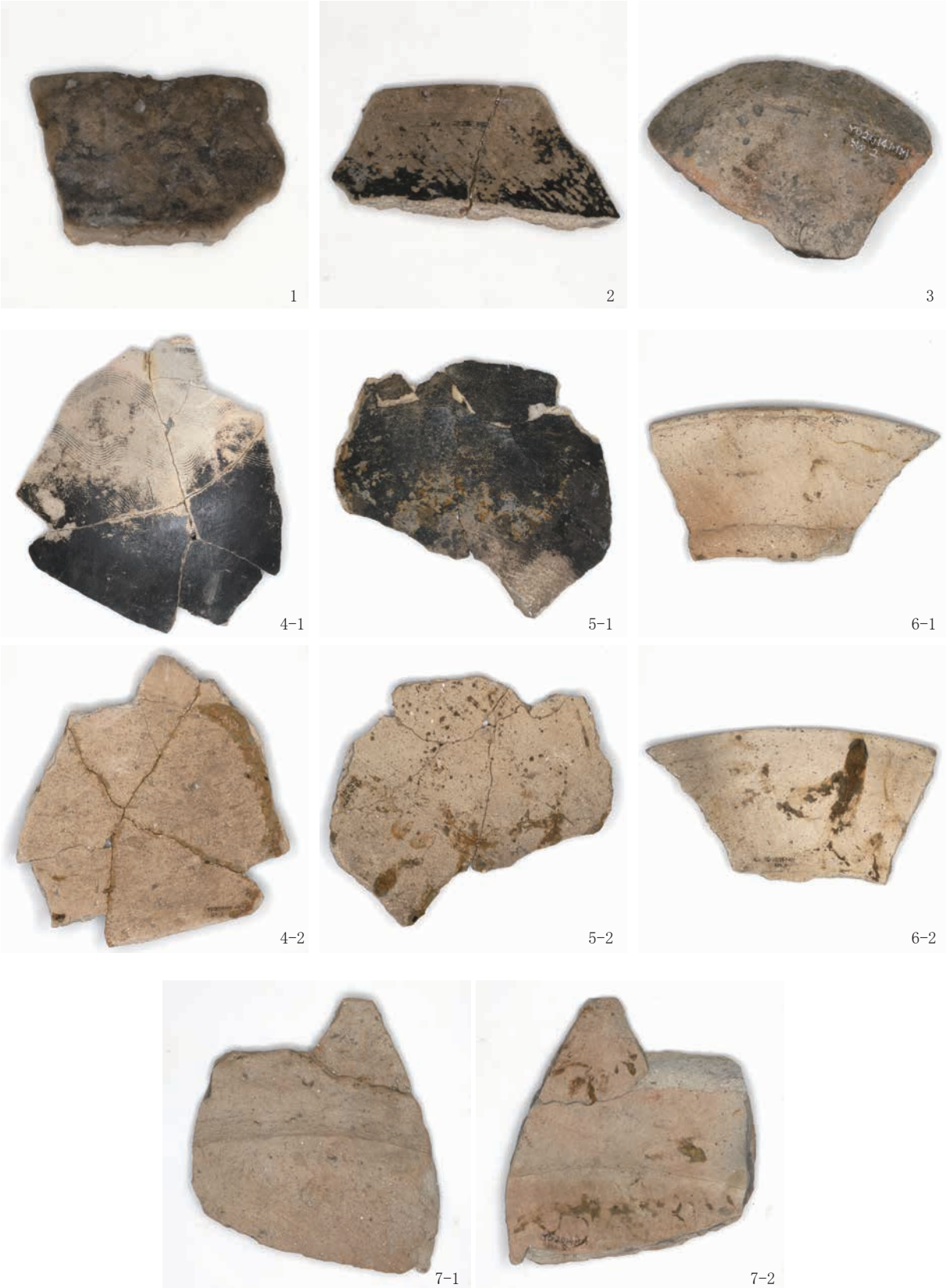


写真104 出土遺物

第3節　小串構内（山口大学医学部構内遺跡）の調査

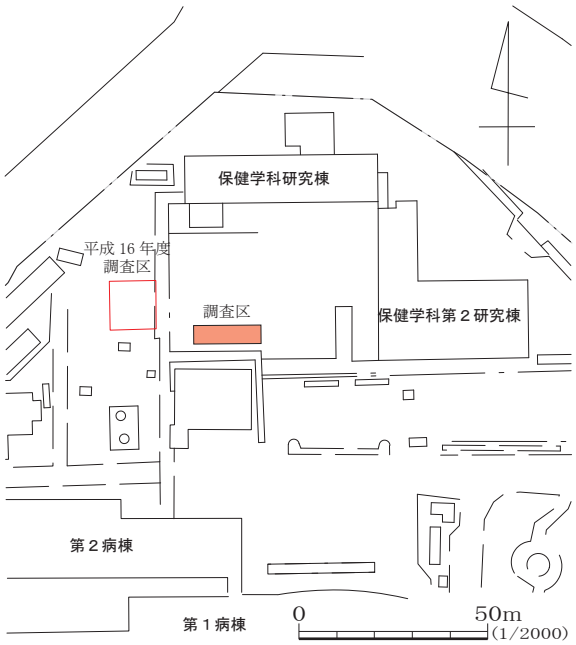


図 82　調査区位置図

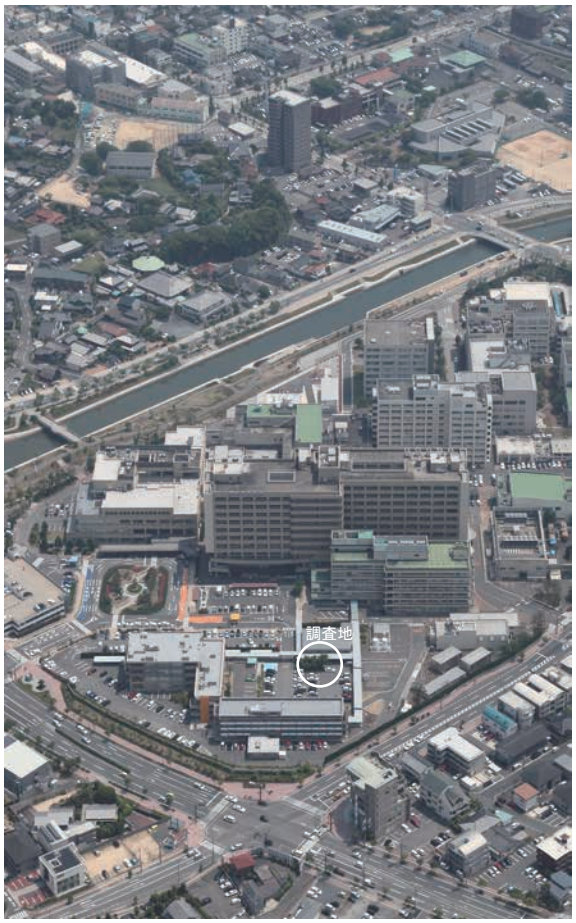


写真 105　調査地遠景（北上空から）

１．基幹・環境整備及び診療棟・病棟新営工事に伴う予備発掘調査

調査地区　小串構内保健学科研究棟南側空閑地

調査面積　90㎡

調査期間　平成26年9月5日～10月7日

調査担当　横山成己

調査結果

（1）調査の経緯（図82、写真105）

小串構内北部、附属病院病棟北側駐車場および保健学科福利棟敷地において、診療棟・病棟の新営工事が計画された。山口大学医学部構内遺跡は、北方ほど包含層中の遺物の密度が高く、南方へ移行するに従い遺物の密度が低くなる傾向にあるが、当開発予定地は自然堆積層中に遺物が流入する北限と推定される。平成16年度に実施した基幹整備（地下オイルタンク他）工事に伴う試掘調査[註1]においては、旧耕土・旧客土（江戸後期の造成土）から遺物が出土したものの、下位に約1mの無遺物層が確認され、最下層の動物遺存体（貝）が堆積する旧海底面に縄文土器や土師器をはじめとする遺物が検出された。今回の調査では、旧客土下の自然堆積層がはたして無遺物層であるのか、そして旧海底面の遺物分布密度がいかほどであるのか確認することを主目的とし、開発予定地北限で平成16年調査区の東方約20m地点に東西18m、南北5mの調査区を設定し、予備発掘調査を実施することが平成25年度第10回埋蔵文化財資料館専門委員会（平成26年3月24日開催）にて承認された。

【註】

1）横山成己（2006）「医学部基幹整備（地下オイルタンク他）工事に伴う試掘調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成16年度－』，山口

（2）調査の経過（写真106～111）

調査は9月5日に着手し、8日に重機掘削を終了した。9日以降は旧耕土、旧客土上面の検出ととも

に下位の自然堆積層を掘削。9月29日に最下層である旧海底面に到達し、諸記録作業を10月1日まで行った。埋め戻しについては、10月6・7日両日で実施し、現地調査を終了した。

（3）基本層序（図83、写真112・113）

今回の調査では、現地表下約1mまでのアスファルト・砕石・造成土（合わせて1層とした）を重機により掘削した。造成土以下は人力により掘削となったが、最終的に現地表下3m付近までの掘削となるため、安全確保のため壁面に沿い1mの平坦部を設け段掘りを行った。造成土下位に確認した地層は5層に区分される。

2層は構内造成前の旧耕土で、層厚約10㎝。近世および近代の遺物を包含する。3層は江戸時代後期（18世紀末）に耕地化のため置かれた客土と推定される。層厚30～40㎝の黄灰色粘質土であり、水田床土として利用されたため上部は土壌化してにぶい黄褐色を呈している。近世の遺物を主として包含するが、中世の瓦質土器および古墳時代の須恵器も混ざる。4層は層厚20～60㎝の灰白色と橙色砂の互層で、灰色弱粘質土が混ざる。西方ほど厚く堆積する。5層は層厚10～50㎝の灰色粘土に砂が混ざる層で、4層とは逆に東方ほど堆積が厚く、調査区西端部では確認できない。4層および5層は調査区内においては無遺物層であった。6’層は灰色砂と明黄褐色砂が混ざり合う層で、調査区東端には存在しない。最下層の6層は灰色砂礫層で、下部に動物遺存体（ハマグリなどの二枚貝）が厚く堆積する旧海底堆積層である。貝層上面から縄文土器や石錘、古墳時代のものと見られる土師器甕体部片が出土している。

（4）遺物（図84、写真114、表11・12）

3層から近世の陶磁器や土師器が相当量出土しているが、ここでは6層上部、旧海底上面から出土した遺物を掲載する。

1は縄文土器深鉢口縁部片。口唇部に刻目を施し、外面には沈線文を施す。内外面とも摩耗しているが、外面にわずかに磨消縄文が観察される。縄文時代後期前～中葉であろうか。**2**は土師器甕体部片。外面にハケ、内面に削りが施される。**3**はやや大ぶりの石錘。扁平な平面楕円形の川原石両端に抉りを設けている。全長15.6㎝、最大幅9.5㎝、最大厚3.4㎝を測り、重量は756.6gを量る。

（5）小結

当調査は、平成16年度に実施した基幹整備（地下オイルタンク他）工事に伴う試掘調査成果を完全に追認する結果となった。すなわち、近世の客土（3層）の下位に約1mの無遺物層が存在し、最下層の旧海底面より縄文時代から古墳時代の遺物が出土するという内容である。遺物の内容も、縄文土器、土師器、石錘と完全な一致を示している。これらの遺物の由来地は、小串構内北後背に北から南に延びている小羽山丘陵と見られ、古墳時代まで丘陵直下が海岸線となっていたことが分かる。小串構内北部での既往調査においても、弥生土器は散見されるものの量的に少なく、縄文時代後～晩期と古墳時代前～後期の遺物が主体であることを考えると、丘陵南端部に当該期の集落が展開していた可能性が高い。

調査原因である診療棟・病棟新営の開発域は広大であるが、旧海底面での遺物の散布が希薄であったことを根拠として、調査は予備発掘にて終了することとし、設備工事等で掘削深度が現地表下2mを越える場合は工事立会にて埋蔵文化財保護対応を行うことが平成26年度第2回埋蔵文化財資料館専門委員会（平成26年10月3日開催）に諮られ、承認された。

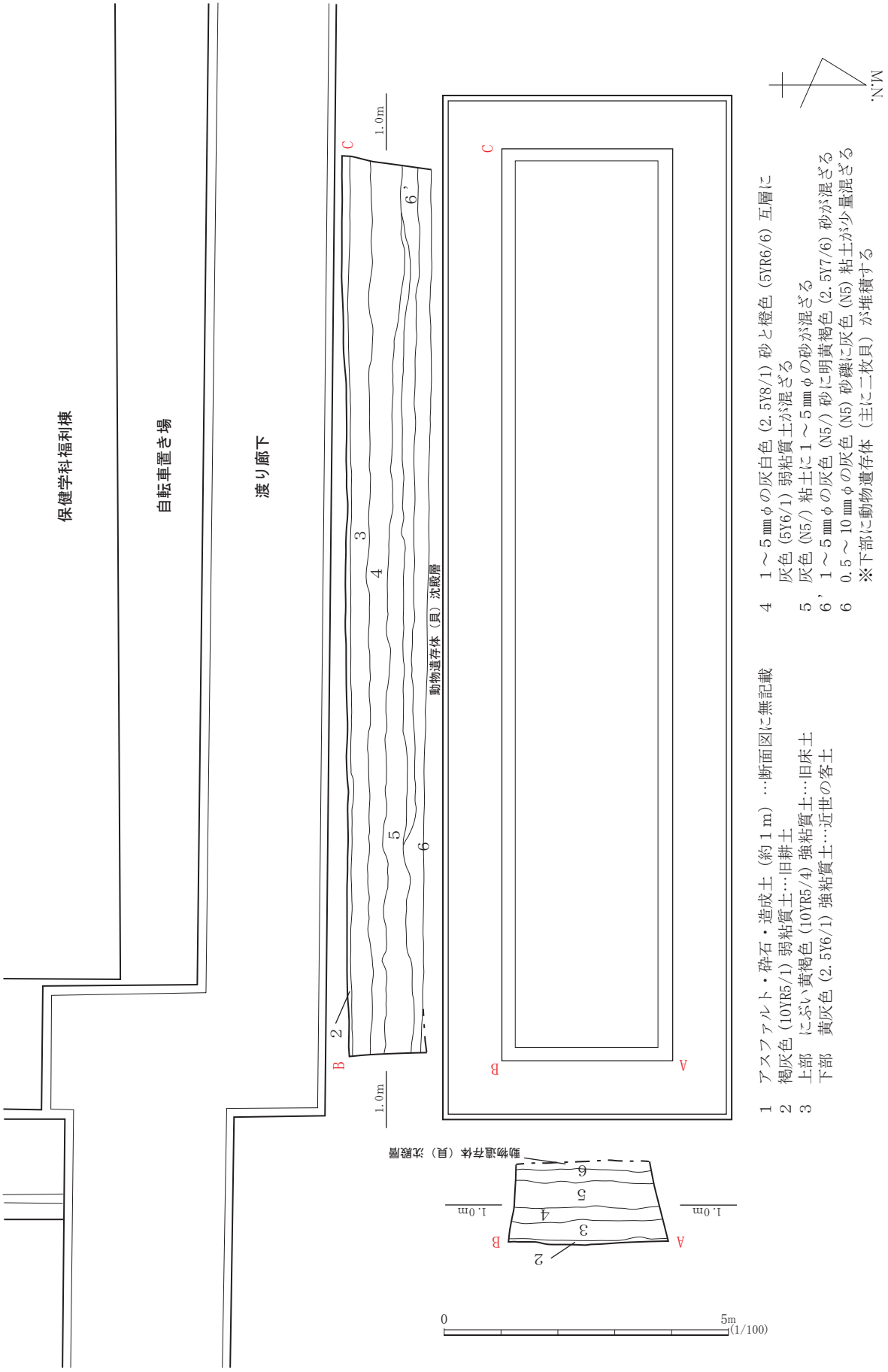


図 83 調査区平面図・断面図

写真 106　重機掘削（南西から）

写真 107　2層上面検出状況（東から）

写真 108　3層上面検出状況（東から）

写真 109　作業風景（東から）

写真 110　6層（生物遺存体）検出状況（東から）

写真 111　6層遺物出土状況（北から）

写真 112　東壁土層断面（西から）

写真 113　南壁土層断面（北東から）

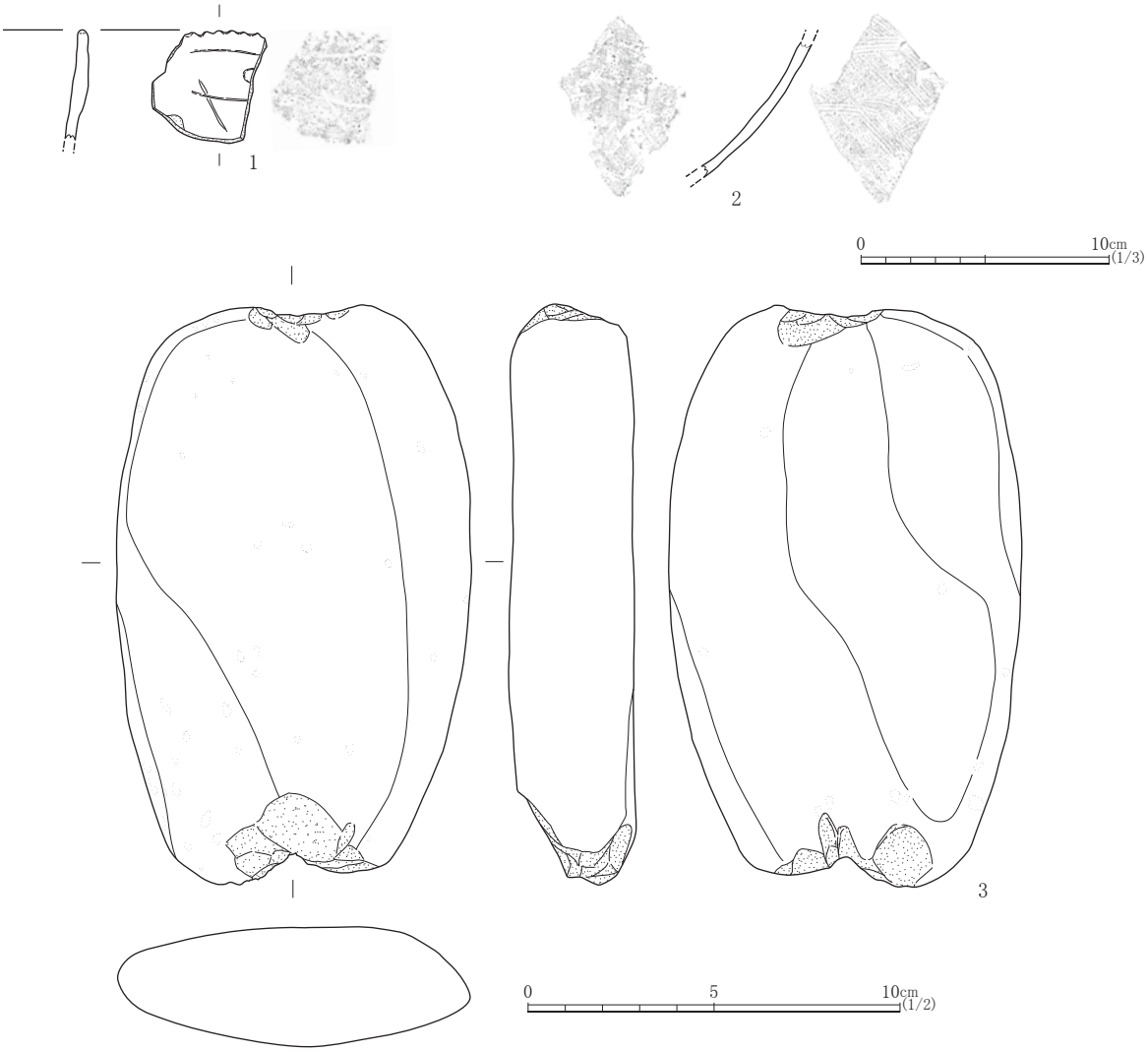


図 84　遺物実測図

写真 114　出土遺物

表12 出土遺物（土器）観察表

法量（ ）は復元値

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量（cm）①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
1	6層	縄文土器 深鉢	口縁部	③4.4	①②灰オリーブ色（5Y5/2）	密：0.5～3㎜φの石英・雲母が少量混ざる	口唇刻み目
2	6層	土師器 甕	体部		①暗灰色（N33） ②灰色（10Y4/1）	やや粗：0.3㎜～2㎜の砂粒やや多く混ざる	

表13 出土遺物（石器）観察表

法量（ ）は残存値

遺物番号	遺構・層位	器種	法量（cm）①長さ②幅③厚④重量(g)	石材	備考
3	6層	石錘	①15.6 ②9.5 ③3.4 ④756.6	石英斑岩	

２．基幹・環境整備及び診療棟・病棟新営工事に伴う立会調査

調査地区　小串構内特高受変電棟北側空閑地、保健学第2科研究棟南側空閑地

調査面積　30㎡　　**調査期間**　平成26年12月11日、平成27年3月17日

調査担当　横山成己　川島尚宗

調査結果

診療棟および病棟新営工事に伴い、共同溝の新設が計画されたため、工事立会を実施する運びとなった。ただし、共同溝の大部分は矢板を設けての工事であったため、土層断面観察可能なオープンカットされる2箇所に限定して調査を実施した。

Ａ地点は、平成16年度に実施した基幹整備（地下オイルタンク他）工事に伴う試掘調査区[註1]の西に隣接した地点で、現地表下2mの掘削が予定されていた。調査は12月11日に実施したが、降雨のため工事坑の断面が崩落しており、安全性が確保できないため土層精査を断念した。上部から見た限りでは、掘削は造成土内にとどまっていた（図86）。

Ｂ地点は、保健学科棟南側にて計画された共同溝工事地点である。現地表下2.2mの掘削が実施され、1mの造成土下にそれぞれ2枚の旧耕土および旧床土、その下位に緑灰色シルト混じり砂層を確認した（図87）。下位の旧耕土および旧床土は江戸時代の客土であり、最下層は海成砂層と見られ、小串構内北部（体育館・職員宿舎等敷地）にて実施した既往の調査において、同層から汽水域の貝類とともに弥生時代前期の甕が出土している[註2]。

現在の山口大学小串構内は、宇部市域を南流する真締川の右岸に面して立地している。この真締川は、現在ではそのまま南進して河口へと至っているが、古くは小串構内の南端部、樋ノ口橋で流れを西に向け、助田町（現JR居能駅南側）付近を河口としていた。近世文書「舟木宰判本控」には、寛政11年（1799）2月「御届申上候事」として、「宇部村福富前殿領本川筋砂余分流出、川尻は遠干拓にて砂引不申、次第ニ川内高相成、洪水之筋は勿論地道ニても川筋の田地余分水損有之、年々御所務落猶百姓迷惑不大形儀ニ付、川尻を床海之所に付替被申付度」との要望書が見られる。要約すると「本川（真締川）が上流から運んできた土砂で河口が埋まってしまい、洪水被害が大きいので、河口を付け替えさせて欲しい」という内容である。この要望は実現し、その後同文書中に「弥水砂共ニ引宜ニ付、只今迄の川

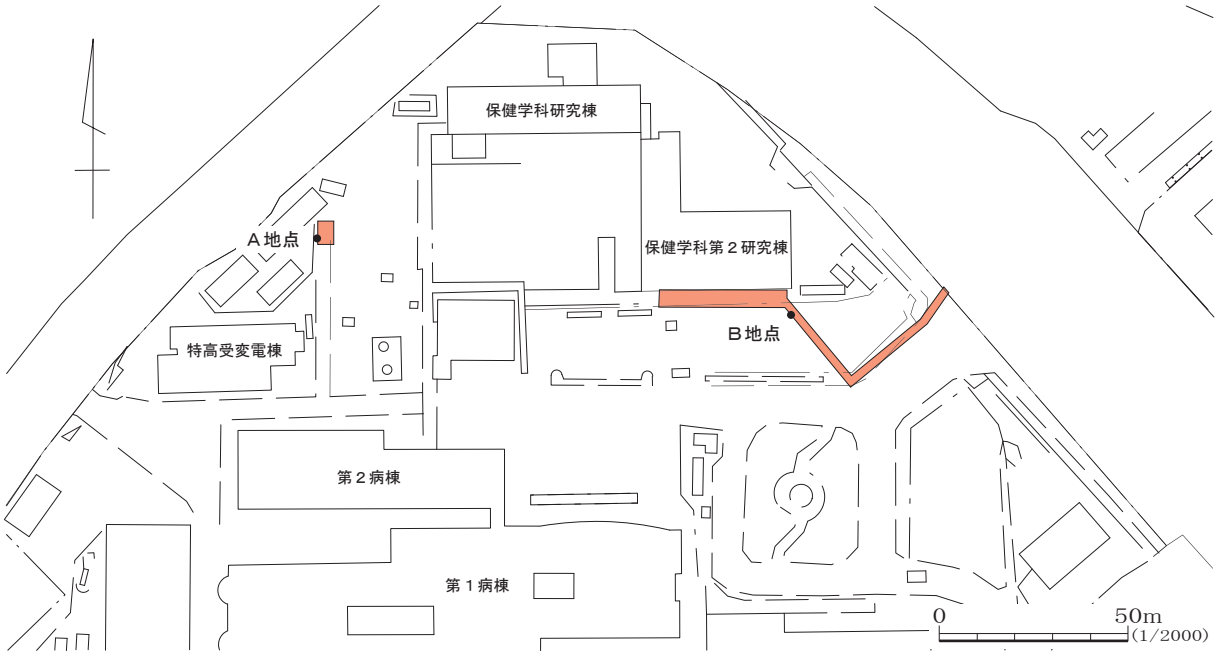


図 85　調査区位置図

おは川尻留被申附候」という記述が見られ、付け替え工事によって川の流れが改善されたので、旧河口を封鎖して周辺地を耕地にしたいと萩藩に願い出ている。

現在の小串構内の地盤高は標高約3mという低地に位置しているが、これまでに構内で確認された旧耕土はいずれも標高約1.5m～1.6mと一定しており、耕土下には平均0.4mの床土が形成されている。その下位には砂を主体とする堆積層が幾層にも埋存しており、この脆弱な地盤で安定的な集落や耕地が営まれたとは考え難い。

これらの状況は「舟木宰判本控」に所収されている文書の内容に一致しており、小串構内周辺は少なくとも19世紀初頭までは集落、田畑等が形成される環境になかったものと推測される。

なお、診療棟・病棟新営工事は当年度から平成30年度までの長期開発であり、工事立会は長期に及ぶこととなった。大規模開発においては工事立会にも様々な制限がかかるが、できうる限りの埋蔵文化財保護対応を行っていく所存である。

【註】

1）横山成己（2006）「医学部基幹整備（地下オイルタンク他）工事に伴う試掘調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成16年度－』，山口

2）横山成己（2006）「医学部職員宿舎他公共下水接続工事に伴う試掘調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成16年度－』，山口

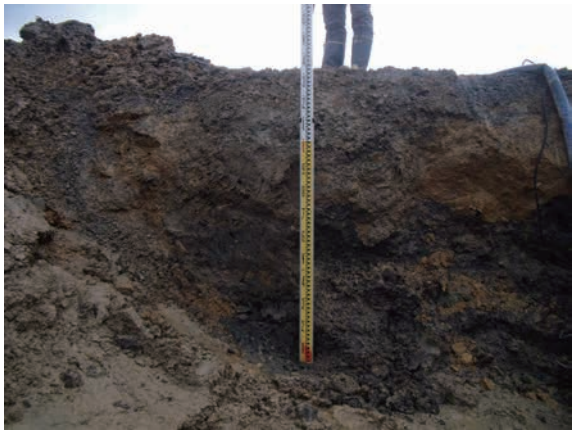


写真 115　A地点土層断面（東から）

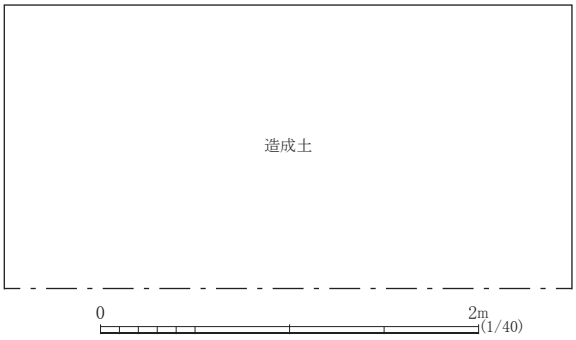


図 86　A地点土層断面柱状図

写真 116　B地点土層断面（南西から）

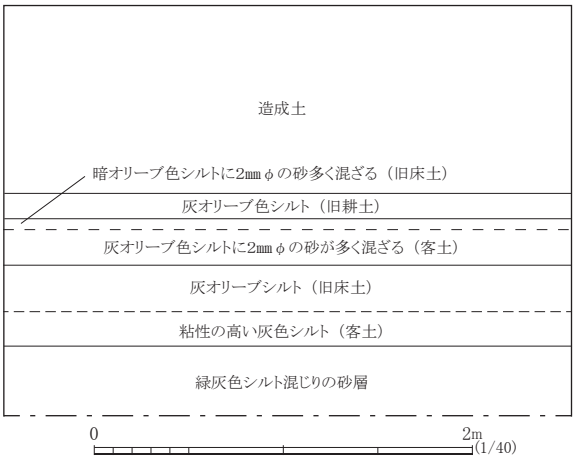


図 87　B地点土層断面柱状図

3. 廃棄物管理棟新営工事に伴う立会調査

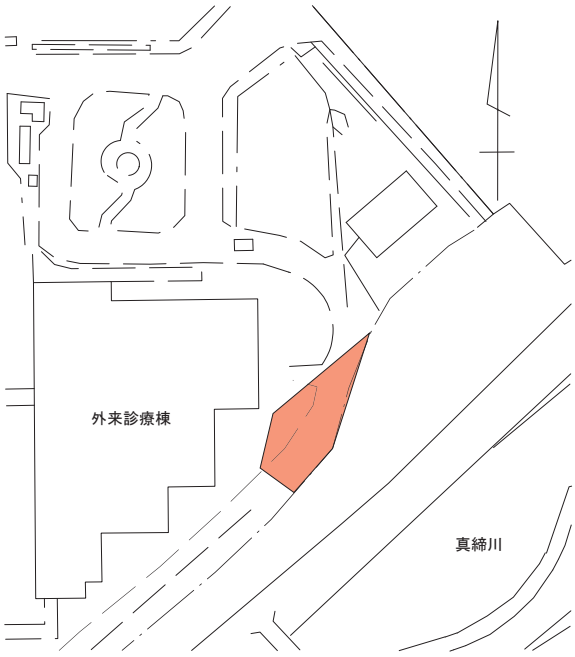


図 88　調査区位置図

写真 117　工事風景（北西から）

写真 118　土層断面（東から）

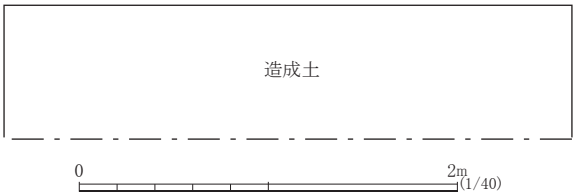


図 89　土層断面柱状図

調査地区　小串構内外来診療棟東側空閑地

調査面積　149㎡

調査期間　平成26年9月16日

調査担当　横山成己

調査結果

小串構内東部、医学部附属病院外来診療棟の東側空閑地において、廃棄物管理棟の新営が計画された。建物基礎の掘削深度は0.7mであった。

計画地は構内の東を南流する真締川に隣接しており、また計画地の北側にて平成13年度に実施した医学部附属病院立体駐車場新営に伴う試掘調査の南端調査区（Cトレンチ）において、現地表下1.7mまで造成土であることが確認されていた[註1]ことから、埋蔵文化財に支障が生じる可能性は極めて低いと予想されたが、基礎工事予定日が同構内にて実施予定であった基幹・環境整備及び診療棟・病棟新営工事に伴う予備発掘調査（本書所収）期間と重複していることから、慎重を期して工事立会を実施することとなった。

調査の結果、掘削は造成土内にとどまるものであり、埋蔵文化財に支障が生じないことを確認した。

【註】

1）田畑直彦（2016）「医学部附属病院立体駐車場新営に伴う試掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館（編）山口大学構内遺跡調査研究年ＸＸＩ』,山口

第4節　常盤構内（山口大学工学部構内遺跡）の調査

1．常盤寮C棟新営工事に伴う立会調査

調査地区　常盤構内北東部常盤寮A棟西側道路C棟南西側空閑地

調査面積　103㎡

調査期間　平成27年1月22日、2月12日

調査担当　横山成己

調査結果

常盤構内は、元来その全域が山口大学工学部構内遺跡として周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれていたが、当館の継続的な調査により、構内の大部分は埋蔵文化財遺存の可能性が否定されたことから、平成20年度の範囲指定変更に伴い、構内東北部（国際交流会館～学生寮～駐車場）のみが包蔵地として残された。

その包蔵地範囲内にて、常盤寮C棟の新営が計画された。常盤女子寮[註1]同様、谷地形の埋め立て地が建設予定地となったため、新規布設される配管工事予定地と寮の南側に新規に予定された自転車置き場を対象に立会調査を実施する運びとなった。

配管布設地のA地点では、現地表下0.84mにて旧耕土および旧床土を確認したが、下位の地山（明黄色シルト）に遺構は検出されなかった（図91）。自転車置き場であるB地点では、現地表下0.8mまで掘削が行われたが、造成土内にとどまった（図92）。

【註】

1）横山成己（2012）「工学部女子学生寄宿舎新営その他工事に伴う予備発掘調査」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報-平成20年度-』，山口

図 90　調査区位置図

写真 119　A地点土層断面（西から）

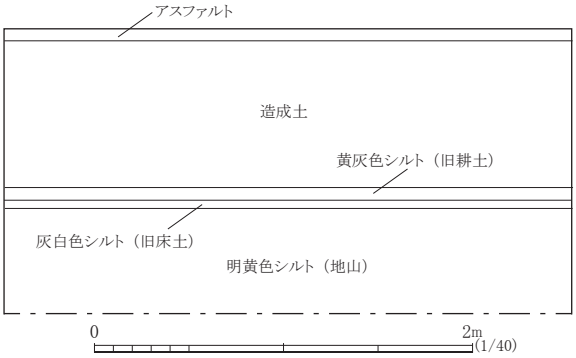


図 91　A地点土層断面柱状図

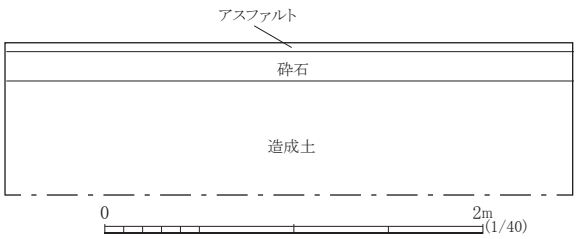


図 92　B地点土層断面柱状図

第5節　光構内（御手洗遺跡・月待山遺跡）の調査

1．教育学部附属光小学校グラウンド鉄棒設置工事に伴う立会調査

図 93　調査区位置図

写真 120　調査地全景（南東から）

調査地区　光構内小学校体育館北東側

調査面積　約23㎡

調査期間　平成26年12月26日

調査担当　現地：川島尚宗・田畑直彦

遺物：横山成己

調査結果　教育学部より、附属光小学校体育館北東側に鉄棒を設置する計画が提出された。小学校体育館東側に設定されたDトレンチでは地表下遺構検出面落ち込みが確認され、炭化物・材が出土した。Dトレンチからは土師器・鉱滓が出土した。続いておこなわれた事前調査では、Dトレンチを南西方向に拡張した形で調査区が設定された。第2層（褐色砂質土）より1基、第3層より4基の土坑が検出され、土師器・須恵器が出土した。この調査では地表面から約30㎝で遺構が検出されているため、今回の鉄棒設置に伴い基礎部が遺構確認面に到達すると予想されたため立会調査を実施することとした。

鉄棒は3列設置され、低鉄棒を体育館側からA・B地点、高鉄棒をC地点とした（第93・94図）。A・B地点についてはそれぞれ南から1～11、C地点については1～3の子番号を付した。砂地ということもあり、掘り方にはややばらつきがあるものの、A・B地点が約80×110㎝、C地点は約75×160㎝で、掘削深度は約70㎝である。

写真 121　B-11 土層断面（北東から）

写真 122　C-1 土層断面（北西から）

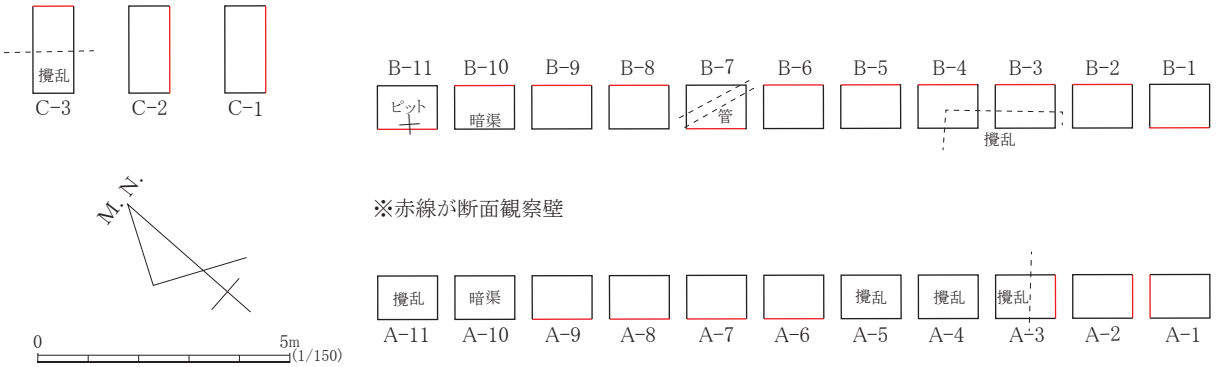


図 94　調査区平面略図

図 95　土層断面柱状図①

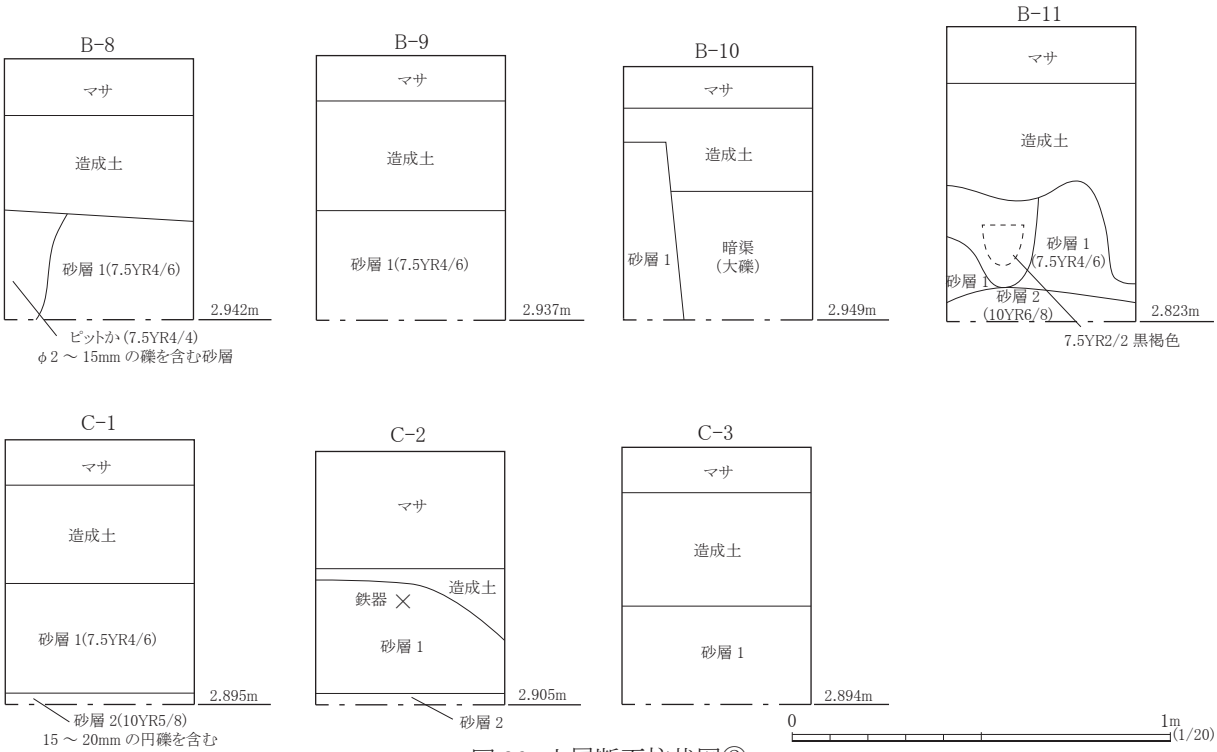


図 96　土層断面柱状図②

A地点の基本層序は①造成土が25～36㎝、②褐色砂層（7.5YR4/6）が17～33㎝、最下層の③明黄褐色砂層(10YR6/8)が最大19㎝であった。A-6においては褐色砂層の下に褐色砂層（7.5YR4/4）が20㎝確認された。A-4・5・11は全面的に攪乱を受けていた。A-10では地表下33㎝で大礫を用いた暗渠を検出した。

B地点の基本層序は①造成土が31～46㎝、②褐色砂層（7.5YR4/6）が20～34㎝、最下層の③明黄褐色砂層(10YR6/8)が最大23㎝確認された。B-3・4は西半は大きく攪乱を受けていた。B-11南西壁では褐色砂層の上面、地表下35㎝においてピット状の落ち込みが検出された。幅約57㎝、深さ27㎝で、中央部に黒褐色砂（7.5YR2/2）が充填していた。落ち込みの埋土は極暗褐色砂（7.5YR2/3）であった。B-10ではA地点と同様の大礫を用いた暗渠が検出された。A-10からB-10にかけて延びているものと考えられる。

C地点の基本層序は①造成土が29～42㎝、②褐色砂層（7.5YR4/6）が17～33㎝、最下層の③明黄褐色砂層(10YR6/8)が最大で約5㎝確認された。C-3の西半は攪乱を受けていた。

現地で採取できた遺物はごくわずかで、B-10より縄文土器1点、A-8より須恵器1点、B-11より土師器1点、C-2より鉄器1点が出土したのみである。このうち、土師器は体部小片であったため図化していない。**1**は縄文土器、深鉢の体部片と見られ、外面に縄文（単節縄文LRか）が残る。内面はナデ。**2**は須恵器甕の体部片。外面の平行叩きはナデ消しが図られている。内面は同心円当て具痕をそのまま残す。**3**は鉄器で、棒状製品のソケット部のみが遺存している。銹割れが著しく、剥離も進行している。当資料に関しては、造成土下の砂層の出土とされるが、所属時期に疑問を残す。

光小学校運動場では、過去の調査において古墳時代の遺構が検出されており、複数の遺構確認面が確認されていることからも慎重な調査をおこなう必要がある。今回の調査においても、ピット状の遺構が確認されており、付近から遺物が出土していることから、遺構はより広い範囲に遺存していると考えられる。小学校運動場、特に体育館付近においては、今後も埋蔵文化財の保護に注意を払う必要がある。

【註】

1)河村吉行(1992)「第3章　光構内教育学部附属光小学校運動場改修に伴う発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅹ』,山口

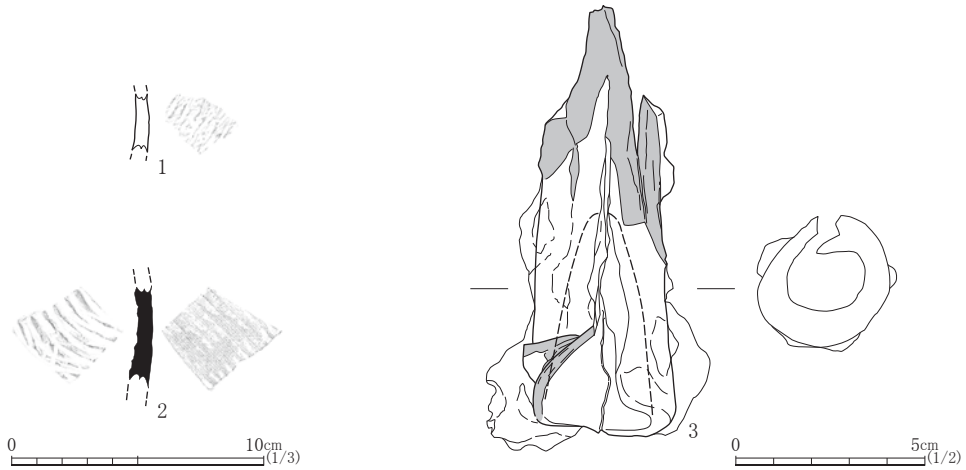


図97　出土遺物実測図

写真123　出土遺物

表14　出土遺物(土器)観察表

法量( )は復元値

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
1	B-10	縄文土器　深鉢か	体部		①橙色(5YR7/6) ②にぶい黄橙色(10YR6/6)	密:0.2～3㎜φの長石が少量混ざる	
2	A-8	須恵器　甕	体部		①②灰白色(5Y7/1)	密:0.2㎜φの砂粒極少量混ざる	

表15　出土遺物(鉄器)観察表

法量( )は残存値

遺物番号	遺構・層位	器種	法量(cm) ①長さ②幅③厚④重量(g)	備考
3	C-2	不明	①(11.5)　②③3.7　④147.6	ソケット部遺存

2. 教育学部附属光中学校校舎排水管改修工事に伴う緊急立会調査

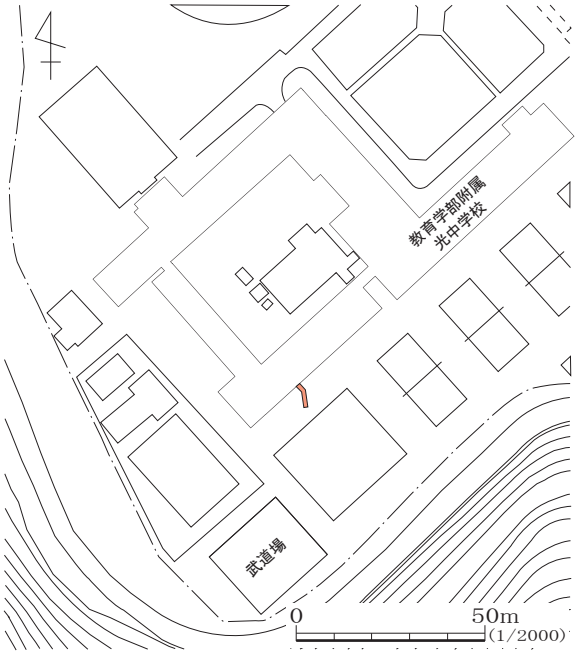


図 98　調査区位置図

写真 124　掘削地全景（南東から）

写真 125　土層断面（東から）

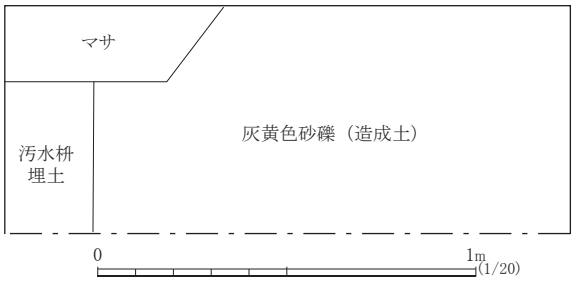


図 99　土層断面柱状図

調査地区　光構内光中学校校舎北西部

調査面積　3㎡

調査期間　平成26年8月27日

調査担当　横山成己

調査結果

教育学部附属光中学校が夏期休業を迎えた平成26年7月28日に、施設環境部より校舎排水管のつまりが発生したため調査したところ、排水管の接続もれが発見されたことを受け、早急に復旧したいとの連絡を受けた。

当下水道は2年前の平成24年度に接続工事が実施されたばかりであり、今回改修する場所は接続工事時に行った立会調査にて遺構が検出された44地点[註1]付近であることから、工事時の緊急立会調査を実施することとなった。

その後、施設環境部からの工事工程連絡を待ったが、予算が捻出できないこと、施工業者が決まらないことなどを理由に、着工されたのは夏期休業が終了する直前の8月27日であった。

改修工事は最深で60㎝の掘削が行われたが、造成土内にとどまった（図99）。

光構内は、当館が所在する山口市吉田構内からおよそ70㎞弱と最も距離が離れており、ライフライン破損等に対する緊急な埋蔵文化財保護対応が困難な場合が多い。今回は工事実施まで期間があったため対応可能であったが、所轄自治体との連携が不可欠である。

【註】

1）田畑直彦・松浦暢昌（2016）「教育学部附属光小学校下水道接続工事に伴う本発掘調査・立会調査」,山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成24年度－』,山口

付節1　平成26年度　山口大学構内遺跡調査要項

山口大学大学情報機構規則

改正　平成18年3月14日規則第27号

（趣旨）

第1条 この規則は、国立大学法人山口大学学則（平成16年規則第1号）第9条第2項の規定に基づき、国立大学法人山口大学（以下「本法人」という。）の大学情報及び情報基盤を総合的に整備する山口大学大学情報機構（以下「機構」という。）に関し必要な事項を定める。

（組織）

第2条 機構は、次の施設をもって組織する。

(1)図書館

(2)メディア基盤センター

(3)埋蔵文化財資料館

2 前項の施設に関し必要な事項は、別に定める。

（業務）

第3条 機構は、次の業務を行う。

(1)大学情報及び情報基盤の戦略的整備計画の策定に関すること。

(2)大学情報及び情報基盤の整備の施策及び実施に関すること。

(3)情報セキュリティの施策及び実施に関すること。

(4)その他機構が必要と認めた事項に関すること。

2 前項の業務を行うため、機構は、各学部、各研究科、全学教育研究施設及び事務組織と相互に連携を図るものとする。

（運営委員会）

第4条 機構に、機構の管理及び運営に関する事項を審議するため、山口大学大学情報機構運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

（情報セキュリティ委員会）

第5条 機構に、情報セキュリティに関する事項を審議するため、国立大学法人山口大学情報セキュリティ委員会（以下「情報セキュリティ委員会」という。）を置く。

2 情報セキュリティ委員会に関し必要な事項は、別に定める。

（情報基盤整備委員会）

第6条 機構に、情報基盤の整備に関する事項を審議するため、国立大学法人山口大学情報基盤整備委員会（以下「情報基盤整備委員会」という。）を置く。

2 情報基盤整備委員会に関し必要な事項は、別に定める。

（機構長）

第7条 機構に機構長を置き、学術情報担当副学長をもって充てる。

2 機構長は、機構の業務を総括する。

（副機構長）

第8条 機構に副機構長2名を置き、本法人の専任教授のうちから機構長が指名した者をもって充てる。

2 副機構長は、機構長を補佐する。

3 副機構長の担当は、機構長が定める。

4 副機構長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、機構長である副学長の任期の終期を超えることはできない。

5 副機構長に欠員が生じた場合の後任の副機構長の任期は、前任者の残任期間とする

（専任大学教育職員）

第9条 機構に、専任大学教育職員を置く。

2 専任大学教育職員の選考は、運営委員会の議に基づき、学長が行う。

3 専任大学教育職員の選考に関し必要な事項は、別に定める。

（事務）

第10条 機構に関する事務は、情報環境部学術情報課において処理する。

（雑則）

第11条 この規則に定めるもののほか、機構に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

山口大学埋蔵文化財資料館規則

平成16年4月1日規則第148号

改正 平成17年3月24日規則第52号

（趣旨）

第1条 この規則は、山口大学大学情報情報規則（平成16年規則第139号）第2条第2項の規定に基づき、山口大学埋蔵文化財資料館（以下「資料館」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

（目的）

第2条 資料館は、文化財保護法（昭和25年法律第214号）に基づき、国立大学法人山口大学（以下「本法人」という。）に所在する遺跡の埋蔵文化財の発掘調査及び研究を行い、出土品を収蔵・公開することを目的とする。

（業務）

第3条 資料館は、次の業務を行う。

(1)本法人構内等から出土した埋蔵文化財の収蔵・展示及び調査研究

(2)本法人構内等における埋蔵文化財の発掘調査及び報告書の刊行

(3)その他埋蔵文化財に関する必要な業務

（職員）

第4条 資料館に、次の職員を置く。

(1)館長

(2)副館長

(3)資料館所属の専任大学教育職員

(4)その他必要な職員

2 埋蔵文化財に関する特別な分野の調査研究を行うため、資料館に特別調査員若干名を置くことができる。

3 特別調査員は、専門委員会の議に基づき、館長が委嘱する。

（館長）

第5条 館長は、大学情報機構長をもって充てる。

2 館長は、資料館の業務を掌理する。

（副館長）

第6条 副館長の選考は、国立大学法人山口大学の専任の教授又は准教授のうちから山口大学大学情報機構運営委員会の議に基づき、学長が行う。

2 副館長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、副館長に欠員が生じた場合の後任の副館長の任期は、前任者の残任期間とする。

3 副館長は、館長を補佐し、日常的な業務の執行及びこれに必要な意思決定に関し、館長を助けるものとする。

（事務）

第7条 資料館に関する事務は、情報環境部学術情報課において処理する。

（雑則）

第8条 この規則に定めるもののほか、資料館に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。

2 第5条第1項の規定にかかわらず、当分の間、館長は、大学情報機構副機構長のうちから大学情報機構長が指名した者をもって充てる。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

山口大学埋蔵文化財資料館専門委員会内規

（趣旨）

第1条 この規則は、山口大学大学情報機構運営委員会（平成16年規則第140号）第8条第2項の規定に基づき、山口大学埋蔵文化財資料館専門委員会（以下「専門委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

（審議事項）

第2条 専門委員会は、山口大学埋蔵文化財資料館（以下「資料館」という。）に関し、次の事項について審議する。

(1)管理及び運営に関する事項

(2)整備充実に関する事項

(3)予算に関する事項

(4)その他資料館に関し必要な事項

（組織）

第3条 専門委員会は、次の委員をもって組織する。

(1)機構長

(2)副機構長

(3)館長

(4)副館長

(5)資料館所属の専任大学教育職員

(6)考古学担当の国立大学法人山口大学専任の大学教育職員

(7)メディア基盤センター所属の専任大学教育職員のうち館長が指名した者1名

(8)施設環境部長

(9)情報環境部長

(10)情報環境部学術情報課長

(11)発掘調査地に関連のある部局の事務部の長

（任期）

第4条　前条第7号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第5条　専門委員会に委員長を置き、館長をもって充てる。

2 委員長は、専門委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときには、副館長がその職務を代行する。

（委員以外の者の出席）

第6条　専門委員会が必要と認めたときは、専門委員以外の者を専門委員会に出席させることができる。

（部会等）

第7条　専門委員会は、必要に応じて部会等を置くことができる。

2 部会等に関し必要な事項は、専門委員会が別に定める。

（事務）

第8条　専門委員会の事務は、情報環境部学術情報課において処理する。

（雑則）

第9条　この内規に定めるもののほか、専門委員会の運営に関し必要な事項は、専門委員会が定める

附　則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

平成26年度　山口大学埋蔵文化財資料館専門委員会

委員長　山内　直樹（大学情報機構長・館長・農学部教授）

委員　　小河原　加久治（大学情報機構副機構長・理工学研究科教授）

田中　晋作（副館長　人文学部教授）　　村田　裕一（人文学部准教授）

石田　春磨（メディア基盤センター助教）　　蔵田　秀夫（施設環境部長）

石橋　英二（情報環境部長 ※12月31日まで）　瓜生　照久（情報環境部学術情報課長）

田畑　直彦（埋蔵文化財資料館助教）　　横山　成己（埋蔵文化財資料館助教）

川島　尚宗（埋蔵文化財資料館助教）

付節2　山口大学構内の主な調査

表16 山口大学構内の主な調査一覧表

吉田構内

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積（㎡）	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和41年	第Ⅰ地区A・B区	L～N−15	1	30？	土壙・柱穴	弥生土器、土師器、須恵器	事前	調査担当小野忠熙	年報XI・XXI
	第Ⅱ地区家畜病院新営	R−20・21 S・T−19・20	2	2,000	溝、柱穴	弥生土器、土師器、瓦質土器、須恵器	〃	〃	年報3
	第Ⅱ地区		3			弥生土器、土師器	試掘	〃	①
	第Ⅳ地区牛舎新営	S・T−10・11	4	300	弥生溝・土壙、古墳竪穴住居、中世住居跡・溝	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、陶磁器	事前	〃	
	第Ⅳ地区		5				試掘	〃	
昭和42年	第Ⅲ地区杭列区および陸上競技場	D−19・20 E−17・19～21 F−17・18	6	1,600	杭列、弥生竪穴住居	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、矢板状木杭	事前	〃	
	第Ⅲ地区南区	G−21～23 H−22	7		河川跡、柱穴	縄文土器、弥生土器、木器、石器	〃	〃	
	第Ⅲ地区北区	H−20 I−19～21 J−20・21	8	1,400	竪穴住居、溝、土壙、柱穴		〃	〃	
	第Ⅲ地区東南区	G−23 H−23・24 I・J−24 K−23・24 L−23	9		弥生竪穴住居	弥生土器	〃	〃	
	第Ⅲ地区野球場		10		中世柱穴	瓦質土器	試掘	〃	
	第Ⅴ地区学生食堂	J−20 N−14 P−18	11		弥生溝、古墳土壙	弥生土器、土師器	事前	〃	
	第Ⅴ地区		12		河川跡、柱穴、土壙	弥生土器、土師器	試掘	調査担当山口大学吉田遺跡調査団	
	第Ⅰ地区C区大学本部新営	K・L−14	13	600	竪穴住居、溝、土壙	土師器、須恵器、瓦質土器	事前	〃	
昭和44年	第Ⅴ地区教育学部				河川跡	弥生土器、土師器、須恵器	試掘	〃	
昭和46年	第Ⅰ地区D区第1地点	L−13	14		近世大溝	弥生土器、木炭屑	〃	〃	年報XIII
	第Ⅰ地区D区第2地点	L−13	15			弥生土器、土師器、瓦質土器、石鍋	〃	〃	
	第Ⅰ地区D区第3地点	M−13・14	16		土壙、柱穴	弥生土器、瓦質土器	〃	〃	
	第Ⅰ地区D区第4地点	M・N−14	17		土壙、栓穴	弥生土器、土師器、瓦質土器、石器	〃	〃	
	第Ⅰ地区D区第5地点	L−12・13	18		弥生溝	弥生土器、土師器	〃	〃	
	第Ⅰ地区D区第6地点	M−13	19		柱穴	弥生土器、土師器、石器	〃	〃	
	第Ⅰ地区D区第7地点	M・N−13	20			須恵器	〃	〃	
	第Ⅰ地区E区第2学生食堂新営	M・N−14・15 O−15	21	900	古墳竪穴住居、土壙溝、柱穴	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、石器、鉄製品	事前	〃	年報XII
昭和50年	第Ⅱ地区					弥生土器	試掘	〃	①
昭和51年	第Ⅲ地区				竪穴住居	弥生土器、土師器、須恵器	〃	〃	
昭和53年	人文学部校舎新営	M・N−21	22	160			〃	調査担当近藤喬一	年報X
昭和54年	教育学部附属養護学校新営	A−20・21 B−19・20 C−19	23	410	溝、土壙	縄文土器、弥生土器	試掘	山口大学埋蔵文化財資料館 山口市教育委員会	年報IX
	理学部校舎新営	N・O−19・20	24	250			〃		年報X
	農学部動物舎新営	P−19	25	380			〃		
	本部管理棟新営	L−14	26	740	溝、土壙、柱穴、中世井戸、土壙墓、住居跡	弥生土器、土師器、石製品	事前		年報VIII
昭和55年	経済学部校舎新営	K−21	27	66			試掘		年報X
	農学部農業観測実験施設新営	P・Q−15	28	50	溝、土壙		事前		
	本部環境整備	E−14～16 F−15・16	29				立会		

山口大学構内の主な調査

調査年度	調　査　名	構内地区割	地点	面積（㎡）	遺　構	遺　物	調査区分	備　考	文献
昭和55年	農学部環境整備	N−11 O−10・11 P−9・10	30				〃		年報X
昭和56年	教育学部校舎新営	H−19	31		弥生竪穴住居、土壙、溝、柱穴	弥生土器、石製品	事前		年報I
	教育学部音楽棟新営	H−16	32		溝		〃		
	教育学部美術科・技術科実験実習棟新営	J・K−19・20	33		旧河川、溝、柱穴	縄文土器、弥生土器、須恵器、土師器	〃		
	正門橋脚新営	I−11	34				立会		
	時計塔埋設	I−14	35				〃		
	本部構内擁壁取設	K・L−13・14	36				〃		
	教養部構内擁壁取設	I−15〜17 J−17	37				〃	工法等変更	
	構内循環道路舗装	J〜M−15 M・N・16	38				〃		
	農学部中庭整備	N・O−17	39				〃		
	暖房施設改修	O−16	40				〃	工法等変更	
	学生部文化会車庫新営	M−8・9	41				〃	工法等変更	
	学生部馬場整備	M・N−8・9	42				〃		
昭和57年	附属図書館増築	L・M−16	43	600	弥生〜古墳溝、土壙、柱穴、杭列	弥生土器、土師器、須恵器、石器	事前		年報II
	大学会館新営	M・N−14・15	44	130	弥生竪穴住居、溝	弥生土器	試掘		
	教育学部附属養護学校プール新営	A・B−21	45	880			立会		
	放射性同位元素総合実験室排水桝新営	O−18	46	2			〃		
	教養部自転車置場昇降口新営	L−17	47	10			〃		
	教養部中庭環境整備	J・K−16	48	150			〃		
昭和58年	大学会館新営	M・N−12・13	49	2,000	古墳井戸、土壙、柱穴、中世井戸、掘立柱建物	弥生土器、土師器、須恵器、輸入陶磁器、国産陶器、瓦質土器、緑釉陶器、木簡、石器	事前		年報III
	ラグビー場防球ネット新営	G−18・19 H−19・20	50	114	弥生溝、弥生〜古墳竪穴住居、土壙	弥生土器、土師器、石製品	〃	竪穴住居は工法変更により現地保存	
	理学部大学院校舎新営	M・N−20	51	409			立会		
	正門・南門二輪車置場および正門花壇新営	I・J−12・13 H−23	52	183			〃		
	学生部アーチェリー場的台・電柱設置	N−8・9	53	33			〃		
	学生部厩舎整備	M−7・8	54	1.6			〃		
	学生部野球場散水栓取設	I−21 K−22	55	1			立会		
	教養部環境整備	I−15・16 J−15 K−17・18 L−18	56	81			〃		
	学生部テニスコート改修	C−18 D−17 E−15・16 F−16	57	12			〃		
昭和59年	大学会館ケーブル布設	N−12	58	160	弥生土壙、柱穴	弥生土器	事前		年報IV
	大学会館排水管布設	J〜L−13	59	180	弥生〜中世遺物包含層、古墳土壙、古代〜中世土壙、溝、柱穴	弥生土器、土師器、須恵器、青磁、白磁、瓦質土器	〃		
	学生部テニスコートフェンス改修	B−17 C−16・17 D−16 E−15	60	25	古墳以降の遺物包含層	土師器	試掘		
	経済学部樹木移植	K−19・21	61	8			立会		
昭和60年	大学会館環境整備	L−14・15 M・N−15	62	592	弥生〜中世遺物包含層、弥生竪穴住居、貯蔵穴、土壙、古代〜近世土壙、溝、柱穴	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、輸入磁器、国産陶磁器、土製品、石斧、原石、鉄器、窯壁	試掘		年報V
	経済学部環境整備（樹木移植）	K・L−20	63	5			立会		
	農学部附属農場飼料園排水溝修復整備	R−17〜19	64	30	古代末〜中世河川跡	須恵器、土師器、輸入陶磁器、鞴口、石器、鉄滓	〃		
	農学部附属農場農道改修	V−15〜17	65	325			〃		
	教育学部前庭環境整備（樹木移植）	I・J−19	66	430			〃		
	中央ボイラー棟車止設置	O・P−16	67	2.5		須恵器	〃		

山口大学構内の主な調査

調査年度	調　査　名	構内地区割	地点	面積(㎡)	遺　構	遺　物	調査区分	備　考	文献
昭和60年	大学会館環境整備(樹木移植)	M−15	68	9		弥生土器、土師器、須恵器、石鍋、砥石、鉄滓	〃		年報V
	交通標識設置	J−20 N−14 P−18	69	3			〃		
	農学部解剖実習棟周辺環境整備(実験動物運動場設置)	Q−18	70	16			〃		
	理学部環境整備(藤棚設置)	N−21	71	4			〃		
	農学部附属家畜病院舗装	S・T−19	72	270			〃		
昭和61年	国際交流会館新営	M−22・23 N−22	73	70	弥生〜古墳河川跡 中世〜近世溝	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、須恵質土器、陶磁器、鉄砲玉、加工痕のある剥片	試掘		年報VI
	山口銀行現金自動支払機設営(電線路埋設)	J−19	74	11	包含層(河川跡か)	弥生土器	立会		
	農学部附属農場農道整備	S−20 T・U−19	75	165	中世溝、柱穴	土師器、瓦質土器	〃	工法変更	
	農学部附属農場農道交通規制(施錠ポール設置)	M−10 P−15 Q−15〜17	76	12			〃		
	正門横(水田内)境界杭設置	J−10	77	0.25	包含層か		〃		
	経済学部環境整備(樹木移植・記念碑建立)	L−20	78	3			〃		
昭和61年	吉田構内交通標識設置	G−23 K−9 O−22 S−20 V−17	79	3		須恵器	立会		年報VI
	市道神郷1号線および問田神郷線の送水管埋設	B−17・18 C−18・19 D−19・20 E−20・21 F−21・22 G−22・23 H−23・24 I・J・K−24 L−23・24 M・N−23 O−22・23 P・Q−22 R−21・22 S−21 T−20・21 U−19・20 V−18・19 W・X−18	80	2,100	古墳・弥生溝、古代河川跡、弥生包含層	弥生土器、土師器、須恵器(墨書のあるもの含む)瓦質土器、製塩土器、石斧、板石	立会	山口市教育委員会 山口大学埋蔵文化財資料館	
	教養部自動販売機埋設(屋根設置および観覧席移動)	K・L−18	81	3.5			〃		
	教養部身体障害者用スロープ取設	L−15・16	81	3			〃		
	経済学部散水線取設	L−20	83	4			〃		
	吉田構内水泳プール改修等	E−15 F−15・16 H−15	84	26.5	包含層		〃		
	農学部附属農場水道管埋設	S−12	85	3			〃		
	吉田構内汚水排水管等総改修	M−18 O−15	86	15.5		土師質土器	〃		
	本部身体障害者用スロープ取設	L−14	87	12			〃		
	経済学部身体障害者用スロープ取設	K−18〜20 L−18	88	78			〃	工法等変更	
	附属図書館荷物運搬用スロープ取設	L−16	89	8		弥生土器	〃		
	教養部37番教室改修	K−16	90	1			〃		
昭和62年	教育学部附属教育実践研究指導センター新営	J・K−18・19	91	240		ブランク、削器、植物遺体	事前		年報VII
	教養部複合棟新営	J・K−17	92	35	埋甕土壙、溝、柱穴	土師器、須恵器、土師質土器、石斧	試掘		
	教養部複合棟新営	I・J−16	93	30	溝状遺構	弥生土器	立会		

山口大学構内の主な調査

調査年度	調　査　名	構内地区割	地点	面積(㎡)	遺　構	遺　物	調査区分	備　考	文献
昭和62年	教養部複合棟新営	J・K−17・18	94	900	落し穴、河川跡、竪穴住居、土壙、溝、井戸、埋甕土壙、掘立柱建物跡、谷状遺構、柱穴	縄文土器、土師器、須恵器、土師質土器、須恵質土器、陶磁器、石鏃、石斧、木製品	事前		年報Ⅶ
	九田川局部改修	B−16・17 C−16	95	20			立会	山口県教育委員会 山口大学埋蔵文化財資料館	
	国際交流会館新営	M・N−22・23	96	195			〃		
	教育学部附属養護学校自転車置場移設	B−20	97	1			〃		
	農学部附属農場E7圃場排水管埋設及びE6圃場進入路拡幅	L〜N−12	98	55	中世土壙墓か	弥生土器、土師器、須恵器、輸入白磁、国産磁器、敲石	〃		
	農学部植栽	N−17	99	3			〃		
	経済学部集水桝取設	J−20	100	0.5			〃		
昭和63年	教養部複合棟新営に伴う自転車置場移設	I−16	101	1	包含層か		立会		年報Ⅷ
	国際交流会館新営に伴う排水管埋設	N・O−22	102	35	河川跡(溝か)、包含層	弥生土器、須恵器	〃		
	教養部複合棟新営に伴うケーブル埋設	J−18	103	1			〃		
	サッカー・ラグビー場改修	F−19・21 G−18	104	25	性格不明	弥生土器	〃		
	消防用水設置	K〜M−22	105	7.5			〃		
平成元年	水銀灯新営	J・L−15	106	4	古墳溝状遺構柱穴	弥生土器、土師器、須恵器、六連式製塩土器	事前		年報Ⅸ
	椹野寮ボイラー設備改修	O−20・21	107	25			立会		
	野球場防球ネット新営	H−22 I−21・22 J・K−21	108	7	包含層	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、陶器	〃		
	防火水槽配管布設	K・−21・22	109	15	柱穴		〃		
	吉田寮ボイラー設備改修	M−8	110	4			〃		
	体育施設系給水管改修	G・H−16	111	50		陶器	〃	工法等変更	
	大学会館前記念植樹	M−13	112	6			〃		
	吉田寮ボイラー棟地下貯油槽設備改修	M−8	113	45	包含層	土師器、須恵器、土師質土器、陶器、剥片、二次加工のある剥片	〃		
	第2武道場排水溝新営	G−15	114	2	溝		〃		
	案内標識設置	I−14 L−18	115	0.5			〃		
	本部車庫給水管改修	L−13	116	6.5		弥生土器	〃		
	大学会館前庭環境整備	N−14・15	117	35	中世溝		〃		
平成2年	大学会館前庭環境整備	M−15	118	2			〃		年報Ⅹ
	第1学生食堂設備改修	I・J−19	119	7			〃		
	教育学部附属養護学校案内板設置	E−20	120	1			〃		
平成3年	農学部連合獣医学科棟新営	O・P−17	121	76	縄文河川	縄文土器、石器	試掘		年報ⅩⅠ
	農学部仮設プレハブ倉庫設置	P−17	122	6		須恵器	立会		
	農学部微生物実験室その他模様替機械設備改修	P−17	123	8			〃		
	大学会館前庭記念植樹	L・M−15	124	2			〃		
	サークル棟新営	F−14	125	1			〃		
平成4年	農学部連合獣医学科棟新営	O・P−17	126	980	縄文河川	縄文土器、石器	事前		年報ⅩⅡ
	交通規制標識及びバリカー設置	H−22 M−10 O−22 R−19 S−20	127				立会		
	吉田構内道路(南門ロータリー)取設	H−23	128	40			〃		
	ボイラー室給水管漏水補修	O−16	129	4			〃		
	農学部附属農場ガラス室新営	S−14	130	3.5			〃		
	大学会館前庭記念植樹	L・M−15	131	3			〃		
	泉町平川線緊急地方道路整備工事及び山口大学吉田団地環境整備(正門周辺)	E−11・12	132				〃		
	泉町平川線緊急地方道路整備(信号機設置)	I−11	133	7			〃		
平成5年	本部裏給水管埋設	K〜M−13	134	70	溝、柱穴	弥生土器、土師器、滑石製模造品	事前		年報ⅩⅢ
	人文学部・理学部講義棟新営	M−20	135	4			試掘		

調査年度	調　査　名	構内地区割	地点	面積(㎡)	遺　構	遺　物	調査区分	備　考	文献
平成5年	第2屋内運動場新営	G・H−16	136	144	溝	弥生土器、須恵器、砥石	〃		年報XⅢ
	農学部給水管埋設	N〜P−18	137	9			〃		
	基幹整備 (屋外他給水管改修)	L−15 M−17・18	138	16			立会		
	農学部連合獣医学科棟新営 電気設備	O−16	139	4			〃		
	大学会館前庭バリカー設置	N−14	140	1			〃		
	大学会館前庭記念植樹	L−15	141	1.6			〃		
	九田川河川局部改良	C−16 D−15・16	142	40			〃		
	農学部電柱立替	V−17	143	0.2			〃		
	農学部ガラス室設置	S−14	144	10			〃		
	教育学部給水管埋設	H・J−19	145	15			〃		
	環境整備(大学会館前庭)	L−14 M−13〜15 N−14・15	146	140.9			〃		
	環境整備(遺跡保存地区)	H−20 I−19〜21 J−20・21	147	361			〃		
	環境整備(正門周辺)	G−13 H−12	148	350			〃		
平成6年	グランド屋外照明施設新設	E−20 F−21 G−18・22 H−19・20 I−21	149	600	縄文河川、弥生住居、溝、土坑、弥生〜古墳河川、近世溝	縄文土器、弥生土器、土師器、ガラス小玉、砥石、磨石、敲石	事前	工法等変更	年報XⅣ
	第2屋内運動場新営	G・I−15・16	150	726	弥生〜古代溝、貯蔵穴、土坑、近世溝、土坑	弥生土器、土師器、須恵器、砥石、磨石、敲石、剥片、須恵器、瓦質土器、土師質土器、陶器、磁器、瓦、下駄	〃		
	グランド屋外照明施設配線埋設	F−21 G−20・21 H−19・20	151	200	縄文河川、弥生住居、溝、土坑、弥生〜古墳河川、近世溝	縄文土器、弥生土器、土師器、ガラス小玉、砥石、磨石、敲石	〃	工法等変更	
	経済学部商品資料館新営	K・L−21	152	87.5	河川	陶器、磁器	試掘		
	実験廃液処理施設棟新営	H−12・13	153	2	河川		〃		
	体育器具庫及び便所新営	G・H−17	154	60	河川		〃	工法等変更	
	経済学部商品資料館 仮設電柱設置	L−22 M−22・23	155	5			立会		
	人文学部前駐車場整備	K−23 L−22・23	156	6			〃		
	教育学部附属養護学校 生活排水管改修	F−19	157	2			〃		
	テニスコート改修	B−17 C−16・18 D−15〜17 E−15・16	158	15			〃		
	教育学部附属養護学校 生活訓練施設棟新営	B−20〜22 C−20	159	16			〃		
	陸上競技場整備(透水管埋設)	C−18 D−18・19	160	200			〃		
	ハンドボール場改修(プレハブ設置)	K−22	161	30			〃		
	野球場フェンス改修	H−22 I−21・22	162	3			立会		年報XⅣ
	基幹環境整備 (ボイラー室配電盤設置)	O−16	163	4	河川か		〃		
	九田川河川局部改良	D−15 E−14・15	164	100			〃		
	第2屋内運動場電柱仮設	G−14・15	165	0.5			〃		
	教養部水道管破裂修理	I−16	166	2			〃		
	グランド屋外照明施設配線埋設	E−20 F−20〜21 G−18・19・22 H−19・20 I−20・21	167	150			〃		
	公共下水道接続 (教育学部附属養護学校 プール排水施設設置)	A−21	168	4			〃		
	サークル棟給水管埋設	F−14	169	1			〃		
	プール新営給水管埋設	E−15 F−15・16	170	10			〃		
	公共下水道接続 (汚水管雨水排水施設設置)	C−18	171	6	河川	土師器	〃		
	教育学部スロープ設置(音楽棟)	H−17	172	10			〃		

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積(㎡)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成7年	農学部RI実験研究施設新営	Q・R−17	173	75	近世溝	磁器	試掘		
	農学部RI実験研究施設新営	Q・R−17	174	520	中世井戸、近世溝	石斧、須恵器、磁器、瓦器	事前		
	公共下水道布設	C−18 E−16 G−14	175	70	溝、土坑、河川跡、柱穴	弥生土器、土師器	試掘		
	公共下水道布設	C・D−18 D・E−17 E・F−16	176	240	土坑、河川跡、柱穴	弥生土器、石器、骨角器	事前		
	農学部附属農場牛舎新営	T−10	177	22			試掘		
	独身宿舎改修	N・O−22	178	25.5	河川		試掘		
	第2学生食堂増築	N・O−15	179	48	柱穴、包含層	石鏃	試掘		
	第2屋内運動場外周照明施設新設	G−15・16	180				立会		
	機器分析センター新営工事用電柱仮設	O−19〜21 P−22	181				〃		
	農学部附属家畜病院バリカー新設	S−20	182				〃		
	吉田寮可燃ゴミ置場新設	N−10	183				〃		
	農学部RI実験研究施設電気・情報ケーブル及びガス・給排水管布設	Q・R−17	184				〃		
	情報処理センタースロープ新設	O−19	185				〃		
	基幹環境整備(ATMネットワークケーブル布設)	E−19・20 F−18・19 G−18	186				〃		
	基幹環境整備(外灯新設)	I−15・16 J−20 K−19 M−10・11 N−12 O−16〜18・20 P−18・19 Q−17・18	187				〃		
平成8年	基幹環境整備(独身宿舎・国際交流会館排水管布設)	M−23 O−22	188	22.5	河川		試掘		年報XVI
	基幹環境整備(外灯新設)	H・I−21・22	189	306	河川	縄文土器、弥生土器、土師器、石器	試掘		年報XVI
	農学部附属農場排水管布設	S−10・11	190	93	包含層、ピット	土師器、須恵器	試掘		
	陸上競技場鉄棒取設	G−18	191	5.5	包含層		立会		
	農学部附属農場排水溝改修	R−11	192	2.2			〃		
	椹野寮バリカー新設	O−20・21	193	7			〃		
	サッカー場給水管取替	H−19・20 I−19	194	12	包含層		〃		
	基幹環境整備(共通教育センタースロープ・テラス新設)	J・K−17	195	14.3	河川	縄文土器、須恵器	〃		
	九田川河川局部改良	E−14	196	18			〃		
	農学部附属農場道路舗装	K−12・13 L−12 M−11	197	27.6	近世用水路、溝状遺構	弥生土器、土師器、須恵器、陶器、磁器	〃		
	本部裏排水管取替	K−14	198	2			〃		
	農学部附属農場家畜病院患畜舎囲障取設	S・T−19	199	1			〃		
平成9年	農学部附属農場堆肥舎新営	S−10	200	41.5			試掘		年報XVII
	農学部バイオ環境制御施設新営	Q−15・16	201	140	河川、溝	土師器、須恵器、製塩土器、石鏃	試掘		
	カーブミラー新設	M−11 N−21	202	0.8			立会		
	基幹環境整備(外灯新設)	J・K−21 K・L−22 L−23	203	23.5	包含層		〃		
	共通教育棟エレベーター新設	K−16	204	42			〃		
	九田川河川局部改良	E−14	205	48			〃		
	本部2号館西側バリカー新設	L−13	206	0.5			〃		
	教育学部附属養護学校時計塔新設	D−21	207	1.4	包含層	土師器	〃		
	基幹環境整備(教育学部附属養護学校排水管取替)	C・D−21	208	17	河川		〃		
	基幹環境整備(焼却場裏表土すきとり)	O−16	209	40			〃		
平成10年	第2学生食堂増築及び改修	N・O−15	210	730	掘立柱建物、溝、土坑、柱穴	弥生土器、土師器、須恵器、陶器、磁器、石鏃、鉄製品	事前		
	教育学部附属養護学校給食室改修	C−21	211	9	縄文河川、土坑、柱穴	縄文土器、弥生土器	試掘		
	九田川河川局部改良	E・F−14 F−13	212				立会		

調査年度	調　査　名	構内地区割	地点	面積（㎡）	遺　構	遺　物	調査区分	備　考	文献
平成10年	基幹環境整備（バリカー新設）	H−15 I・J−20 O−16・18	213				〃		
	農学部動物用焼却炉改修	Q−18	214				〃		
	基幹環境整備（外灯新設）	L−17〜19 M・N−18	215				〃		
	理学部スロープ新設	M−18	216				〃		
	ステンレス回転モニュメント新設	M−13	217				〃		
平成11年	第2学生食堂増築その他に伴う屋外電力線路施設整備	O−14〜16	218		包含層、柱穴、河川	土師器、須恵器	〃		
	九田川河川局部改良	F・G−13 G・H−12	219				〃		
	第2学生食堂北西擁壁新設	N−14	220				〃		
	サッカー場南側防球ネット新設	G・H−22	221				〃		
	第1体育館・共通教育本館スロープ新設	H−15 K−16	222				〃		
	基幹環境整備（外灯新設）	I−12 K・L−18 L−15 M・N−17	223				〃		
平成12年	総合研究棟新営	Q−18 R−17〜19	224	268	河川	土師器、須恵器	試掘		年報XX
	総合研究棟新営	Q・R−18・19 S−20	225	808	河川、土坑	縄文土器、土師器、須恵器、製塩土器、瓦質土器、石鏃	事前立会		
	厩舎及び周辺施設改修	M−8	226	3.6			立会		
	架空電線取り外し埋設	O−15 P−15・16 Q−14・15・18・19 R−13・14 R・S−19 S−14	227	268	包含層		〃		
	九田川河川局部改良	H−11・12 I−10・11 J−9・10 K・L−9	228	616			〃		
	山口合同ガスガバナー室新設及びガス配管布設	O・P−22	229	313			〃		
	基幹環境整備（バリカー新設）	N−22 M−10 V −17	230	0.4			〃		
	あずまや新設	L−18	231	5			〃		
	共通教育センター空調設備新設	J−16	232	1.4			〃		
	基幹環境整備（外灯新設）	J・K−21 M−10	233	2			〃		
平成13年	経済学部校舎改修（プレハブ校舎新営）	K−21	234	40	河川	縄文土器、土師器、須恵器	試掘		年報XXI
	九田川河川局部改良（平成12年度工事追加分）	K−9 L−8・9	235	42	河川		立会		
	総合研究棟新営（屋外配管布設）	P・Q−18	236	60			〃		
	理学部改修1期（屋外配管布設）	M−18〜20 N−19〜21 O−19	237	76			〃		
	九田川河川局部改良	L−8	238	96			〃		
	基幹環境整備（外灯新設）	I−14・15 J・L−15 M−15 N−16 Q−17・19 R−17・19 S・T・U・V−17	239	15.4	河川		〃		
	理学部校舎改修2期（ポンプ室配管布設）	M−19	240	11			〃		
	理学部校舎改修2期（自転車置場・渡り廊下屋根新設）	M・N−20	241	196			〃		
	第1学生食堂トイレ改修	I・J−19	242	6			〃		
	経済学部校舎改修（プレハブ校舎配管布設）	L−21	243	10			〃		
平成14年	農学部校舎改修（解剖実習棟プレハブ校舎新営）	R・S−19	244	520	掘立柱建物、柱穴、土坑、包含層、河川	土師器、須恵器（墨書土器）、製塩土器、緑釉陶器、瓦、鞴口、鉈尾、銅鉱石	事前		
	農学部附属農場実験圃場整地	O−14	245				立会		
	農学部校舎他改修	N〜Q−17・18	246		河川	縄文土器	〃		
	理学部改修3期工事（薬品庫掲示板・自転車置場新設）	N・O−19 M−19・20	247				〃		

山口大学構内の主な調査

調査年度	調　査　名	構内地区割	地点	面積（㎡）	遺　構	遺　物	調査区分	備　考	文献
平成14年	東アジア研究科 プレハブ校舎新営	N−21	248				〃		
	農学部校舎改修（解剖実習棟 プレハブ校舎新営）	R・S−19	249		河川、包含層		〃		
	教育学部トイレ改修	I−18	250				〃		
平成15年	農学部附属農場ガス管漏洩修理	O・P−16 Q−15	251	12	河川		立会		年報1
	教育学部附属養護学校給食調理員 専用トイレ新設	C−21	252	1.7			〃		
	農学部環境観測実験棟南側温室	P・Q−15	253	52			〃		
	理学部中庭通路屋根新設	N−19	254	5.8			〃		
	理学部中庭あずまや新設	N−20	255	6.8			〃		
	基幹環境整備（外灯）	F−16、H−14 G−13〜15・18 I−16・19 J−19、L−12 Q−15	256	11.5	河川		〃		
平成17年	教育総合研究センター改修Ⅰ期	J・K−16	257	130	ピット、河川	弥生土器、土師器	予備		年報3
	教育総合研究センター改修Ⅰ期	I・J・K−16 H−12、E−20	258	580	ピット、河川	弥生土器、土師器 須恵器	立会		
	日本ペトロジー学会 水田土壌の断面調査	R−16	259	3.1	河川		〃		
	基幹環境整備（外灯）取設	H−17・22・23	260	7.7			〃		
	教育総合研究センター改修Ⅱ期	K・L−16、K−17 J−16・17	261	92	ピット、溝、河川	弥生土器、土師器 石器	予備		
平成18年	農学部附属家畜病院改修Ⅰ期	S−20	262	36	包含層・谷	土師器・須恵器 製塩土器	予備		年報4
	農学部附属家畜病院改修Ⅰ期	S−20	263	225	掘立柱建物跡、溝、土壙	土師器、須恵器 緑釉陶器、木製品（柱根）	本		
	農学部附属家畜病院改修Ⅰ期	S−20	264	19	包含層		立会		
	教育総合研究センター改修Ⅱ期	K・L−16	265	84	ピット、河川、杭列	縄文土器、弥生土器 土師器、須恵器	本		
	教育総合研究センター改修Ⅱ期	J・K・L−16 I・J・K・L−17	266	480	ピット、河川、溝	弥生土器、土師器 打製石斧、柱材	立会		
	資料館（東亜経済研究所）新営	L−20・21	267	100	土壙、落ち込み、河川		予備		
	プレハブ倉庫移設	I−16	268	29			立会		
	第一学生食堂改修	J−20	269	75			〃		
	図書館前広場環境整備	L−17・18	270	55			〃		
	プレハブ校舎新営	F−14・15、G−15	271	400			〃		
	人文学部外灯用電源敷設	M−20	272	6			〃		
	テニスコートフェンス改修	B・C−17、C−18	273	10	河川、包含層		〃		
平成19年	農学部附属動物医療センター改修Ⅱ期	T−20	274	48	土壙、ピット	土師器・須恵器 瓦質土器	本		年報5
	駐車場整備工事	J−21	275	10			立会		
	資料館（東亜経済研究所）新営	L−20・21	276	550			〃		
	第一事務局庁舎改修	L−15	277	5			〃		
	吉田寮前配水管敷設	M−11	278	11			〃		
	農学部附属農場内電源敷設	Q−15、S−18	279	0.5	ピット	須恵器	〃		
平成20年	経済学部研究棟改修工事	L・M−19	280	26	河川、落ち込み		予備		年報6
	新教育研究棟新営	M・N−11・12	281	473	谷、ピット、溝	弥生土器、土師器 須恵器、瓦質土器 青磁	〃		
	新教育研究棟設備関連工事	L−12〜14 M−12・13	282	313	ピット、溝、土壙	土師器、須恵器 緑釉陶器、白磁、青磁 国産陶器、砥石	本		
	新教育研究棟新営	M・N−11・12	283	1,333	掘立柱建物、ピット 溝、土壙、井戸、谷	縄文土器、弥生土器 土師器、須恵器、青磁 緑釉陶器、瓦質土器 木製品	〃		
	農学部附属動物医療センター改修Ⅲ期	T−19　S−20	284	250	掘立柱建物、ピット 溝、谷	弥生土器、土師器 須恵器、製塩土器 青磁、瓦質土器 木製品	〃		
	国際交流会館B棟改修工事	N・O−22　N−23	285	457	河川		立会		
	サッカーグラウンド防球ネット取設	H−21・22　I−21	286	8.5	河川、ピット		〃		
	正門改修等工事	L−13　M−12・13	287	174	ピット、溝、落ち込み	土師器、須恵器 瓦質土器、陶器、磁器	〃		
	教育実践センター廻りフェンス取設	K−19	288	2	土壙	縄文土器	〃		
平成21年	東アジア研究棟・経済学研究科新営	K−21	289	117	溝、河川	弥生土器、土師器 須恵器、木製品	予備		年報7

調査年度	調　査　名	構内地区割	地点	面積（㎡）	遺　構	遺　物	調査区分	備　考	文献
平成21年	野球場防球ネット取設置	H−23 I−24 K−24	290	40	ピット、溝、包含層	弥生土器、砥石	予備		年報7
	教育学部研究実験A棟改修	H・I−17・18 I・K−24	291	35.3			〃		
	里山整備工事	Q−10 O・P・Q−11	292	36.9			〃		
	新教育研究棟新営	L−13・14 M−11・12 N−12	293	340.5			立会		
	ビオトープ周辺雨水配水管取設	H−12	294	60			〃		
	仮設高圧引込工事	L・M−10・11	295	7			〃		
	ため池整備工事	S−8	296	130			〃		
	基幹整備（鋳鉄管改修）	J−14・15	297	156	包含層		〃		
	事務局外灯設置	J−14	298	1			〃		
	第1事務局庁舎東駐車場カーポート設置	L−14	299	1.2	ピット		〃		
	基幹・環境整備（第1体育館周辺排水整備）	H−13	300	300			〃		
	男子学生寮東側丘陵災害復旧	N−8 O−8・9	301	700			〃		
	人文学部外灯設置	N−21	302	10			〃		
	人文学部西側アプローチ改修	M−20	303	750			〃		
	教育学部研究実験棟A棟改修電気設備	K−18	304	40	包含層、河川		〃		
	理学部ソーラー外灯設置	O−20	305	0.3			〃		
	農学部インターロッキング設置	P−17	306	9			〃		
	農学部附属動物医療センター改修Ⅲ期	S−19・20	307	154	包含層、埋没谷	土師器、須恵器	〃		
	農学部附属農場水田暗渠排水	Q−15・16 R−15 S−15 T−15 U−15 V−15	308	96	包含層、河川	土師器、須恵器	〃		
	農学部植物工場新営	P−15	309	98	包含層	土師器、須恵器	〃		
	男子学生寮新営	M−10・11	310	1350			〃		
	ラグビー場排水整備	E−20 F−21	311	58.6			〃		
	アーチェリー場整備工事	N−7・8 O−7・8	312	750			〃		
	テニスコート改修	C−17 D−16・17	313	18.3			〃		
	共通教育講義棟改修	L−17	314	11.6			〃		
	石彫実習場整備その他	N・O・P−8 Q−9	315	29			〃		
平成22年	教育学部研究実験棟B棟改修工事	H・I・J−18	316	80	落ち込み、溝	弥生土器	予備立会		年報8
	音楽サークル棟新営工事	G−14	317	13.5			予備		
	教育学部研究実験棟G棟改修工事	G−18	318	22			立会		
	吉田寮改修工事	L・M−9	319	1,820			〃		
	基幹整備（鋳鉄管改修）工事	Q−18	320	13.6	河川		〃		
	基幹整備（第1体育館周辺排水整備）工事	G−13	321	8			〃		
	事務局2号館車寄せ取設工事	L−14	322	3.6	土壙		〃		
	里山遊歩道手摺り取設工事	N・O−14	323	15.2			〃		
	人文学部駐輪場外灯設置工事	M−22	324	13.6			〃		
	教育学部附属特別支援学校構内雨水排水補修工事	C・D−21	325	18	包含層、河川		〃		
	農学部附属農場果樹園側溝新設工事	R・S−19	326	10	ピット、溝、土壙		〃		
平成23年	特高受変電設備棟新営工事	P・Q−16 R・S・T・U・V−17	327	380	ピット、杭列、河川	土師器、須恵器、瓦質土器、陶磁器、石鏃	本立会		年報9
	基幹整備（第1体育館周辺排水整備）工事	G−13・14	328	72			立会		
	埋蔵文化財資料館スロープ取設工事	N−16	329	48			〃		
	第2学生食堂西側テーブル・ベンチ取設工事	M−15	330	8			〃		
	農学部植物工場新設工事	P−15	331	224	ピット		〃		
	農学部連合獣医学科棟横倉庫撤去・新設工事	O−17	332	75			〃		
	教育学部附属特別支援学校散水栓増設工事	C・D−21	333	16.8			〃		
平成24年	図書館改修工事及び環境整備（図書館周辺道路迂回）工事	M−16	334	172	河川、杭列	縄文土器、弥生土器 土師器、須恵器 緑釉陶器、製塩土器 石器、木器、銙帯丸鞆	本		年報10
	産業動物実験施設新営工事	S・T−10	335	45			予備		
	椹野寮新営工事	O−21・22 P−22	336	48	溝	須恵器	予備		
	第1学生食堂増築工事	I−19・20 J−20	337	66.1	河川、ピット	弥生土器、土師器	予備		
	陸上競技場トラック排水溝改修工事	D−17〜19 E−17・19 F−16〜19 G−16〜18	338	495	河川、溝		立会		
	人文・理学部管理棟EV設置工事	M−20	339	42.75			〃		
	農場本館事務室等改修機械設備工事	R・S−13	340	27			〃		
	図書館改修その他工事（廃棄物プール設置）	K−10	341	25			〃		

山口大学構内の主な調査

調査年度	調　査　名	構内地区割	地点	面積（㎡）	遺　構	遺　物	調査区分	備　考	文献
平成24年	国際交流会館1号館引込給水管改修工事	M･N-22	342	15			立会		年報10
平成25年	獣医学国際教育研究センター棟新営工事	P･Q-17	343	608	縄文時代河川	縄文土器	本		年報11
	第1武道場耐震改修その他工事	F･G-16 G-17	344	692	弥生古墳時代河川溝、土壙	弥生土器、土師器、石器竹製網代編み製品	〃		
	第1武道場耐震改修その他工事	H-15	345	1			立会		
	農場本館研究・実験室改修工事	S-13	346	4			〃		
	農学部本館他電気接地改修工事	S-13	347	1			〃		
	椹野寮新営工事	O-20・21	348	35	落ち込み、ピット、河川		〃		
	陸上競技場外灯設置工事	E-19・20 F-19 G･H-18	349	56			〃		
	自転車置き場設置工事	G･H-15	350	90			〃		
	基幹・環境整備（太陽光発電設備）工事	L･M-15 L-19	351	20			〃		
	交通標識設置工事	J-15 K-11 L-13 M-11・12 O-18	352	6	包含層		〃		
	学術情報資産の集約管理システム設備工事	K-14	353	22.8			〃		
平成26年	動物医療センター（リニアック室等）新営その他工事	R-19 S－19・20	354	247	埋没谷 溝　土壙　ピット	須恵器、土師器、鉄器製塩土器、墨書土器木製品	本		年報12
	椹野寮1号棟改修工事	O－20・21 P－20・21	355	801	落ち込み　ピット　河川	須恵器、土師器	立会		
	動物医療センター改修電気設備工事	S－19	356	9			〃		
	農学部附属農場水田排水路工事	U･V－17	357	50			〃		
	経済学部D棟改修電気設備工事	K－19	358	4			〃		
	第1学生食堂増築工事	I－19・20 J－20	359	341	河川	弥生土器	〃		
	第1学生食堂増築電気設備工事	I－19	360	16			〃		
	南門アプローチ整備工事	H･I－21・22	361	66.5	河川	弥生土器、土師器	〃		

白石構内

山口大学構内の主な調査

調査年度	調　査　名	構内地区割	地点	面積（㎡）	遺　構	遺　物	調査区分	備　考	文献
昭和58年	教育学部附属山口小学校・幼稚園運動場整備		1	60	古墳竪穴住居、溝状遺構	土師器、須恵器、瓦質土器、瓦、石製品、木製品	試掘		年報Ⅲ
昭和60年	教育学部附属山口小学校散水栓改修		2	1			立会		年報Ⅴ
	教育学部附属山口中学校球技コート整備		3	2			〃		
	教育学部附属幼稚園環境整備（樹木植樹）		4	1			〃		
昭和61年	教育学部山口附属学校	幼稚園・小学校部分	5	57	中世土壙か	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、土師質土器、	試掘		年報Ⅵ
	汚水排水管布設	中学校部分		20	河川跡か杭列	陶磁器、不明鉄製品、石鏃、剥片、植物遺体			
昭和61年	教育学部附属山口小学校電柱移設		6				立会		年報Ⅵ
昭和62年	教育学部附属幼稚園遊戯室拡張		7	40			〃		年報Ⅶ
昭和63年	教育学部附属山口中学校屋内消火栓設備改修		8	35	包含層	土師器、磁器、剥片	〃		年報Ⅷ
平成元年	教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水排水管布設		9	260	弥生～古墳竪穴住居、土壙、溝、柱穴、河川跡	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、須恵質陶器、黒色土器、掻器、二次加工のある剥片、使用痕のある剥片、剥片、石核、砥石	事前		年報Ⅸ
	教育学部附属幼稚園バレーコート支柱設置		10	0.3			立会		
	教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水管布設		11	170	弥生溝状遺構	弥生土器、土師器、打製石斧、削器、剥片、石核	〃		
平成2年	教育学部附属山口中学校汚水排水管布設		12	70	溝状遺構	縄文土器、弥生土器、土師器、瓦質土器、不明鉄製品、石鏃、敲石、扁平打製石斧、砥石、剥片	事前		年報Ⅹ
			13	130		弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、瓦質土器、国産陶磁器、扁平打製石斧、砥石	立会		
平成6年	教育学部附属山口小学校プール新営給水管埋設		14	3			〃		年報ⅩⅣ
	教育学部附属山口中学校プール新営給水管埋設		15	7			〃		
平成7年	教育学部附属山口中学校自転車置場新設		16				〃		
平成10年	教育学部附属山口小学校給食室改修		17				試掘		
平成12年	教育学部附属山口中学校防球ネット新設		18				立会		年報ⅩⅩ
平成14年	教育学部附属山口中学校給水設備改修		19				〃		
	教育学部附属幼稚園運動場整備		20		河川、柱穴	土師器	〃		
平成15年	教育学部附属山口幼稚園庇新設山口小学校スロープ新設		21	27.7			立会		年報1
平成16年	白石地区市道歩道改修		22	1	河川		立会		年報2
	教育学部附属山口小学校事務室新営		23	101	河川、土壙または溝		〃		
	教育学部附属山口幼稚園・小学校フェンス・通用門改修		24	11			〃		
平成17年	教育学部附属山口幼稚園・小学校給水管改修		25	10			立会		年報3
平成19年	教育学部附属山口中学校校舎等改修		26	121	河川、落ち込み、ピット	縄文土器、弥生土器	予備		年報5
	教育学部附属山口中学校校舎等改修		27	38	河川、包含層		立会		
平成21年	教育学部附属山口小学校共用棟・教室B棟間渡り廊下屋根取設		28	2.5			〃		年報7

山口大学構内の主な調査

調査年度	調　査　名	構内地区割	地点	面積（㎡）	遺　構	遺　物	調査区分	備　考	文献
平成21年	教育学部附属幼稚園園内中庭池改修整備		29	50	落ち込み		立会		年報7
	教育学部附属山口中学校中庭庇取付		30	1.5			〃		
平成22年	教育学部附属山口小学校渡り廊下設置		31	12			立会		年報8
平成23年	教育学部附属学校園案内板設置工事		32	1			立会		年報9
	教育学部附属幼稚園渡り廊下屋根拡張工事		33	11.5			〃		
平成24年	教育学部附属幼稚園遊具設置工事		34	0.35			立会		年報10
	教育学部附属幼稚園園舎テラス取設工事		35	7.9			〃		
	教育学部附属山口中学校看板表示設置工事		36	0.6			〃		
	教育学部附属山口中学校テニスコート防球ネット嵩上げ工事		37	4.8			〃		
	教育学部附属山口中学校武道場新営植物移植工事		38	3			〃		
平成25年	教育学部附属山口中学校武道場新営工事		39	235.8		弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、木製品	予備		年報11
	教育学部附属山口中学校武道場新営工事に伴う外溝及び渡り廊下取設工事		40	77.6		縄文土器、弥生土器、土師器	立会		

小串構内

調査年度	調　査　名	構内地区割	地点	面積(㎡)	遺　構	遺　物	調査区分	備　考	文献
昭和58年	医学部体育館新営		1	260		土師器、瓦質土器、石器	試掘		年報Ⅲ
	医学部図書館増築		2	4			立会		
	医学部体育館新営		3	1			〃		
昭和59年	医学部浄化槽新営		4	44	近世溝	土師器、瓦質土器、磁器	事前		年報Ⅳ
	医学部体育館新営		5	65		土師器、瓦質土器、磁器	〃		
	医学部基幹整備(特高受変電設備)		6	28		動物遺体(貝殻)	試掘		
	医学部臨床講義棟病理解剖棟新営		7	38			〃		
昭和60年	医学部附属病院外来診療棟新営		8	390		土師質土器、瓦質土器、陶磁器	〃		年報Ⅴ
	医学部基礎研究棟新営		9	10		近世陶器	〃		
	医学部看護婦宿舎改修		10	25.5		近世陶磁器	立会		
	医学部看護婦宿舎改修		11	20			〃		
	医学部環境整備(樹木移植)		12	40			〃		
昭和61年	医学部附属病院外来診療棟新営		13	5			〃		年報Ⅵ
	医学部附属病院外来診療棟周辺環境整備等(雨水桝埋設)		14	18			〃		
昭和62年	医学部附属病院東駐車場改修		15	6			〃		年報Ⅶ
	医学部附属病院病棟新営		16	104		削器、ナイフ形石器、細石刃核	試掘		
昭和63年	医学部附属病院病棟新営		17	300		二次加工のある剥片、使用痕のある剥片、剥片、敲石、礫、原石、土師器、土師質土器、瓦質土器、陶磁器	立会		年報Ⅷ
	医学部附属病院運動場整備		18	220			〃		
平成元年	医学部附属病院MRI棟新営		19	45		削器、細石刃、二次加工のある剥片、剥片、石核	試掘		年報Ⅸ
平成3年	医学部臨床実験施設新営電気工事		21	0.5			立会		年報ⅩⅠ
平成4年	焼却棟地盤調査		22				〃		年報ⅩⅡ
平成5年	医学部臨床実験施設新営その他		23	9			〃		年報ⅩⅢ
	医学部附属病院基幹設備(焼却棟新営)		24	6			〃		
平成6年	医学部附属病院MRI−CT装置棟新営		25	300			〃		年報ⅩⅣ
平成7年	医学部附属病院看護婦宿舎新営		26	40			試掘		
平成8年	医療技術短期大学部屋外排水管布設		27	6			立会		年報ⅩⅥ
平成9年	医学部慰霊碑・納骨堂新営		28	15.2			試掘		年報ⅩⅦ
	基幹環境整備(看護婦宿舎浄化槽撤去)		29	4			立会		
	医学部剖検棟移設		30	10			〃		
平成10年	宇部市土地区画整理事業(柳ヶ瀬丸河内線)		31	134	包含層、近世〜近代用水路	剥片、弥生土器、土師器、陶器、磁器	事前	宇部市教育委員会と共同調査	
平成10年	宇部市土地区画整理事業(柳ヶ瀬丸河内線・医学部敷地西側特殊道路)		32	379	包含層、近世〜近代溝	剥片、縄文土器、弥生土器、土師器、陶器、磁器	〃	宇部市教育委員会と共同調査	
平成11年	宇部市土地区画整理事業(柳ヶ瀬丸河内線)		33	792	近世〜近代用水路、土坑	陶器、磁器、鉄製品	〃	宇部市教育委員会と共同調査	
平成13年	医学部附属病院立体駐車場新営		34	229	包含層	縄文土器、弥生土器、土師器、陶器、磁器鉄釘	試掘		年報XXⅠ
平成14年	医学部附属病院高エネルギー棟新営		35	13.25			〃		
	総合研究棟新営		36	382	包含層	縄文土器、土師器、須恵器、瓦質土器、陶器、磁器	〃		
平成15年	基幹環境整備(煙突)新営		37	76			試掘		年報1

山口大学構内の主な調査

調査年度	調　査　名	構内地区割	地点	面積（㎡）	遺　構	遺　物	調査区分	備　考	文献
平成16年	医学部基幹環境整備（地下オイルタンク他）		38	144		縄文土器、土師器、陶器、磁器、石錘	試掘		年報2
	医学部職員宿舎他公共下水接続		39	400		弥生土器、土師器、瓦質土器、陶器、磁器	〃		
	医学部総合研究棟北側連絡用渡り廊下取設		40	40.6			立会		
平成17年	医学部附属病院基幹環境整備（冷熱源設備他改修）		41	37			〃		年報3
	医学部南側通用門塀取設		42	30			〃		
平成18年	モニュメント設置		43	6.2			〃		年報4
平成19年	医学部総合研究棟改修Ⅰ期		44	6.75			予備		年報5
平成20年	医学部総合研究棟改修Ⅱ期		45	9			〃		年報6
平成21年	小串宿舎B棟埋設ガス管改修		46	58			立会		年報7
平成22年	医学部附属病院患者用・職員用立体駐車場建設		47	125		煙管、陶器、磁器、瓦質土器、土師器	予備立会		年報8
	地域医療教育研修センター新営		48	156	畦畔、溝	磁器、陶器、泥メンコ、土人形、煙管、土錘、土師器、須恵器、弥生土器、縄文土器	予備		
平成23年	地域医療教育研修センター新営工事		49	4			立会		年報9
平成26年	基幹・環境整備及び診療棟・病棟新営工事		50	90		縄文土器、土師器、石錘	予備		年報12
	基幹・環境整備及び診療棟・病棟新営工事		51	30			立会		
	廃棄物管理棟新営工事		52	149			〃		

常盤構内

調査年度	調　査　名	構内地区割	地点	面積（㎡）	遺　構	遺　物	調査区分	備　考	文献
昭和58年	工学部校舎新営		1	70		須恵器	試掘		年報Ⅲ
	工学部図書館増築		2	70			〃		
昭和59年	工学部尾山宿舎排水管布設			20			立会		年報Ⅳ
昭和60年	工学部尾山宿舎擁壁取設等			65			〃		年報Ⅴ
	工学部受水槽改修		3	1.5			〃		
昭和61年	工学部尾山宿舎排水管改修			6			〃		年報Ⅵ
	工学部身体障害者用スロープ取設		4	29			〃		
	情報処理センター（常盤センター）空調設備取設		5	30			〃		
昭和63年	工学部焼却炉上屋新営		6	225			〃		年報Ⅷ
平成元年	工学部夜間照明装置及び防球ネット設置		7	2			〃		年報Ⅸ
	工学部記念植樹		8	2.5			〃		
平成2年	工学部ガス管改修		9	45			〃		年報Ⅹ
平成3年	大学祭展示物設置		10	7			〃		年報ⅩⅠ
平成4年	工学部プレハブ研究・実験棟新営		11	6			試掘		年報ⅩⅡ
	工学部・工業短期大学部の改組再編・博士課程設置に伴う建築物等の新営		12	40			〃		
	工学部および工業短期大学部職員宿舎取壊		13	9			立会		
	大学祭展示物設置		14	7			〃		
平成5年	工学部プレハブ研究・実験棟新営		15	12			試掘		年報ⅩⅢ
	工学部地域共同研究開発センター新営		16	16			〃		
平成7年	工学部国際交流会館新営		17	8		石鏃	〃		
平成8年	工学部国際交流会館新営		18	352	段状遺構	ナイフ形石器、剥片	事前		年報ⅩⅥ
平成12年	工学部福利厚生棟新営		19	38.5			試掘		年報ⅩⅩ
平成13年	工学部インキュベーションセンター新営		20	60		土師質土器、瓦	〃		年報XXⅠ
平成14年	総合研究棟新営		21	13.5			〃		
平成15年	工学部本館改修		22	428			立会		年報1
平成16年	工学部定歪速度応力腐食割れ実験室新営		23	20			試掘		年報2
	工学部光半導体素子実験室新営		24	52.5			〃		
	工学部雨水幹線工事		25	9			立会		
平成17年	工学部職員宿舎揚水施設改修		26	65			〃		年報3
	工学部会議棟身障者スロープ取設置		27	38			〃		
平成18年	総合研究棟改修工事（Ⅱ期・本館北）		28	280			確認		年報4
平成19年	工学部総合研究棟改修（Ⅲ期・本館）		29	147			〃		年報5
平成20年	工学部女子学生寄宿舎新営その他		30	24			予備		年報6
平成21年	工学部ガス管改修		31	12.5			確認		年報7
平成26年	常盤寮C棟新営工事		32	103			立会		年報12

光構内

調査年度	調　査　名	構内地区割	地点	面積(㎡)	遺　構	遺　物	調査区分	備　考	文献
昭和58年	教育学部附属光小学校 自転車置場設置		1	6	近世～近代石垣	瓦質土器、陶磁器、瓦	試掘		年報Ⅲ
昭和59年	教育学部附属光小・中学校 焼却炉新営		2				立会		年報Ⅳ
昭和60年	教育学部附属光中学校 外灯改修		3	1		土師器	〃		年報Ⅴ
昭和61年	教育学部附属光小学校創立 記念事業(ブロンズ像建立)		4	2.5		土師器、須恵器	〃		年報Ⅵ
昭和62年	教育学部附属光中学校 グラウンド防球ネット設置		5	2		弥生土器、土師器、 瓦質土器、 土師質土器、瓦	〃	御手洗湾採集	年報Ⅶ
昭和63年	教育学部附属光小学校 遊器具移設		6	10		土師器、土師質土器、 陶磁器	〃		年報Ⅷ
	教育学部附属光小学校 屋外スピーカー設置		7	0.5		土師器、土師質土器、 須恵器、瓦器、 瓦質土器、陶磁器、 土錘	〃	御手洗湾採集	
平成2年	教育学部附属光小学校 運動場改修		8	15		縄文土器、土師器、 須恵器、瓦質土器、 施釉陶器、磁器、 土錘、剥片、鉱滓	試掘	御手洗湾採集 遺物含む	年報Ⅹ
	教育学部附属光小学校 運動場改修		9	23	土壙	土師器、須恵器、 須恵器模倣土師器	事前		
平成3年	教育学部附属光中学校 武道館新営		10	38	土壙、溝状遺構	土師器、磁器、陶器	試掘		年報ⅩⅠ
	教育学部附属光小学校 屋外施設設置		11	18		土師器、石錘	立会		
	教育学部附属光中学校 バックネット新設		12	0.5		土師器	〃		年報ⅩⅠ
平成4年	教育学部附属光中学校 武道館新営		13	500	土壙、柱穴	縄文土器、須恵器、 土師器、瓦器	事前		年報ⅩⅡ
	教育学部附属光中学校 武道館地盤調査		14				立会		
平成5年	教育学部附属光中学校 武道館新営その他		15	6			〃		年報ⅩⅢ
平成6年	教育医学部附属光小中学校 プール新営給排水管埋設		16	19			〃		年報ⅩⅣ
平成8年	教育学部附属光小・中学校 囲障(外周フェンス・防球ネット)取設		17	7		陶磁器	〃		年報ⅩⅥ
平成10年	教育学部附属光小学校 給食室改修		18	6			〃		
平成11年	教育学部附属光小・中学校 上水道(給水管)改修		19	132	古墳包含層、柱穴、 近世～近代土壙	土師器、須恵器、 韓式系土器、 竈形土器、陶器、磁器	試掘 立会		
平成12年	教育学部附属光小・中学校 護岸石積改修		20	173	石垣	陶磁器	立会		年報ⅩⅩ
	教育学部附属光小・中学校 上水道(給水管)改修		21	23			〃		
平成15年	教育学部附属光小学校エレベータ 昇降路等新設		22	169	ピット、土壙、溝	縄文土器、土師器、 須恵器、瓦質土器、 陶器、磁器、石器	試掘 立会		年報1
平成17年	教育学部附属光小学校 体育器具庫新営		23	53		土師器、須恵器 磁器陶	予備		年報3
	教育学部附属光小・中学校護岸改修		24	40	石垣	陶磁器	立会		
平成21年	教育学部附属光中学校校舎改修		25	107	ピット、土壙	須恵器	本		年報7
	教育学部附属光中学校校舎改修工事 に伴う プレハブ建設		26	225			立会		
平成22年	教育学部附属光中学校 防球ネット設備		27	1			立会		年報8
平成23年	教育学部附属光小学校 下水道接続工事		28	19.4		土師器、須恵器、陶磁器	予備		年報9
	教育各部附属光小学校遊具設置工事		29	20			立会		
平成24年	教育学部附属光小学校下水 接続工事		30	125.4	ピット、土壙、溝、 落ち込み、包含層	縄文土器、弥生土器 土師器、須恵器 韓式系土器、製塩土器	本		年報10
	教育学部附属光小学校下水 接続工事		31	889	ピット、土壙、溝、 落ち込み、包含層	縄文土器、弥生土器 土師器、須恵器 韓式系土器、製塩土器	立会		
平成25年	教育学部附属光小学校仮設校舎 設置工事		32	57	土壙	土師器	立会		年報11
	教育学部附属光小学校改修その他工事 教育学部附属光小学校改修その他機械設備工事 教育学部附属光小学校改修その他電気設備工事		33	412	落ち込み、包含層	土師器、須恵器	立会		

山口大学構内の主な調査

調査年度	調　査　名	構内地区割	地点	面積（㎡）	遺　構	遺　物	調査区分	備　考	文献
平成26年	教育学部附属光小学校グラウンド鉄棒新設工事		34	23	ピット	縄文土器、須恵器土師器、鉄器	立会		年報12
	教育学部附属光中学校校舎排水管改修工事		35	3			緊急		

その他構内

調査年度	調　査　名	構内地区割	面積（㎡）	遺　構	遺　物	調査区分	備　考	文献
昭和59年	学生部ボート艇庫合宿研修所整備	宇部市大字小野宇土井	0.5			立会		年報Ⅳ
	学生部ヨット艇庫合宿研修所整備	吉敷郡秋穂町東字中道				〃		
昭和60年	熊野荘給湯機器取設	山口市熊野町3−21	7			〃		年報Ⅴ
昭和61年	湯田宿舎給水管改修	山口市湯田温泉6丁目8−29	35	杭		〃		年報Ⅵ
	経済学部職員宿舎公共下水道切替	山口市旭通り2丁目3−32	1		土師質土器	〃	6号宿舎	
		山口市水の上町6−9	7		瓦	〃	2号宿舎	
昭和63年	経済学部職員宿舎公共下水道切替	山口市白石二丁目8−7	1		須恵器、土師器、土師質土器、瓦質土器、陶磁器	〃	7号宿舎採集	年報Ⅷ
平成元年	本部職員宿舎公共下水道切替	山口市水の上町6−1	1			〃	1号宿舎	年報Ⅸ
平成2年	人文・理学部職員宿舎公共下水道切替	山口市石観音町1−25	1.2		陶磁器	〃	7号宿舎	年報Ⅹ
	経済学部職員宿舎公共下水道切替	山口市香山町3−1	0.5			〃	3号宿舎	
平成3年	湯田宿舎A棟給配水その他改修	山口市湯田温泉6丁目	30			〃		年報ⅩⅠ
	経済学部6号職員宿舎電柱設置	山口市旭通り2丁目3−32	0.5			〃		
	人文・理学部職員宿舎公共下水道切替	山口市天花932−2	1			〃		
平成4年	上竪小路共同下水管布設	山口市上竪小路宇久保7−4	7			〃		年報ⅩⅡ
平成6年	湯田宿舎公共下水道接続及び排水施設改修	山口市湯田温泉6丁目8−29	44			〃		年報ⅩⅣ
平成15年	ボート部合宿所給排水整備	宇部市大字小野宇土井	80			確認		年報1
平成16年	湯田宿舎B棟自転車置場新営	山口市湯田温泉6丁目8−29	11			確認		年報2
平成17年	経済学部職員宿舎2号フェンス取替	山口市水の上街6−9	1			確認		年報3
	工学部職員宿舎（尾山）揚水施設改修	宇部市上野中町1−33・34	15			確認		
平成21年	秋穂団地（ヨット艇庫）浄化槽改修	山口市秋穂東706−2	4.5			〃		年報7

※文献①　山口大学吉田遺跡調査団『吉田遺跡発掘調査概報』（山口大学、1976年）
※昭和41年以降、吉田構内においては、工事に際し随時継続的に調査を実施しているが、昭和52年以前の吉田遺跡調査団の関与した調査については、調査名をすべて把握しているわけでなく注意が必要である。

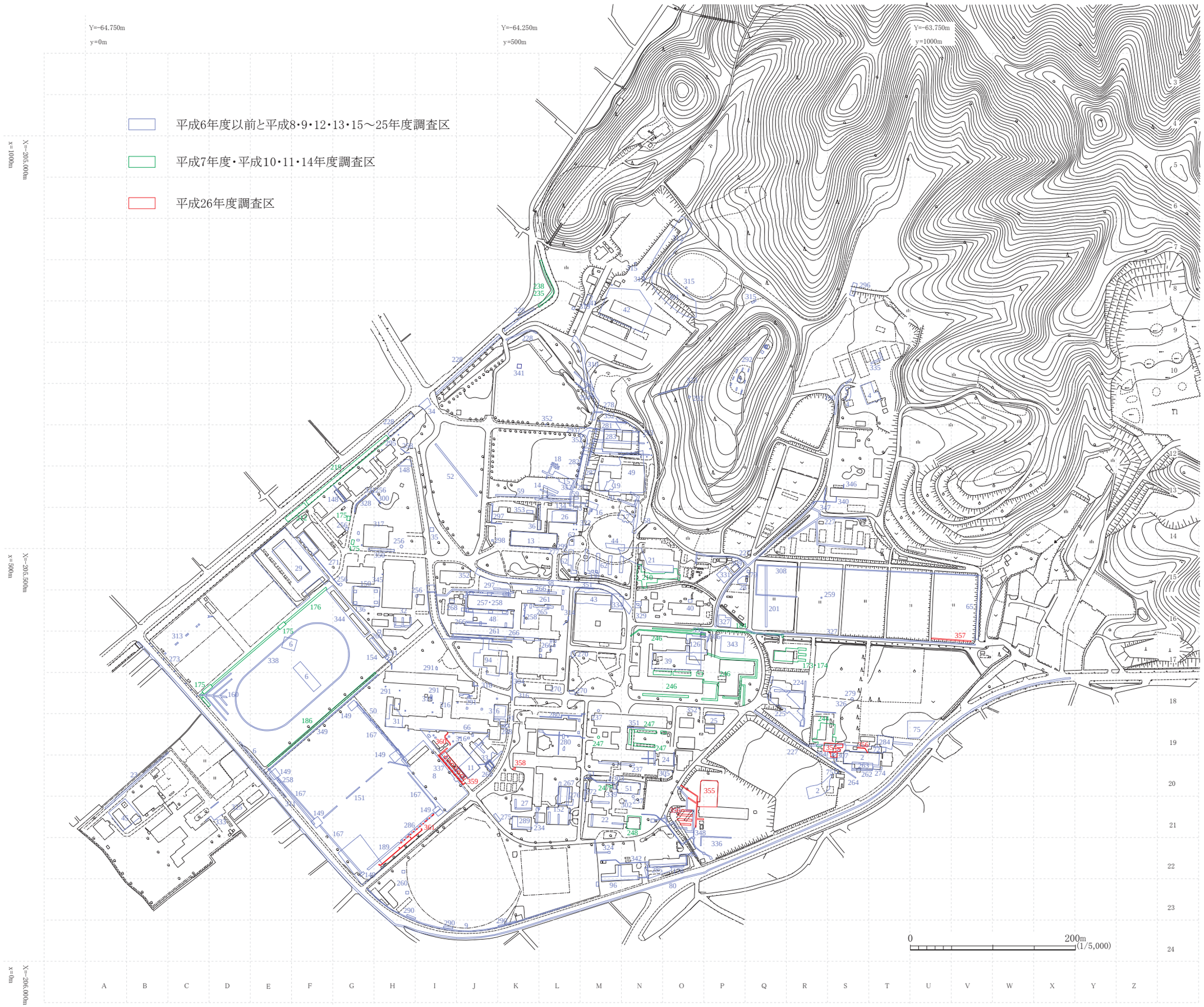


図100　山口大学吉田構内地区割および主な調査区位置図

図 101 山口大学白石構内（幼稚園・小学校）調査区位置図

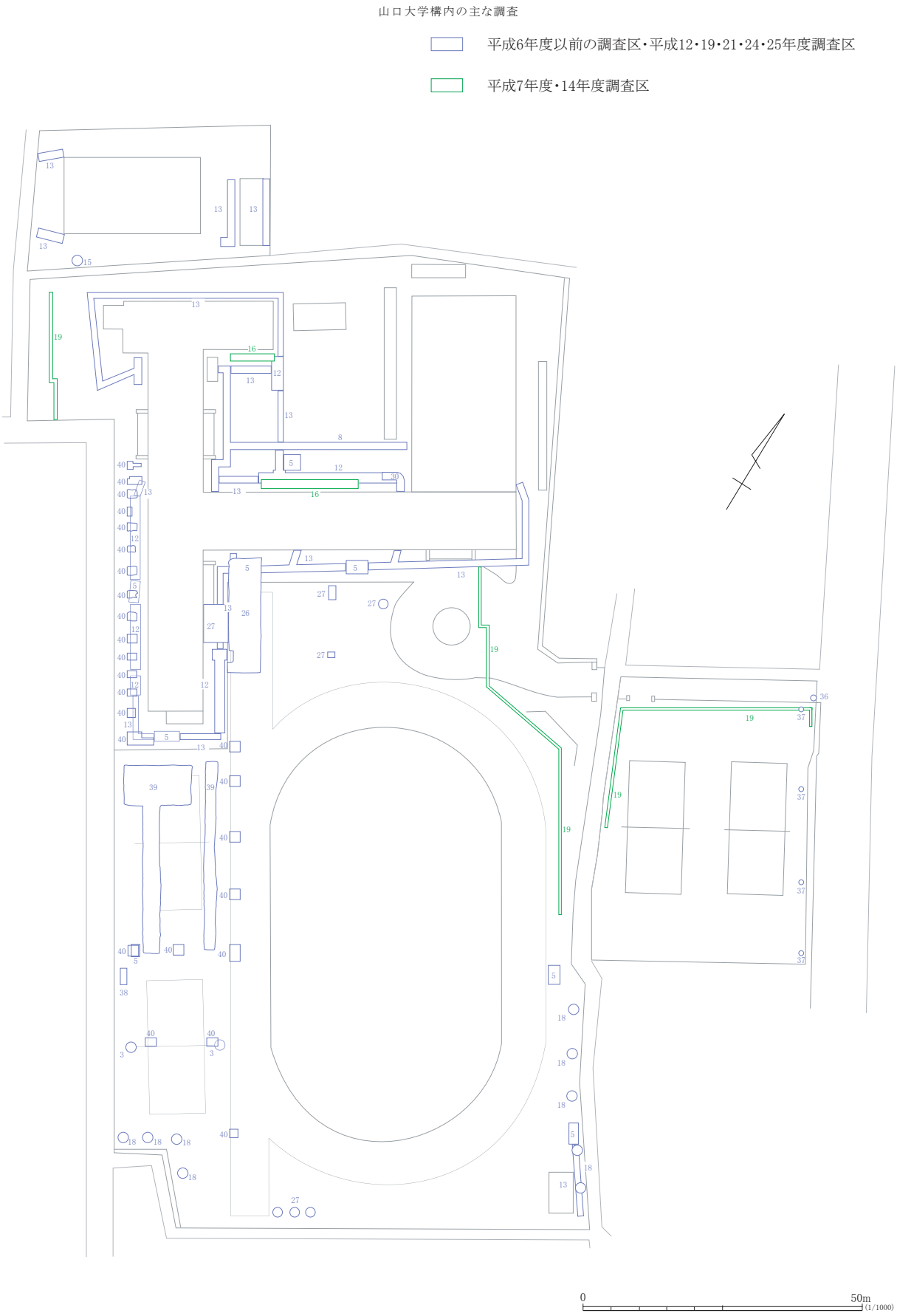


図102 山口大学白石構内（中学校）調査区位置図

図103 山口大学小串構内調査区位置図

図104 山口大学常盤構内調査区位置図

図 105 山口大学光構内調査区位置図

付篇1

吉田遺跡出土（動物医療センターリニアック室）金属製品成分分析調査

横山成己・（株）吉田生物研究所

1．対象資料の概要

平成26年度に、山口大学吉田構内南東部に位置する動物医療センターに増築計画が立案されたことを受け、開発域を対象に本発掘調査を実施した（本書第2章第2節1．動物医療センター（リニアック室等）新営その他工事に伴う本発掘調査）。調査では、古代官衙域の南西端を区画していたと推定される埋没谷が検出され、その埋土から須恵器や木製品をはじめとする多量の遺物の出土を見た。

調査の対象とした2点は、「谷埋土2下層」として遺物の取り上げを行ったもので、谷右岸の緩傾斜を覆う状態で堆積した層に包含されていた資料である。谷埋土2下層の堆積時期は、包含される土器から平安時代後期と推定される。当埋没谷からは、既往の調査において銅鉱石や銅製蛇尾未製品、鞴羽口など冶金や鋳造にかかわる資料が出土していることから、成分分析を実施することにした。

資料No．1は須恵器坏蓋天井部に付着しており（本書40頁図19-207）、No．2は単体で出土している。分析調査は（株）吉田生物研究所に委託した。以下に調査成果を報告する。

2．資料

調査した資料は表16に示す金属製品2点である（写真126、127）。

表 17　資料表

No.	写真	資料名	概要
1	126	金属製品	土師器に癒着。土錆に覆われている。釘状
2	127	金属製品	錆に覆われている。表面は脆い。形状不明

写真 126　資料No.1

（→：計測部位）

写真 127　資料No.2

3．方法

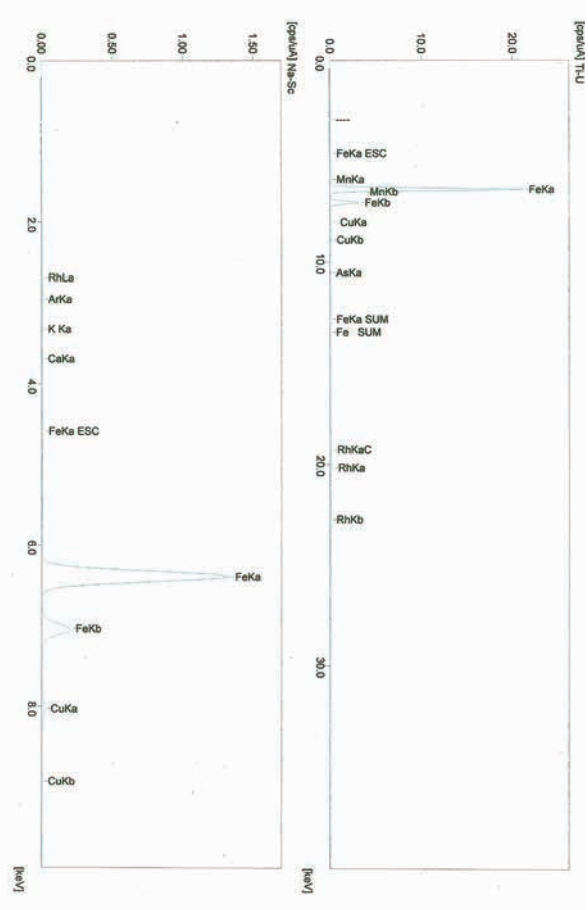
資料表面の土錆を除去して金属部分を出し、表出した金属部分で蛍光X線分析を行い、金属元素を同定した。装置は島津製作所製のエネルギー分散型蛍光X線分析装置EDX-800を用いた。

4．分析結果

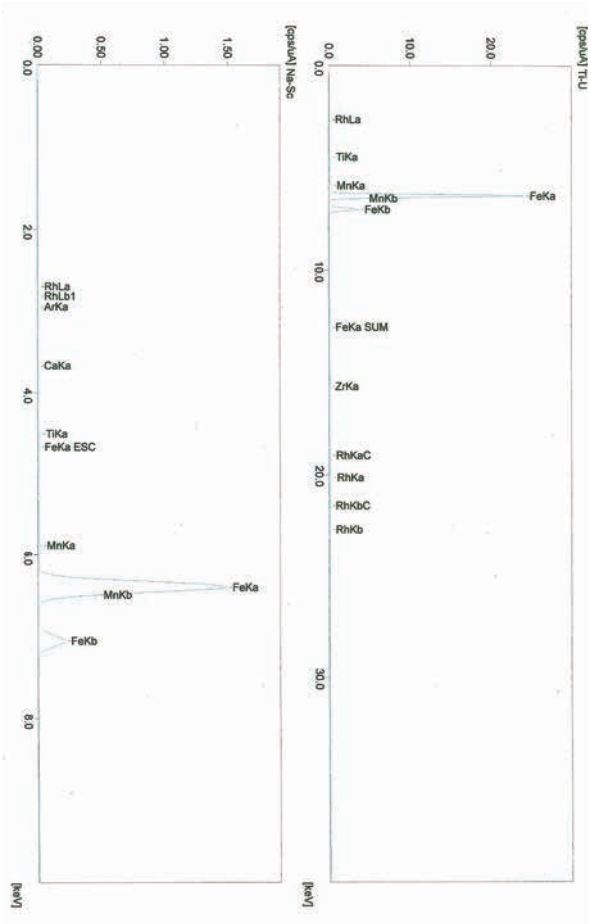
成分分析結果のスペクトルを付す。表18に分析結果一覧を示すが、その数値はあくまで参考にすぎない。結果からNo．1，2ともにほぼ鉄（Fe）が主成分として検出されているので鉄製品である。

表 18 成分分析結果

元素	Ｎｏ．1(wt%)	Ｎｏ．2(wt%)
Ｋ	0.76	－
Ｃａ	0.33	0.40
Ｔｉ	－	0.89
Ｍｎ	0.38	1.03
Ｆｅ	94.26	97.60
Ｃｕ	4.11	－
Ａｓ	0.13	－



資料No.1



資料No.2

付篇２

吉田遺跡（公共下水道布設に伴う発掘調査）出土の動物遺存体

石丸　恵利子

１．はじめに

吉田遺跡は、山口市吉田の山口大学吉田構内にある縄文時代から中世を中心とした集落跡で、瀬戸内海に流れる椹野川の現河口域から約12km上流の左岸に位置する遺跡である。平成7年度に実施された公共下水道の布設工事に伴う発掘調査によって、弥生時代前期の遺構が多数検出され、それらの遺構のうち、土坑（SK-01・SK-15）において動物遺存体が確認された。本稿では、それらの概要について報告し、吉田遺跡における弥生時代前期の動物資源利用について考察する。

２．出土した動物の種類と部位

土坑埋土は1㎜メッシュのフルイを用いた水洗選別が行われ、破片数にして約170点の動物遺存体資料が採取されている。微細な破片が大多数を占め、種および部位の同定は非常に困難であったが、８種類の魚類と種不明の哺乳類を確認することができた。火を受けて白色を呈するものが大半を占め、一部に表面が灰色の部分も認められた。また、貝類は含まれていなかった。以下、種類ごとにその特徴を述べる。確認された種名と各資料の観察事項は、第19表および第20表に記した。各魚種の生息域や生態については、瀬戸内海水産開発協議会編（1997）および中坊編（2013）を参照した[1)]。

（1）魚類

板鰓亜綱（エイ・サメ類）の一種

椎骨を3点確認した。うち１点は径12㎜の大きな椎骨で、中央を径５㎜にわたって穿孔し、垂飾品などの装飾品として利用されたと考えられるものである。神経・血管棘の痕跡である孔や窪みが不明瞭なタイプで、大型のエイ類のものだと考えられる。アカエイなどの可能性が考えられ、アカエイであれば体長１ｍを超える大きな個体のものだと推測される。他の２点は欠損の著しい小破片で、共に径５㎜程度のものに復元される。いずれもエイ類のものと考えられる。破片のため不明瞭であるが、うち１点は中央部分が穿孔されたものである。

ニシン科の一種

種は不明であるが、マイワシやキビナゴ、サッパなどのニシン類の可能性がある椎骨が１点確認された。椎体の大きさからは10から20㎝程度のものではないかと考えられる。ニシン科の仲間は主に春先に瀬戸内海の表層域に群れをなして生息するものが多く、これらを網漁などによって漁獲した可能性が指摘できる。

アユ

アユの可能性がある椎骨を２点確認した。火を受けて骨が収縮している可能性があるため、体長を正確に復元することはできないが、体長14㎝の現生標本と比較した結果から、同大あるいはそれより小さな個体だと推測される。アユは、秋に川で生まれて川を下り、海で成育したのちに春から夏に川を遡上しながら成長することから、遺跡の近くを流れる椹野川で成魚を獲得した可能性がある。

ダツ科の一種

ダツ科の歯骨あるいは前上顎骨と考えられる破片を1点確認した。破片であるため部位は特定できないが、歯列部分だと判断される。他にも歯骨あるいは前上顎骨の一部と考えられる破片3点が確認された。ダツは、沿岸から沖合の表層に生息するが、春から夏に沿岸の藻場で産卵するため、この時期に沿岸域で獲得することも可能であったと考えられる。ダツ科にはダツ、ハマダツなど6種が分類されるが、ダツが瀬戸内海での生息が確認されている。

コチ科の一種

コチ科の舌顎骨1点を確認した。火を受けて収縮していると考えられるが、体長27㎝の現生標本と比較してもさらに大きなもので、30㎝を超える大きな個体に復元できる。瀬戸内海にはマゴチやイネゴチ、メゴチが生息するが、これらすべての標本と比較できていないため、コチ科の一種とした。復元した体長からマゴチかイネゴチの可能性が高い。いずれも浅海の砂泥底に生息する種である。

タイ科の一種

マダイやクロダイなどのタイ科の歯5点と歯骨と考えられる破片を1点確認した。歯は顎骨から遊離したもので、うち1点は犬歯で残りの4点は臼歯であった。歯骨は破片であるため種を特定することはできないがクロダイ属の可能性が高いものである。瀬戸内海にはマダイやクロダイ、ヘダイ、チダイなどの複数のタイ科が生息している。タイ科は骨が大きく丈夫なこともあり残存しやすい可能性はあるが、瀬戸内海沿岸部の縄文時代や弥生時代の貝塚などで多く確認できる種である。本遺跡では他種と比較して特に出土量が多い状況は認められなかった。

カマス属の一種

カマス属と考えられる椎骨を2点確認した。本資料も破片であるため、種の同定には至らなかった。現在、瀬戸内海に生息するカマス属としては、アカカマスやヤマトカマスなどがあげられる。アカカマスは昼間の沿岸浅所に群れるなどから、比較的獲得しやすかったと推測される。

ヒラメ科の一種

ヒラメの可能性がある椎骨の破片を1点確認した。椎骨の一部であるため、種の同定は非常に困難であったが、現生骨格標本の腹椎と比較して、同様な特徴を持つ部分があったことから、ヒラメ科の一種とした。瀬戸内海にはヒラメ、アラメガレイ、タマガンゾウビラメなどが生息するが、後二者は体長が10から20㎝ほどにしか大きくならない種であるため、椎骨破片の大きさからはヒラメである可能性が高い。沿岸浅海域の砂底あるいは砂泥底に生息する。

上記のほかにも、種不明の方骨や椎骨が多数確認された。方骨は、やや大型個体のもので、クロダイ属やイサキの方骨と形態が一部類似はするが、完全には一致しないため、種の同定には至らなかった。また、ウナギの歯骨に似る資料1点やハゼ科の一種と考えられる椎骨なども確認されたが、現生標本との比較ができなかった種も存在するため、積極的に評価することはできなかった。

（2）哺乳類

哺乳綱の一種

小破片のため、種および部位を明らかにすることが難しいが、イノシシの第2もしくは第5基節骨、あるいはヒトの肢骨の中節骨に似た形態を持つ資料が確認された。火を受けてひずみがある可能性もあり、種の同定には至らなかったため、同定は哺乳綱の一種にとどめた。

（3）加工品

加工が施されたものとして、前述したエイ類の椎骨の中央部分を穿孔したもの以外に、哺乳類の四肢骨の骨幹部を素材としたと考えられる加工品を確認することができた。一端をやや先細りにした刺突あるいはヘラ状で、一部が欠けているがほぼ先端まで残存するものである。もう一端は欠損しており形態は不明である。また、断面は長楕円形で、長径部分はほぼ平行に整えられた平たい形態を呈する。残存長15.7㎜、幅3.7㎜、厚1.7㎜を測る。

3．考察－吉田遺跡における動物資源利用－

吉田遺跡の公共下水道布設に伴う発掘調査によって、上記のような複数種の魚類と哺乳類および加工が施された骨製品を確認することができた。資料のほとんどが微細な破片であったため種同定は目や科にとどまるものの、複数の種類が含まれていたこと、また、遺跡は瀬戸内海に注ぐ椹野川を現在の河口域から約12㎞上流に位置するにもかかわらず、海産魚類が複数確認できたことは、当遺跡における弥生時代前期の動物資源利用の様相を知るうえで非常に興味深い情報を得ることができたと言える。

アユと考えられる資料については、椹野川で捕獲することができたと考えられるが、個体の大きさや回遊を考慮すると、春の稚アユ状態での遡上期から産卵のため河川下流域に移動する秋から初冬頃までの間に捕獲された可能性が高い。また、タイ科やカマス属など複数の海産魚類が含まれているということは、沿岸部での漁撈活動あるいは沿岸部に位置する遺跡との交流の可能性が示唆される。コチ科やヒラメ科、カマス属、タイ科の仲間は、いずれも河口域や沿岸の比較的浅い海に生息することから、椹野川の河口域沿岸部の周防灘で獲得することができたと考えられる。漁をした季節を特定することは難しいが、冬場に沖合に移動するマダイのような種類以外は、1年を通して獲得は可能であったと考えられる。エイ・サメ類の椎骨についても、同様のものが彦崎貝塚などの縄文時代の多くの瀬戸内海沿岸部の貝塚で出土していることから、他の海産魚類同様に周防灘で捕獲されたものだと考えられる[2)]。椎骨の中央を穿孔した垂飾品が2点確認されている点も、弥生時代前期における装身具類の利用を考察するうえで貴重な資料だといえる。

その一方で、魚類よりも大きな哺乳類の骨はほとんど確認することができなかった。石鏃が複数出土していることから、哺乳類や鳥類などを対象とした狩猟活動も行われていた可能性は高い。また、骨類が出土した土坑の埋土には、炭や灰を含むものが多く、焼け残った資料が幸い検出されたと考えられ、多くの骨類は焼けて灰や炭になってしまったか、焼けていない骨類は土壌中で分解されて消失した可能性が指摘できる。もちろん、調査範囲が限られていることから集落全体の全体像は捉えることができないが、哺乳類の解体処理や残滓の投棄場所は、調査区外の別の場所であった可能性もある。

なお、山口市域に所在する弥生時代の遺跡では、吉田遺跡から椹野川の下流約7㎞の地点に中郷貝塚（弥生時代前期から中期）があり、海産種を含む豊富な貝類で構成される貝塚が形成されている。中郷貝塚は、現山口湾の河口域から約5㎞北西部、標高30mの舌状台地南斜面頂部に位置するが、当時遺跡付近には海産貝類を採取できる場所があったことがわかり、吉田遺跡は現在よりも海に近い環境にあったことがうかがえる。中郷貝塚はハイガイとマガキが多くを占め、ハマグリ、フトヘナタリ、ウネナシトマヤガイなどの海産貝類が確認されており、テングニシ、オキシジミ、オオマテガイなども報告されている[3)]。吉田遺跡はこれらの海産資源を主に利用した沿岸部遺跡とは徒歩圏内にあったと考えられ、沿岸部での漁撈活動あるいは中郷貝塚などの沿岸部遺跡との交流が示唆される。

以上のように、吉田遺跡は現在内陸部に位置するものの多様な魚類を利用していたことが明らかとな

った。椹野川での魚類獲得を含め、生業域は沿岸部にまで及んでいた、あるいは沿岸部との交流が盛んであった可能性が読み取れた。エイ類の椎骨の中央部を穿孔した垂飾品の出土も特筆される。ただ、弥生時代においても多く捕獲されたであろうニホンジカやイノシシなどの哺乳類が、本遺跡からはほとんど確認されておらず、また貝類も確認されなかった。本報告資料のみでは、吉田遺跡の動物資源利用の全体像は読み取ることは難しく、陸生の動物資源や貝類に多くを依存していなかったとは断定することはできないが、魚類の利用という生業活動の一部を明らかにすることはできたといえる。

4．おわりに

今回分析をおこなった資料は、非常に小さな破片であり、かつ少量ではあったが、多様な種類を確認することができた。これは、発掘調査の際に微細な資料を丁寧に採集した努力の結果によって得られた成果である。また、山口盆地における弥生時代の動物遺存体資料については、これまでほとんど報告例がなく、本資料によって、当時の動物資源利用を考察するうえでの非常に重要な情報が得られたといえる。

今後の調査においても、目の細かい篩を用いた土壌の水洗選別を実施するなど、動植物遺存体の積極的な採集作業によって、山口盆地における当時の動物資源利用をより具体的に示す多くの証拠が得られることに期待したい。また、今回の資料に含まれていなかった貝類や哺乳類についても、吉田遺跡におけるそれらの利用の有無あるいは生業活動の全体像がどのようなものであったのかについて追究することが今後の課題である。

謝辞

本資料の分析の機会を与えていただいた、田畑直彦氏をはじめとする山口大学埋蔵文化財資料館の皆様、ならびに、微細な資料を根気強く採集していただいた当時の整理作業員の方々に心より感謝いたします。また、一部の資料の同定作業において、奈良文化財研究所環境考古学研究室の所蔵標本を使用した。土井ケ浜遺跡・人類学ミュージアムの大藪由美子氏および青森中央学院大学の藤澤珠織氏にも有益な情報をご教示いただいた。記して、厚く感謝いたします。

【註】

1）瀬戸内海水産開発協議会編 1997『瀬戸内海のさかな』株式会社ドプコ

中坊徹次編 2013『日本産魚類検索 全種の同定』第三版、東海大学出版会

2）石丸恵利子・富岡直人2006「彦崎貝塚出土の動物遺存体」『彦崎貝塚－範囲確認調査報告書－』岡山市教育委員会、254-296頁

3）石丸恵利子・幸泉満夫2009「山口県山口市中郷貝塚出土の貝類について」『山口県立山口博物館研究報告』第35号、山口県立山口博物館、33-40頁

渡辺亮1979「中郷貝塚」『小郡町史』小郡町史編集委員会、81-83頁

表19　出土動物遺存体種名表

門	綱	目	科	属/種
脊椎動物門 Vertebrata	軟骨魚綱 Chondrichtyes	板鰓亜綱（エイ・サメ類）の一種 Elasmobranchii, order, fam., gen. et sp. indet.		
	硬骨魚綱 Osteichtyes	ニシン目 Clupeiformes	ニシン科の一種 Clupeidae, gen. et sp. indet.	
		サケ目 Salmoniformes	アユ科 Plecoglossidae	アユ？ *Plecoglossus altivelis aitivelis*
		ダツ目 Beloniformes	ダツ科の一種 Belonidae, gen. et sp. indet.	
		スズキ目 Perciformes	コチ科の一種？ Platycephalidae, gen. et sp. indet.	
			タイ科の一種 Sparidae, gen. et sp. indet.	
			カマス科 Sphyraenidae	カマス属の一種 *Sphyraena* sp.
		カレイ目 Pleuronectiformes	ヒラメ科の一種？ Paralichthyidae, gen. et sp. indet.	
	哺乳綱の一種 Mammalia, order, fam., gen. et sp. indet.			

＊魚類の種名については中坊（2013）に従った。

表20　吉田遺跡（公共下水道布設に伴う発掘調査）出土動物遺存体観察一覧表

整理No.	遺構番号	位置	層位	取り上げNO.	日付	分類群	種名	部位	左右	数量	観察	写真
1	SK-01	G1	第1層	NO.68	951127	硬骨魚綱	アユ？	椎骨		2	コイ科やイワシ類とは異なる、すべて焼け（白色）	●
2	SK-01	G1	第1層	NO.68	951127	硬骨魚綱	タイ科	歯（臼歯）		1	ほぼ完形、焼け（白色）	●
3	SK-01	G1		NO.68	951127	不明	不明	不明		9	破片、うち8点焼け（白色）	
4	SK-01	G1	第2層	NO.76	951128	不明	不明	不明		2	破片、すべて焼け（白色）	
5-1	SK-01	G1	第2層	NO.76	951128	硬骨魚綱？	不明	椎骨		2	欠損あり、すべて焼け（白色）	
5-2	SK-01	G1	第2層	NO.76	951128	不明	不明	不明		12	すべて焼け（白色）	
6	SK-01	G1	第3層	NO.79	951128					1	焼け（白色）	
7-1	SK-01	G2	第1層	NO.82	951129	哺乳綱	不明	指骨？		1	焼け（白色）のためひずみや収縮があると考えられる、欠損あり、変形したイノシシの第2or第5基節骨か	
7-2	SK-01	G2	第1層	NO.82	951129	硬骨魚綱	不明	棘		1	一部欠損、焼け（白色）	
7-3	SK-01	G2	第1層	NO.82	951129	不明	不明	不明		19	破片、焼け（白色）	
8	SK-01	G2	第1層	NO.82	951129	硬骨魚綱	タイ科	歯骨？		1	破片、焼け（白色）	●
9	SK-01	G2	第1層	NO.82	951129	軟骨魚綱	エイ類	椎骨		1	破片、焼け（白色）、径5㎜程度	●
10	SK-01	G2	第1層下	NO.86	951129	硬骨魚綱	タイ科	歯（臼歯）		1	焼けか？	●
11	SK-01	G2	第1層下	NO.86	951129	硬骨魚綱	不明	椎骨		1	焼け（白色）、アユに似るが特定に至らず	
12-1	SK-01	G2	第1層下	NO.86	951129	硬骨魚綱	不明	棘		3	破片、焼け（白色）	
12-2	SK-01	G2	第1層下	NO.86	951129	不明	不明	不明		31	破片、焼け（白色）	
13-1	SK-01	G2	第2層	NO.89	951129	硬骨魚綱	タイ科	歯（臼歯）		1		
13-2	SK-01	G2	第2層	NO.89	951129	硬骨魚綱	不明	椎骨		14	破片、焼け（白色）、うち1点キスに似る、アユに似るものもあり	
13-3	SK-01	G2	第2層	NO.89	951129	硬骨魚綱	不明	棘		7	破片、焼け（白色）	
13-4	SK-01	G2	第2層	NO.89	951129	不明	不明	不明		複数	破片、焼け（白色）	
14	SK-01	G2	第2層	NO.89	951129	硬骨魚綱	カマス属	椎骨		1	焼け（白色）	●
15	SK-01	G2	第2層	NO.89	951129	硬骨魚綱	タイ科	歯（臼歯）		1	焼け？（やや白色）	
16	SK-01	G2	第2層	NO.89	951129	硬骨魚綱	不明	椎骨		1	焼け（白色）サケ科やキスに似る？	
17-1	SK-01	G3	第1層	NO.83	951129	哺乳綱	不明	不明		1	焼け（白色）	
17-2	SK-01	G3	第1層	NO.83	951129	不明	不明	不明		7	破片、焼け（白色）	
18	SK-01	G3	第1層下	NO.87	951129	不明	不明	不明		13	破片、焼け（白色）	
19	SK-01	G3	第1層	NO.87	951129	硬骨魚綱	不明	椎骨		1	ハモ？破片のため特定できず、焼け（白色）	

整理No.	遺構番号	位置	層位	取り上げNO.	日付	分類群	種名	部位	左右	数量	観察	写真
20	SK-01	G3	第2層	NO.90	951129	硬骨魚綱	コチ科？	舌顎骨	右	1	破片、焼け（白色）	●
21-1	SK-01	G3	第2層	NO.90	951129	硬骨魚綱	不明	不明		1	破片、焼け（白色）	
21-2	SK-01	G3	第2層	NO.90	951129	不明	不明	不明		複数	破片、焼け（白色）	
22-1	SK-01	G4	第1層	NO.69	951127	硬骨魚綱	不明	椎骨		3	破片、焼け（白色）	
22-2	SK-01	G4	第1層	NO.69	951127	硬骨魚綱	不明	棘		1	破片、焼け（白色）	
22-3	SK-01	G4	第1層	NO.69	951127	不明	不明	不明		複数	破片、焼け（白色）	
23	SK-01	G4	第1層	NO.69	951127	硬骨魚綱	カマス属？	椎骨		1	破片、焼け（白色）	
24	SK-01	G4	第1層	NO.69	951127	軟骨魚綱	エイ類	椎骨		1	加工品、中央穿孔、焼け（白色）、径5㎜程度	●
25-1	SK-01	G4	第2層	NO.77	951128	硬骨魚綱	ダツ科	歯骨/前上顎骨？		1	破片、焼け（白色）、ほか3片	●
25-2	SK-01	G4	第2層	NO.77	951128	硬骨魚綱	タイ科？	歯（犬歯）		1	先端部破片	●
25-3	SK-01	G4	第2層	NO.77	951128	硬骨魚綱	不明	歯骨？		1	基部破片？、焼け（白色）、ウナギ目か	
25-4	SK-01	G4	第2層	NO.77	951128	硬骨魚綱	ヒラメ科？	椎骨		1	破片、焼け（白色）、ヒラメ尾椎に似る	●
25-5	SK-01	G4	第2層	NO.77	951128	硬骨魚綱	ニシン科	椎骨		1	破片、焼け（白色）、ほかに種不明8点	●
25-6	SK-01	G4	第2層	NO.77	951128	硬骨魚綱	不明	棘		3	破片、焼け（白色）	
25-7	SK-01	G4	第2層	NO.77	951128	不明	不明	不明		複数	破片、焼け（白色）	
26	SK-01	G4	第2層	NO.77	951128	軟骨魚綱	エイ類	椎骨		1	中央穿孔垂飾品、ほぼ完形、径12㎜	●
27	SK-01	G4	第2層	NO.77	951128	硬骨魚綱	不明	方骨	左	1	破片、焼け（白色）、一部クロダイ・イサキにも似るが標本と完全に一致せず	●
28	SK-01	G4	第2層下	NO.80	951128	不明	不明	不明		複数	破片、焼け（白色）	
29	SK-01	G4	第2層下	NO.80	951128	硬骨魚綱	不明	椎骨		1	焼け（白色）	
30	SK-15		第2層	NO.307	960126	哺乳綱	不明	不明		1	2点あるが接合、加工品（先端を先細りに加工）、焼け（灰・白色）、残存長：15.7mm、幅：3.7mm、厚：1.7㎜	●
31	SD-01 東肩		第4層	NO.169	960109	不明	不明	不明		3	破片	

1 アユ？ 椎骨

2 タイ科 歯（臼歯）

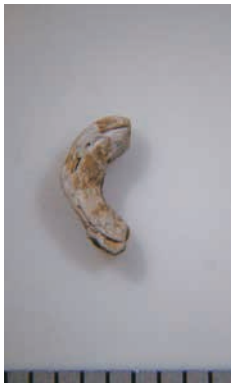
8 タイ科 歯骨？

9 エイ類 椎骨

10 タイ科 歯（臼歯）

14 カマス属 椎骨

20 コチ科？ 舌顎骨



24 エイ類 椎骨
1目盛は1㎜

写真128 吉田遺跡（公共下水道布設に伴う発掘調査）出土動物遺存体1

25－1　ダツ科　歯骨 / 前上顎骨？

25－2　タイ科？　歯（犬歯）

25－4　ヒラメ科？　椎骨

25－5　ニシン科　椎骨

26　エイ類　椎骨

27　種不明魚類　方骨

30　種不明哺乳類　不明

1 目盛は 1 ㎜

写真129　吉田遺跡（公共下水道布設に伴う発掘調査）出土動物遺存体2

報告書抄録

ふりがな	やまぐちだいがくまいぞうぶんかざいしりょうかんねんぽう
書名	山口大学埋蔵文化財資料館年報
副書名	－平成26年度－
巻次	
シリーズ名	山口大学埋蔵文化財資料館年報
シリーズ番号	12
編著者名	田畑直彦　横山成己　川島尚宗
編集機関	山口大学埋蔵文化財資料館
所在地	〒753-8511 山口県山口市吉田1677-1 ℡083-933-5035
発行年月日	西暦2019年（平成31年）3月29日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
吉田遺跡	山口県山口市 吉田1677-1	35203		34度 08分 47秒	131度 28分 19秒	20141117- 20150206	247㎡	動物医療センター（リニアック室等） 新営その他工事
山口大学 医学部構内遺跡	山口県宇部市 南小串1丁目1-1	35202		33度 57分 39秒	131度 14分 56秒	20140905- 20141007	90㎡	基幹・環境整備及び 診療棟・病棟新営工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
吉田遺跡	官衙	奈良～平安	埋没谷・土壙・溝・ピット	須恵器・土師器 木製品・金属器	墨書土器
山口大学 医学部構内遺跡	散布地	縄文		縄文土器・土師器 石錘	

山口大学埋蔵文化財資料館年報
－平成26年度－

平成31年3月29日

編集　山口大学埋蔵文化財資料館
発行　山口大学
〒753－8511　山口市吉田1677－1
印刷　(有)三共印刷
〒759－0204　宇部市大字妻崎開作1953－8

YAMAGUCHI UNIVERSITY
ARCHAEOLOGICAL MUSEUM REPORT Vol.12

CONTENTS

Chapter Ⅰ Report of the Yamaguchi University Archaeological Museum activities ····· 1

Section 1 Exhibition activities ····· 2

Section 2 Social education activities ····· 7

Chapter Ⅱ The project on the Yamaguchi University campus in the 2014 fiscal year ····· 10

Section 1 General outline of the project on the Yamaguchi University campus in the 2014 fiscal year ····· 10

Section 2 Excavation on the Yoshida campus "Yoshida site" ····· 14

Section 3 Excavation on the Kogushi campus "Yamaguchidaigaku-Igaubukounai site" ····· 150

Section 4 Excavation on the Tokiwa campus "Yamaguchidaigaku-Kougakubu-kounai site" ····· 159

Section 5 Excavation on the Hikari campus "Mitarai site and Tsukimachiyama site" ····· 160

Appendix 1 The gist of researches and studies at Yamaguchi University in the 2014 fiscal year ··· 165

Appendix 2 List of researches in Yamaguchi University campus ····· 168

Appendix 1 Component analysis of metal artifacts from Yoshida site(Animal Medical Center Linac room) ····· 192

Appendix 2 Animal remains excavated from Yoshida site (Excavations prior to the construction of the Public Sewerage System) ····· 194

Published by

Yamaguchi University Archaeological Museum

Yamaguchi, 2019